

令和4（2022）年度

栃木県政世論調査

調査報告書

令和4（2022）年10月

栃木県



# 目次

---

I	調査の概要	1
II	サンプル・デザイン	3
III	調査回答者のプロフィール	7
IV	調査結果の詳細	11
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	11
(2)	暮らしが悪くなった理由	14
(3)	暮らしの満足度	18
(4)	今後の暮らしの状況	21
(5)	今後の暮らしで力を入れる点	24
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	27
3	日常生活について	
(1)	文化・芸術活動について	33
(2)	スポーツ活動について	36
(3)	住んでいる地域について	40
(4)	社会貢献活動について	43
(5)	県の事業や催し、案内などの情報入手手段	47
(6)	知りたい県政情報	51
4	栃木県への愛着と誇りについて	
(1)	栃木県に対する愛着	54
(2)	栃木県に愛着を感じる理由	57
(3)	栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	60
5	SDGsについて	
(1)	SDGsの認知度	63
(2)	SDGsのどのようなことを知っているか	66
6	地域防災について	
(1)	災害に対する備え	70
(2)	災害の際に必要な情報について知っていること	73
(3)	防災訓練の参加状況	76

# 目次

---

<b>7 男女平等意識について</b>	
(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感	79
(2) 固定的な性別役割分担意識	82
(3) 働く場での男女の地位の平等感	85
<b>8 とちぎの元気な森づくり県民税について</b>	
(1) 重要と考える森林の働き	88
(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	91
<b>9 食品ロスの削減について</b>	
(1) 食品ロスの問題の認知度	94
(2) 食品ロスを発生させないための取組で知っていること	97
(3) 食品ロスを発生させないために現在取り組んでいること	100
<b>10 地域のつながりについて</b>	
(1) 現在のご近所との関係	103
(2) 日常生活で困ったときに相談できる場所	106
<b>11 ヤングケアラーについて</b>	
(1) ヤングケアラーという言葉の認知度	109
(2) ヤングケアラーの実態（介護や世話）	112
(3) ヤングケアラーの実態（身近にいるか）	115
<b>12 在宅医療について</b>	
(1) 在宅医療への考え	118
(2) 人生会議（ACP）の認知度	121
(3) 人生会議（ACP）への考え	124
<b>13 とちぎのがん対策について</b>	
(1) がんについての認知度	127
(2) がん検診を受診しない理由	131
(3) がん治療と仕事の両立	134
<b>14 障害者差別の解消について</b>	
(1) ヘルプマークの認知度	137
(2) 県の取組に関する認知度	140
(3) 障害者差別解消の理解	143

## 目 次

---

<b>15 食の安全・安心について</b>	
(1) 食品の安全性に対する不安	147
(2) 食品の安全性について不安に思うもの	150
(3) 食の安全に関する情報を得られているか	153
<b>16 食に関する意識と実践について</b>	
(1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか	156
(2) 農業体験をした経験	159
<b>17 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について</b>	
(1) 住宅の耐震改修の必要性	162
(2) 住宅の安全確保	165
(3) ブロック塀の安全確保	168
<b>18 犯罪と治安対策について</b>	
(1) 県内の治安状況の変化	171
(2) 不安を感じる犯罪	174
(3) 警察官に力を入れてほしい活動	177
<b>V 調査票</b>	181



# I 調査の概要





# I 調査の概要

## 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

## 2 調査項目

- (1) 暮らしの変化について\*
- (2) 県政への要望について\*
- (3) 日常生活について\*
  - ア 文化・芸術活動について
  - イ スポーツ活動について
  - ウ 住んでいる地域について
  - エ 社会貢献活動について
  - オ 県政情報の入手方法について
- (4) 栃木県への愛着と誇りについて
- (5) SDGsについて
- (6) 地域防災について
- (7) 男女平等意識について
- (8) とちぎの元気な森づくり県民税について
- (9) 食品ロスの削減について
- (10) 地域のつながりについて
- (11) ヤングケアラーについて※
- (12) 在宅医療について
- (13) とちぎのがん対策について
- (14) 障害者差別の解消について
- (15) 食の安全・安心について
- (16) 食に関する意識と実践について
- (17) 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について※
- (18) 犯罪と治安対策について

(\*印は時系列調査、※印は新規調査)

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 栃木県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布－郵送回収）
- (6) 調査時期 令和4（2022）年6月10日～6月30日

#### 4 調査機関

株式会社タイム・エージェント

#### 5 回収結果

回収数（率） 1,236（61.8%）

#### 6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は6人、女性18～19歳の回答者は16人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が19人と少ないため、図表化していない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left( \begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} \quad n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,236 人	±2.41%	±3.22%	±3.69%	±3.94%	±4.02%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \div 1$  として算出している。

<注／この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,236人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.94%以内（56.06%～63.94%）である」とみることができる。

## Ⅱ サンプル・デザイン



## II サンプル・デザイン

母集団：栃木県内の市町に居住する満18歳以上の男女

標本数：2,000

地点数：市部 118地点

町部 17地点

計 135地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

### [層化]

1. 県内を市町単位に、次の3地域に分類した。

地域名	該 当 市 町 名
県北地域	那 須 {大田原市、那須塩原市、那須町} 日 光 {日光市} 塩 谷 {矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町} 南那須 {那須烏山市、那珂川町}
県央地域	宇都宮 {宇都宮市、上三川町、壬生町} 鹿 沼 {鹿沼市} 芳 賀 {真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町}
県南地域	小 山 {小山市、下野市、野木町} 栃 木 {栃木市} 両 毛 {足利市、佐野市}

2. 各地域内においては、さらに市町規模によって「宇都宮市」「宇都宮市以外の市」「町」に分類し、層化した。

(注) ここでいう市とは、令和4(2022)年4月1日現在市制施行の地域である。

### [標本数の配分]

各地域・市町規模の層における18歳以上の人口数(令和3(2021)年10月1日現在)により、2,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

- 平成27（2015）年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査地点として使用した。
- 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が14から16になるように、各層に割り当てられた標本数により算出し、調査地点数を決定した。
- 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、  

$$\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
- 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、令和4（2022）年4月1日現在における「市区町村コード一覧」に従った。
- 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地・字等を指定）の住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市町別（層別）の標本数・調査地点数は次のとおりである。

市町 地域	宇都宮市	宇都宮市以外の市	町	計
県北		307,367	67,606	374,973
		378	88	466
		(25)	(6)	(31)
県央	422,504	144,416	108,841	675,761
	525	178	136	839
	(36)	(12)	(9)	(57)
県南		539,363	21,205	560,568
		667	28	695
		(45)	(2)	(47)
計	422,504	991,146	197,652	1,611,302
	525	1,223	252	2,000
	(36)	(82)	(17)	(135)

(注) 上段：令和3（2021）年10月1日現在の母集団数

中段：対象数

下段：（ ）内は地点数

調査地点一覧

地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)
県北 (那須)	大田原市山の手2丁目	15	県中央 (宇都宮)	宇都宮市氷室町	15	県南 (小山)	小山市若木町2丁目	14
	大田原市紫塚1丁目	15		宇都宮市城南2丁目	15		小山市天神町2丁目	14
	大田原市富士見1丁目	15		宇都宮市上桑島町	15		小山市駅南町2丁目	14
	大田原市宇田川	15		宇都宮市海道町	15		小山市神鳥谷4丁目	14
	大田原市北野上	15		宇都宮市横山1丁目	15		小山市城東7丁目	14
	那須塩原市錦町	15		宇都宮市徳次郎町	15		小山市大字雨ヶ谷	14
	那須塩原市黒磯	15		宇都宮市下荒針町	15		小山市乙女2丁目	14
	那須塩原市美原町	15		宇都宮市鶴田2丁目	15		小山市大字喜沢	14
	那須塩原市島方	15		宇都宮市西川田町	15		小山市西城南1丁目	14
	那須塩原市阿波町	15		宇都宮市西川田東町	15		小山市東城南2丁目	14
	那須塩原市南町	15		宇都宮市北若松原2丁目	15		小山市犬塚1丁目	14
	那須塩原市西赤田	15		宇都宮市雀の宮1丁目	15		小山市城北2丁目	14
	那須塩原市石林	15		宇都宮市富士見町	15		下野市緑6丁目	16
	那須郡那須町大字寺子丙	14		宇都宮市下栗1丁目	15		下野市下古山	16
那須郡那須町大字豊原乙	14	宇都宮市陽東5丁目	15	下野市小金井	16			
県北 (日光)	日光市松原町	16	宇都宮市富士見が丘2丁目	15	下野市医大前1丁目	16		
	日光市七里	16	宇都宮市清原台6丁目	15	下都賀郡野木町大字南赤塚	14		
	日光市土沢	16	宇都宮市上小倉町	15	下都賀郡野木町大字若林	14		
	日光市森友	16	宇都宮市下岡本町	15	栃木市旭町	15		
	日光市鬼怒川温泉大原	16	宇都宮市中今泉3丁目	15	栃木市沼和田町	15		
県北 (塩谷)	矢板市木幡	15	宇都宮市ゆいの杜3丁目	15	栃木市富士見町	15		
	矢板市片岡	15	河内郡上三川町大字上郷	15	栃木市柳橋町	15		
	さくら市桜野	15	河内郡上三川町しらさぎ3丁目	15	栃木市大町	15		
	さくら市狭間田	15	下都賀郡壬生町大字壬生丁	15	栃木市平柳町3丁目	15		
	さくら市下河戸	15	下都賀郡壬生町幸町2丁目	15	栃木市梅沢町	15		
	塩谷郡塩谷町大字大宮	14	下都賀郡壬生町通町	15	栃木市大平町牛久	15		
	塩谷郡高根沢町大字花岡	15	鹿沼市泉町	14	栃木市藤岡町部屋	15		
塩谷郡高根沢町大字石末	15	鹿沼市貝島町	14	栃木市都賀町家中	15			
県北 (南那須)	那須烏山市南1丁目	14	鹿沼市玉田町	14	栃木市岩舟町静戸	15		
	那須烏山市滝田	14	鹿沼市村井町	14	足利市家富町	15		
	那須郡那珂川町小川	16	鹿沼市上石川	14	足利市助戸1丁目	15		
県中央 (宇都宮)	宇都宮市一条2丁目	14	鹿沼市栄町3丁目	14	足利市大沼田町	15		
	宇都宮市大曾1丁目	14	鹿沼市上南摩町	14	足利市借宿町	15		
	宇都宮市桜2丁目	14	真岡市荒町	16	足利市五十部町	15		
	宇都宮市住吉町	14	真岡市東郷	16	足利市鹿島町	15		
	宇都宮市戸祭元町	14	真岡市高勢町2丁目	16	足利市大月町	15		
	宇都宮市八幡台	14	真岡市中	16	足利市藤本町	15		
	宇都宮市不動前3丁目	14	真岡市長沼	16	足利市県町	15		
	宇都宮市宮原3丁目	14	芳賀郡益子町大字山本	16	足利市葉鹿町	15		
	宇都宮市元今泉3丁目	14	芳賀郡茂木町大字山内	15	佐野市久保町	15		
	宇都宮市築瀬町	14	芳賀郡市貝町大字杉山	15	佐野市植野町	15		
	宇都宮市宝木町1丁目	14	芳賀郡芳賀町祖母井南	15	佐野市高萩町	15		
	宇都宮市若草2丁目	14			佐野市堀米町	15		
	宇都宮市大塚町	14			佐野市赤見町	15		
	宇都宮市緑5丁目	14			佐野市吉水町	15		
	宇都宮市東峰町	14			佐野市戸室町	15		
					佐野市葛生東2丁目	15		





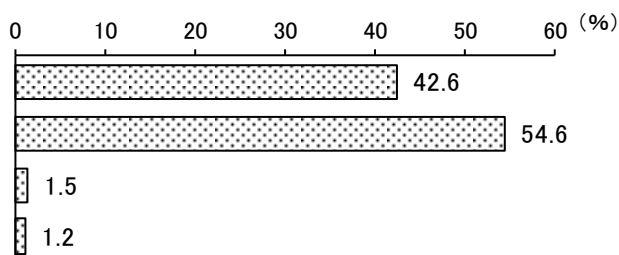
### Ⅲ 調査回答者のプロフィール



### Ⅲ 調査回答者のプロフィール

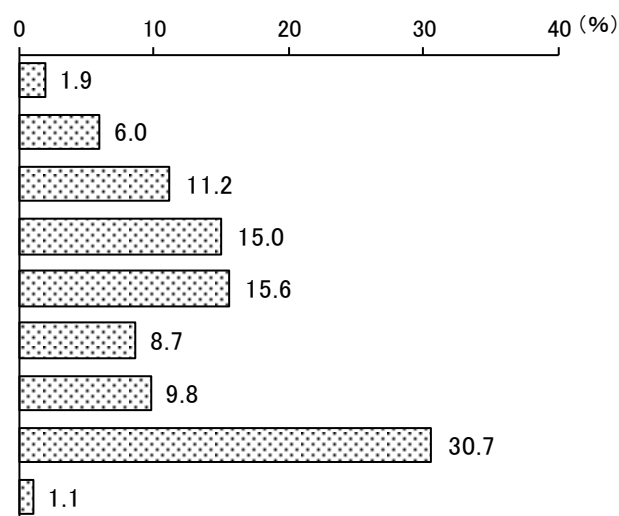
#### (F1) 性別

	件数	構成比
1 男性	527	42.6 %
2 女性	675	54.6
3 回答しない	19	1.5
(無回答)	15	1.2
全 体	1,236	



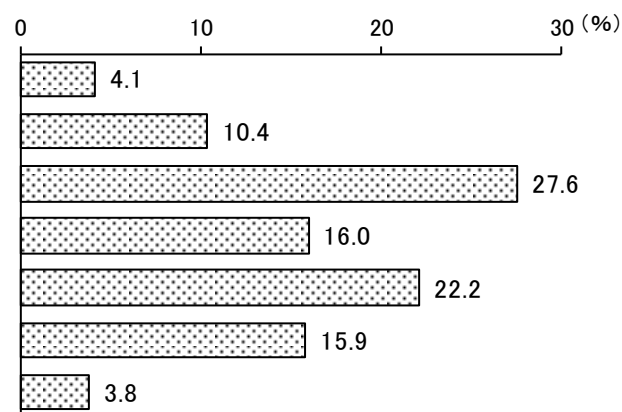
#### (F2) 年齢

	件数	構成比
1 18歳～19歳	24	1.9 %
2 20歳～29歳	74	6.0
3 30歳～39歳	139	11.2
4 40歳～49歳	186	15.0
5 50歳～59歳	193	15.6
6 60歳～64歳	107	8.7
7 65歳～69歳	121	9.8
8 70歳以上	379	30.7
(無回答)	13	1.1
全 体	1,236	



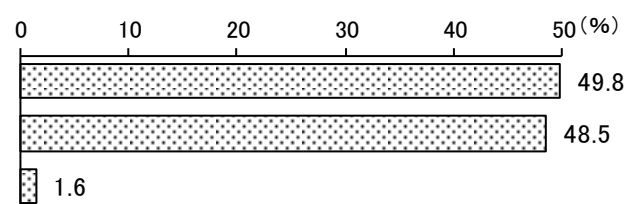
#### (F3) 本人の職業

	件数	構成比
1 農林漁業	51	4.1 %
2 商工サービス業・自由業	129	10.4
3 管理職・事務職・専門技術職	341	27.6
4 労務職	198	16.0
5 家事	274	22.2
6 その他の無職・学生	196	15.9
(無回答)	47	3.8
全 体	1,236	



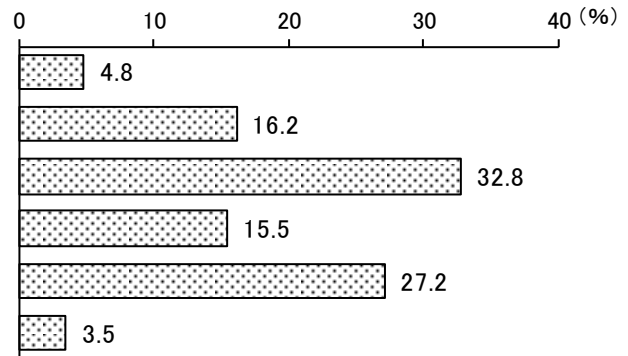
#### (F4) 世帯内地位

	件数	構成比
1 家計を主に支えている	616	49.8 %
2 支えていない	600	48.5
(無回答)	20	1.6
全 体	1,236	



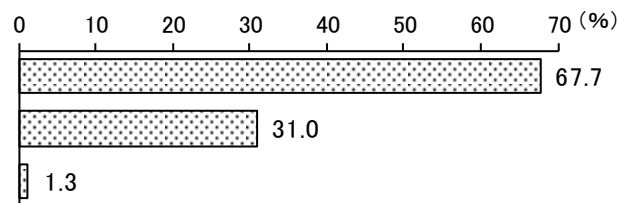
(F5) 世帯主職業

	件数	構成比
1 農林漁業	29	4.8 %
2 商工サービス業・自由業	97	16.2
3 管理職・事務職・専門技術職	197	32.8
4 労務職	93	15.5
5 その他の無職	163	27.2
(無回答)	21	3.5
全 体	600	



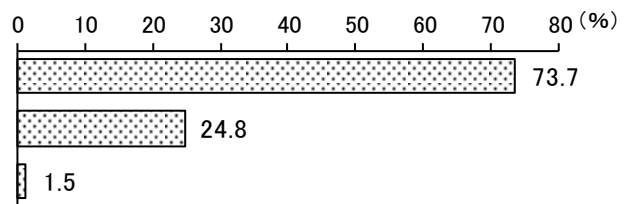
(F6) 高齢者家族(65歳以上)の有無

	件数	構成比
1 いる	837	67.7 %
2 いない	383	31.0
(無回答)	16	1.3
全 体	1,236	



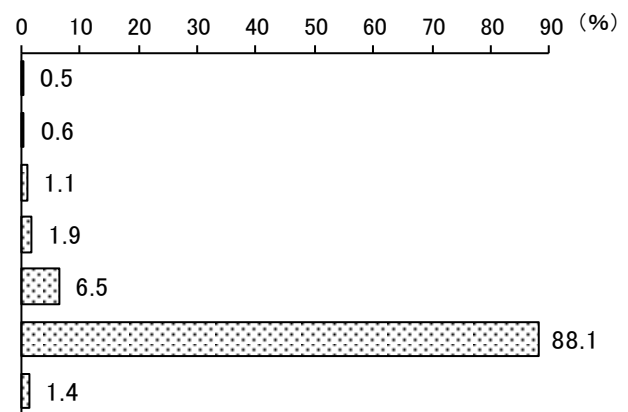
(F7) 出生地

	件数	構成比
1 県内	911	73.7 %
2 県外	307	24.8
(無回答)	18	1.5
全 体	1,236	



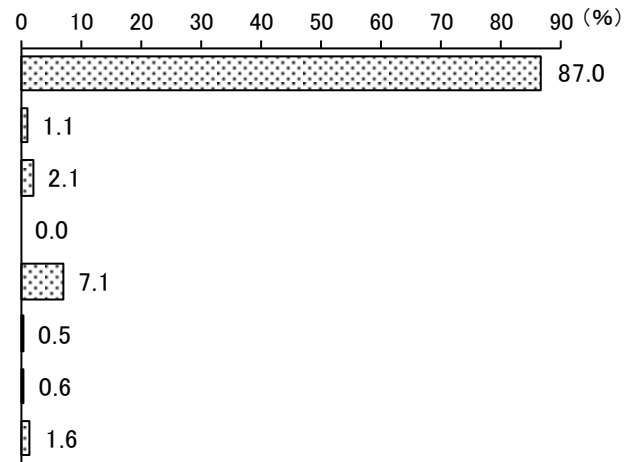
(F8) 栃木県居住年数

	件数	構成比
1 1年未満	6	0.5 %
2 1年～2年	8	0.6
3 3年～4年	13	1.1
4 5年～9年	23	1.9
5 10年～19年	80	6.5
6 20年以上	1,089	88.1
(無回答)	17	1.4
全 体	1,236	



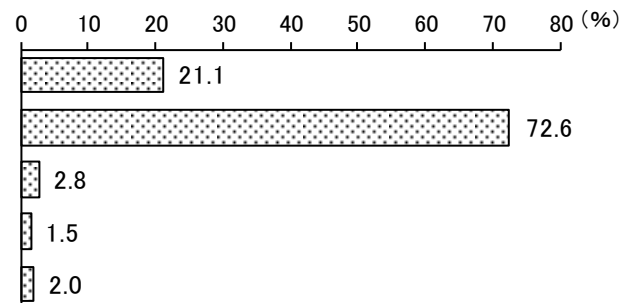
(F9) 住居形態

	件数	構成比
1 持家の一戸建	1,075	87.0 %
2 持家の集合住宅(分譲マンションなど)	14	1.1
3 借家の一戸建	26	2.1
4 公社・公営の賃貸住宅	0	0.0
5 民間の賃貸アパート・マンション	88	7.1
6 社宅・官舎	6	0.5
7 その他	7	0.6
(無回答)	20	1.6
全 体	1,236	



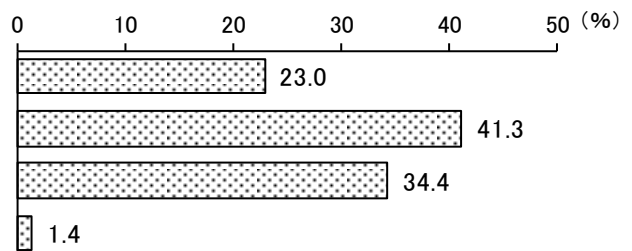
(F10) 居住環境

	件数	構成比
1 農山村	261	21.1 %
2 住宅地	897	72.6
3 商店街	34	2.8
4 その他	19	1.5
(無回答)	25	2.0
全 体	1,236	



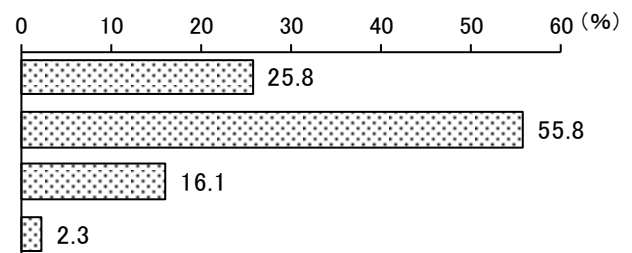
(F11) 居住地域／地域別

	件数	構成比
1 県北地域	284	23.0 %
2 県央地域	510	41.3
3 県南地域	425	34.4
(無回答)	17	1.4
全 体	1,236	



(F12) 居住地域／市町別

	件数	構成比
1 宇都宮市	319	25.8 %
2 宇都宮市以外の市	690	55.8
3 町	199	16.1
(無回答)	28	2.3
全 体	1,236	





## IV 調査結果の詳細





## IV 調査結果の詳細

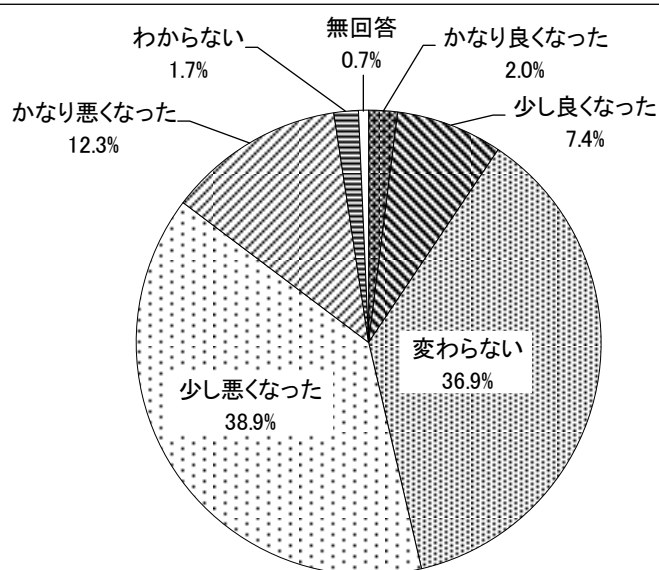
### 1 暮らしの変化について

#### (1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

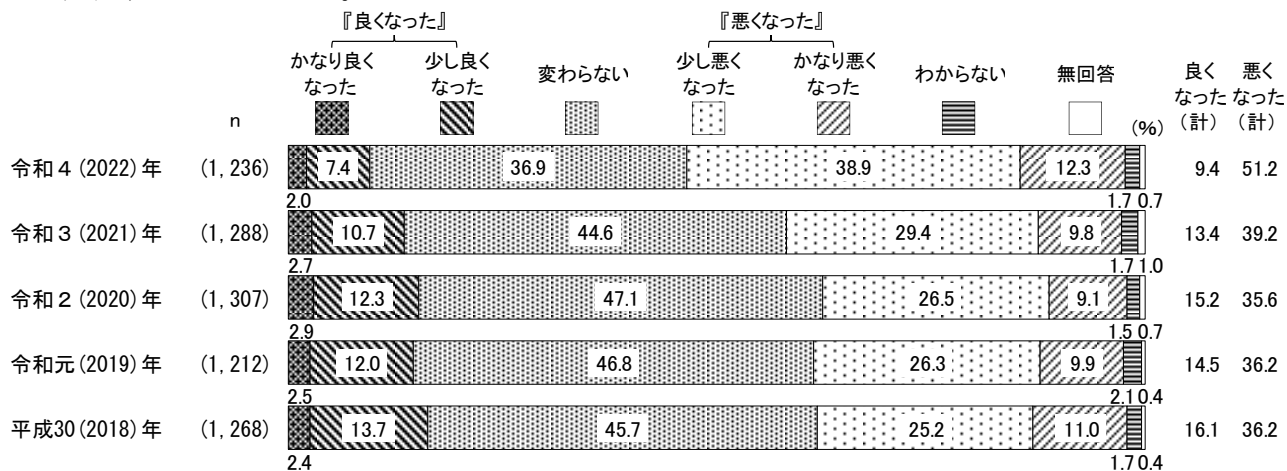
[n=1,236]

1	かなり良くなった	2.0%	4	少し悪くなった	38.9%
2	少し良くなった	7.4%	5	かなり悪くなった	12.3%
3	変わらない	36.9%	6	わからない	1.7%
				(無回答)	0.7%



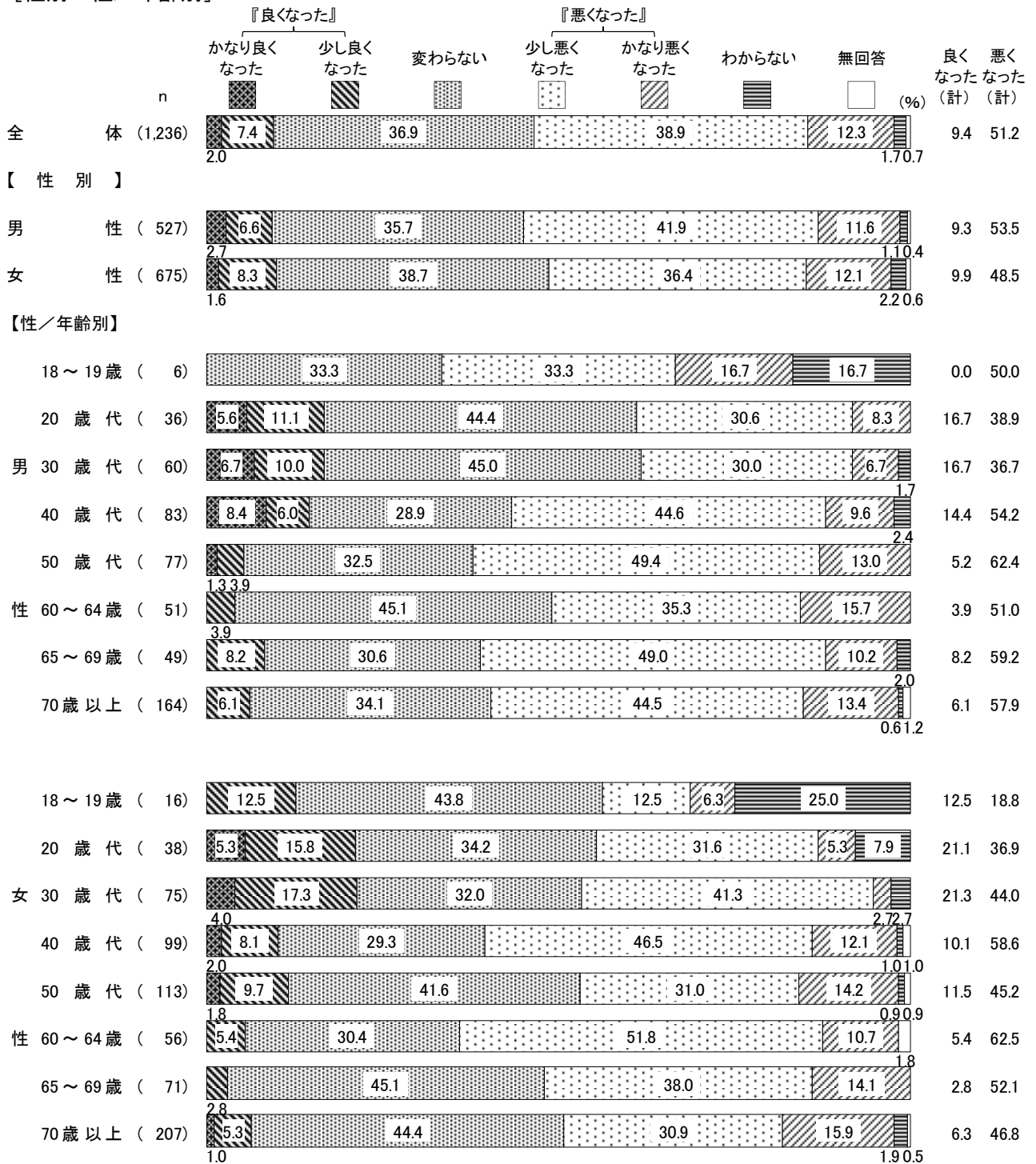
(n=1,236)

全体で見ると、「かなり良くなった」(2.0%)と「少し良くなった」(7.4%)の2つを合わせた『良くなった』(9.4%)が1割弱となっている。一方、「少し悪くなった」(38.9%)と「かなり悪くなった」(12.3%)の2つを合わせた『悪くなった』(51.2%)が5割強となっている。また、「変わらない」(36.9%)が3割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(令和3(2021)年)より12.0ポイント増加している。

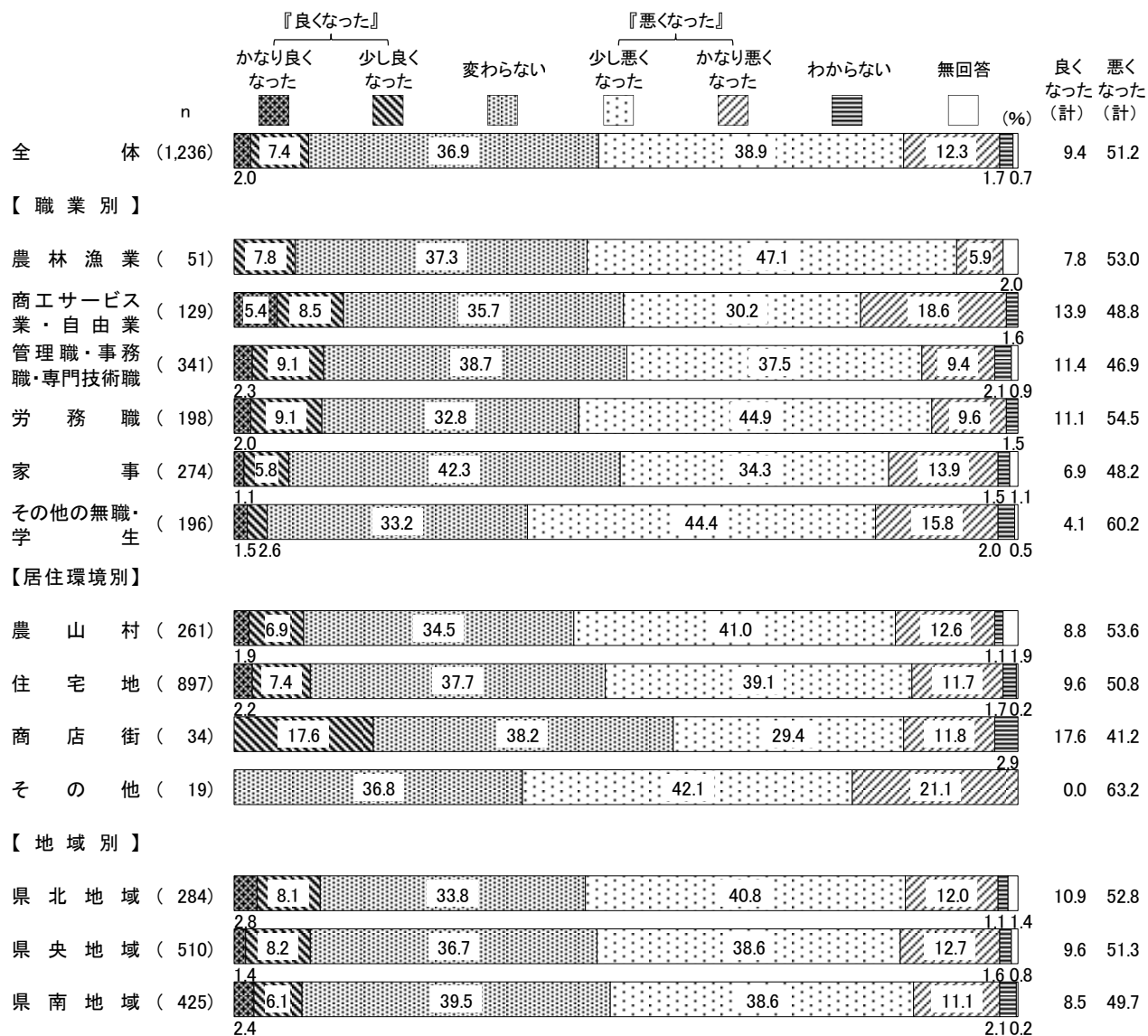
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(53.5%)が〈女性〉(48.5%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性30歳代〉が21.3%、〈女性20歳代〉が21.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60～64歳〉が62.5%、〈男性50歳代〉が62.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『良くなった』では〈商工サービス業・自由業〉が13.9%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈その他の無職・学生〉が60.2%と高くなっている。

居住環境別で見ると、『良くなった』では〈商店街〉が17.6%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈農山村〉が53.6%と高くなっている。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

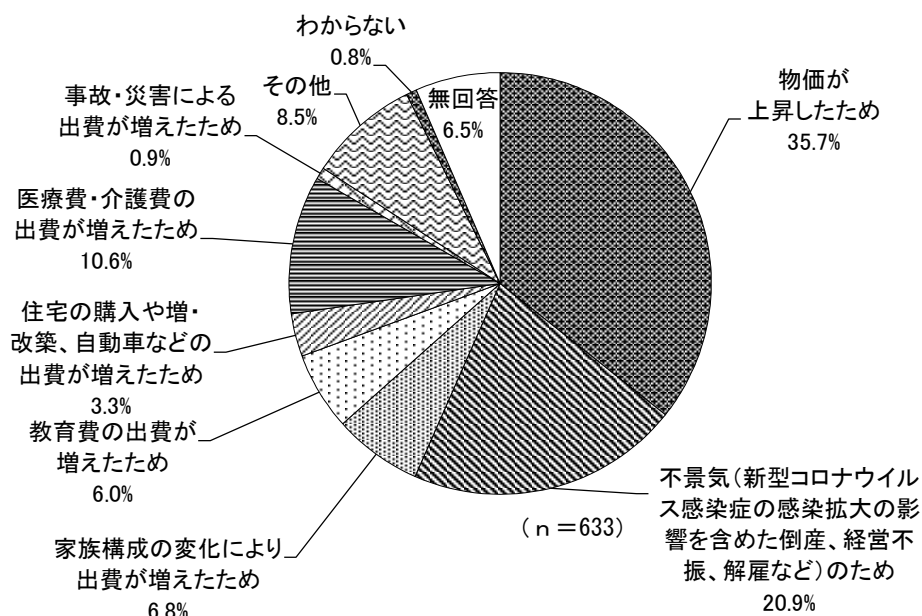
## (2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。

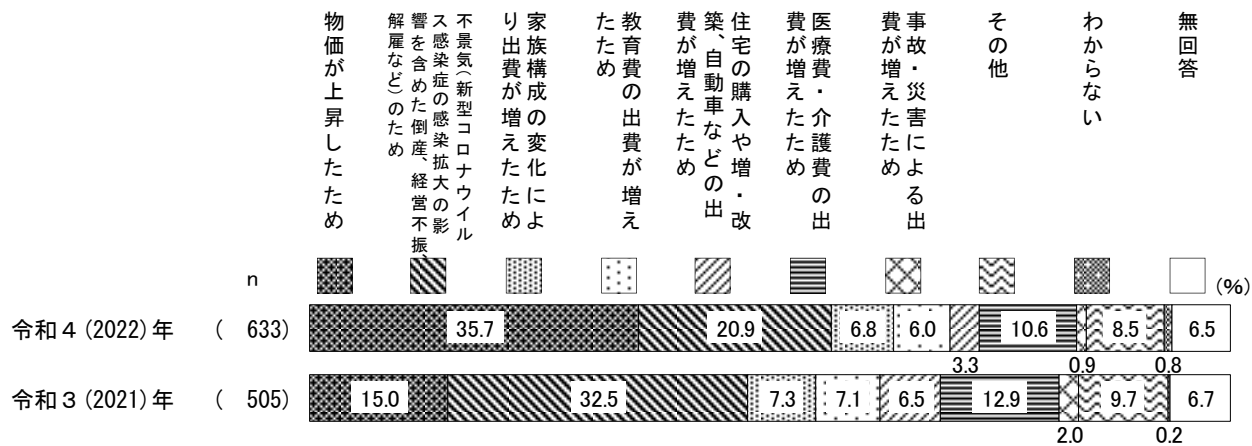
[n=633]

1	物価が上昇したため	35.7%
2	不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため	20.9
3	家族構成の変化により出費が増えたため	6.8
4	教育費の出費が増えたため	6.0
5	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	3.3
6	医療費・介護費の出費が増えたため	10.6
7	事故・災害による出費が増えたため	0.9
8	その他	8.5
9	わからない	0.8
	(無回答)	6.5



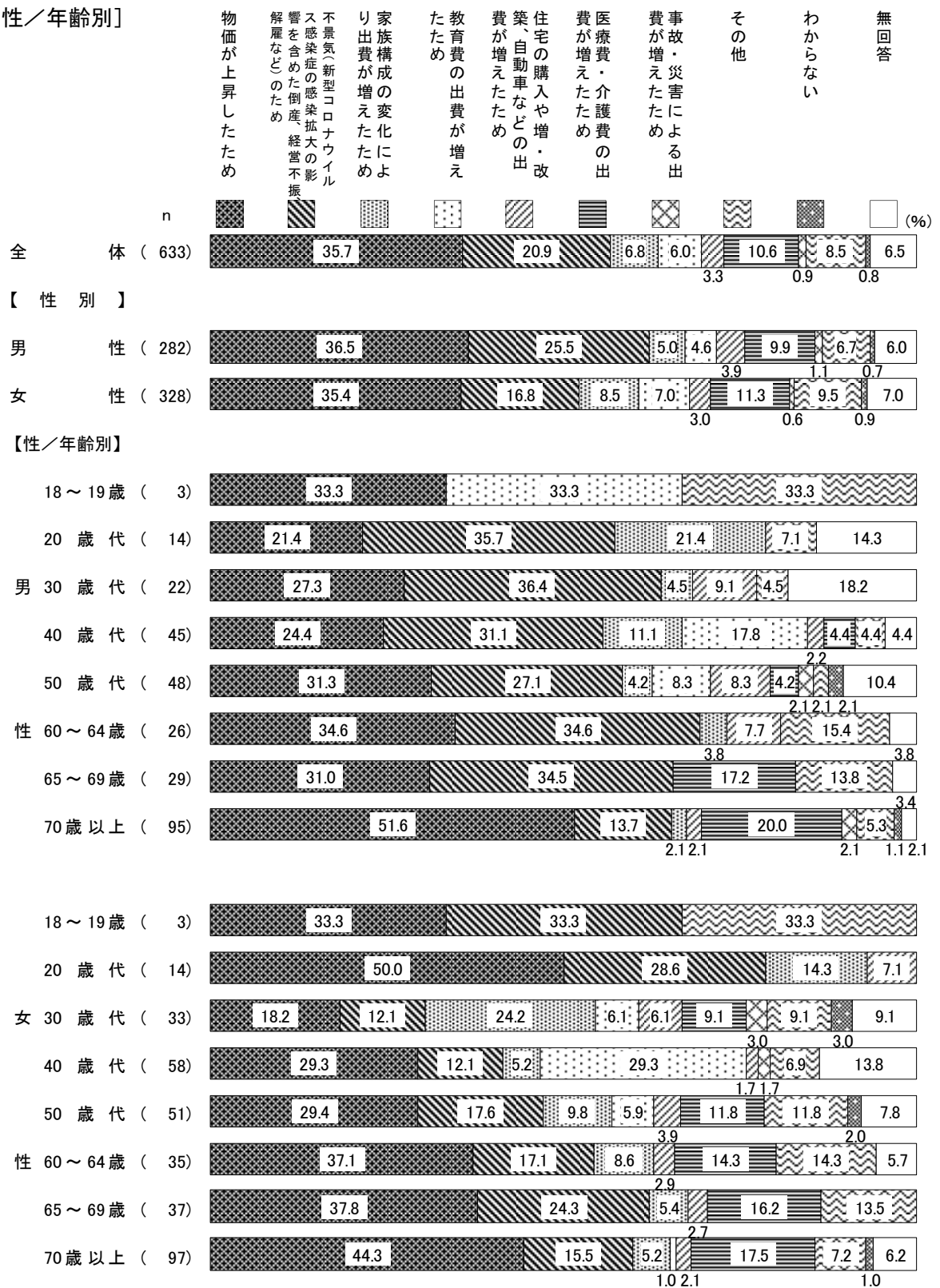
全体でみると、「物価が上昇したため」(35.7%)が3割台半ばで最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(20.9%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(10.6%)の順となっている。

[過去の調査結果]



前回（令和3(2021)年）の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が20.7ポイント増加している。一方、『不景気のため』が11.6ポイント減少している。

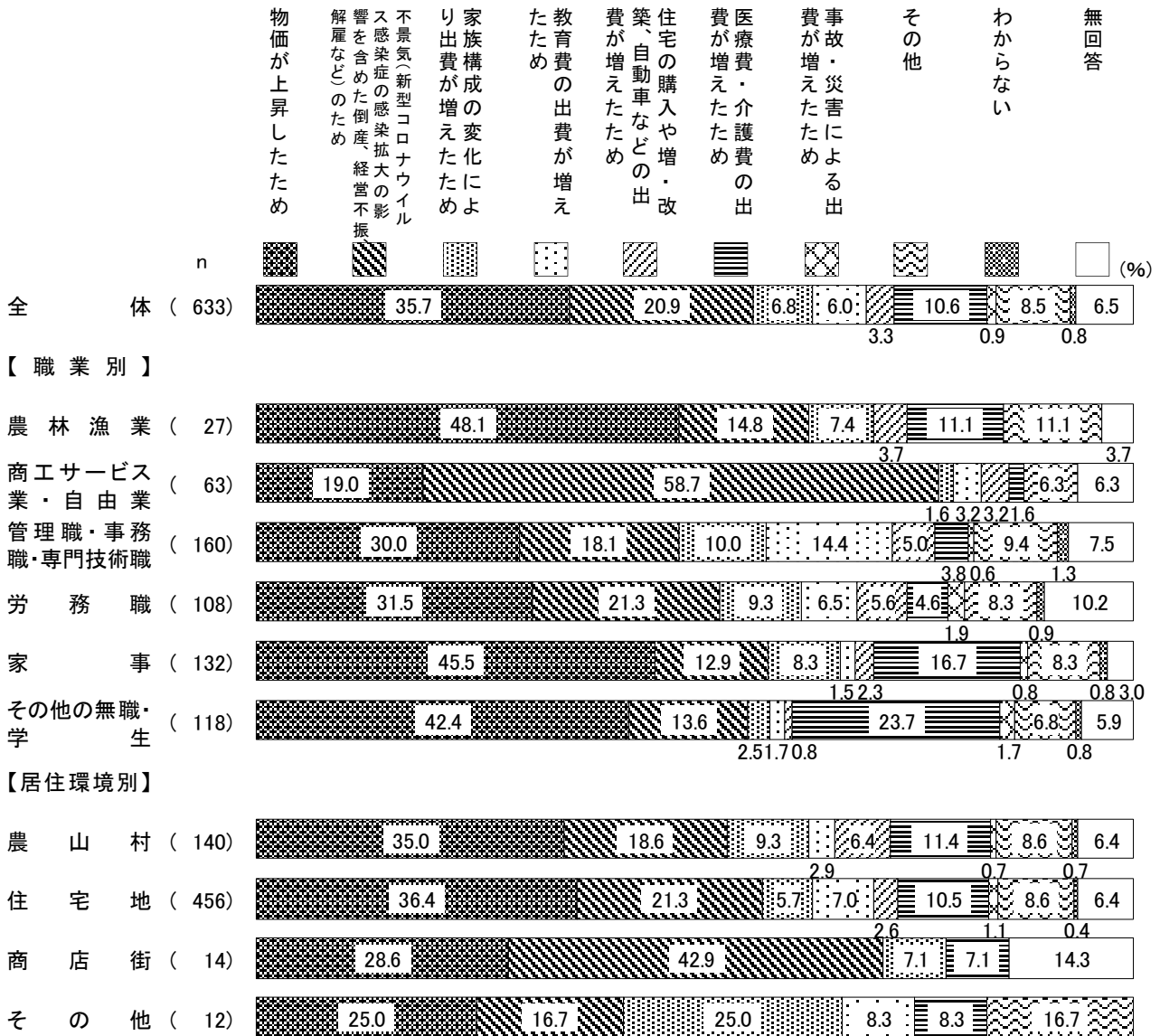
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『不景気のため』では〈男性〉(25.5%)が〈女性〉(16.8%)より8.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「教育費の出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が29.3%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が51.6%と高くなっている。また、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性70歳以上〉が20.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉が58.7%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈その他の無職・学生〉が23.7%と高くなっている。

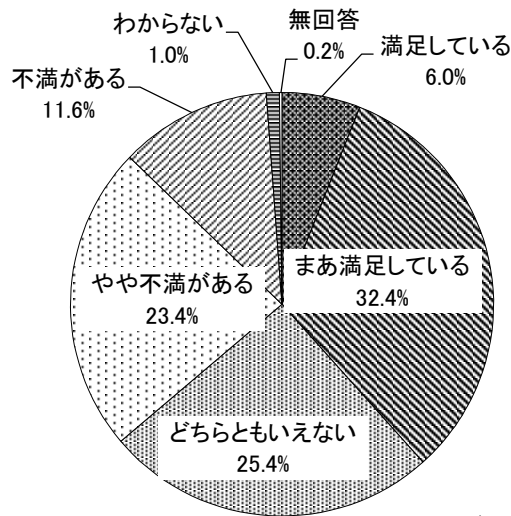
居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 暮らしの満足度

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

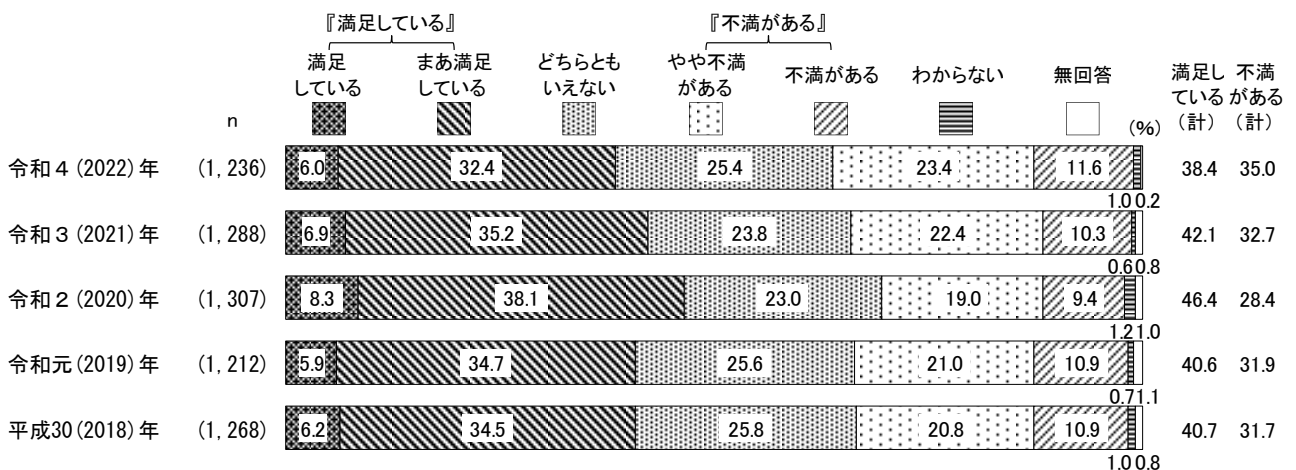
[n=1,236]

1	満足している	6.0%	4	やや不満がある	23.4%
2	まあ満足している	32.4	5	不満がある	11.6
3	どちらともいえない	25.4	6	わからない	1.0
				(無回答)	0.2



(n=1,236)

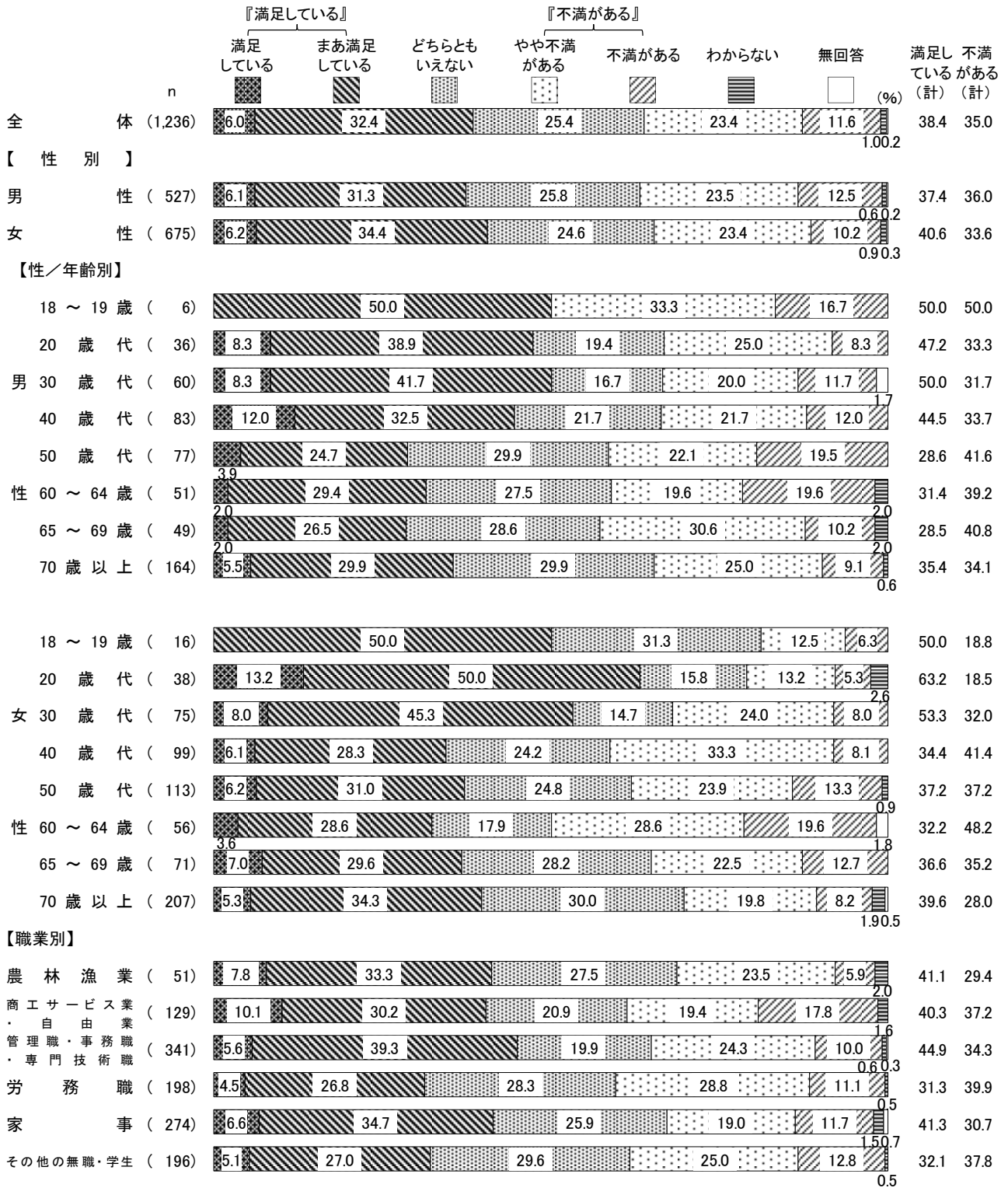
全体でみると、「満足している」(6.0%)と「まあ満足している」(32.4%)の2つを合わせた『満足している』(38.4%)が4割近くとなっている。一方、「やや不満がある」(23.4%)と「不満がある」(11.6%)の2つを合わせた『不満がある』(35.0%)は3割台半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(25.4%)が2割台半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『満足している』が前々回(令和2(2020)年)より減少傾向が続き、前々回(令和2(2020)年)より8.0ポイント減少している。



【性別・性／年齢別・職業別】

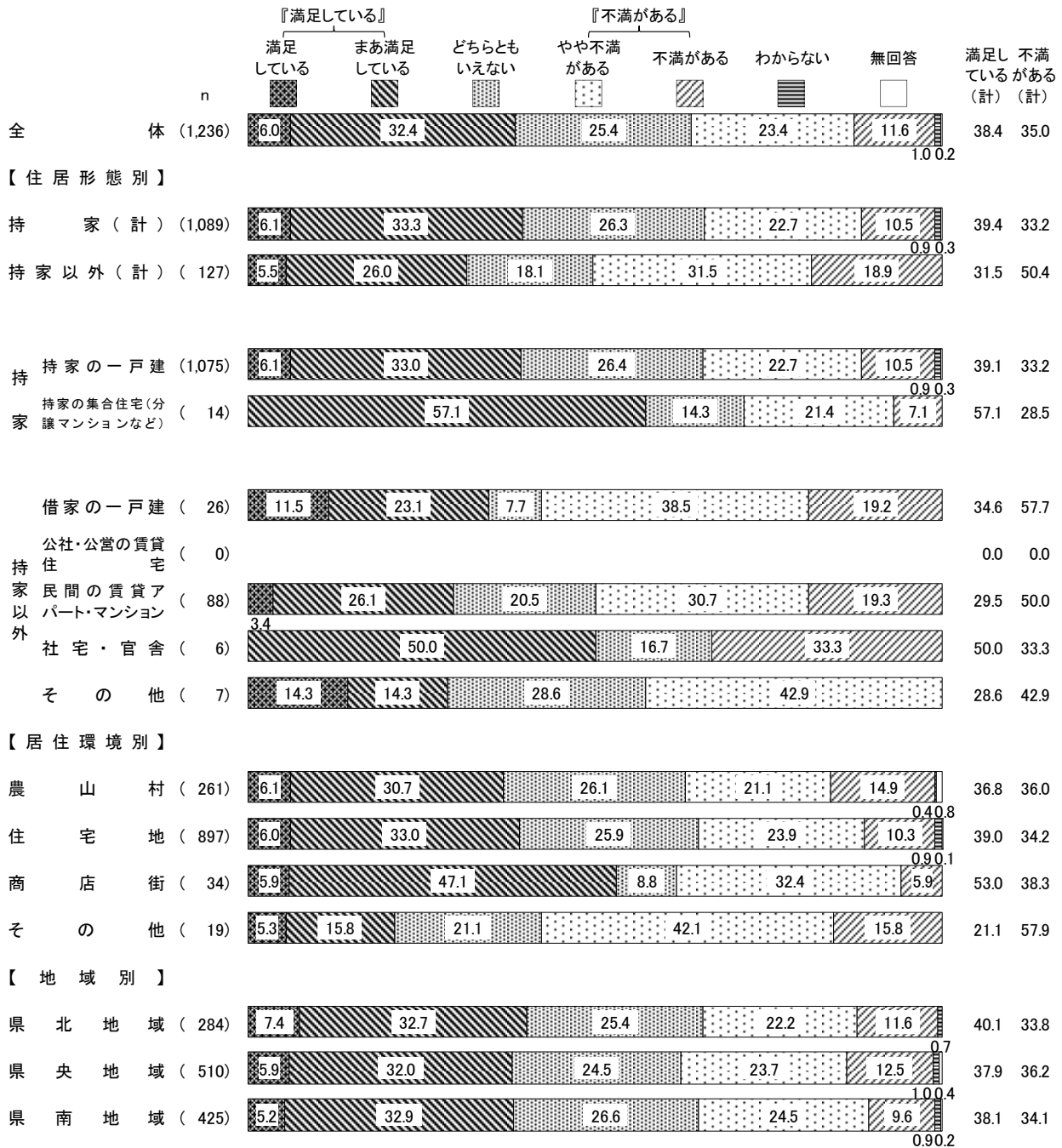


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈女性60～64歳〉が48.2%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈労務職〉が31.3%と低くなっている。

〔住居形態別・居住環境別・地域別〕



住居形態別で見ると、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉(50.4%) が〈持家 (計)〉(33.2%) より17.2ポイント高くなっている。

居住環境別で見ると、『満足している』では〈商店街〉が53.0%と高くなっている。

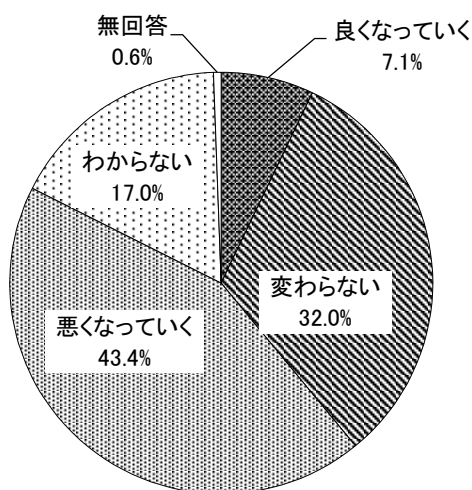
地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

#### (4) 今後の暮らしの状況

問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

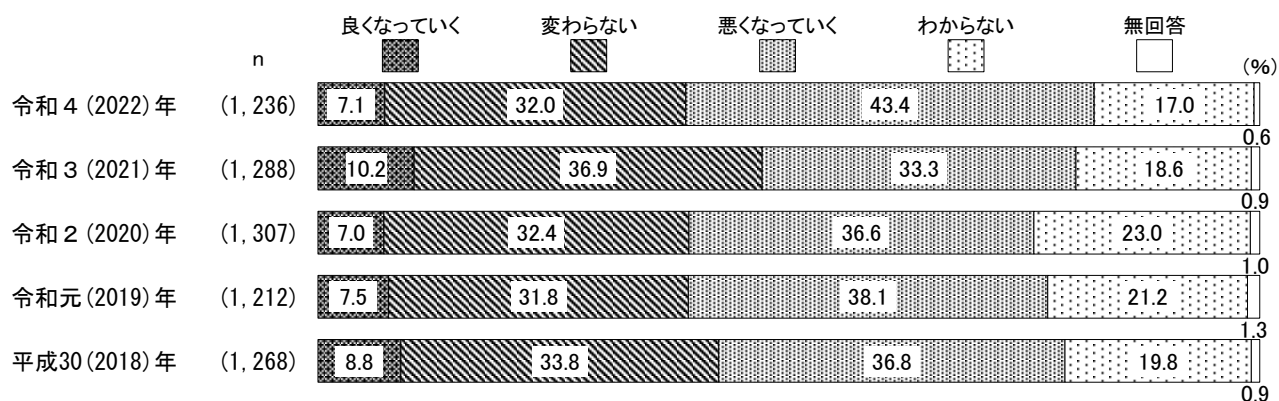
[n=1,236]

1 良くなっていく	7.1%	3 悪くなっていく	43.4%
2 変わらない	32.0	4 わからない	17.0
		(無回答)	0.6



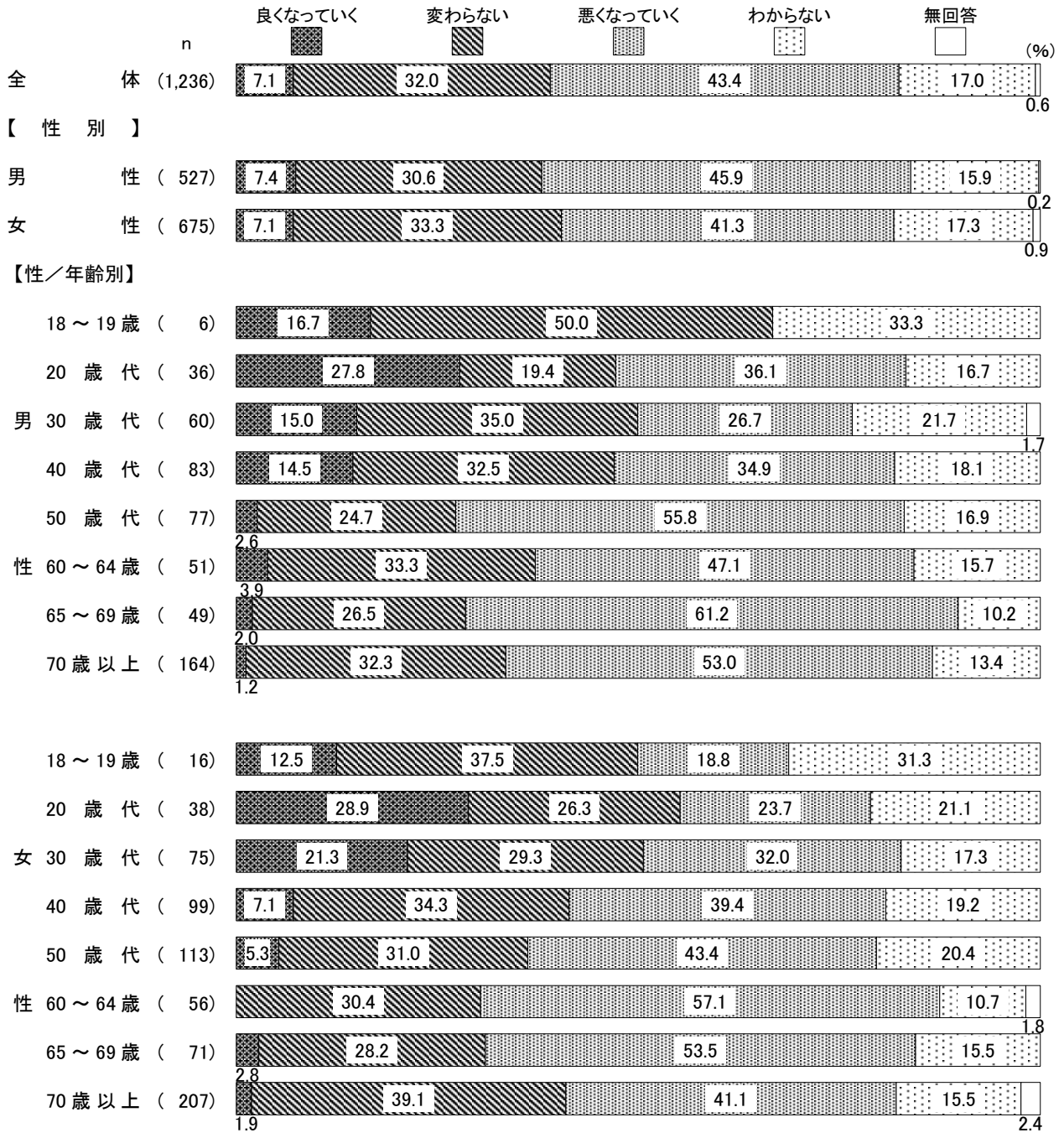
(n=1,236)

全体で見ると、「悪くなっていく」(43.4%)が4割台半ば近く、「変わらない」(32.0%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)より「悪くなっていく」が10.1ポイント増加している。

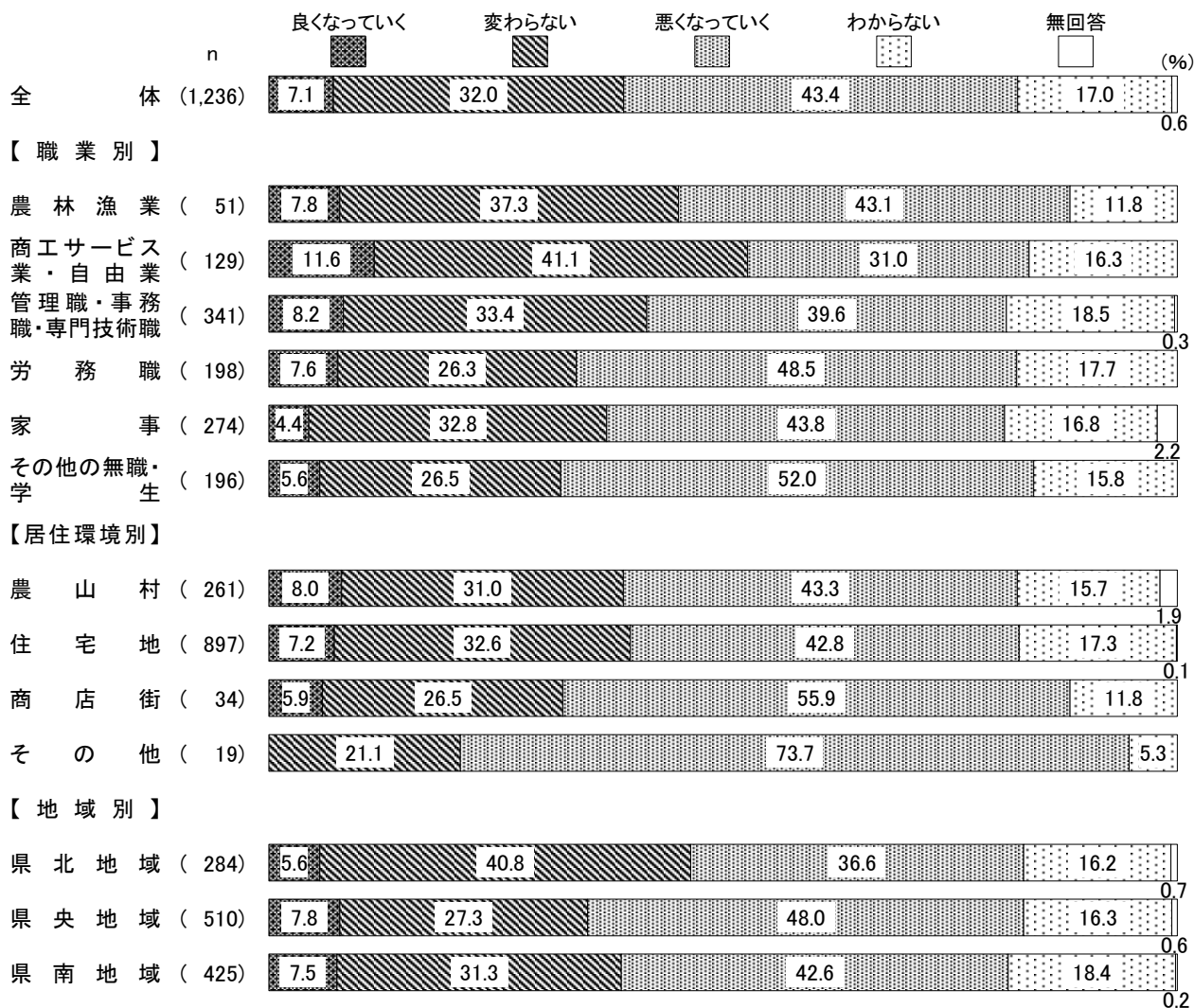
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「悪くなっていく」では、〈男性〉(45.9%)が〈女性〉(41.3%)より4.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性65～69歳〉が61.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が52.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

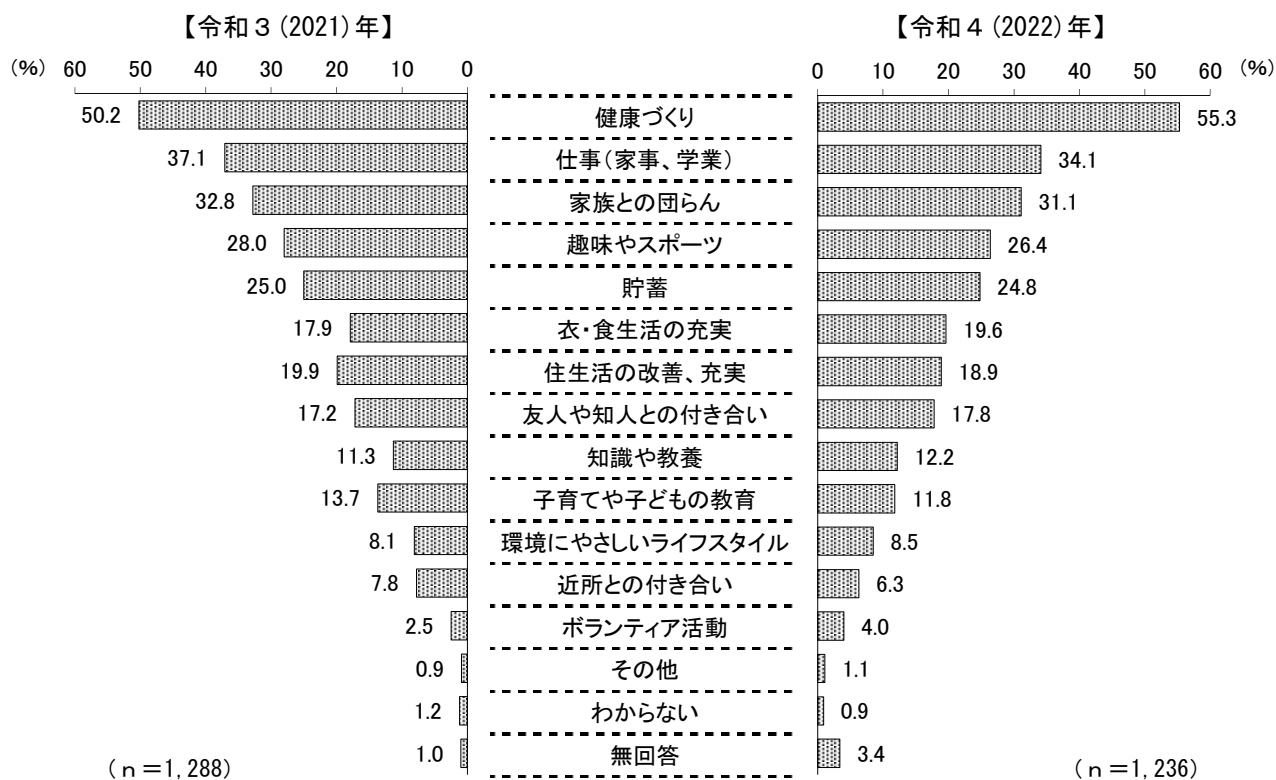
地域別でみると、「変わらない」では〈県北地域〉が40.8%と高くなっている。

## (5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。

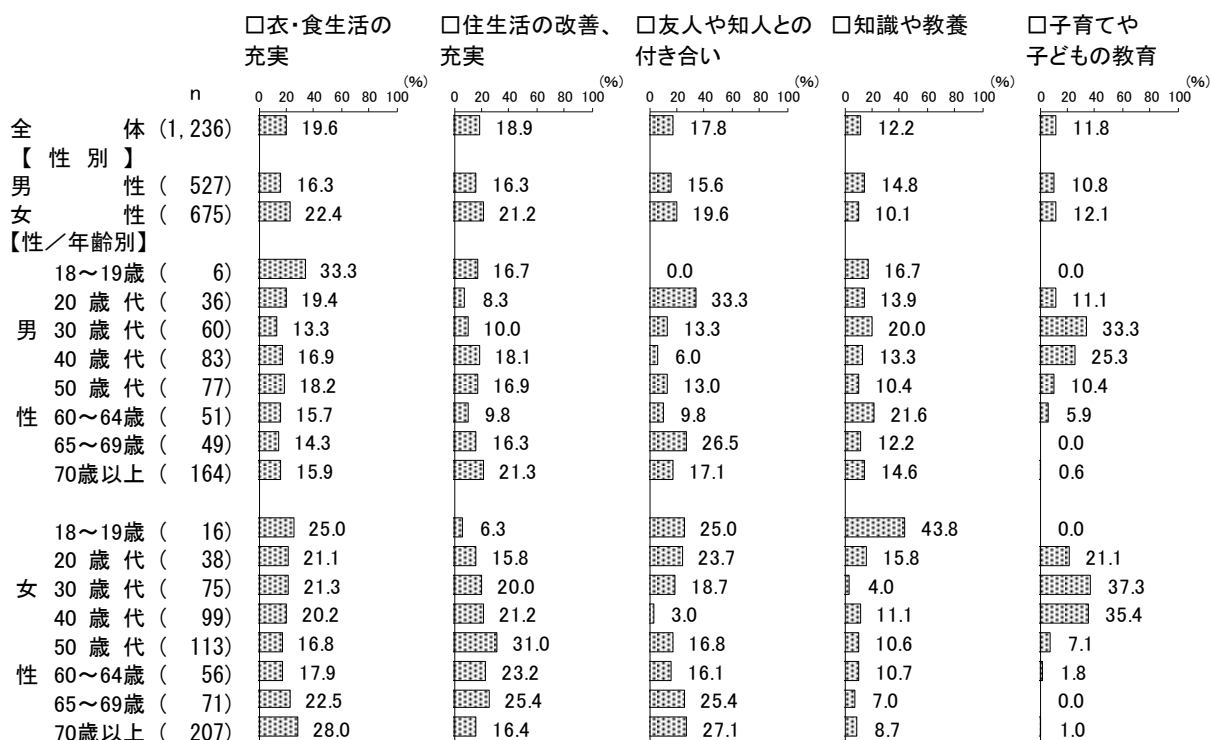
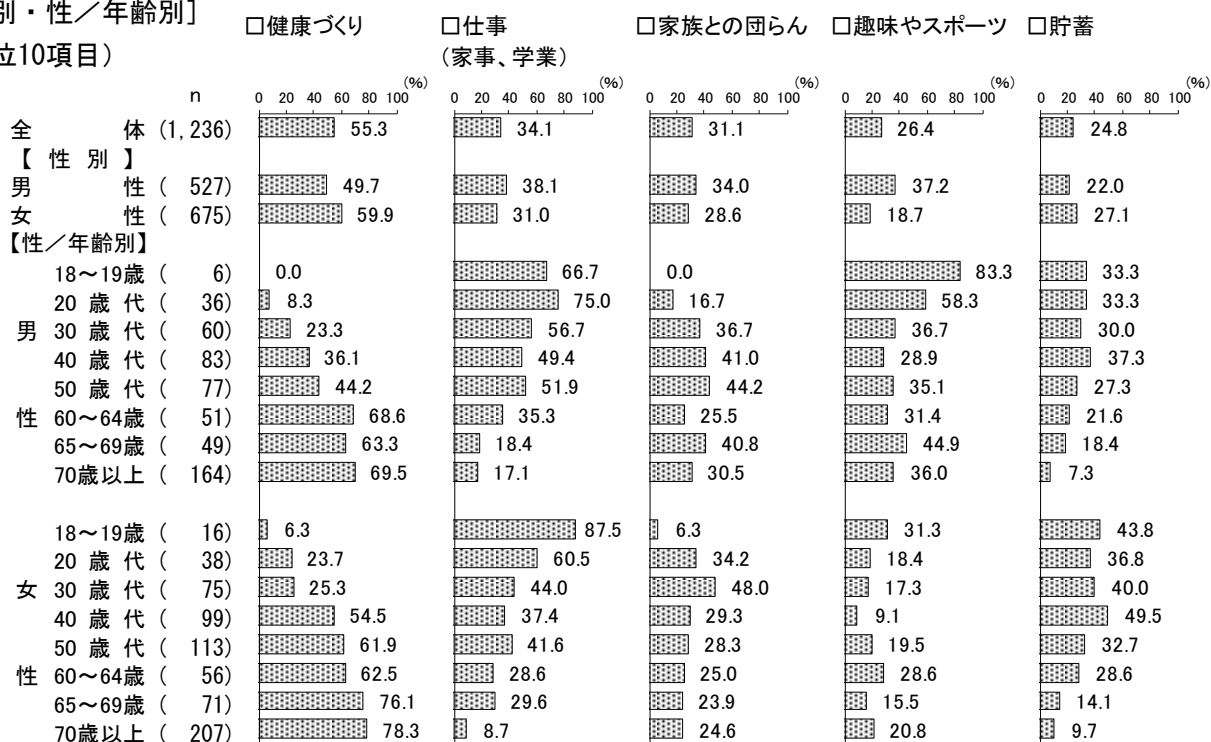
[n=1,236]

1	仕事(家事、学業)	34.1%	9	家族との団らん	31.1%
2	知識や教養	12.2	10	近所との付き合い	6.3
3	貯蓄	24.8	11	友人や知人との付き合い	17.8
4	趣味やスポーツ	26.4	12	子育てや子どもの教育	11.8
5	ボランティア活動	4.0	13	健康づくり	55.3
6	衣・食生活の充実	19.6	14	その他	1.1
7	住生活の改善、充実	18.9	15	わからない	0.9
8	環境にやさしいライフスタイル	8.5		(無回答)	3.4



全体でみると、「健康づくり」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(34.1%)、「家族との団らん」(31.1%)、「趣味やスポーツ」(26.4%)、「貯蓄」(24.8%)の順となっている。前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「健康づくり」が5.1ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

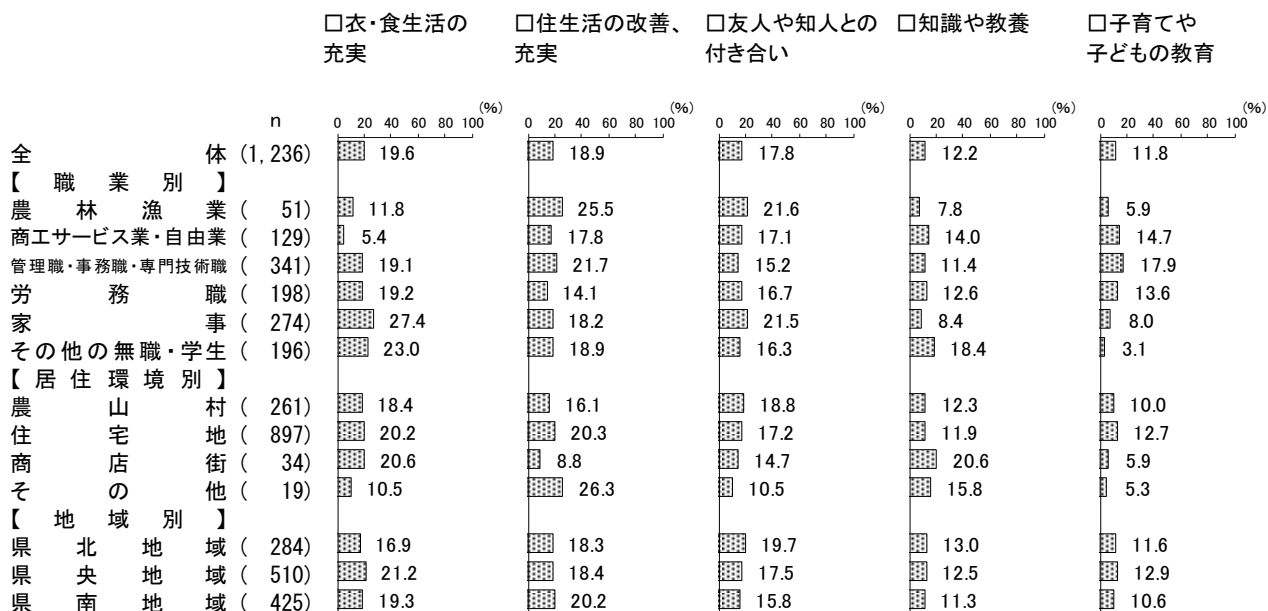
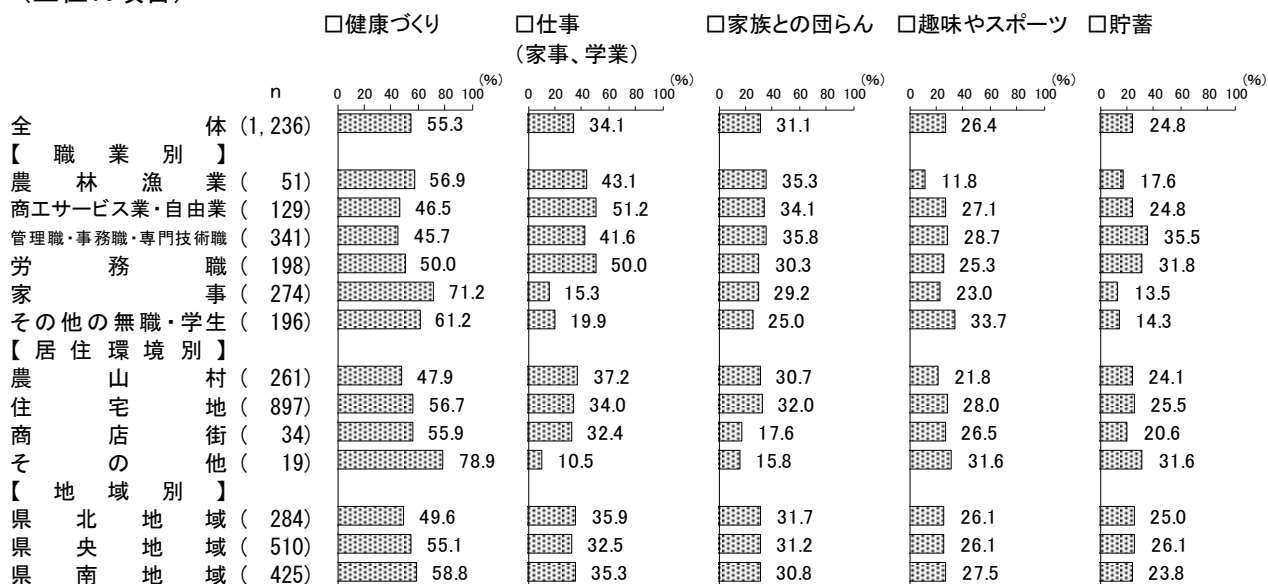


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(37.2%)が〈女性〉(18.7%)より18.5ポイント高くなっている。一方、「健康づくり」では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(49.7%)より10.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が75.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性40歳代〉が49.5%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が37.3%、〈女性40歳代〉が35.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]

(上位10項目)



職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉が71.2%と高くなっている。「仕事 (家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が51.2%、〈労務職〉が50.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が35.5%、〈労務職〉が31.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈農山村〉が47.9%と低くなっている。

地域別でみると、「健康づくり」では〈県北地域〉が49.6%と低くなっている。



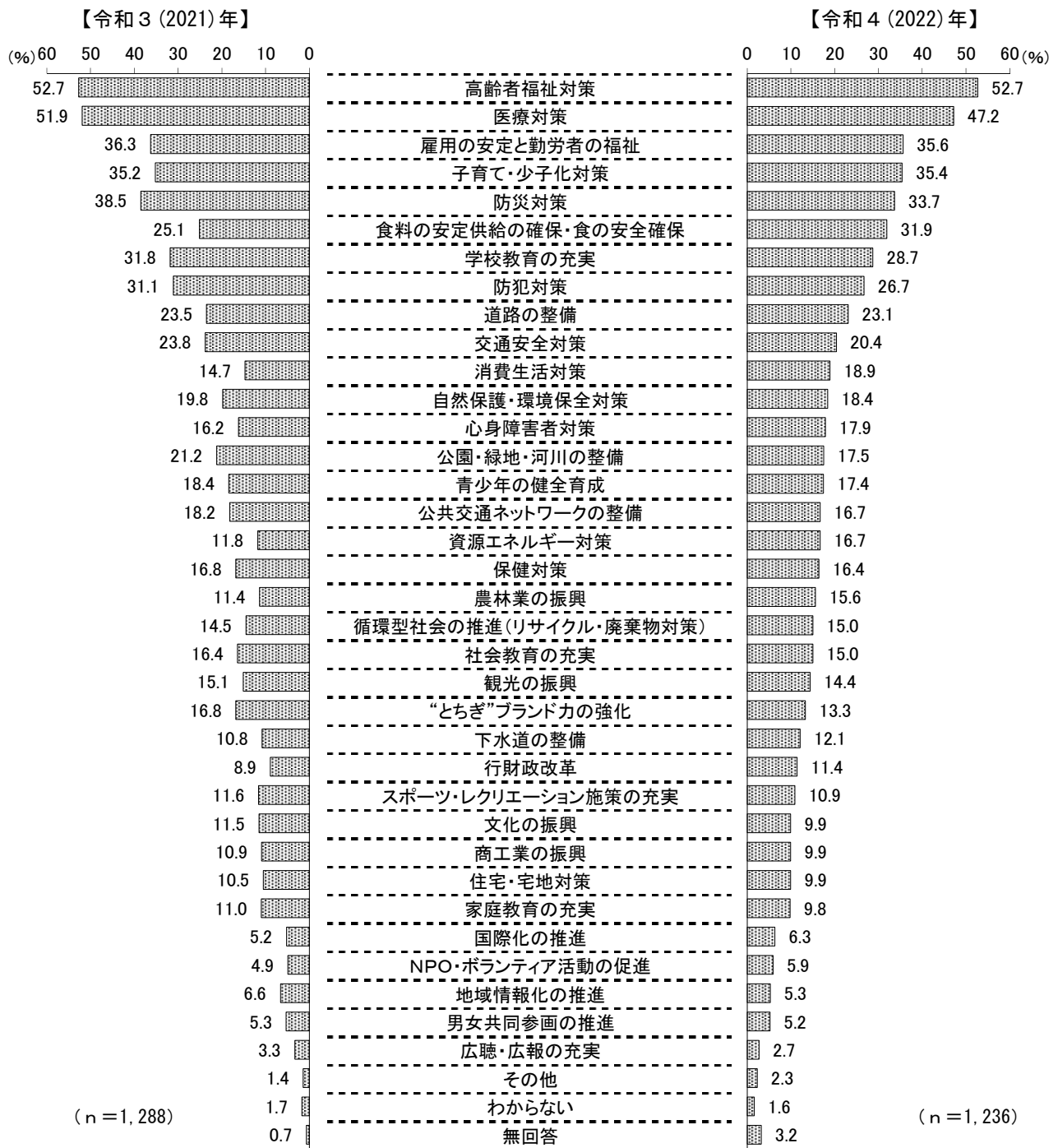
## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる. 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

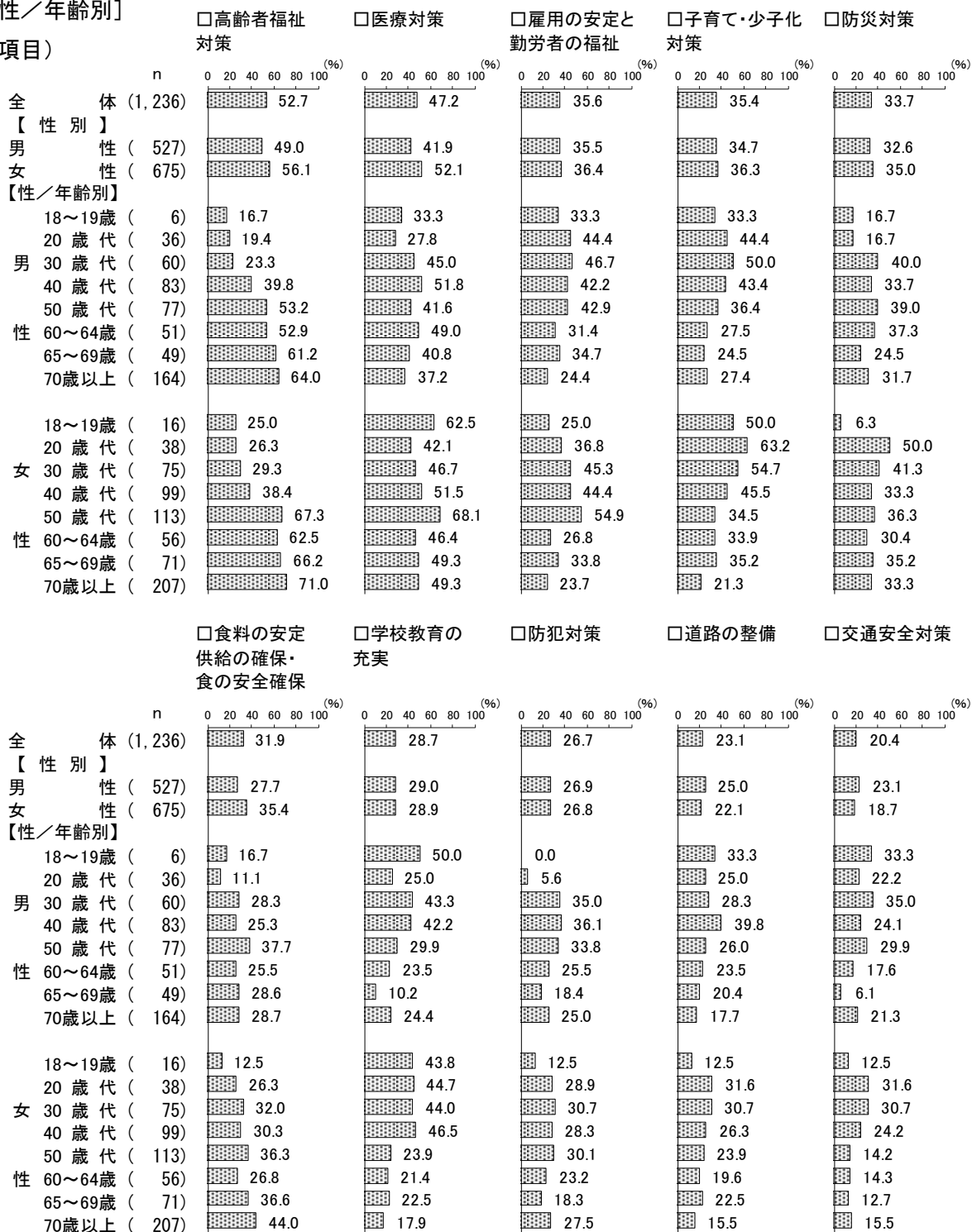
1	学校教育の充実	28.7%
2	青少年の健全育成	17.4
3	家庭教育の充実	9.8
4	社会教育の充実	15.0
5	文化の振興	9.9
6	スポーツ・レクリエーション施策の充実	10.9
7	NPO・ボランティア活動の促進	5.9
8	広聴・広報の充実	2.7
9	国際化の推進	6.3
10	子育て・少子化対策	35.4
11	高齢者福祉対策	52.7
12	心身障害者対策	17.9
13	医療対策	47.2
14	保健対策	16.4
15	男女共同参画の推進	5.2
16	農林業の振興	15.6
17	食料の安定供給の確保・食の安全確保	31.9
18	商工業の振興	9.9
19	観光の振興	14.4
20	雇用の安定と勤労者の福祉	35.6
21	住宅・宅地対策	9.9
22	資源エネルギー対策	16.7
23	下水道の整備	12.1
24	公園・緑地・河川の整備	17.5
25	公共交通ネットワークの整備	16.7
26	道路の整備	23.1
27	地域情報化の推進	5.3
28	防災対策	33.7
29	防犯対策	26.7
30	交通安全対策	20.4
31	消費生活対策	18.9
32	自然保護・環境保全対策	18.4
33	循環型社会の推進（リサイクル・廃棄物対策）	15.0
34	行財政改革	11.4
35	“とちぎ”ブランド力の強化	13.3
36	その他	2.3
37	わからない	1.6
	(無回答)	3.2



全体で見ると、「高齢者福祉対策」(52.7%)が5割強で最も高く、次いで「医療対策」(47.2%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(35.6%)、「子育て・少子化対策」(35.4%)、「防災対策」(33.7%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(31.9%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が6.8ポイント、「資源エネルギー対策」が4.9ポイント、それぞれ増加している。一方、「防災対策」が4.8ポイント、「医療対策」が4.7ポイント、それぞれ減少している。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

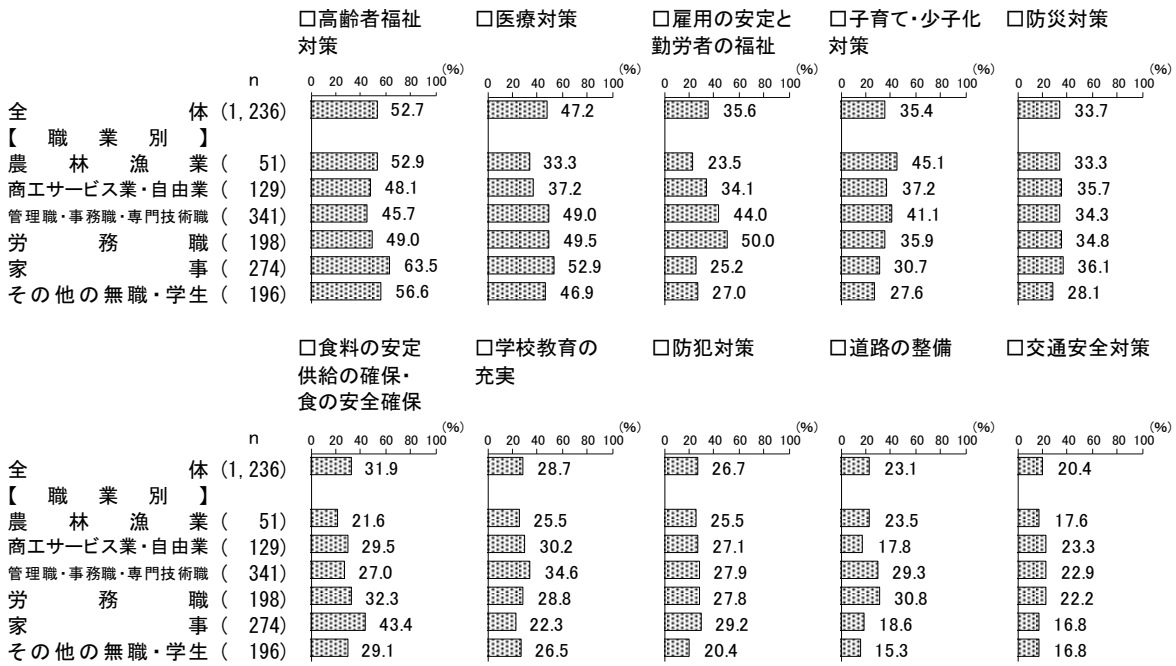


性別でみると、「医療対策」では〈女性〉(52.1%)が〈男性〉(41.9%)より10.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が71.0%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が68.1%と高くなっている。また、「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が54.9%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性40歳代〉が46.5%、〈女性20歳代〉が44.7%、〈女性30歳代〉が44.0%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別でみると、「高齢者福祉対策」では〈家事〉が63.5%と高くなっている。また、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈家事〉が43.4%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈労務職〉が50.0%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和4(2022)年 (n=1,236)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%
	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%
	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策 53.3%		防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%
	平成30(2018)年 (n=1,268)	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
20~39歳	令和4(2022)年 (n=213)	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%
	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.0%	防災対策 37.5%
	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.3%	防災対策 37.2%
	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%
	平成30(2018)年 (n=229)	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
40~59歳	令和4(2022)年 (n=379)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実/ 防災対策 34.8%
	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%
	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%
	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%
	平成30(2018)年 (n=411)	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
60~69歳	令和4(2022)年 (n=228)	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%
	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%
	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%
	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策 32.9%	
	平成30(2018)年 (n=267)	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
70歳以上	令和4(2022)年 (n=379)	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%
	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%
	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 26.0%
	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%
	平成30(2018)年 (n=320)	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の健全育成 25.3%

上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成30(2018)年以降「高齢者福祉対策」が同率も含め1位となっている。「医療対策」が平成30(2018)年以降、令和2(2020)年の同率1位を除いて2位となっている。順位に変動はあるが、令和2(2020)年から上位5項目に変動はみられない。

20～39歳では、「子育て・少子化対策」が平成30(2018)年以降1位となっている。令和3(2021)年で4位であった「雇用の安定と勤労者の福祉」が今回調査では2位となっている。一方、令和3(2021)年で2位であった「学校教育の充実」が今回調査では4位となっている。

40～59歳では、「医療対策」が令和2(2020)年以降1位、「高齢者福祉対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位となっている。令和3(2021)年で5位であった「子育て・少子化対策」が今回調査では4位となっている。

60～69歳では、平成30(2018)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。「防災対策」が令和元(2019)年以降3位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」が令和2(2020)年以降4位となっている。

70歳以上では、平成30(2018)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和3(2021)年で4位であった「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が今回調査では3位となっている。一方、令和3(2021)年で3位であった「防災対策」が今回調査では4位となっている。令和2年(2020)年で4位であった「防犯対策」が令和3(2021)年以降5位となっている。

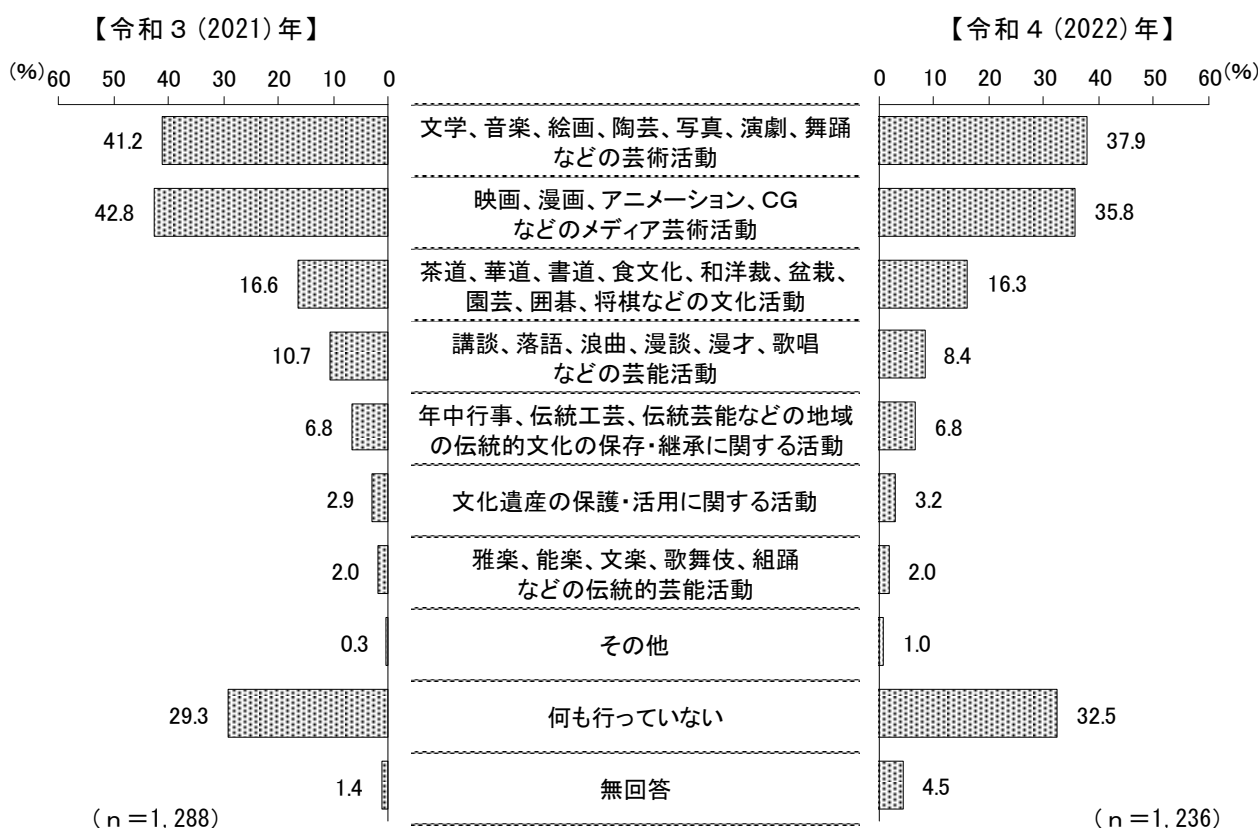
### 3 日常生活について

#### (1) 文化・芸術活動について

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

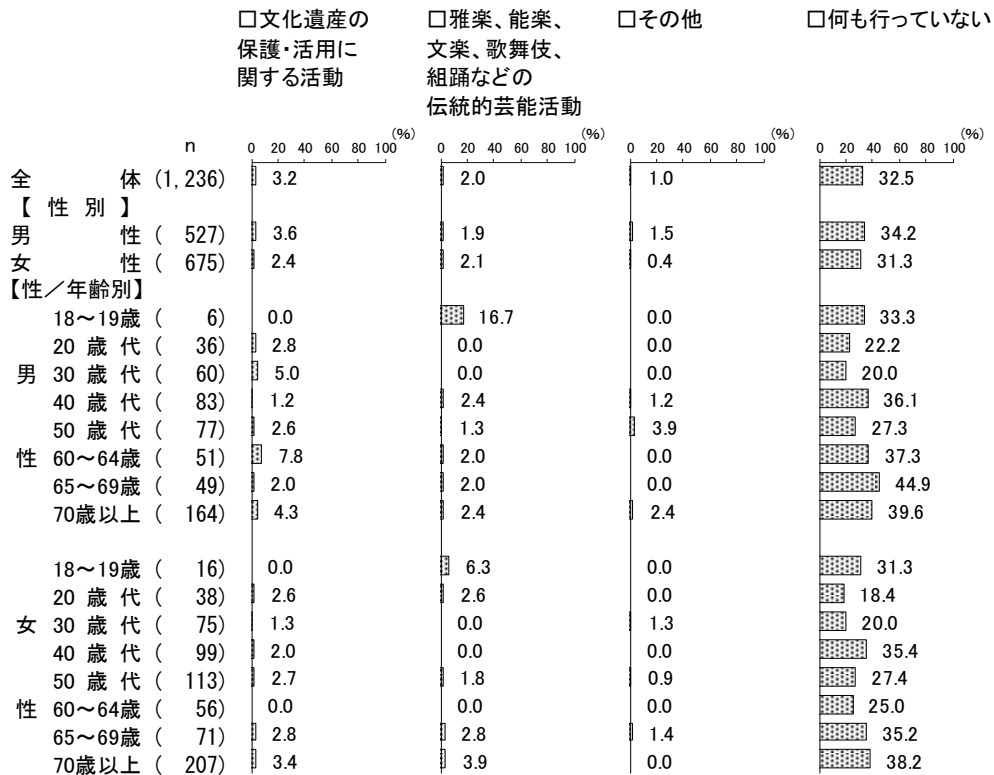
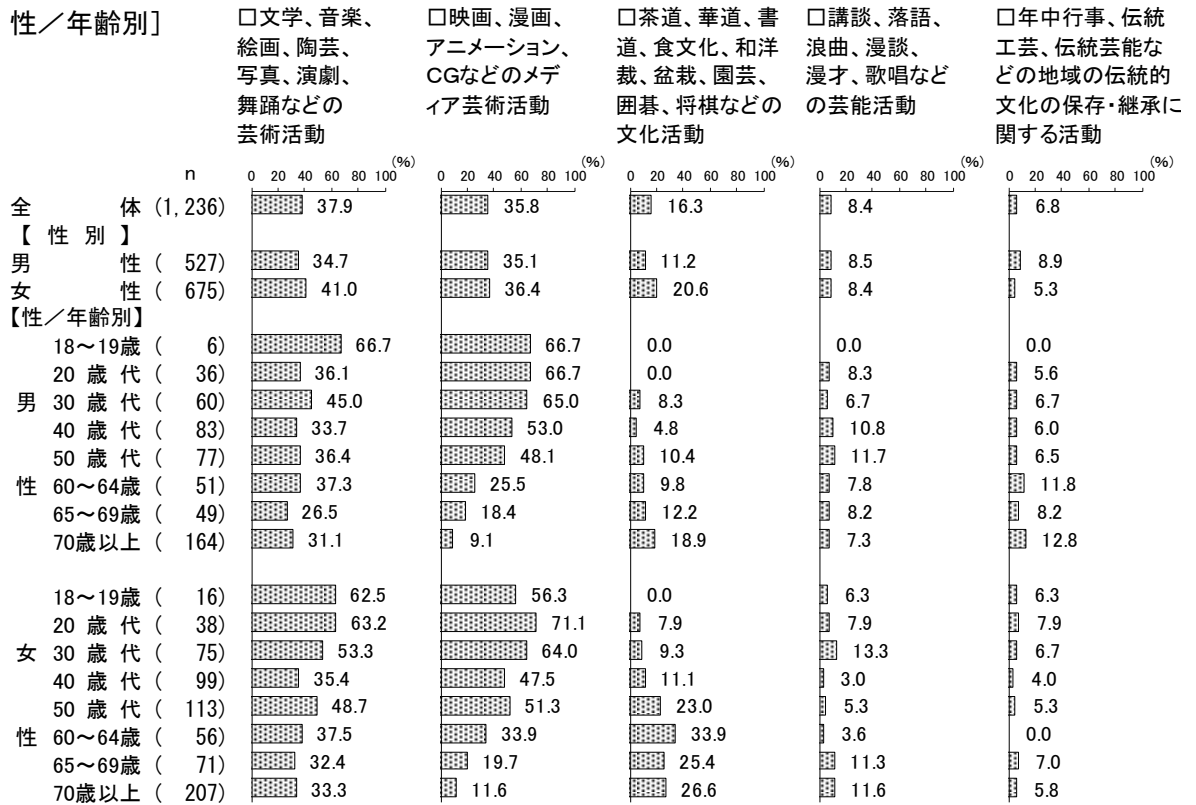
1	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動	37.9%
2	映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動	35.8
3	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動	2.0
4	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動	8.4
5	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動	16.3
6	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化的保存・継承に関する活動	6.8
7	文化遺産の保護・活用に関する活動	3.2
8	その他	1.0
9	何も行っていない	32.5
	(無回答)	4.5



全体で見ると、「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（37.9%）が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（35.8%）の順となっている。一方、「何も行っていない」（32.5%）が3割強となっている。

前回（令和3(2021)年）の調査結果と比較すると、『メディア芸術活動』が7.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

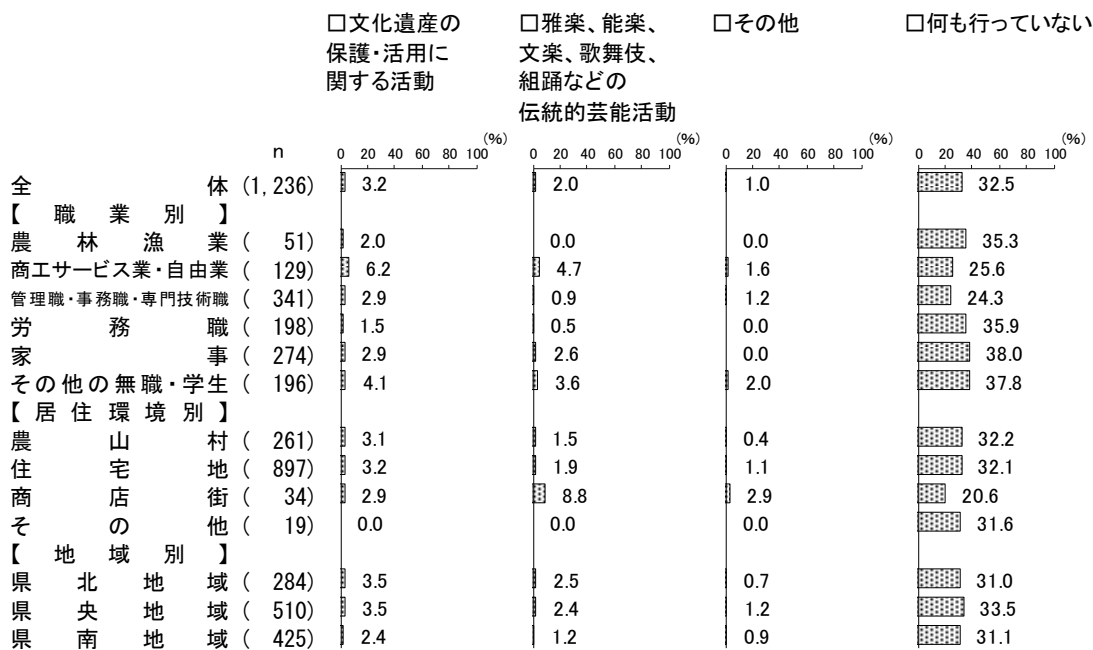
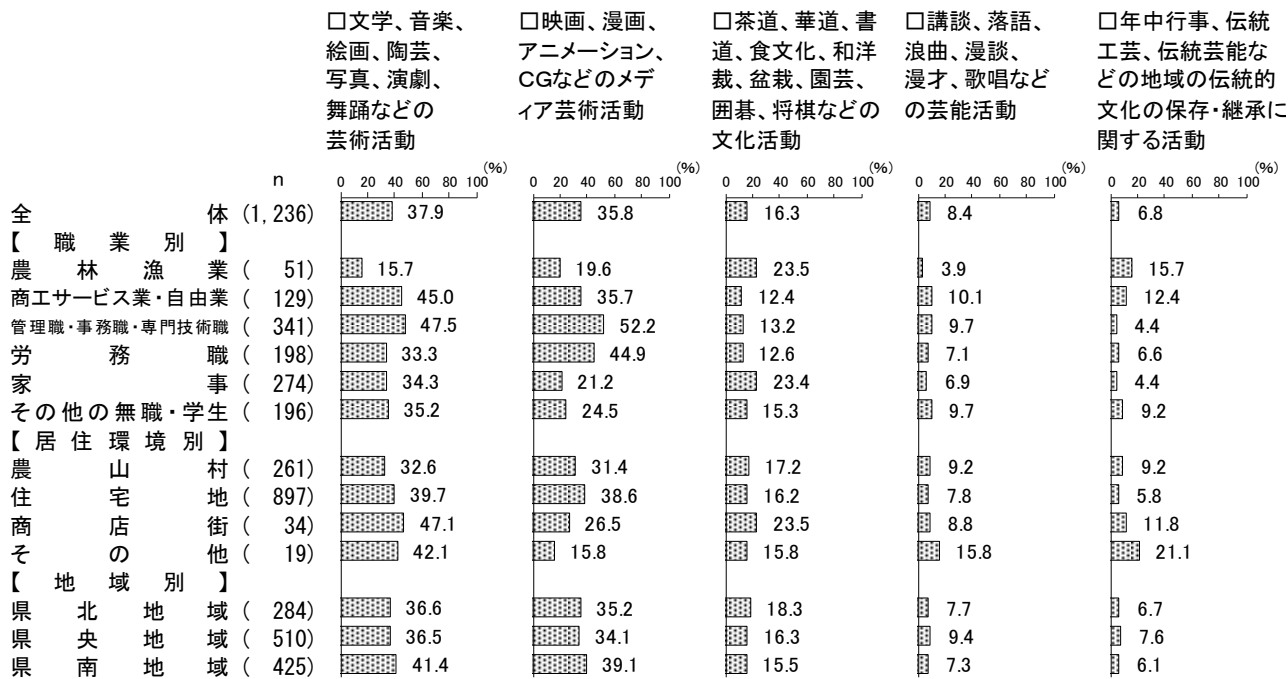


性別でみると、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」では〈女性〉（20.6%）が〈男性〉（11.2%）より9.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。『メディア芸術活動』では〈女性20歳代〉が71.1%、〈男性20歳代〉が66.7%と高くなっている。『文化活動』では〈女性60～64歳〉が33.9%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈男性65～69歳〉が44.9%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が47.5%、〈商工サービス業・自由業〉が45.0%と高くなっている。『メディア芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.2%と高くなっている。「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈農林漁業〉が15.7%と高くなっている。

居住環境別で見ると、『芸術活動』では〈商店街〉が47.1%と高くなっている。一方、『メディア芸術活動』では〈商店街〉が26.5%と低くなっている。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

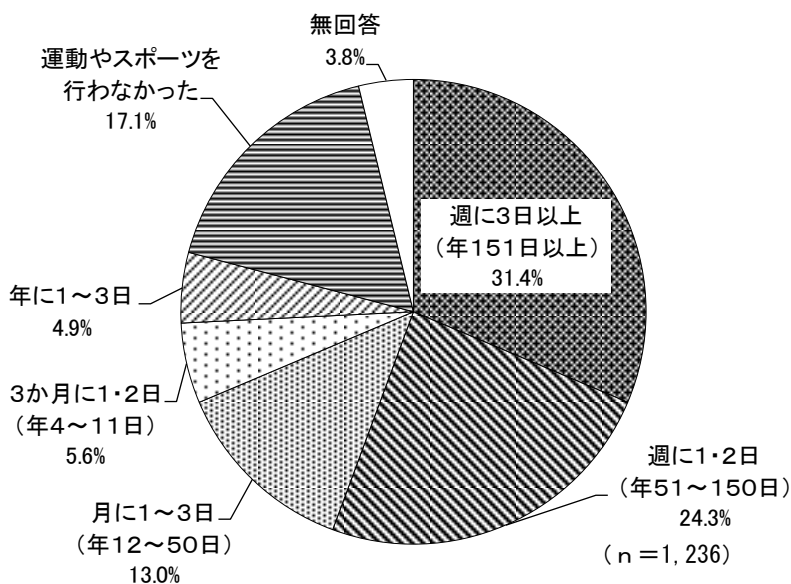
## (2) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど)、階段昇降(2アップ3ダウンなど)、ジョギング、水泳、体操(ラジオ体操、エアロビクスなど)、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ(フライングディスク、スポーツチャンバラなど)、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含みます。

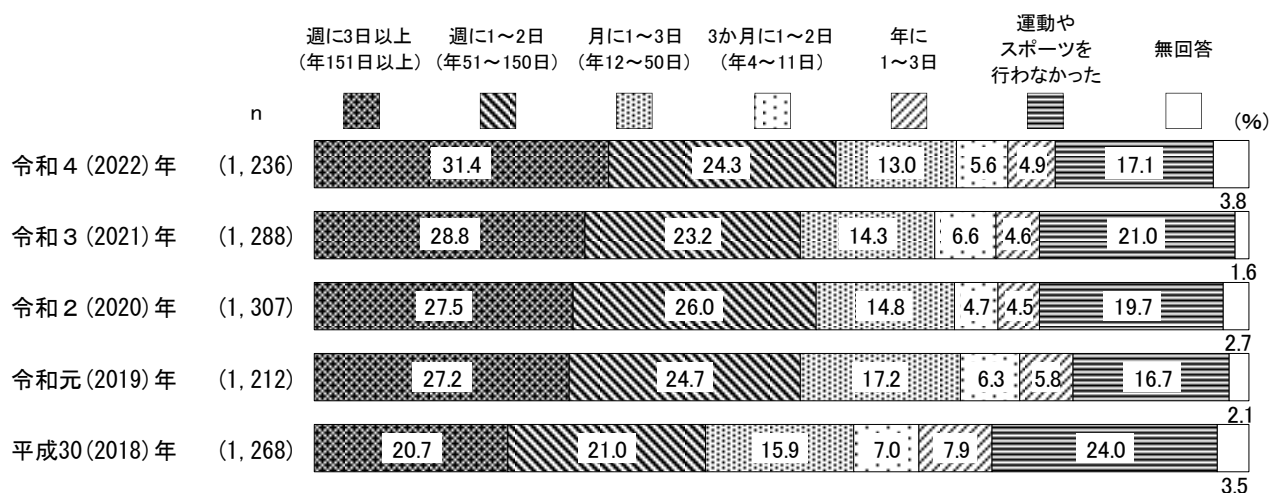
[n=1,236]

1 週に3日以上(年151日以上)	31.4%	4 3か月に1~2日(年4~11日)	5.6%
2 週に1~2日(年51~150日)	24.3%	5 年に1~3日	4.9%
3 月に1~3日(年12~50日)	13.0%	6 運動やスポーツを行わなかった	17.1%
		(無回答)	3.8%



全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(31.4%)が3割強で最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(24.3%)、「月に1~3日(年12~50日)」(13.0%)の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(17.1%)が1割台半ばを超えている。

[過去の調査結果]



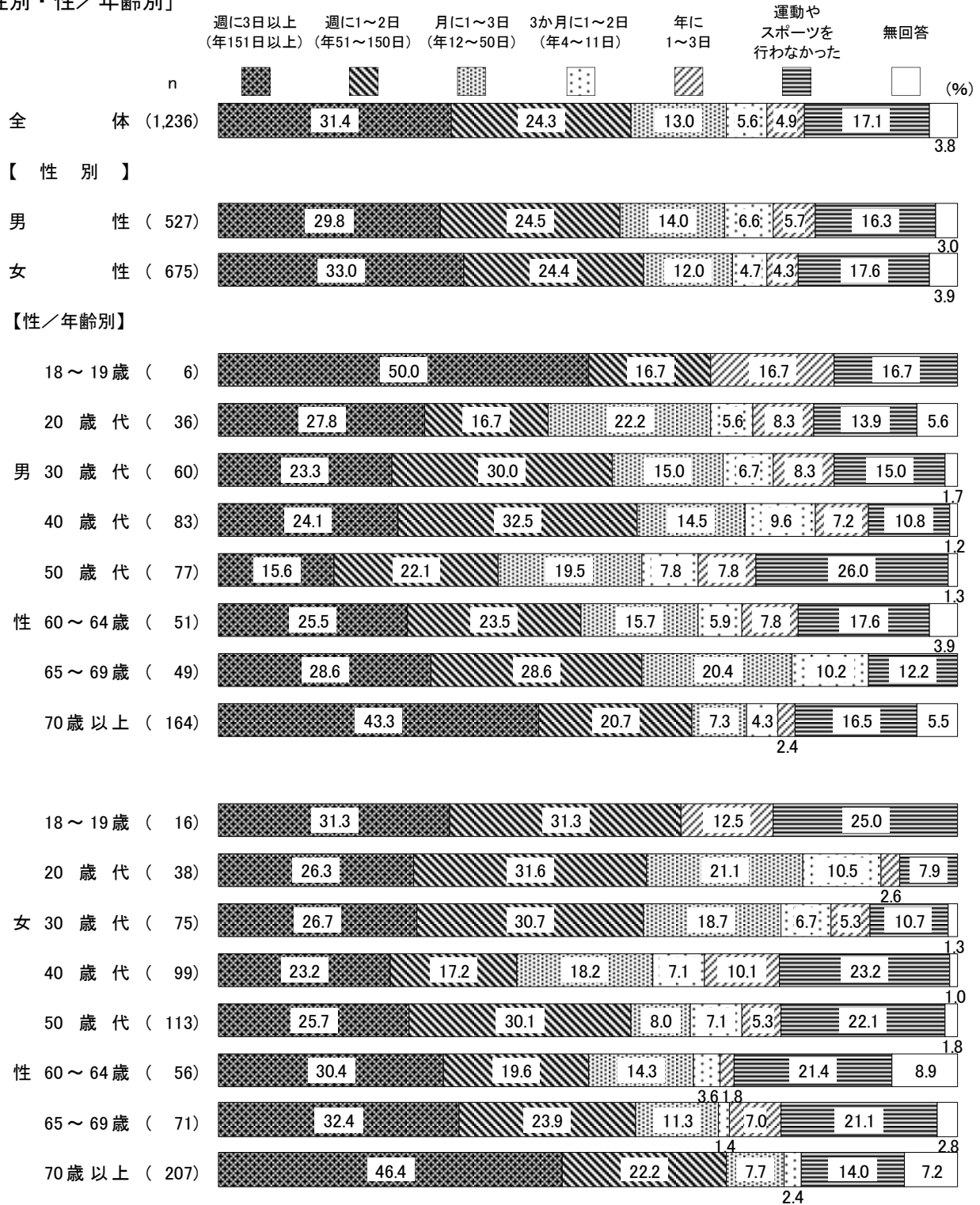
過去の調査結果と比較すると、「週に3日以上(年151日以上)」が前回(令和3(2021)年)より2.6ポイント増加している。

なお、平成30(2018)年調査では、質問文中の「運動やスポーツ」の注釈(※)の文言が異なるため、比率を直接比較することができないことから、参考として示す。

(※) 平成30(2018)年調査の「運動やスポーツ」の注釈は以下のとおりである。

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(歩け歩け運動、散歩などを含む)、ジョギング、体操(ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む)、室内運動器具を使ってする運動、ニュースポーツ(ゲートボール、グラウンドゴルフ、インディアカなどを含む)、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングなどを含みます。

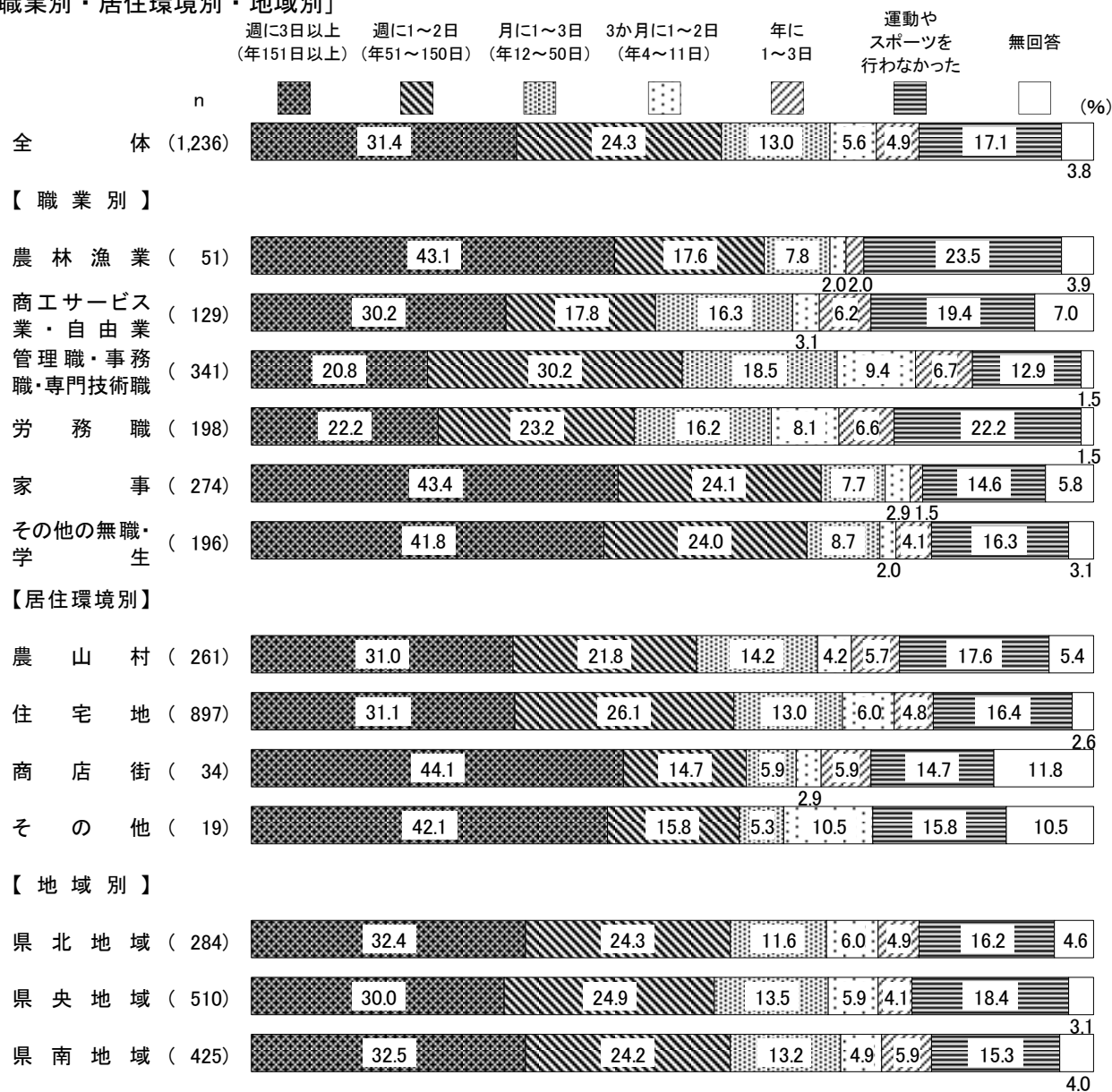
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「週に1~2日（年51~150日）」では〈女性〉（33.0%）が〈男性〉（29.8%）より3.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「週3日以上（年151日以上）」では〈女性70歳以上〉が46.4%、〈男性70歳以上〉が43.3%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈男性50歳代〉が26.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈家事〉が43.4%、〈農林漁業〉が43.1%、〈その他の無職・学生〉が41.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈商店街〉が44.1%と高くなっている。

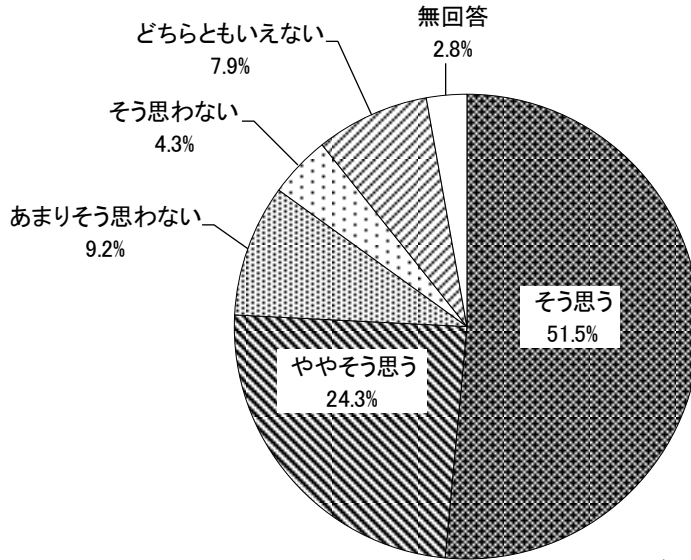
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

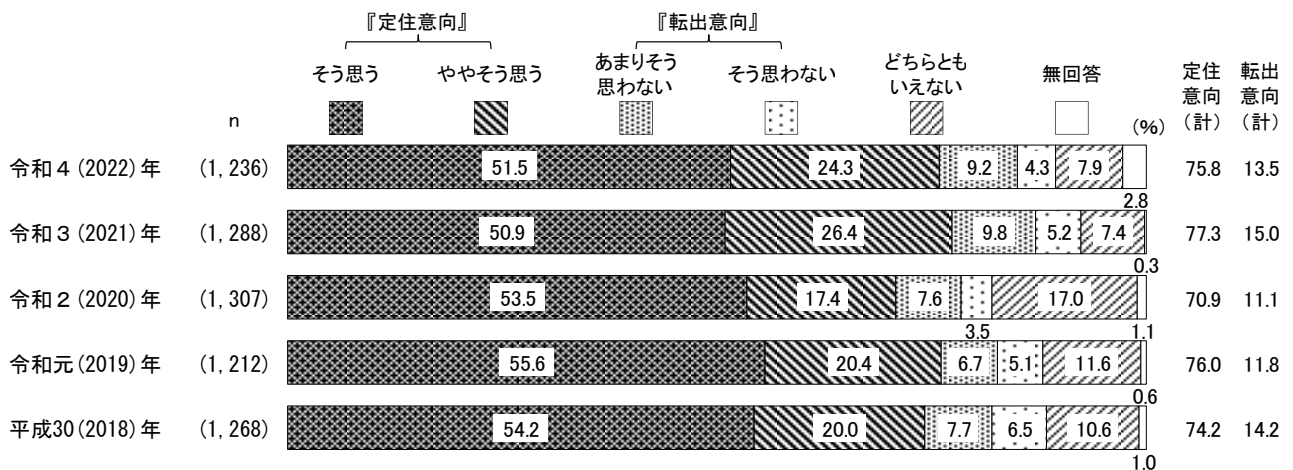
[n=1,236]

1	そう思う	51.5%	4	そう思わない	4.3%
2	ややそう思う	24.3%	5	どちらともいえない	7.9%
3	あまりそう思わない	9.2%	(無回答)		2.8%



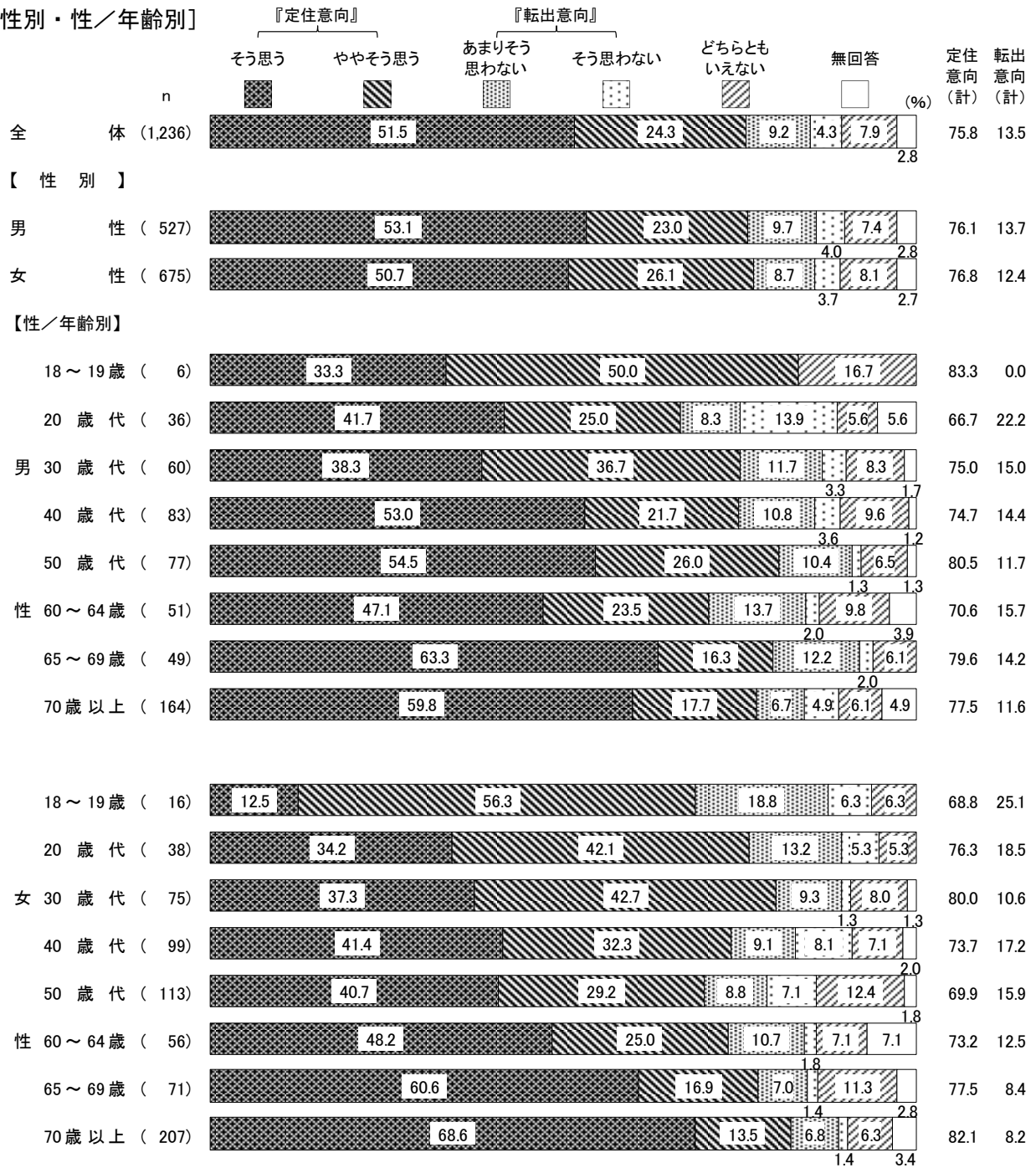
(n=1,236)

全体で見ると、「そう思う」(51.5%)と「ややそう思う」(24.3%)の2つを合わせた『定住意向』(75.8%)が7割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(4.3%)の2つを合わせた『転出意向』(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回（令和3(2021)年）と大きな傾向の違いはみられない。

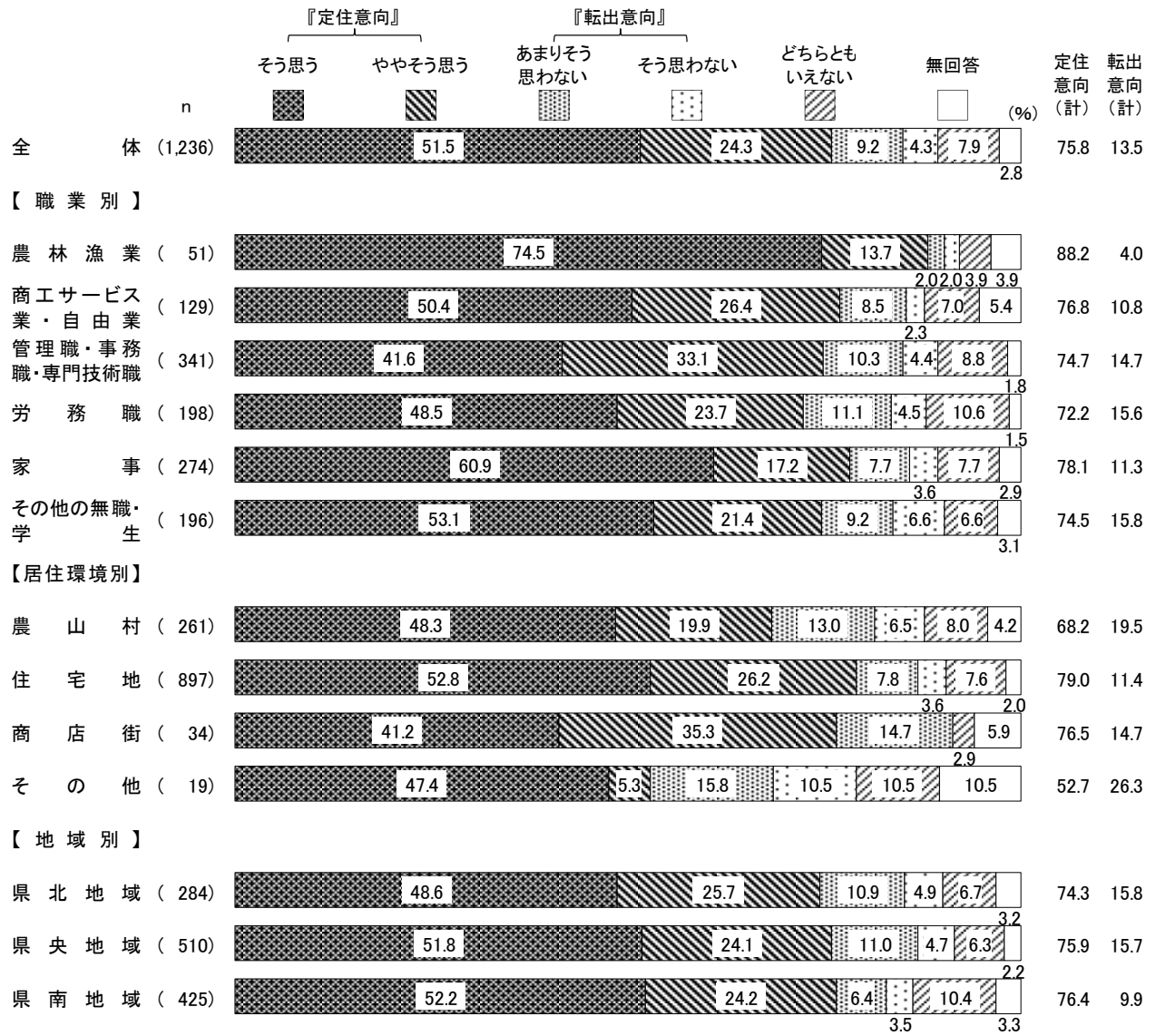
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「そう思う」では〈女性70歳以上〉が68.6%、〈男性65～69歳〉が63.3%と高くなっている。「ややそう思う」では〈女性30歳代〉が42.7%、〈女性20歳代〉が42.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『定住意向』は〈農林漁業〉が88.2%と高くなっている。

居住環境別でみると、『転出意向』では〈農山村〉が19.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。



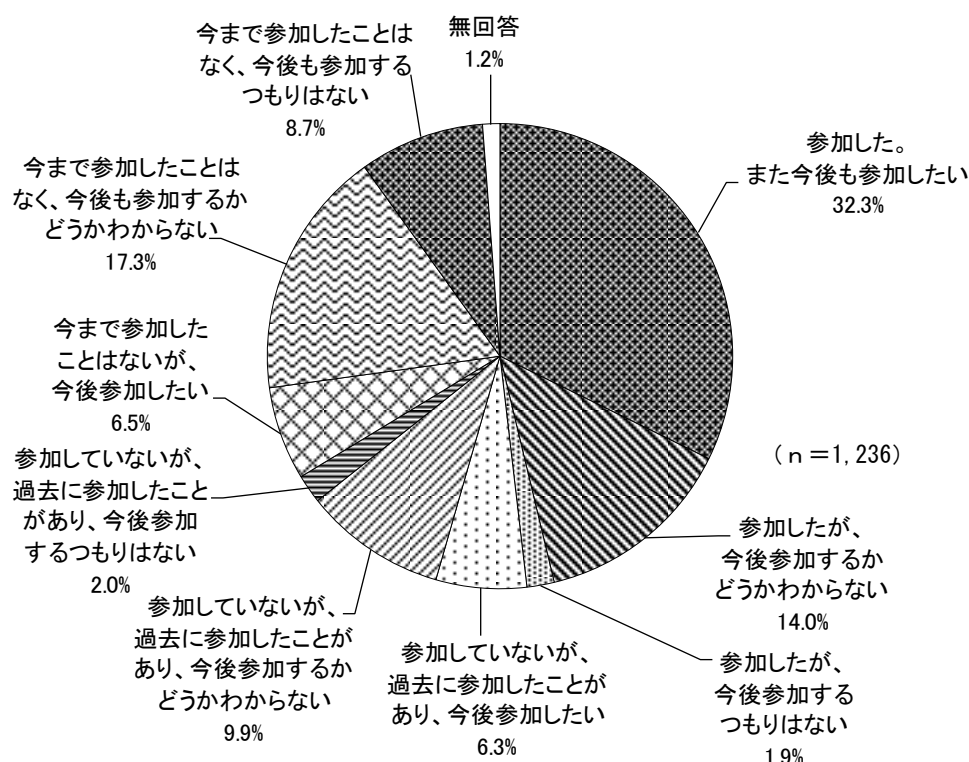
#### (4) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思えますか。次の中から1つ選んでください。

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

[n=1,236]

1	参加した。また今後も参加したい	32.3%
2	参加したが、今後参加するかどうかわからない	14.0
3	参加したが、今後参加するつもりはない	1.9
4	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい	6.3
5	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない	9.9
6	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない	2.0
7	今まで参加したことはないが、今後参加したい	6.5
8	今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない	17.3
9	今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	8.7
	(無回答)	1.2

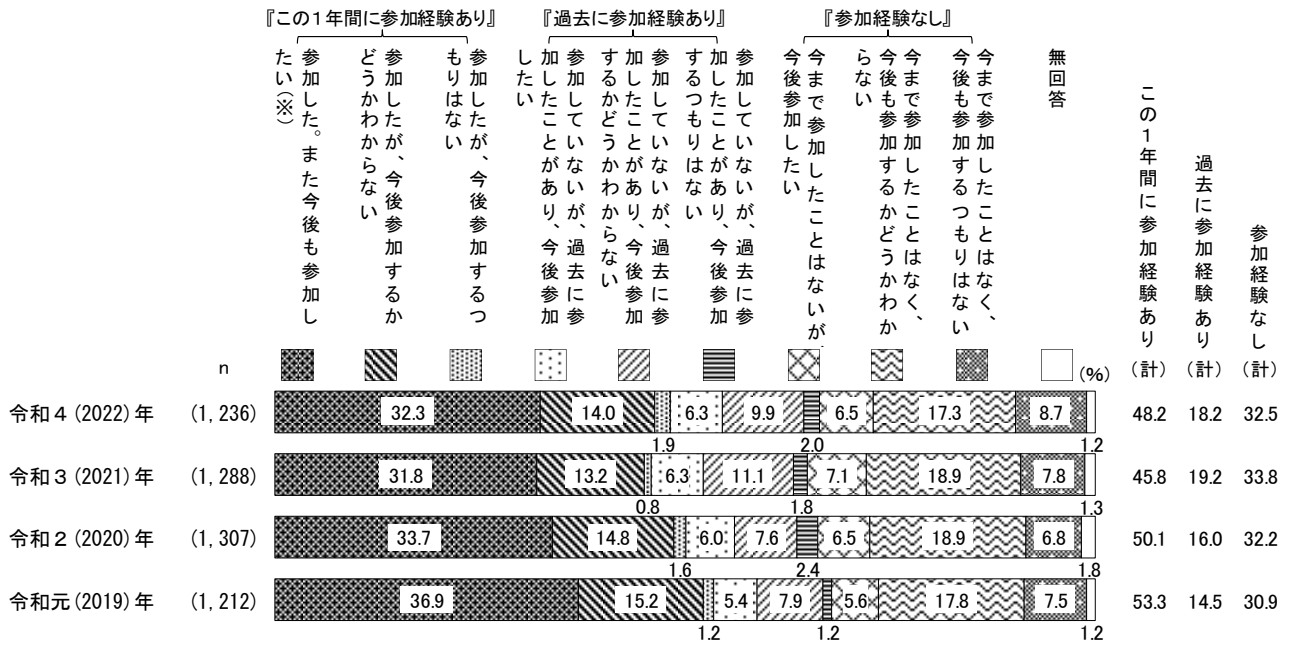


全体でみると、「参加した。また今後も参加したい」(32.3%)と「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(14.0%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(1.9%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(48.2%)が5割近くとなっている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(6.3%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない」(9.9%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(2.0%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(18.2%)が2割近くとなっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(6.5%)と「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」(17.3%)、「今まで参加したことはなく、今後参加するつもりはない」(8.7%)の3つを合わせた『参加経験なし』(32.5%)が3割強となっている。

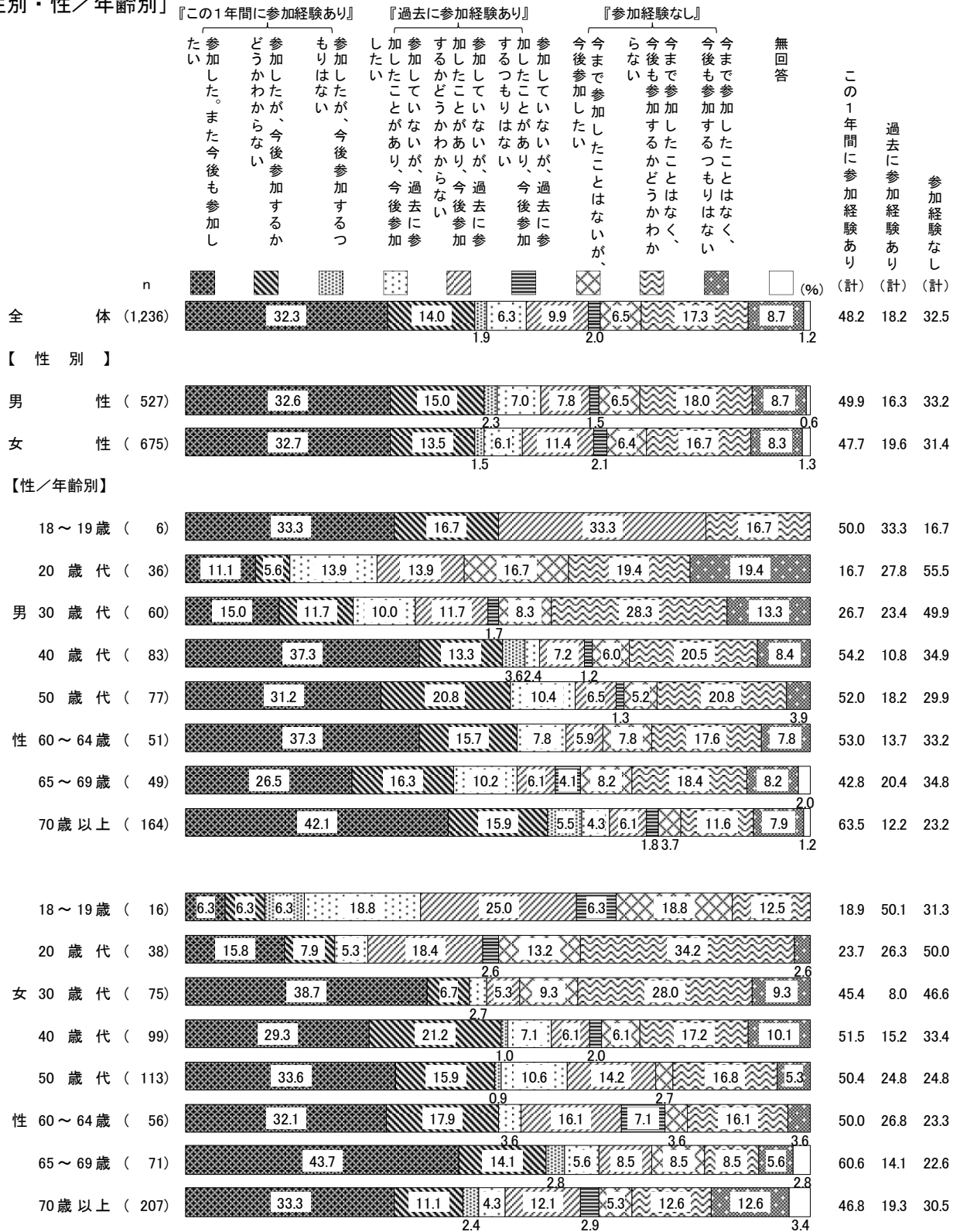
[過去の調査結果]



(※)「参加した。また今後も参加したい」は、令和2(2020)年までは「参加し、今後も参加したい」としていた。

過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

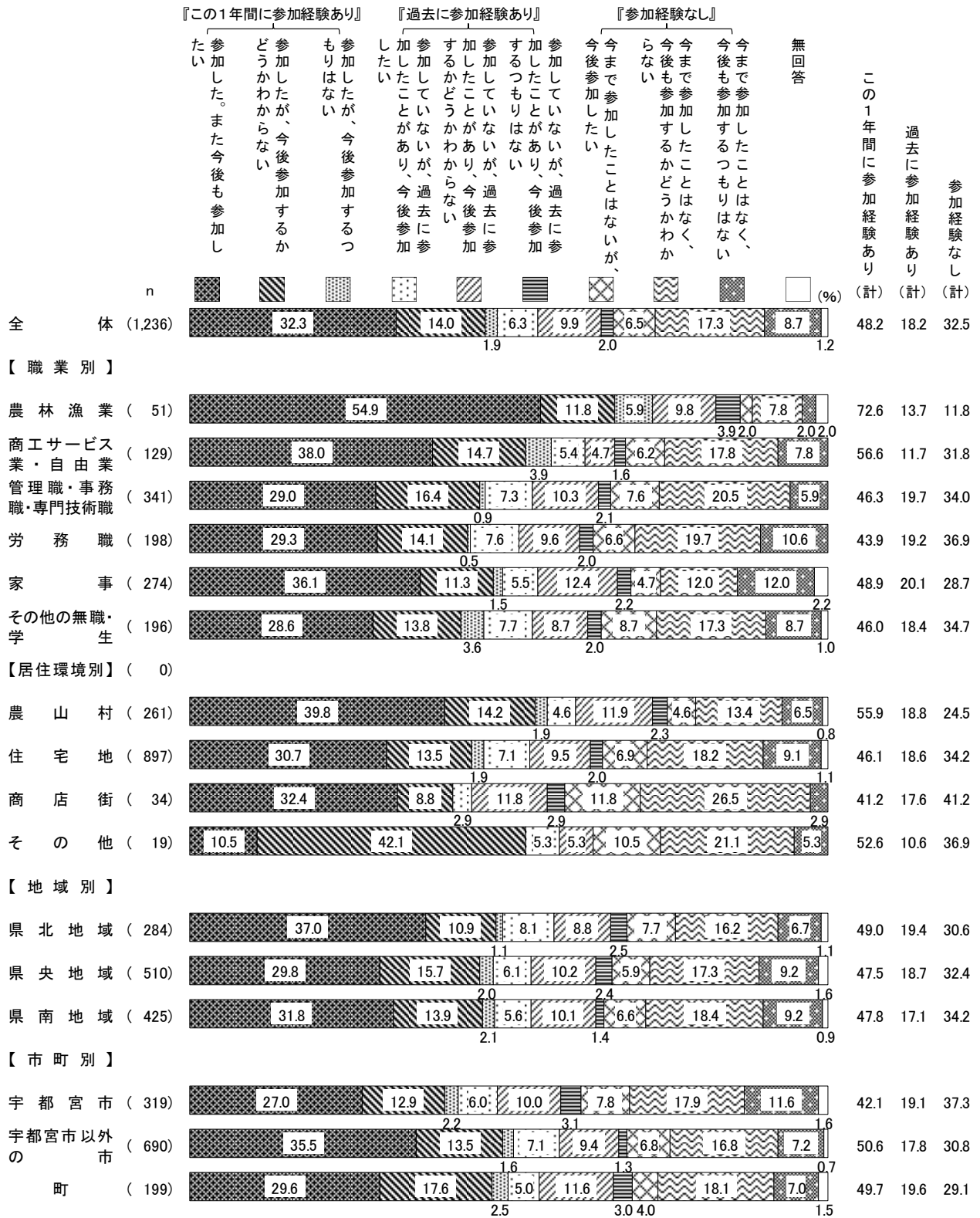
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「参加した。また今後も参加したい」では〈女性65～69歳〉が43.7%、〈男性70歳以上〉が42.1%と高くなっている。『この1年間に参加経験あり』では〈男性70歳以上〉が63.5%、〈女性65～69歳〉が60.6%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別・市町別】



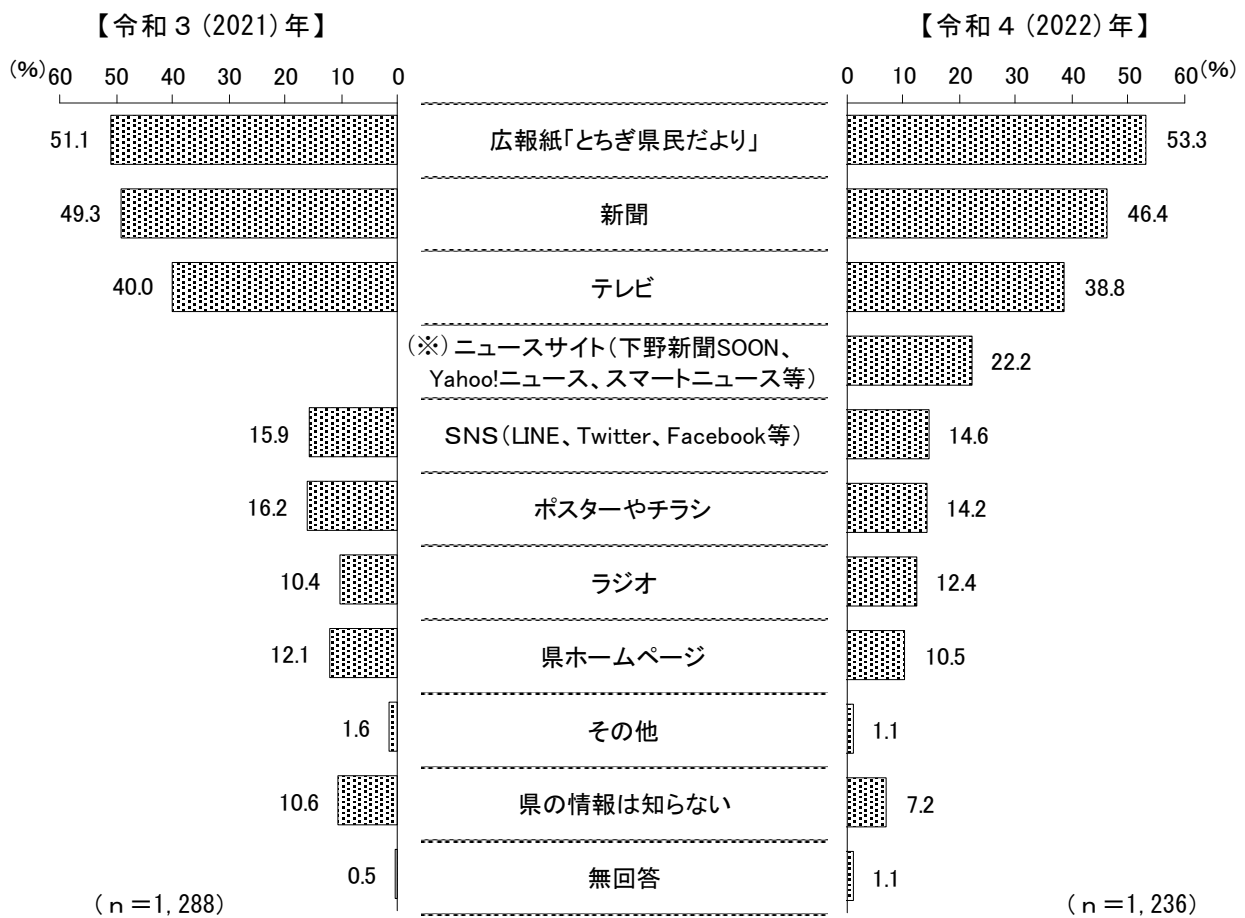
職業別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農林漁業〉が72.6%と高くなっている。  
 居住環境別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農山村〉が55.9%と高くなっている。  
 地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(5) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段

問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1 広報紙「とちぎ県民だより」	53.3%	7 ニュースサイト（下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）	22.2%
2 テレビ	38.8	8 ポスターやチラシ	14.2
3 ラジオ	12.4	9 その他	1.1
4 県ホームページ	10.5	10 県の情報は知らない	7.2
5 SNS（LINE、Twitter、Facebook等）	14.6	(無回答)	1.1
6 新聞	46.4		

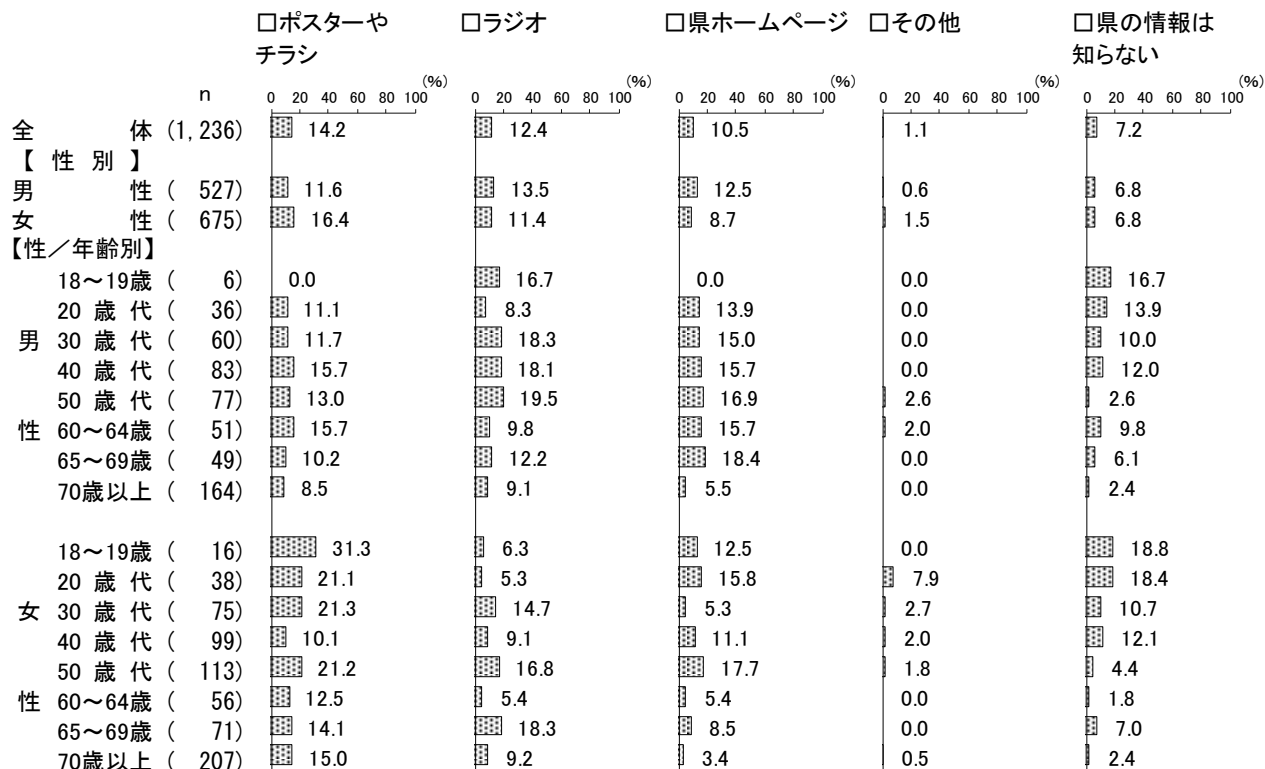
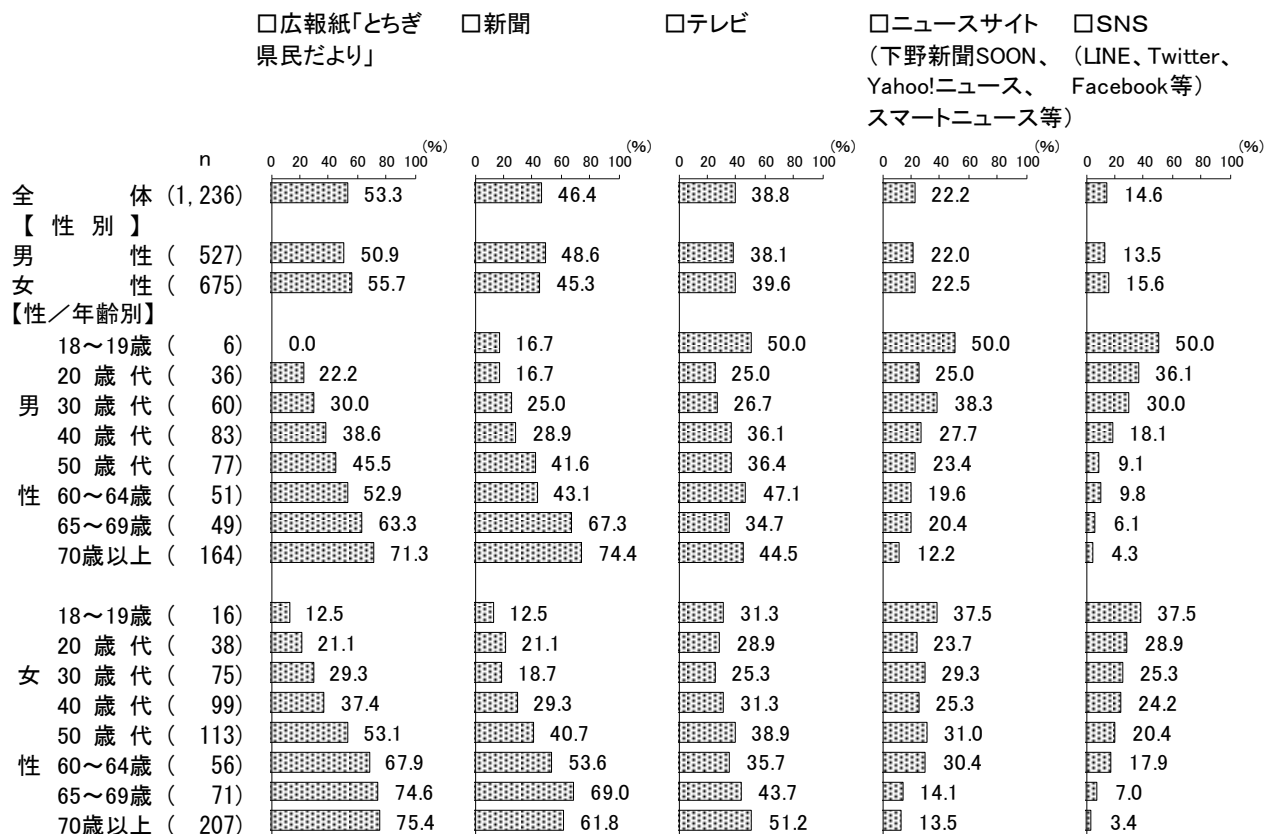


(※)「ニュースサイト（下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）」は、今回から追加した。

全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(53.3%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「新聞」(46.4%)、「テレビ」(38.8%)、「ニュースサイト（下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）」(22.2%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

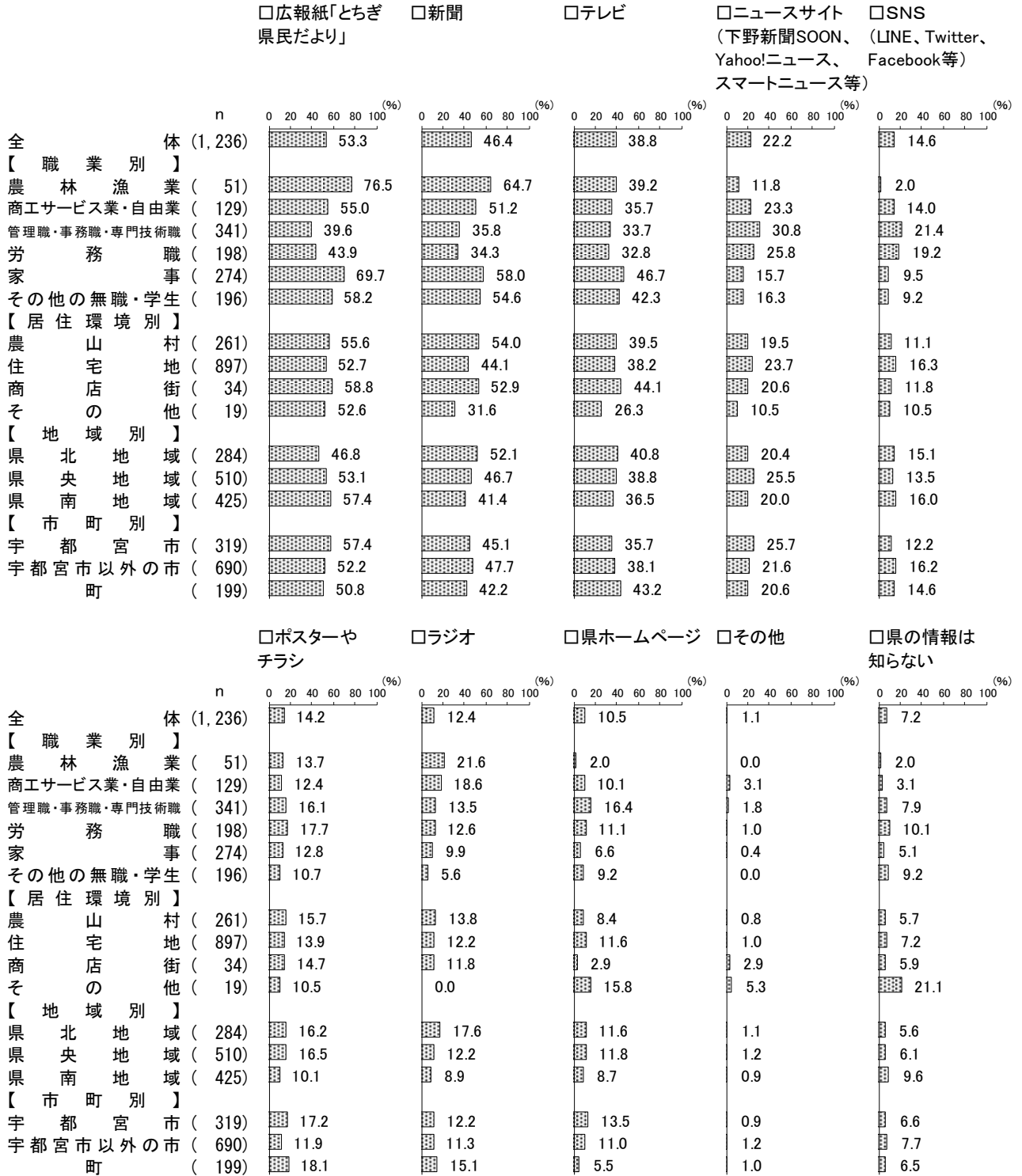
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性〉(55.7%)が〈男性〉(50.9%)より4.8ポイント高くなっている。また、「ポスターやチラシ」では〈女性〉(16.4%)が〈男性〉(11.6%)より4.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性70歳以上〉が75.4%、〈女性65～69歳〉が74.6%、〈男性70歳以上〉が71.3%と高くなっている。「新聞」では〈男性70歳以上〉が74.4%と高くなっている。「テレビ」では〈女性70歳以上〉が51.2%と高くなっている。「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」では〈男性30歳代〉が38.3%と高くなっている。「SNS(LINE、Twitter、Facebook等)」では〈男性20歳代〉が36.1%、〈男性30歳代〉が30.0%と高くなっている。一方、「県の情報は知らない」では〈女性20歳代〉が18.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈農林漁業〉が76.5%、〈家事〉が69.7%と高くなっている。また、「新聞」では〈農林漁業〉が64.7%、〈家事〉が58.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「新聞」では〈県北地域〉が52.1%と高くなっている。また、「ラジオ」では〈県北地域〉が17.6%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

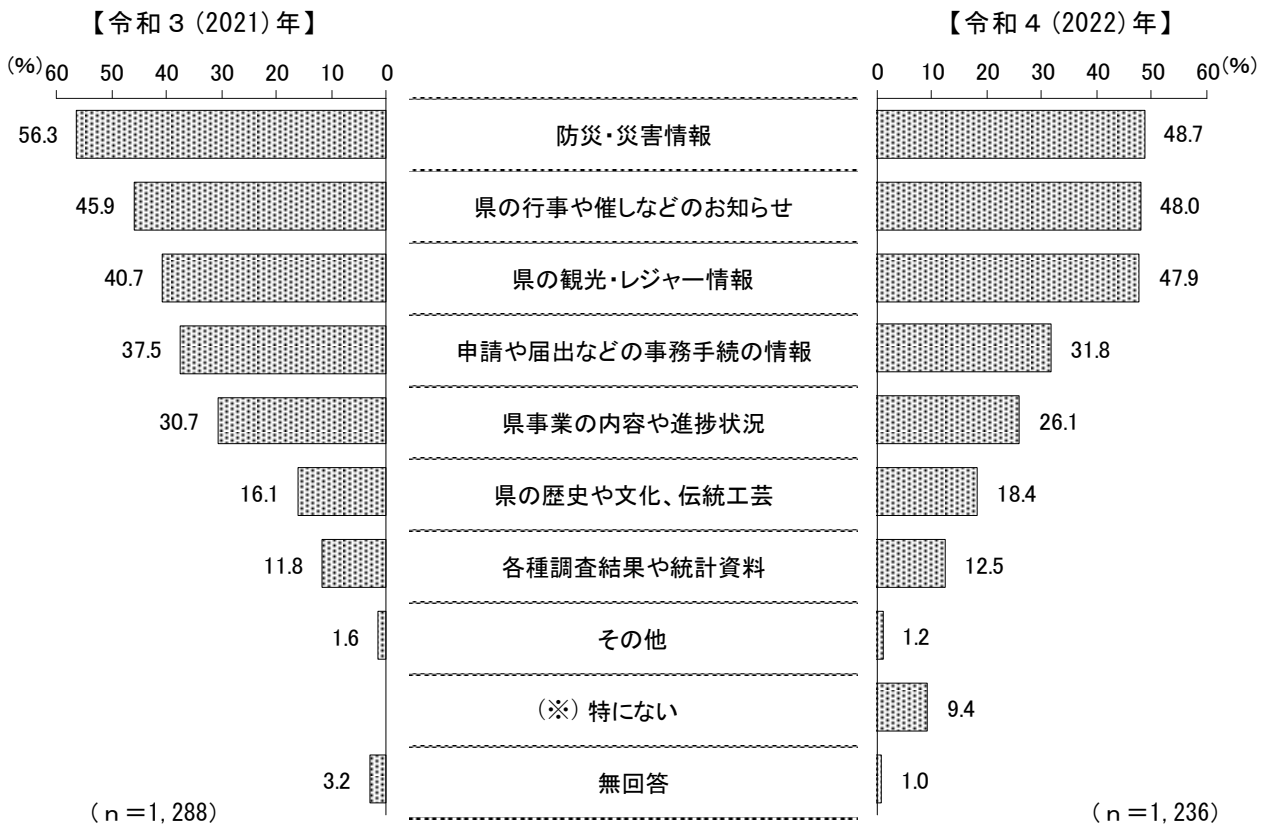


(6) 知りたい県政情報

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	県事業の内容や進捗状況	26.1%	6	県の観光・レジャー情報	47.9%
2	申請や届出などの事務手続の情報	31.8	7	防災・災害情報	48.7
3	各種調査結果や統計資料	12.5	8	その他	1.2
4	県の行事や催しなどのお知らせ	48.0	9	特にない	9.4
5	県の歴史や文化、伝統工芸	18.4		(無回答)	1.0

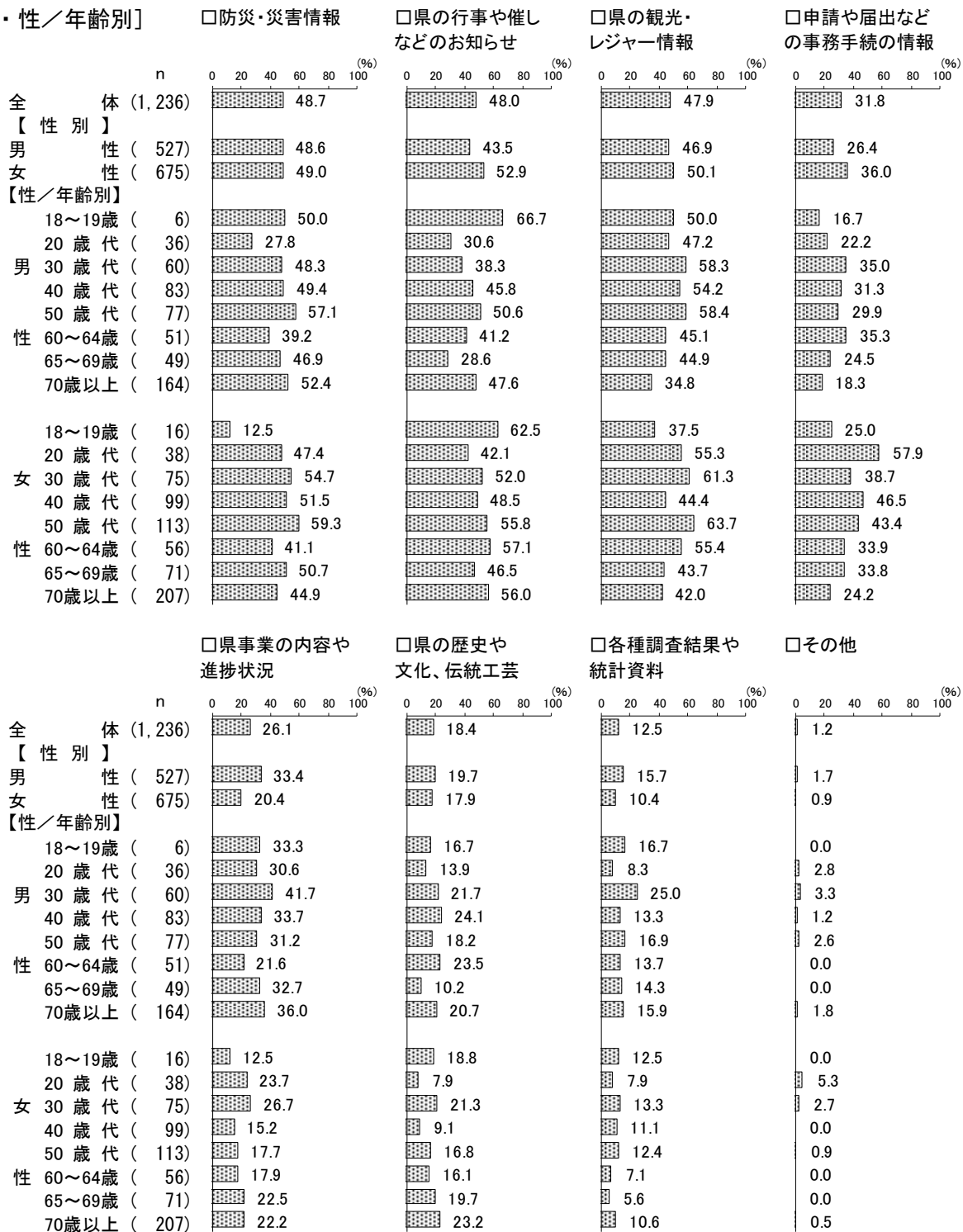


(※)「特にない」は、今回から追加した。

全体でみると、「防災・災害情報」(48.7%)が5割近くで最も高く、次いで「県の行事や催しなどのお知らせ」(48.0%)、「県の観光・レジャー情報」(47.9%)、「申請や届出などの事務手続の情報」(31.8%)、「県事業の内容や進捗状況」(26.1%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「防災・災害情報」が7.6ポイント減少している。一方、「県の観光・レジャー情報」が7.2ポイント増加している。

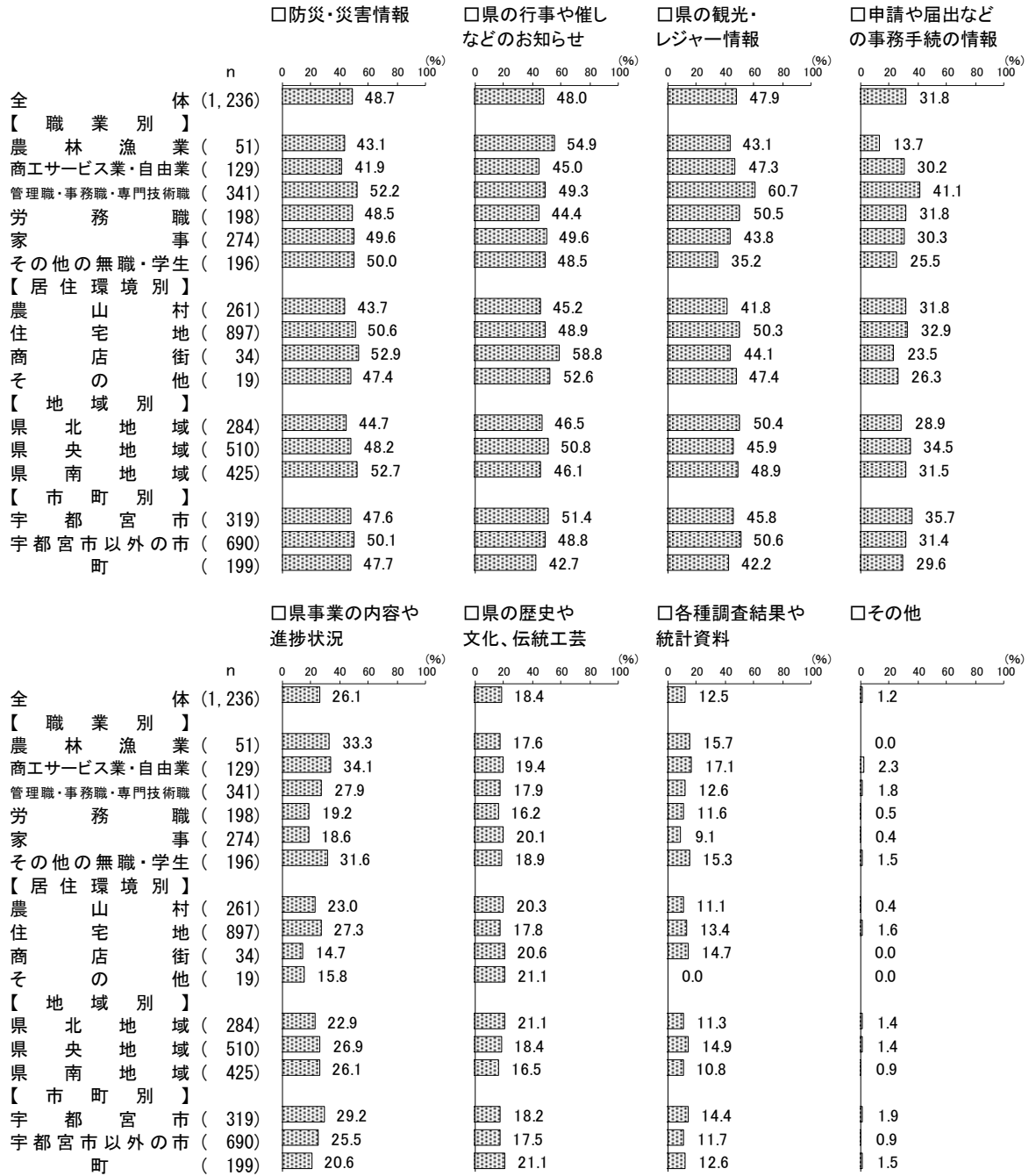
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(33.4%)が〈女性〉(20.4%)より13.0ポイント高くなっている。一方、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(36.0%)が〈男性〉(26.4%)より9.6ポイント高くなっている。また、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(52.9%)が〈男性〉(43.5%)より9.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「防災・災害情報」では〈女性50歳代〉が59.3%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性50歳代〉が63.7%、〈女性30歳代〉が61.3%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性30歳代〉が41.7%と高くなっている。また、「各種調査結果や統計資料」では〈男性30歳代〉が25.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「県の観光・レジャー情報」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が60.7%と高くなっている。また、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が41.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈商店街〉が58.8%と高くなっている。地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

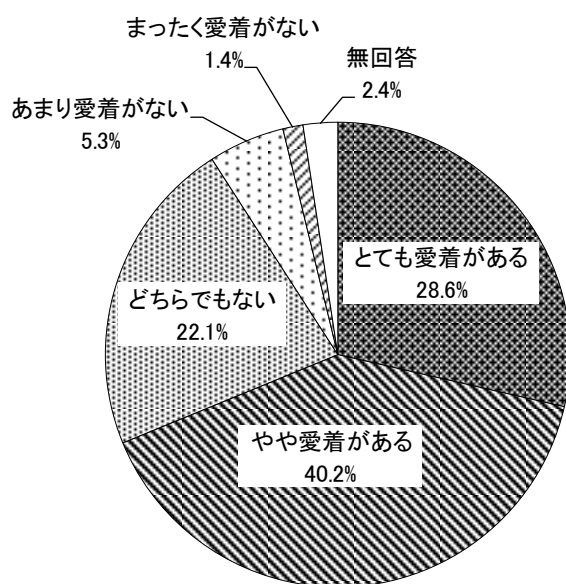
## 4 栃木県への愛着と誇りについて

### (1) 栃木県に対する愛着

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

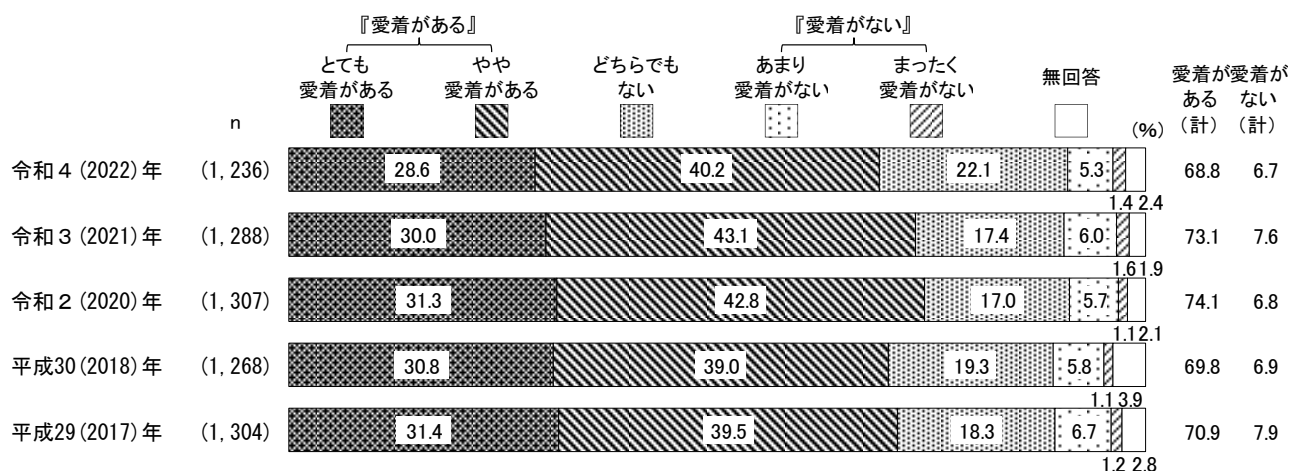
[n=1,236]

1	とても愛着がある	28.6%	4	あまり愛着がない	5.3%
2	やや愛着がある	40.2%	5	まったく愛着がない	1.4%
3	どちらでもない	22.1%	(無回答)		2.4%

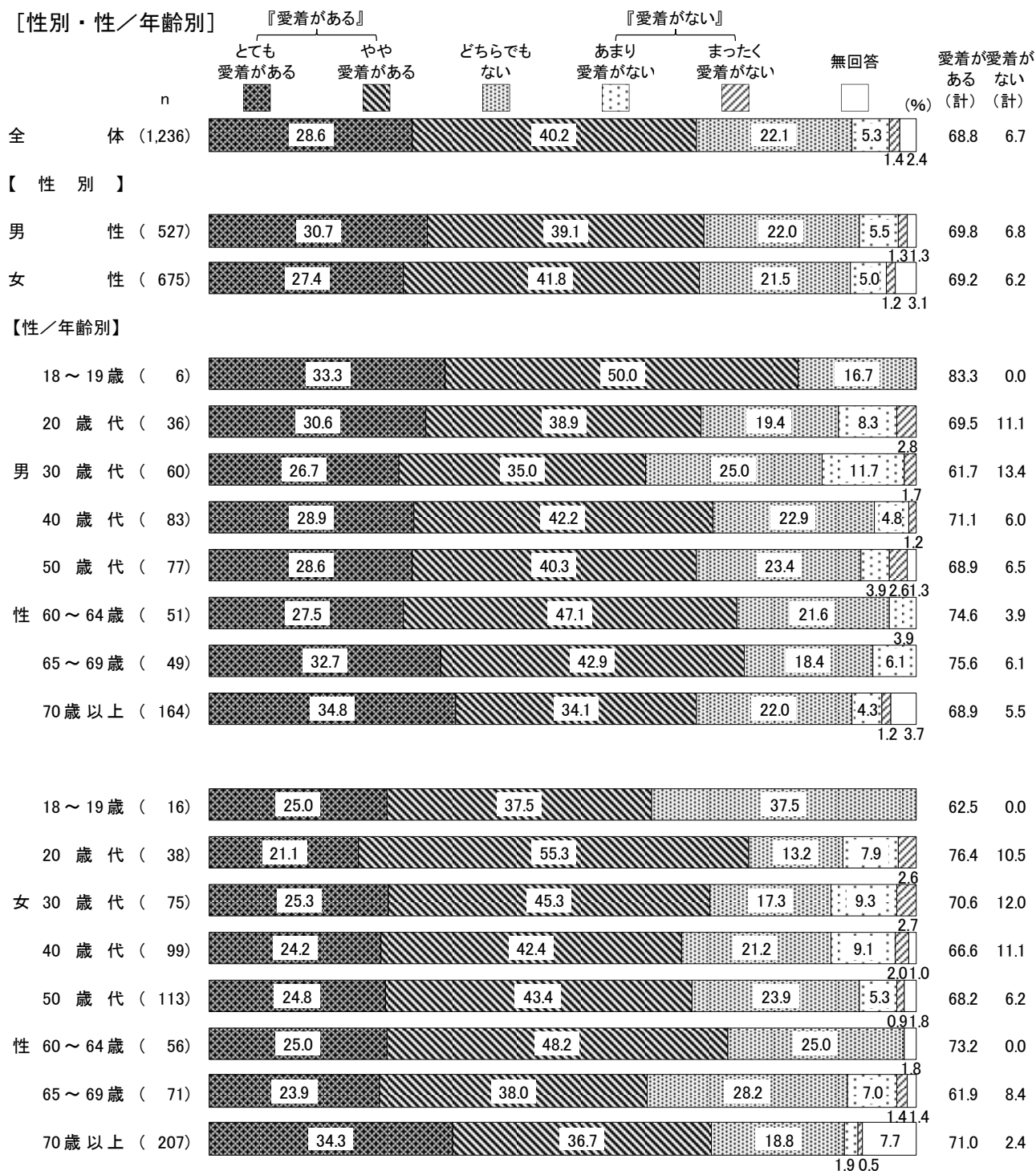


(n=1,236)

全体でみると、「とても愛着がある」(28.6%)と「やや愛着がある」(40.2%)の2つを合わせた『愛着がある』(68.8%)が7割近くとなっている。一方、「あまり愛着がない」(5.3%)と「まったく愛着がない」(1.4%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.7%)が1割未満となっている。また、「どちらでもない」(22.1%)が2割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、『愛着がある』が前回(令和3(2021)年)より4.3ポイント減少している。

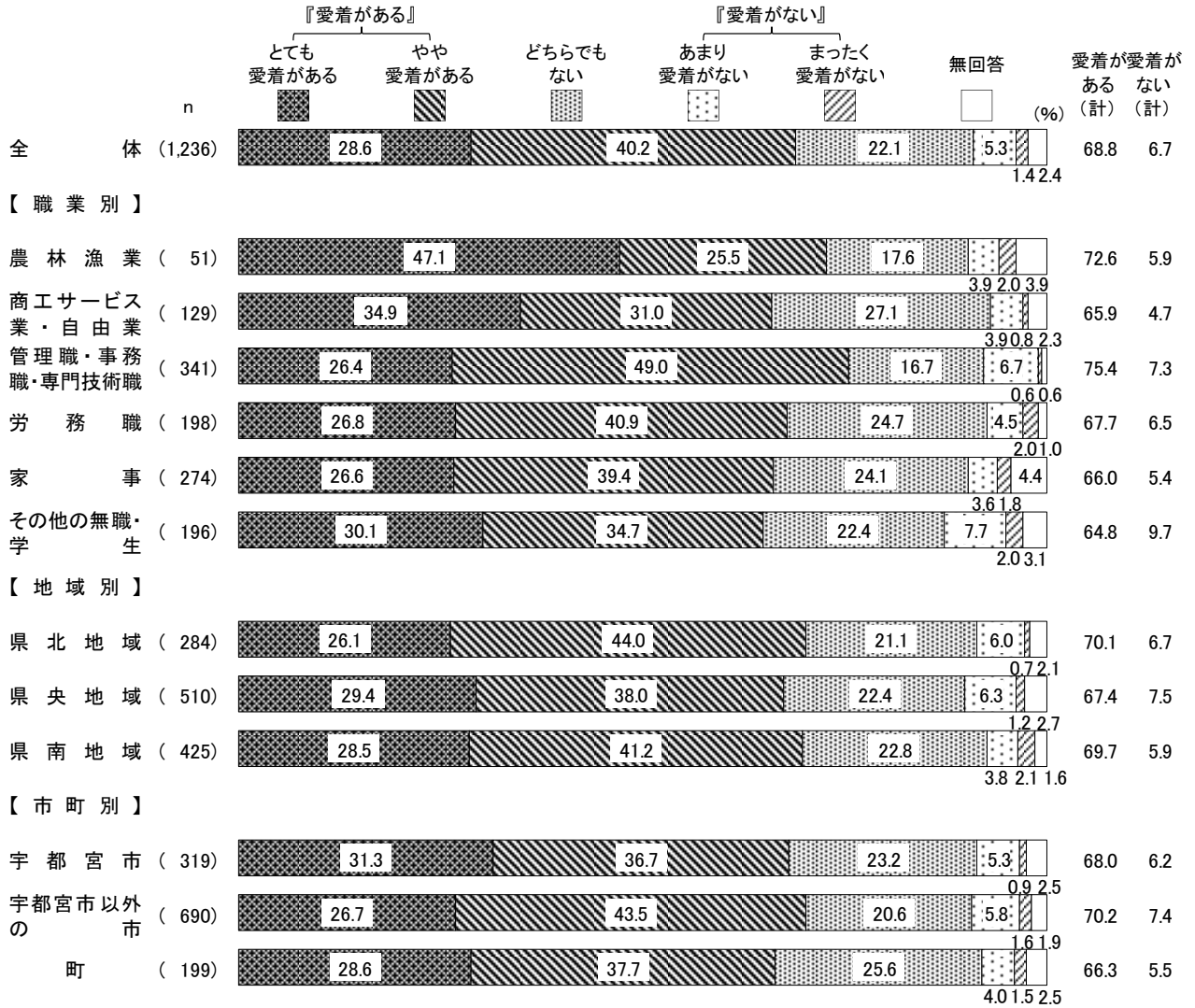


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「とても愛着がある」では〈男性70歳以上〉が34.8%、〈女性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。

『愛着がある』では〈女性20歳代〉が76.4%、〈男性65～69歳〉が75.6%、〈男性60～64歳〉が74.6%と高くなっている。一方、『愛着がない』では〈男性30歳代〉が13.4%、〈女性30歳代〉が12.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「とても愛着がある」では〈農林漁業〉が47.1%と高くなっている。  
 地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

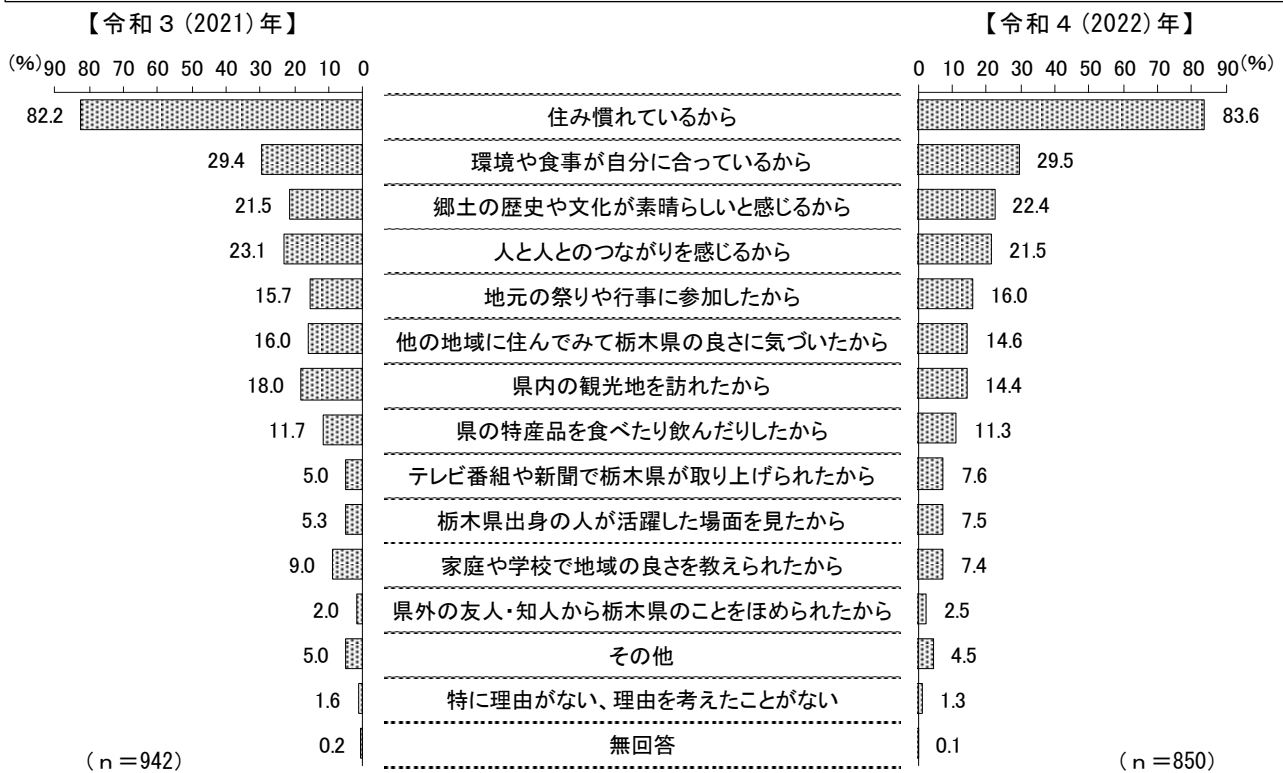
## (2) 栃木県に愛着を感じる理由

(問13で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)

問14 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

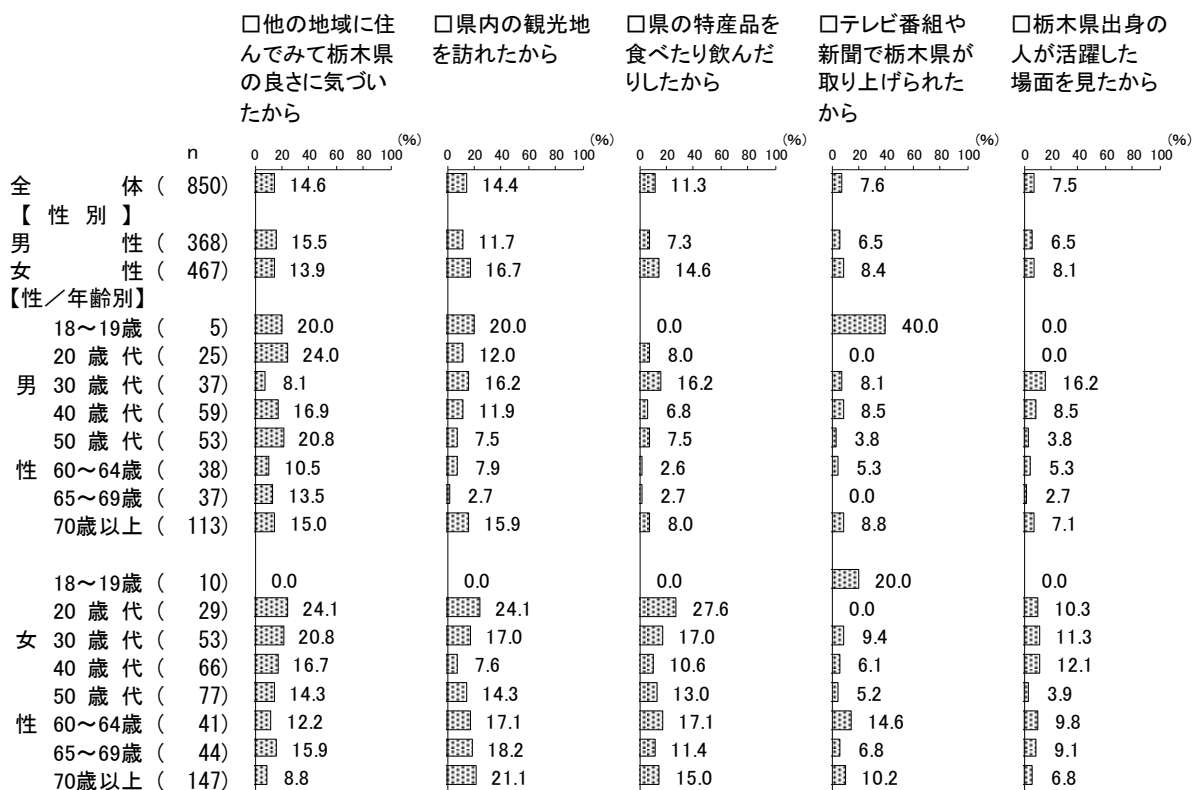
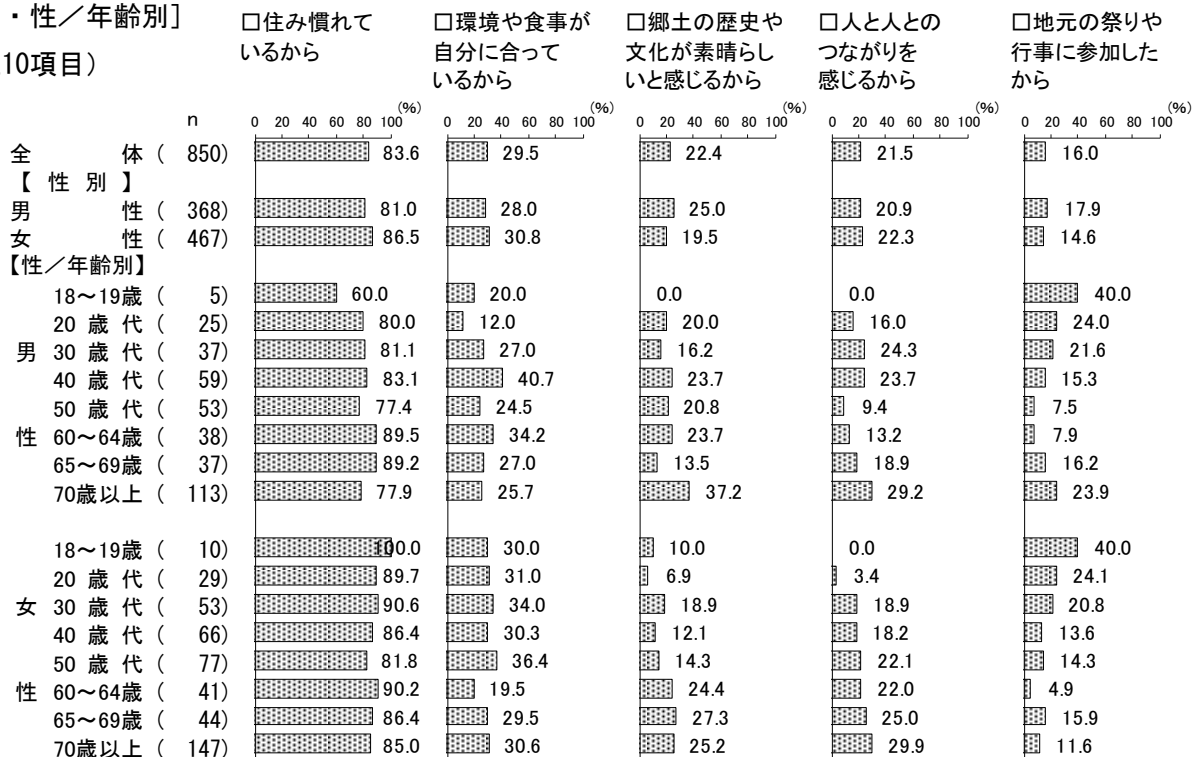
[n = 850]

1	地元の祭りや行事に参加したから	16.0%
2	家庭や学校で地域の良さを教えられたから	7.4
3	郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから	22.4
4	他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから	14.6
5	住み慣れているから	83.6
6	人と人とのつながりを感じるから	21.5
7	環境や食事が自分に合っているから	29.5
8	テレビ番組や新聞で栃木県が取り上げられたから	7.6
9	県外の友人・知人から栃木県のことをほめられたから	2.5
10	県内の観光地を訪れたから	14.4
11	県の特産品を食べたり飲んだりしたから	11.3
12	栃木県出身の人が活躍した場面を見たから	7.5
13	その他	4.5
14	特に理由がない、理由を考えたことがない	1.3
	(無回答)	0.1



全体で見ると、「住み慣れているから」(83.6%)が8割台半ば近くで最も高くなっている。前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)



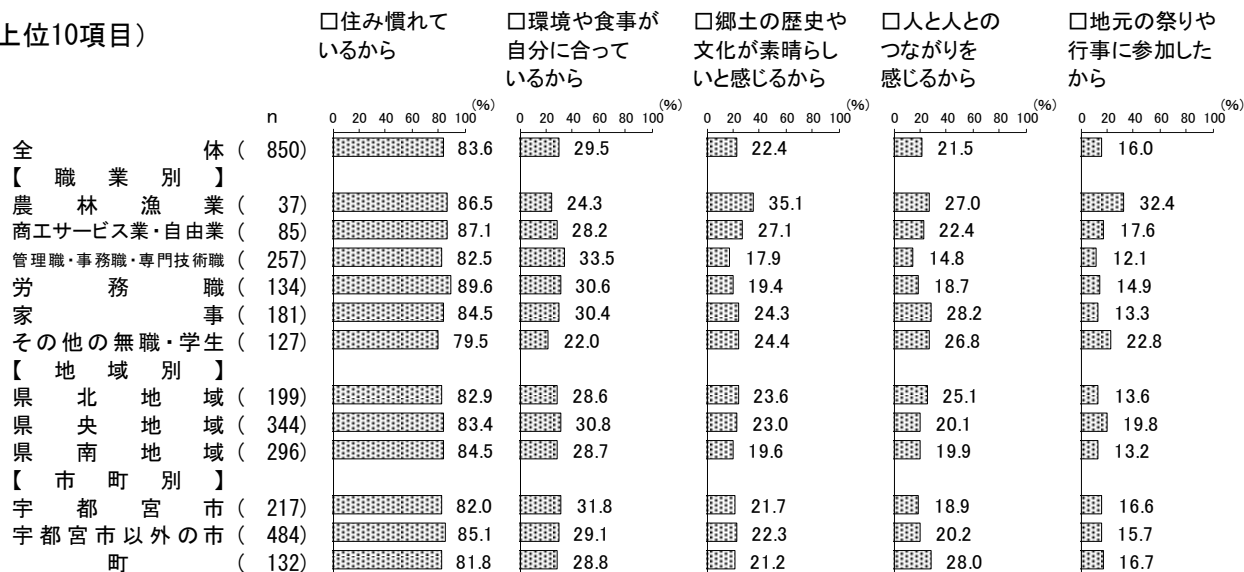
性別でみると、「県の特産品を食べたり飲んだりしたから」では〈女性〉(14.6%)が〈男性〉(7.3%)より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈男性40歳代〉が40.7%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性70歳以上〉が37.2%と高くなっている。



[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別で見ると、「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈農林漁業〉が35.1%と高くなっている。「人と人とのつながりを感じるから」では〈家事〉が28.2%、〈農林漁業〉が27.0%、〈その他の無職・学生〉が26.8%と高くなっている。「地元の祭りや行事に参加したから」では〈農林漁業〉が32.4%と高くなっている。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

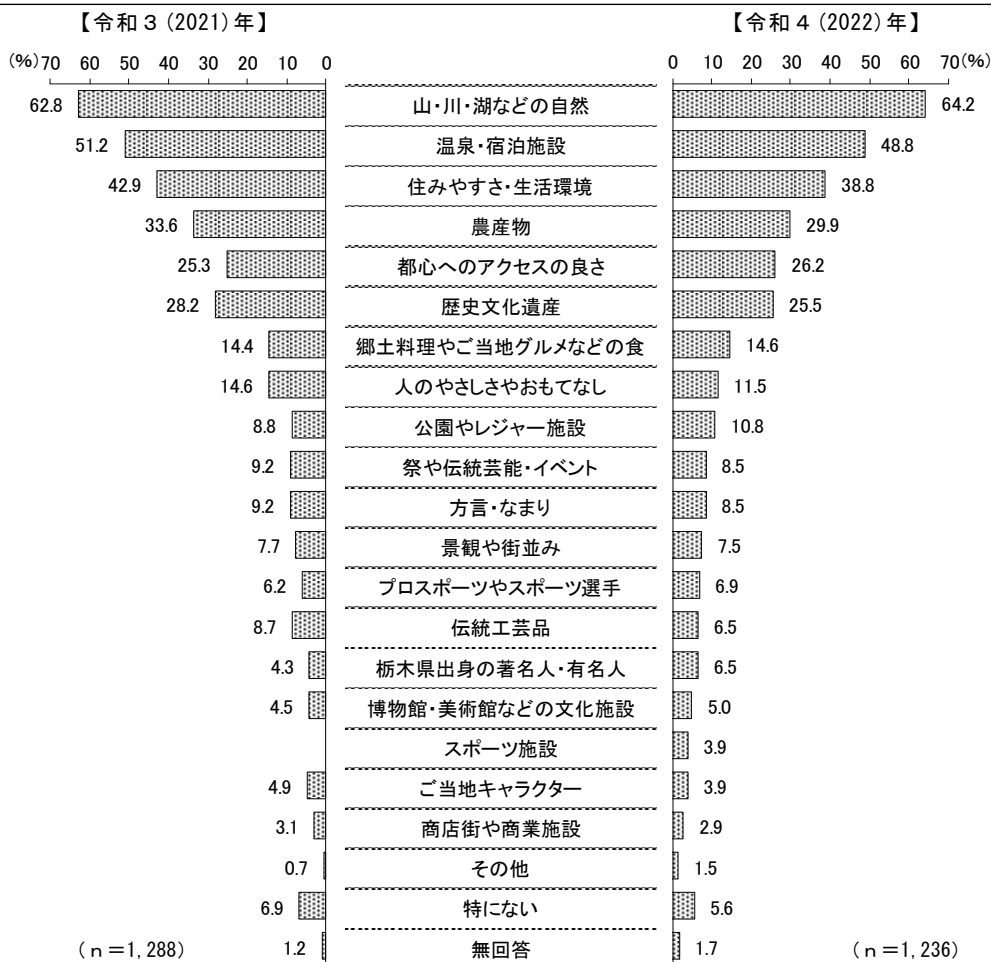
市町別で見ると、「人と人とのつながりを感じるから」では〈町〉が28.0%と高くなっている。「県の特産品を食べたり飲んだりしたから」では〈宇都宮市〉が18.0%と高くなっている。

### (3) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問15 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

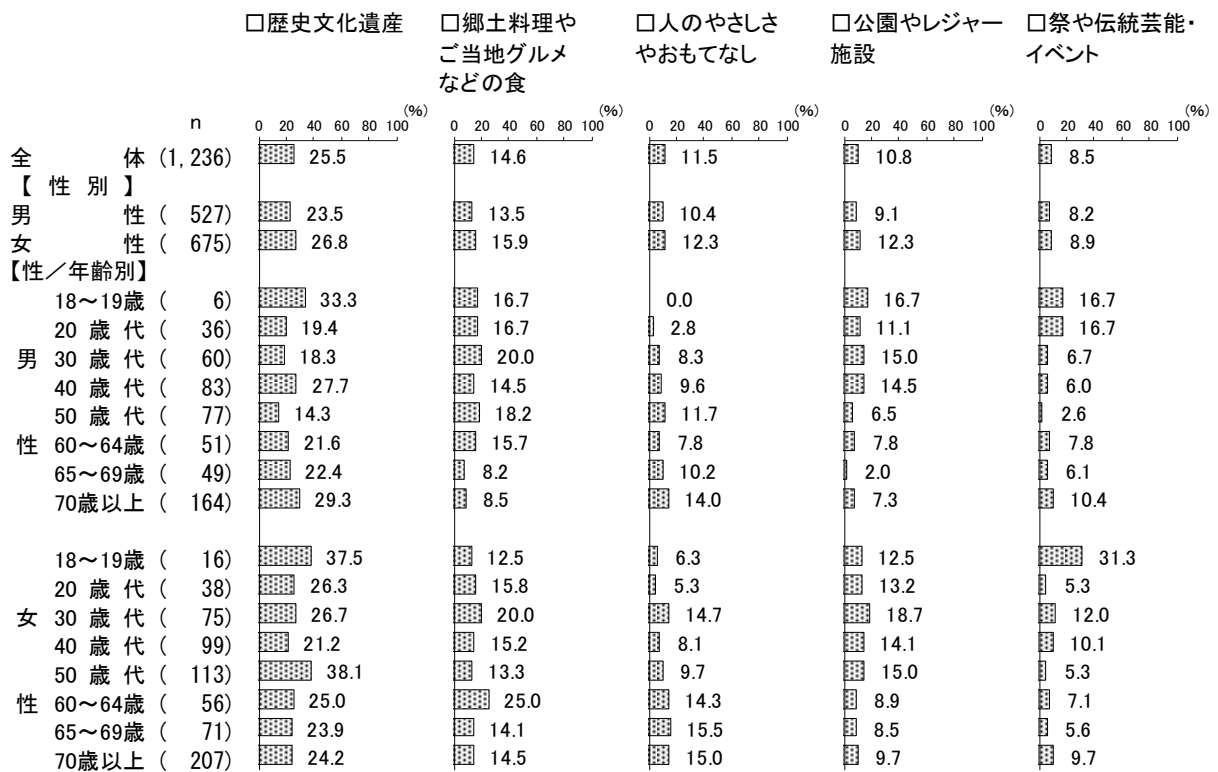
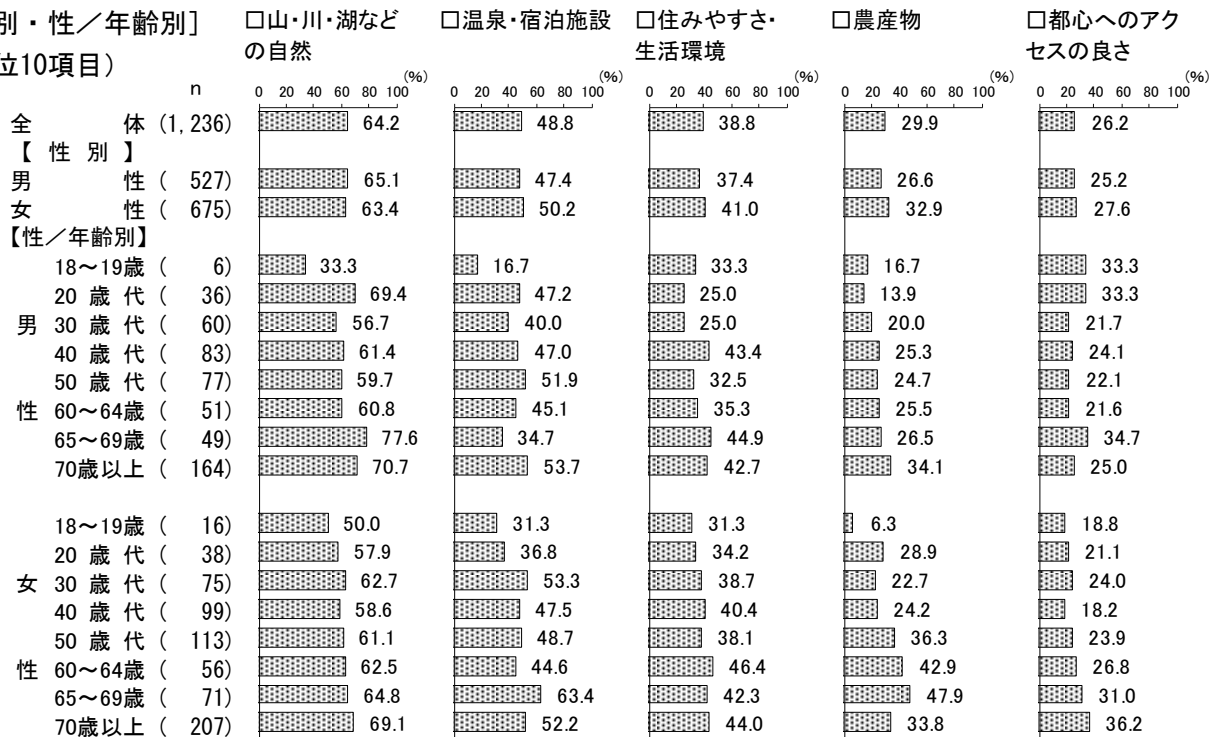
1	山・川・湖などの自然	64.2%	12	郷土料理やご当地グルメなどの食	14.6%
2	温泉・宿泊施設	48.8	13	人のやさしさやおもてなし	11.5
3	公園やレジャー施設	10.8	14	方言・なまり	8.5
4	スポーツ施設	3.9	15	住みやすさ・生活環境	38.8
5	商店街や商業施設	2.9	16	都心へのアクセスの良さ	26.2
6	博物館・美術館などの文化施設	5.0	17	ご当地キャラクター	3.9
7	祭や伝統芸能・イベント	8.5	18	プロスポーツやスポーツ選手	6.9
8	景観や街並み	7.5	19	栃木県出身の著名人・有名人	6.5
9	歴史文化遺産	25.5	20	その他	1.5
10	伝統工芸品	6.5	21	特になし	5.6
11	農産物	29.9		(無回答)	1.7



全体でみると、「山・川・湖などの自然」(64.2%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「温泉・宿泊施設」(48.8%)、「住みやすさ・生活環境」(38.8%)、「農産物」(29.9%)、「都心へのアクセスの良さ」(26.2%)、「歴史文化遺産」(25.5%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

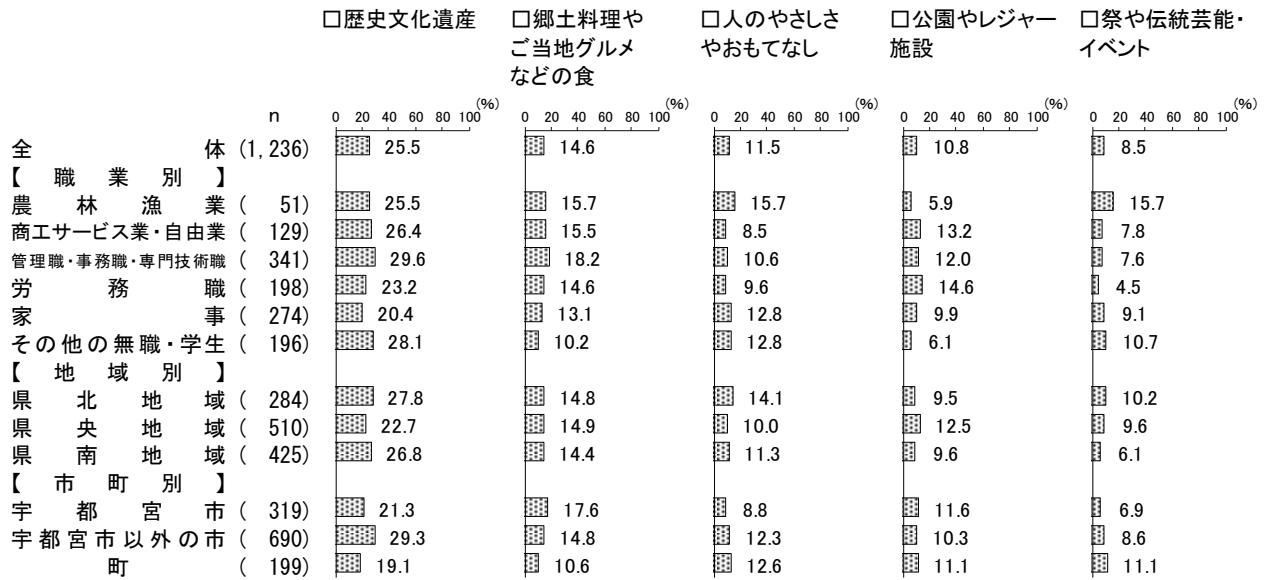
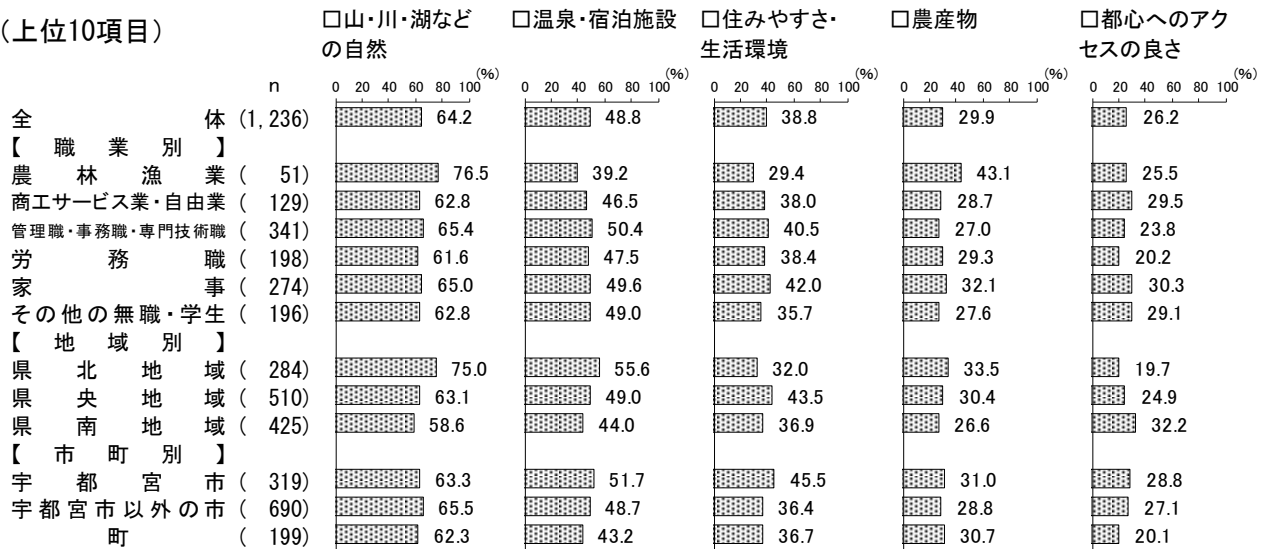


性別でみると、「農産物」では〈女性〉(32.9%)が〈男性〉(26.6%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「山・川・湖などの自然」では〈男性65～69歳〉が77.6%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈女性65～69歳〉が63.4%と高くなっている。「農産物」では〈女性65～69歳〉が47.9%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈女性70歳以上〉が36.2%と高くなっている。「歴史文化遺産」では〈女性50歳代〉が38.1%と高くなっている。「郷土料理やご当地グルメなどの食」では〈女性60～64歳〉が25.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「山・川・湖などの自然」では〈農林漁業〉が76.5%と高くなっている。また、「農産物」では〈農林漁業〉が43.1%と高くなっている。

地域別でみると、「山・川・湖などの自然」では〈県北地域〉が75.0%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈県北地域〉が55.6%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈県南地域〉が32.2%と高くなっている。

市町別でみると、「住みやすさ・生活環境」では〈宇都宮市〉が45.5%と高くなっている。

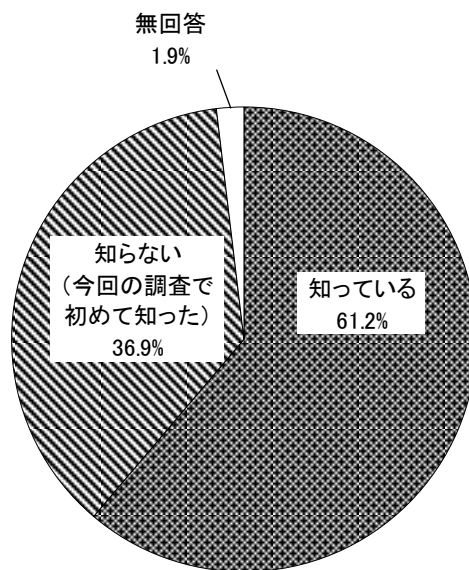
## 5 SDGsについて

### (1) SDGsの認知度

問16 あなたは、SDGs (エスディーゼーズ)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

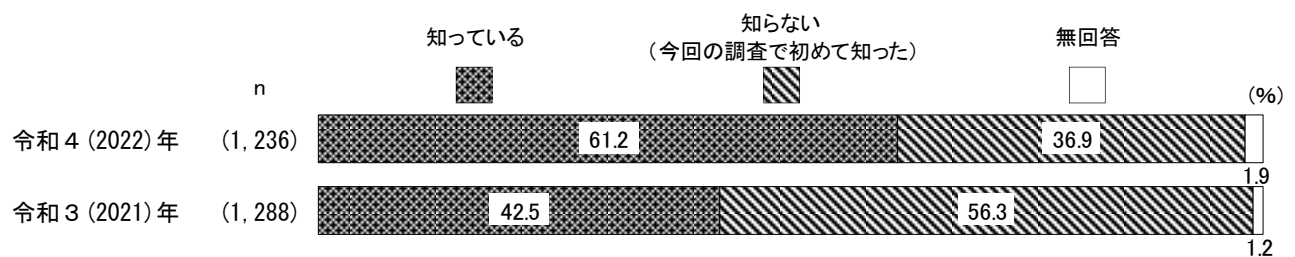
[n=1,236]

1 知っている	61.2%
2 知らない (今回の調査で初めて知った)	36.9
(無回答)	1.9



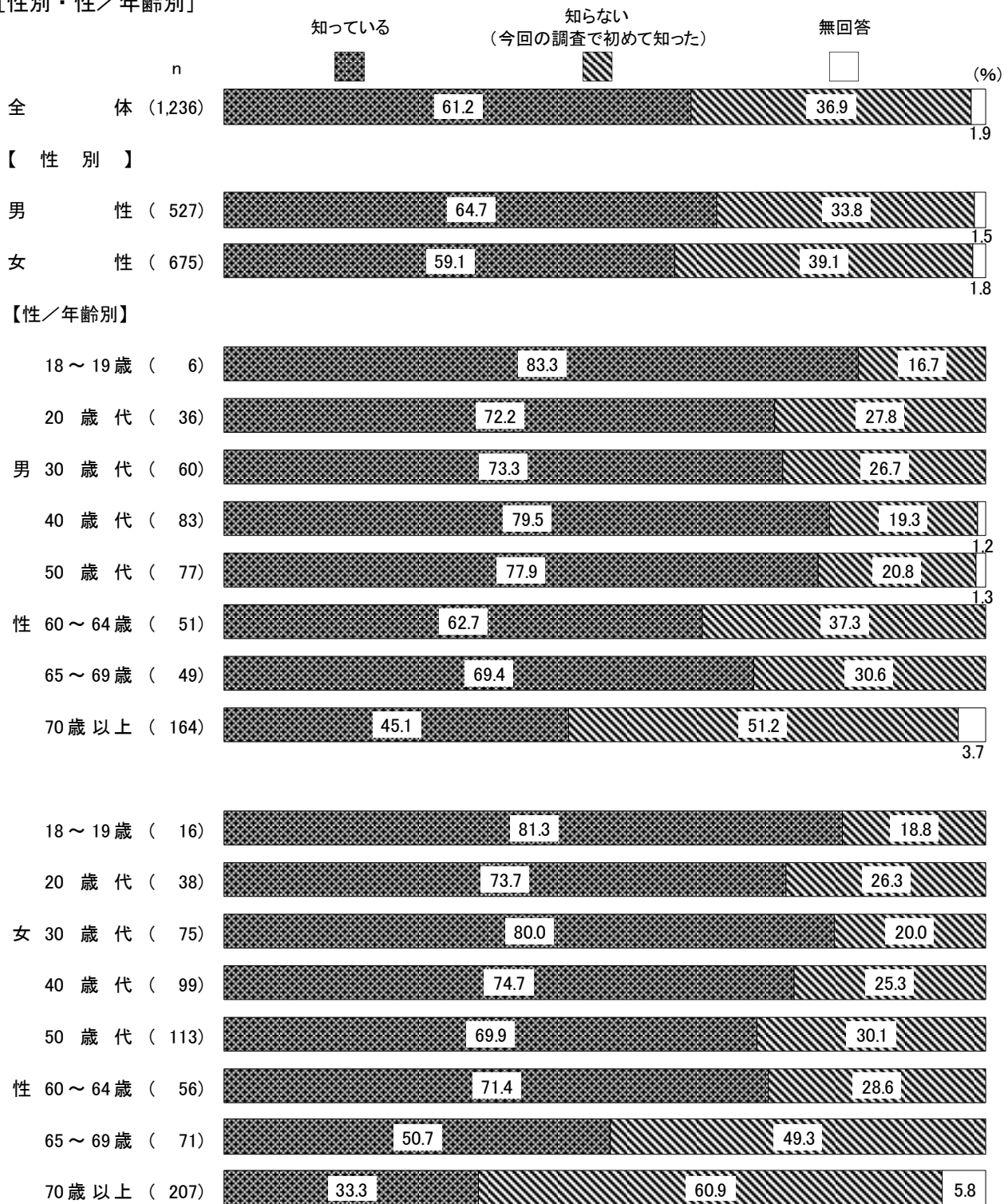
(n=1,236)

全体でみると、「知っている」(61.2%)が6割強、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(36.9%)が3割台半ばを超えている。



前回 (令和3 (2021)年) の調査結果と比較すると、「知っている」が18.7ポイント増加している。

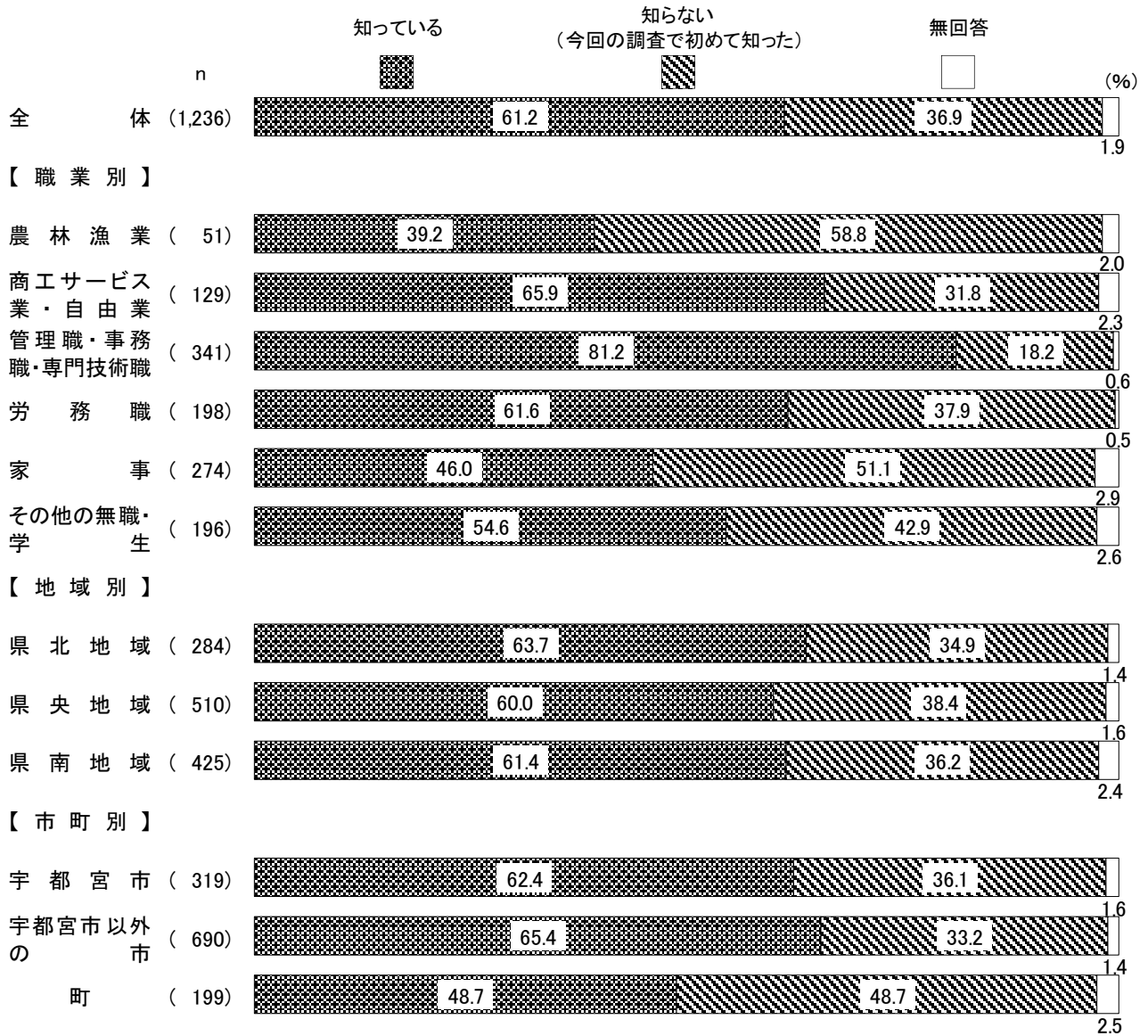
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(64.7%)が〈女性〉(59.1%)より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「知っている」では〈女性30歳代〉が80.0%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性70歳以上〉が60.9%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が81.2%と高くなっている。一方、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈農林漁業〉が58.8%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈町〉が48.7%と高くなっている。

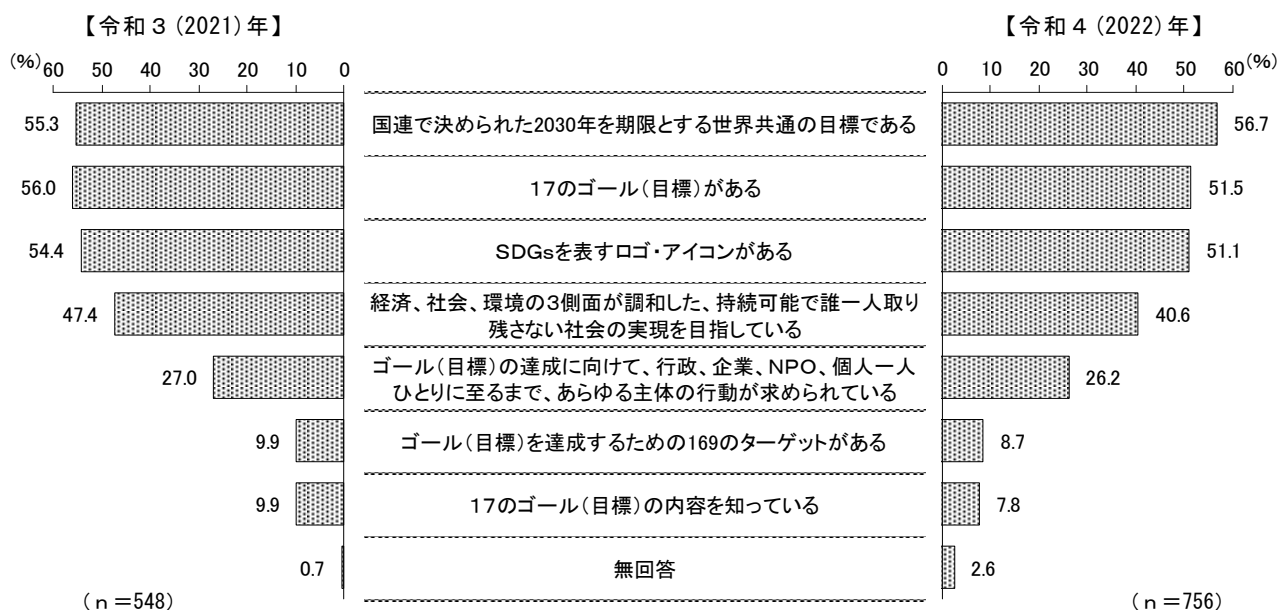
## (2) SDGsのどのようなことを知っているか

(問16で選択肢「知っている」を選んだ方のみお答えください)

問17 SDGs(イステイジーズ)について、どのようなことを知っていますか。次の中からいくつかでも選んでください。

[n=756]

1	国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である	56.7%
2	SDGsを表すロゴ・アイコンがある	51.1
3	17のゴール(目標)がある	51.5
4	ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある	8.7
5	経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している	40.6
6	ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている	26.2
7	17のゴール(目標)の内容を知っている	7.8
	(無回答)	2.6

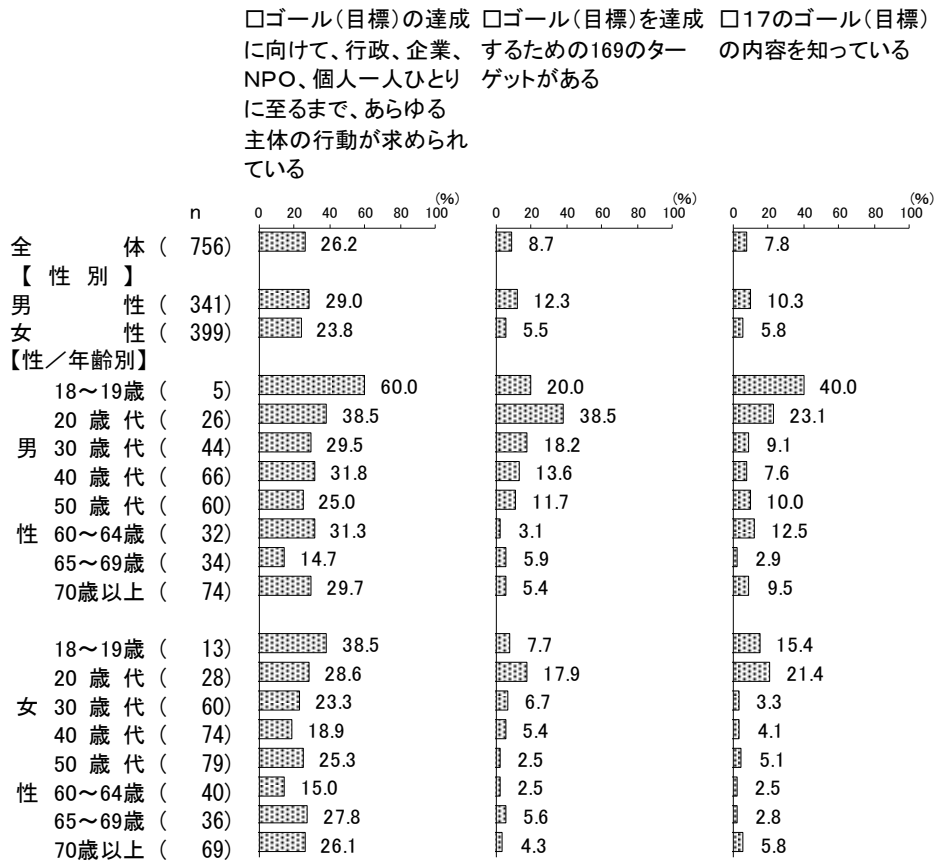
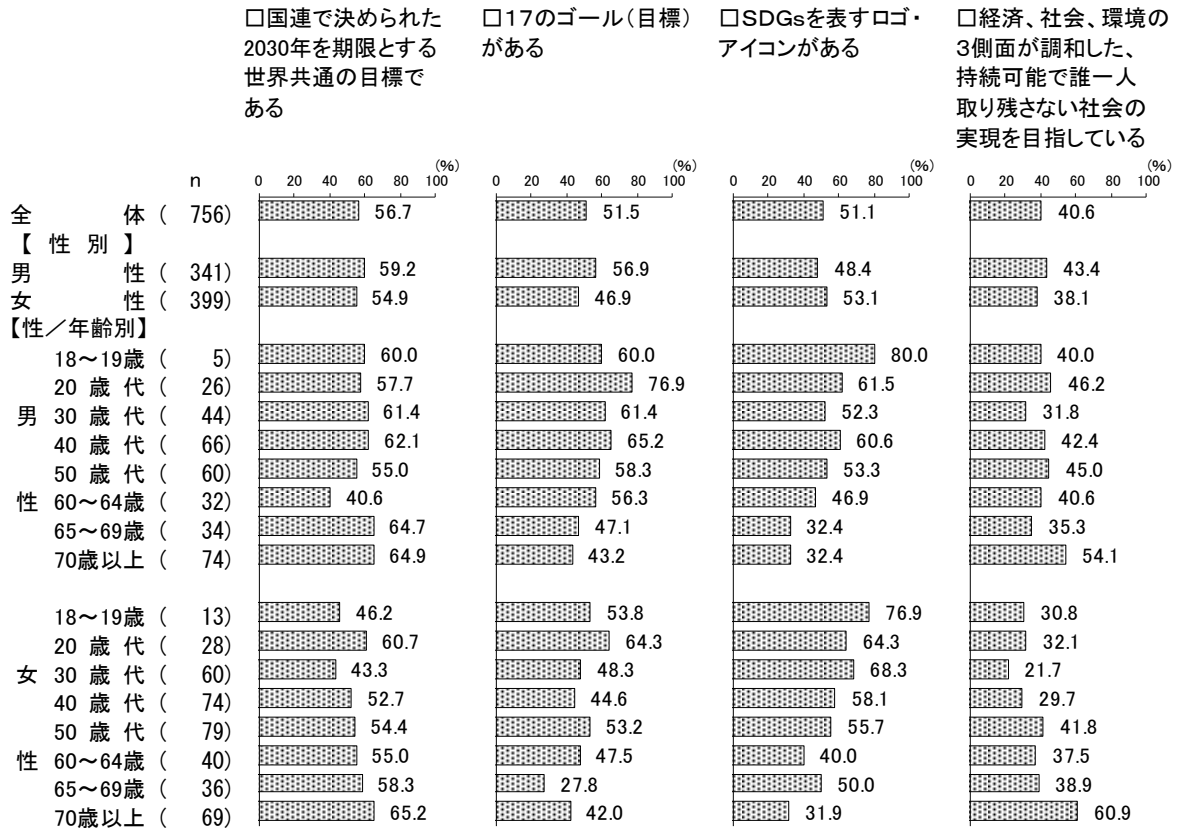


全体で見ると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」(56.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「17のゴール(目標)がある」(51.5%)、「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」(51.1%)、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」(40.6%)、「ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」(26.2%)の順となっている。一方、「ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある」(8.7%)及び「17のゴール(目標)の内容を知っている」(7.8%)が1割未満となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」が6.8ポイント減少している。



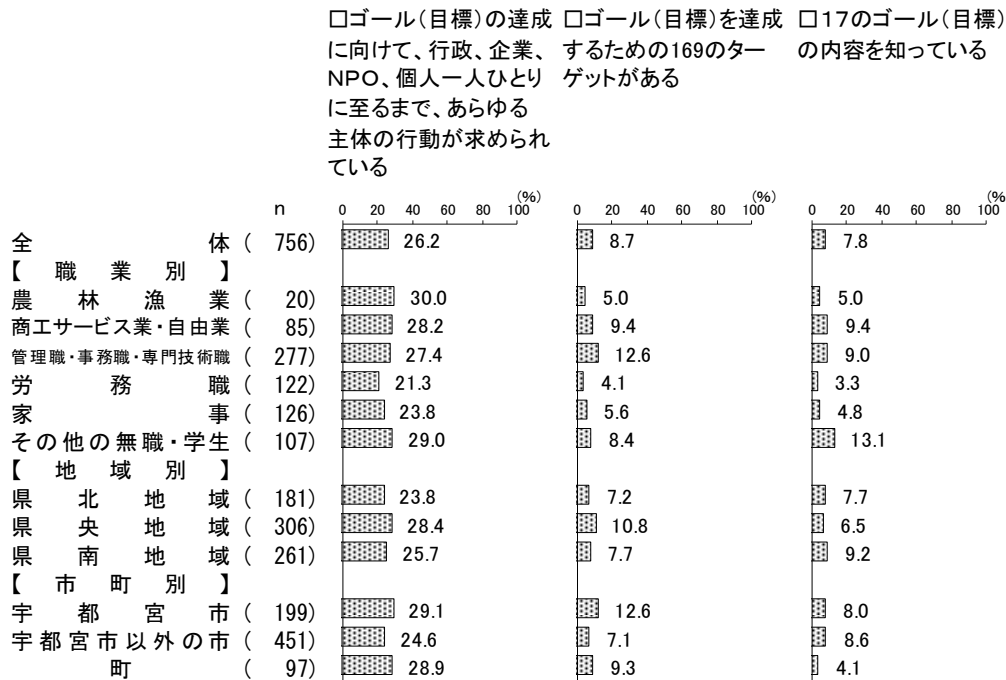
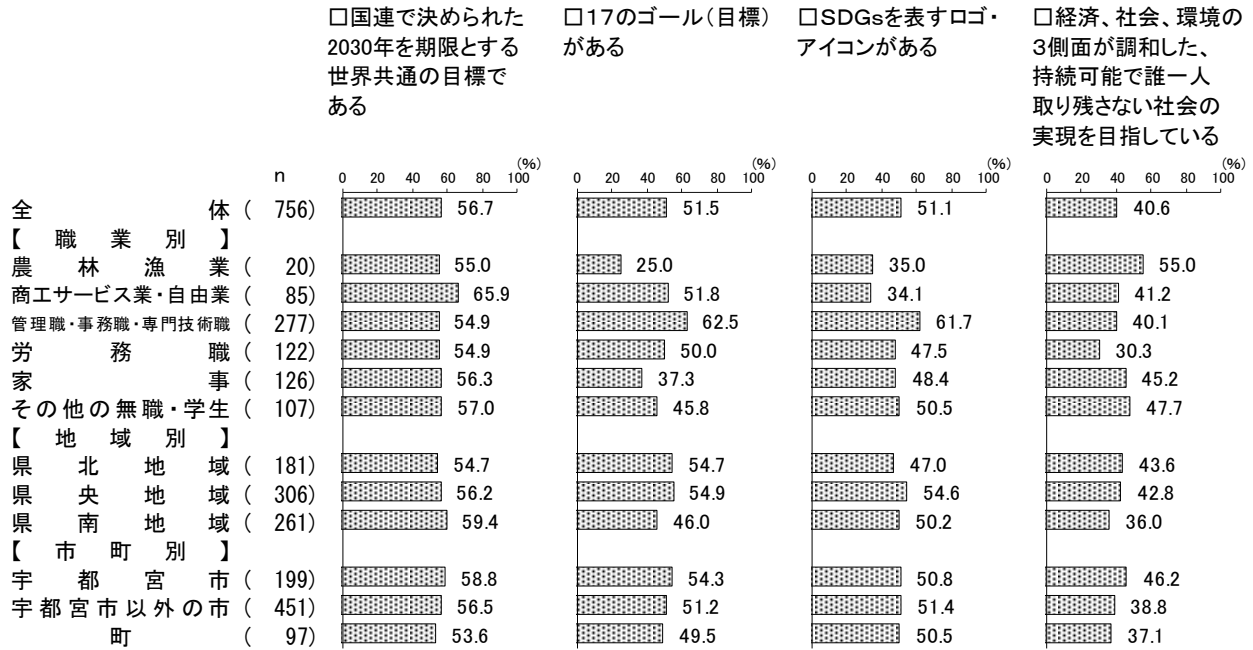
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「17のゴール（目標）がある」では〈男性〉（56.9%）が〈女性〉（46.9%）より10.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「17のゴール（目標）がある」では〈男性20歳代〉が76.9%、〈男性40歳代〉が65.2%、〈女性20歳代〉が64.3%と高くなっている。「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈女性30歳代〉が68.3%、〈女性20歳代〉が64.3%、〈男性20歳代〉が61.5%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈女性70歳以上〉が60.9%、〈男性70歳以上〉が54.1%と高くなっている。「ゴール（目標）の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」では〈男性20歳代〉が38.5%と高くなっている。また、「ゴール（目標）を達成するための169のターゲットがある」では〈男性20歳代〉が38.5%と高くなっている。「17のゴール（目標）の内容を知っている」では〈男性20歳代〉が23.1%、〈女性20歳代〉が21.4%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「17のゴール(目標)がある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が62.5%と高くなっている。また、「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が61.7%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈農林漁業〉が55.0%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## 6 地域防災について

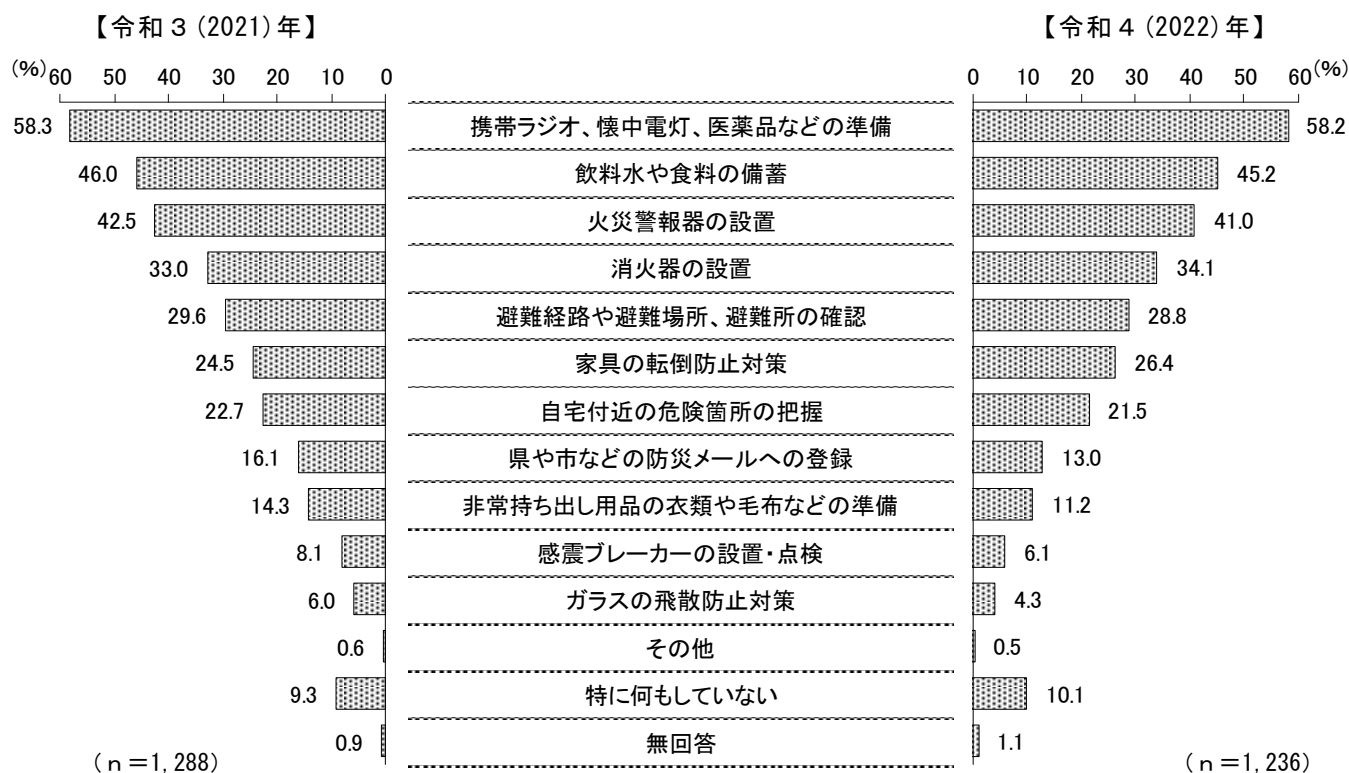
### (1) 災害に対する備え

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1 消火器の設置	34.1%	8 感震ブレーカー（※）の設置・点検	6.1%
2 火災警報器の設置	41.0	9 避難経路や避難場所、避難所の確認	28.8
3 家具の転倒防止対策	26.4	10 県や市などの防災メールへの登録	13.0
4 ガラスの飛散防止対策	4.3	11 自宅付近の危険箇所の把握	21.5
5 飲料水や食料の備蓄	45.2	12 その他	0.5
6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備	58.2	13 特に何もしていない	10.1
7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備	11.2	(無回答)	1.1

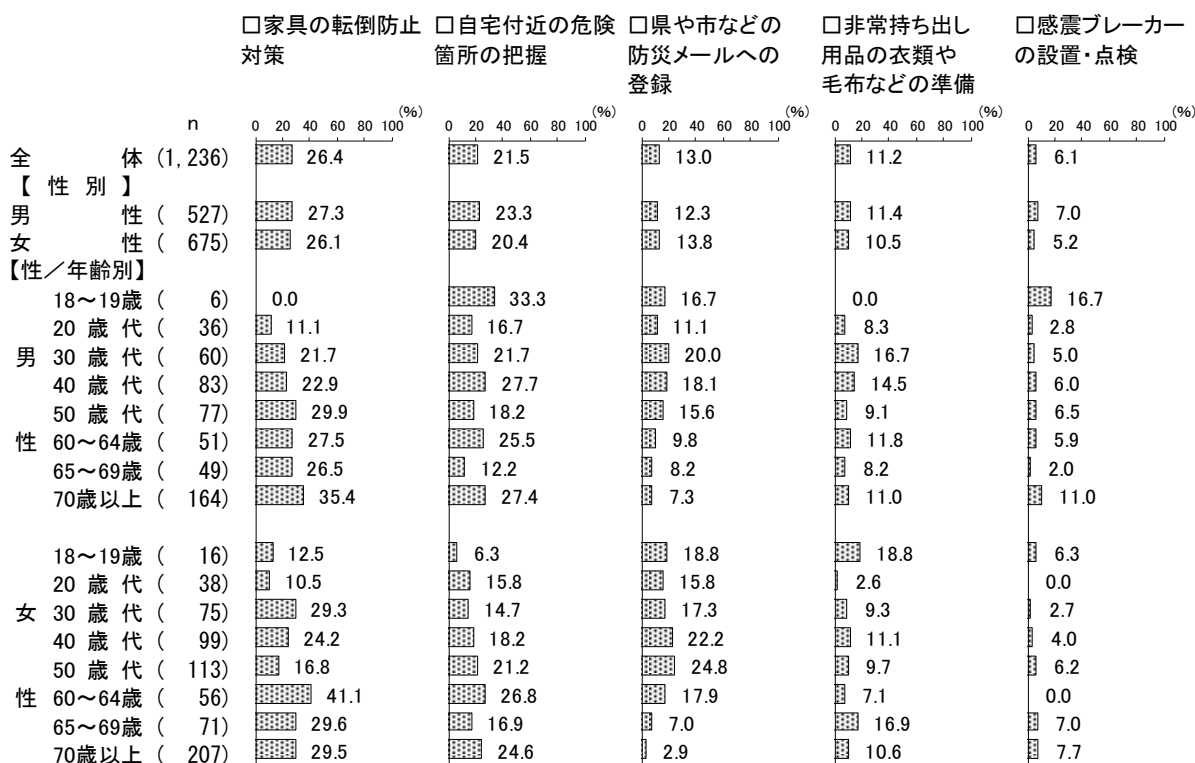
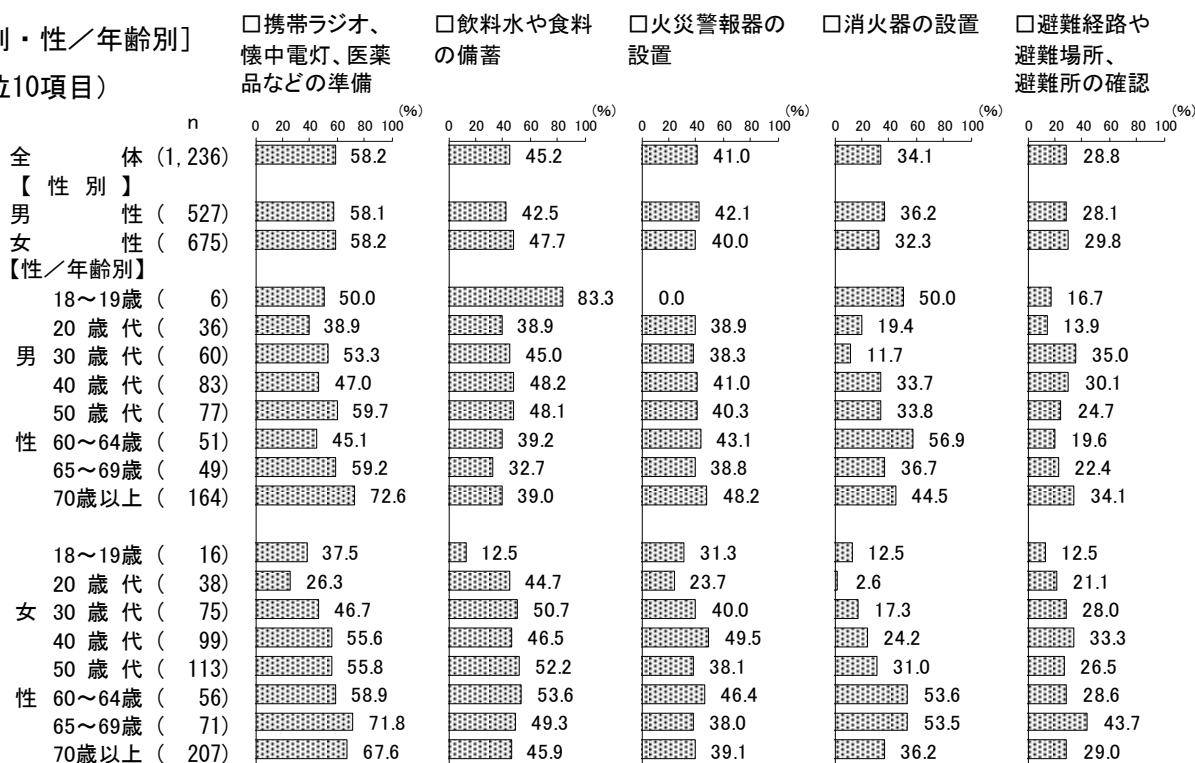
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(58.2%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(45.2%)、「火災警報器の設置」(41.0%)、「消火器の設置」(34.1%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(28.8%)、「家具の転倒防止対策」(26.4%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

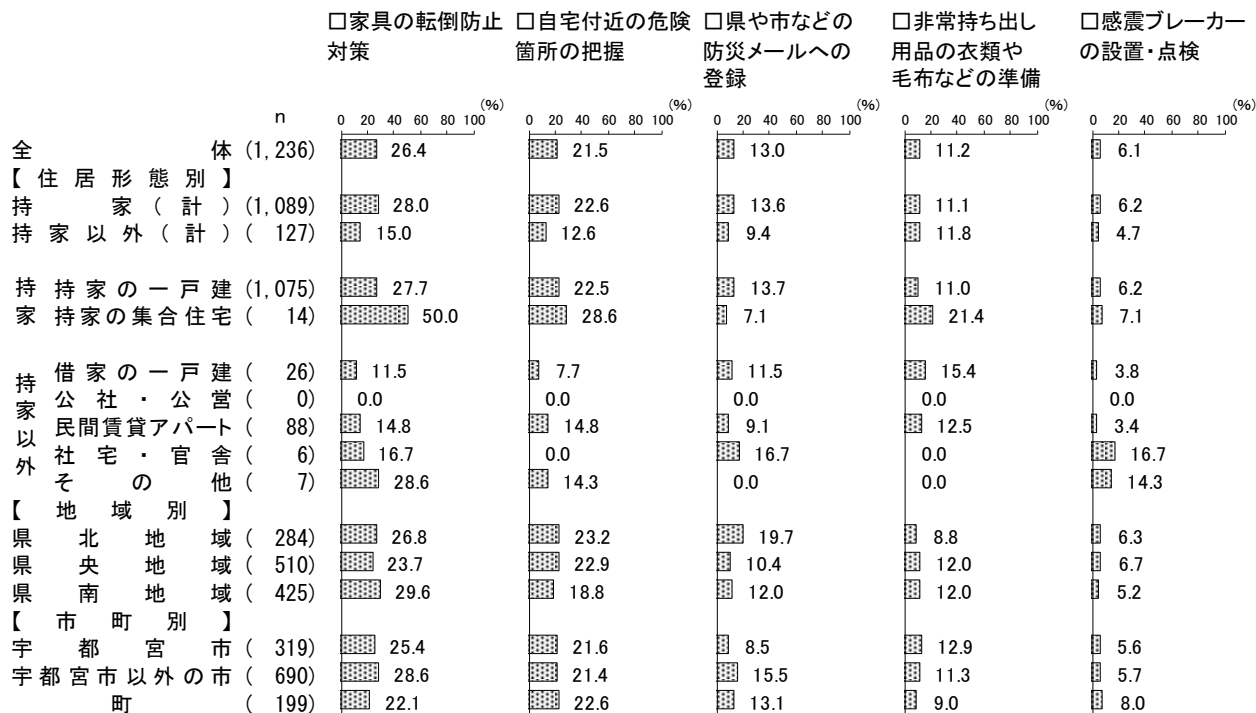
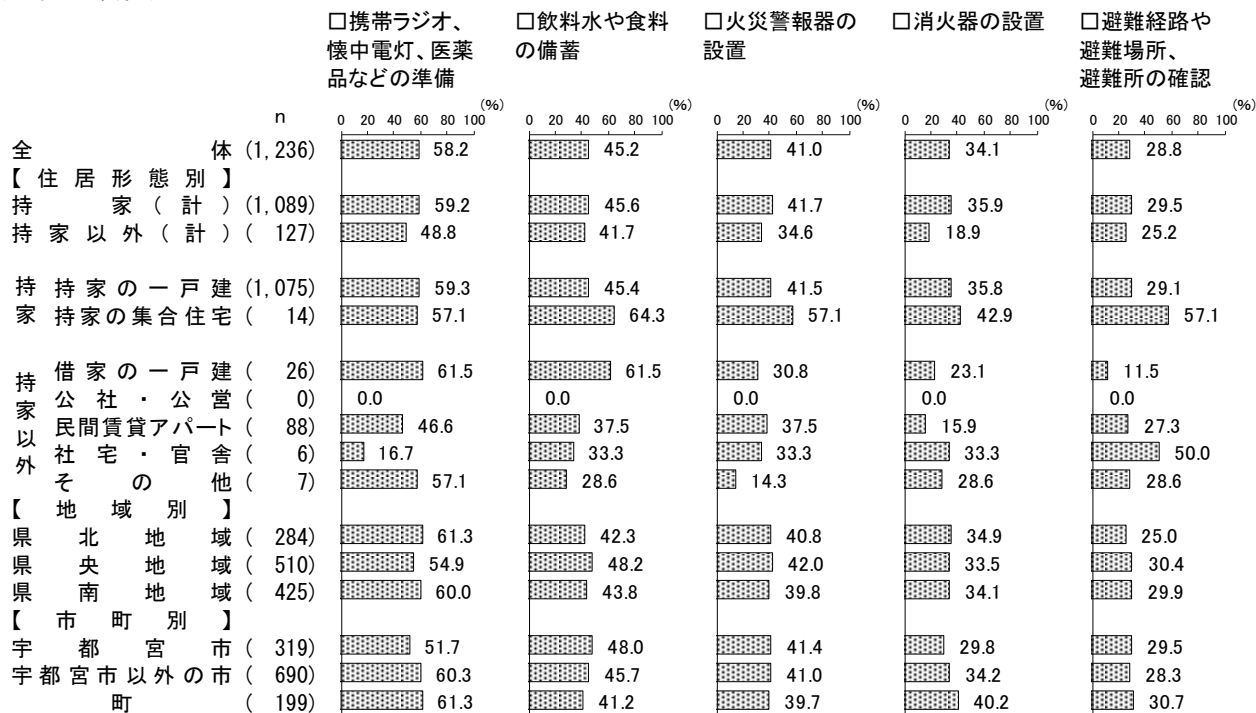


性別で見ると、「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(47.7%)が〈男性〉(42.5%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈男性70歳以上〉が72.6%、〈女性65～69歳〉が71.8%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性60～64歳〉が56.9%、〈女性60～64歳〉が53.6%、〈女性65～69歳〉が53.5%、〈男性70歳以上〉が44.5%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が43.7%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈女性60～64歳〉が41.1%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性50歳代〉が24.8%と高くなっている。

[住居形態別・地域別・市町別]

(上位10項目)



住居形態別で見ると、「消火器の設置」では〈持家 (計)〉(35.9%)が〈持家以外 (計)〉(18.9%)より17.0ポイント高くなっている。また、「家具の転倒防止対策」では〈持家 (計)〉(28.0%)が〈持家以外 (計)〉(15.0%)より13.0ポイント高くなっている。

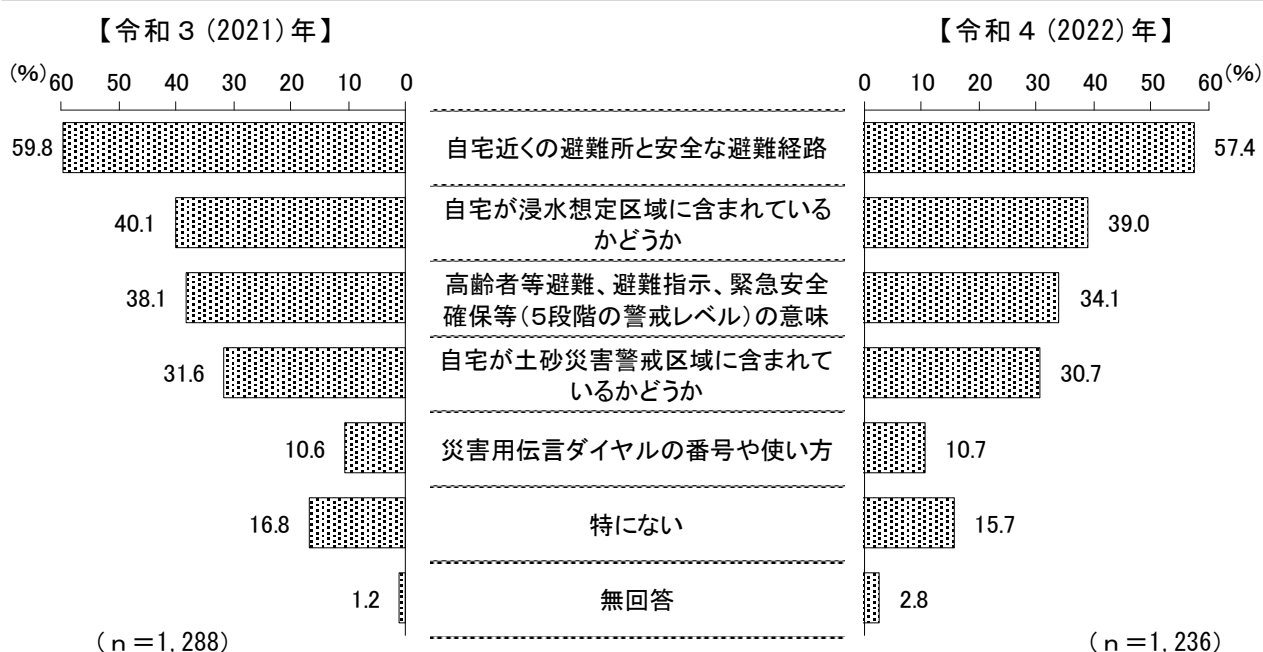
地域別で見ると、「県や市などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が19.7%と高くなっている。市町別で見ると、「消火器の設置」では〈町〉が40.2%と高くなっている。

## (2) 災害の際に必要な情報について知っていること

問19 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[ n =1, 236 ]

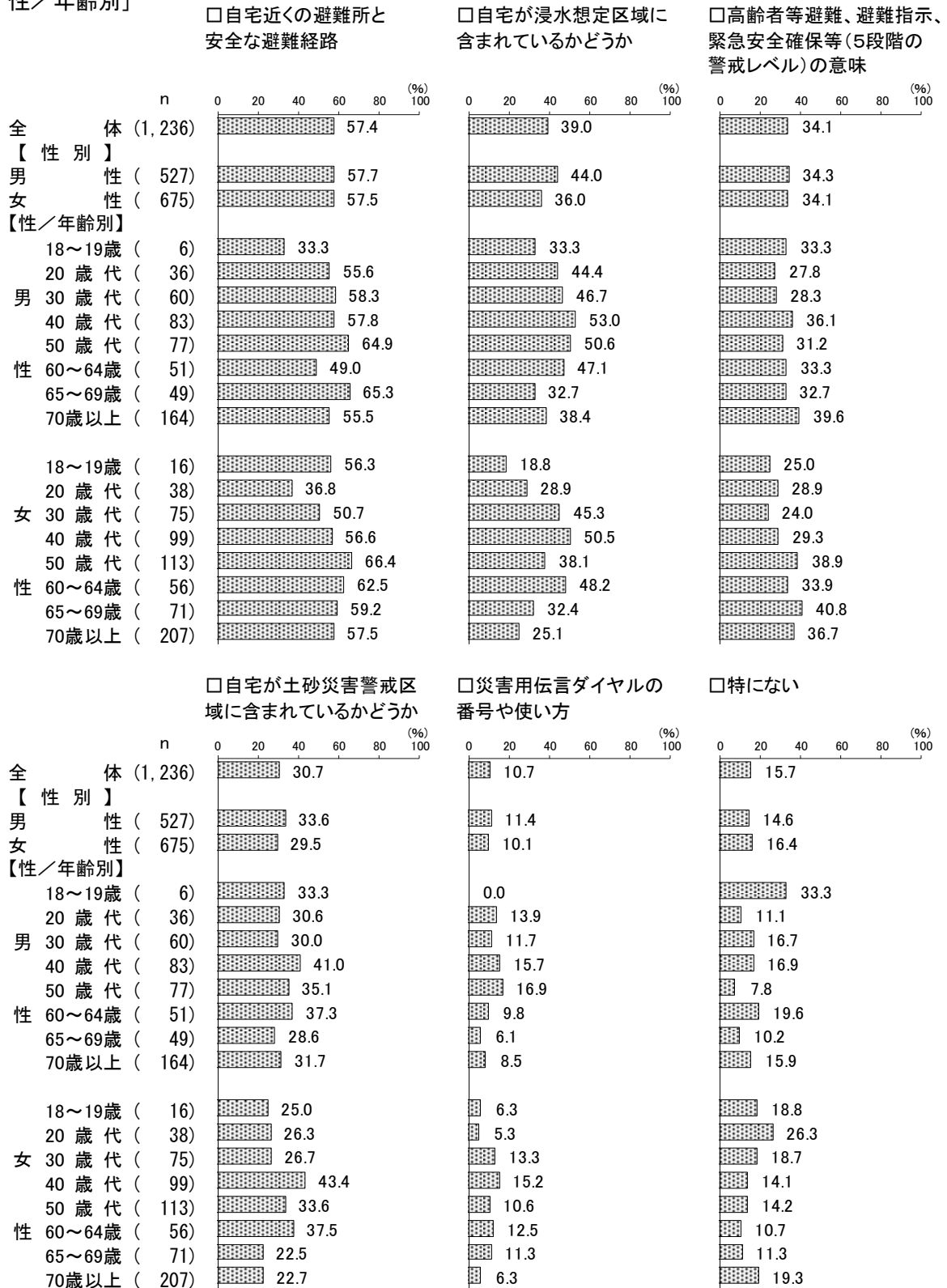
1	高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味	34.1%
2	自宅近くの避難所と安全な避難経路	57.4
3	自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか	30.7
4	自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか	39.0
5	災害用伝言ダイヤルの番号や使い方	10.7
6	特にない	15.7
	(無回答)	2.8



全体でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(57.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(39.0%)、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」(34.1%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(30.7%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」が4.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

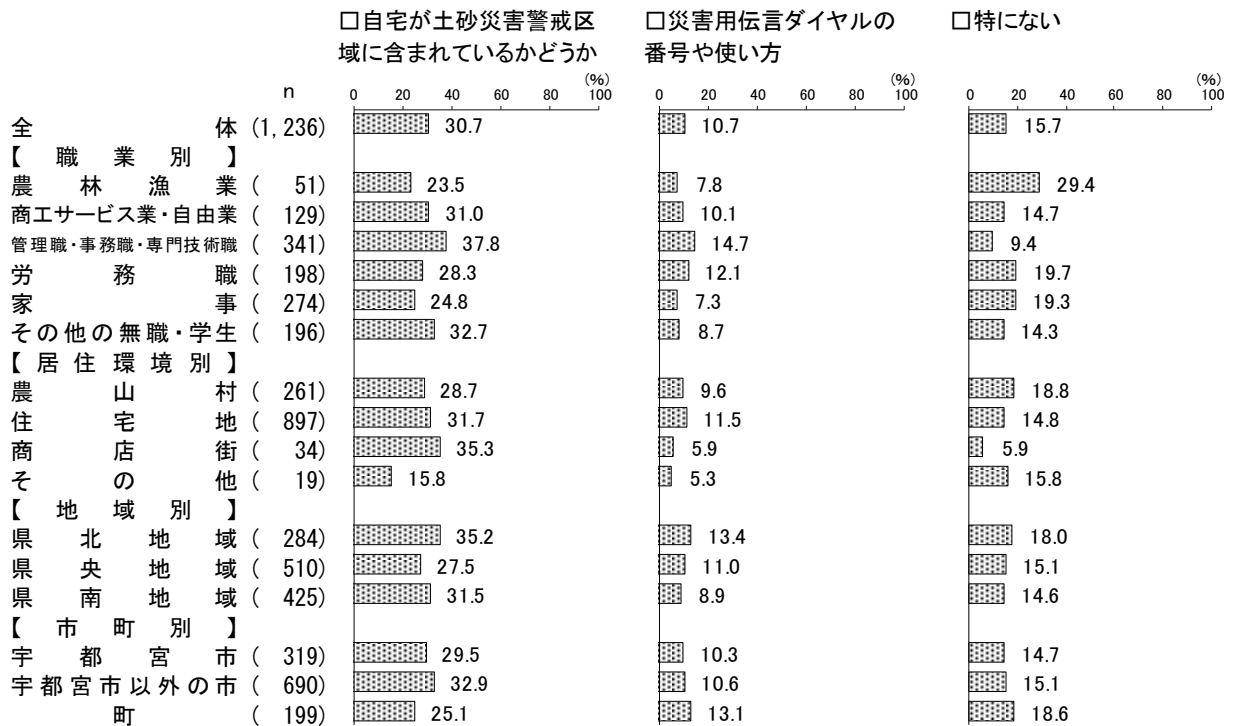
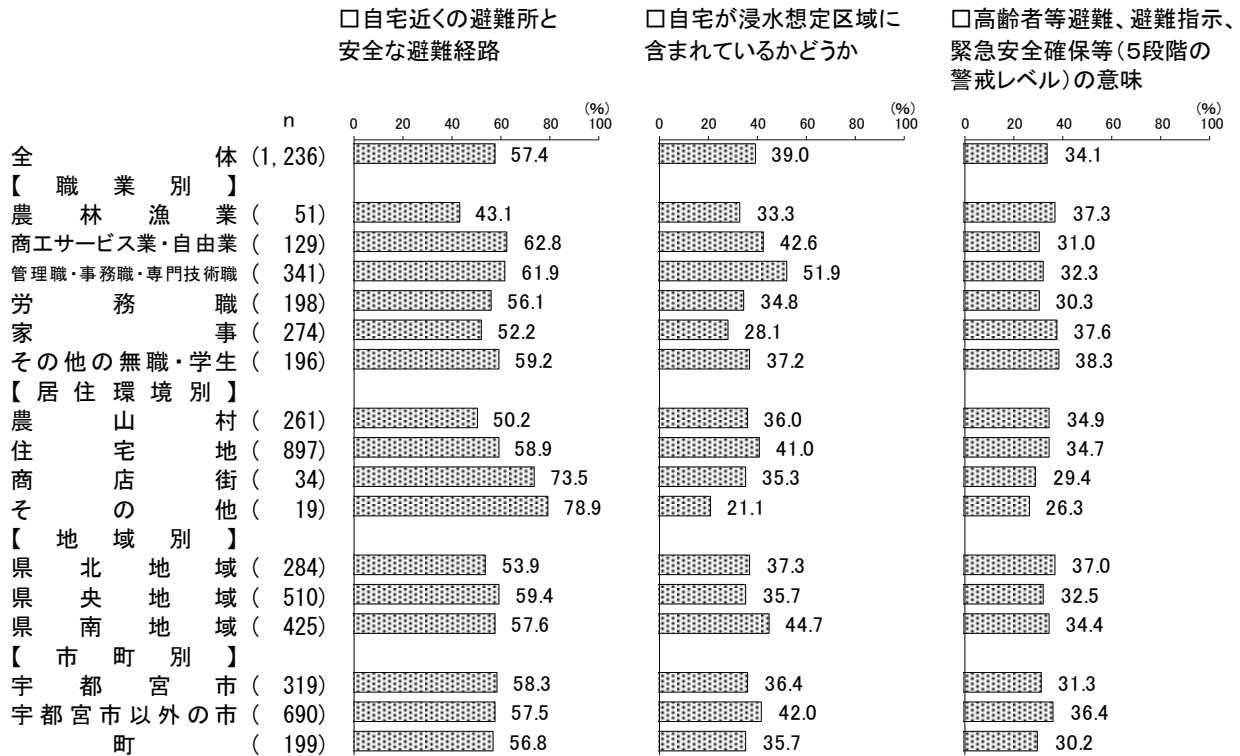


性別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(44.0%)が〈女性〉(36.0%)より8.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性40歳代〉が53.0%、〈男性50歳代〉が50.6%、〈女性40歳代〉が50.5%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が43.4%、〈男性40歳代〉が41.0%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈商工サービス業・自由業〉が62.8%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が51.9%と高くなっている。また、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が37.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈商店街〉が73.5%と高くなっている。

地域別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈県南地域〉が44.7%と高くなっている。

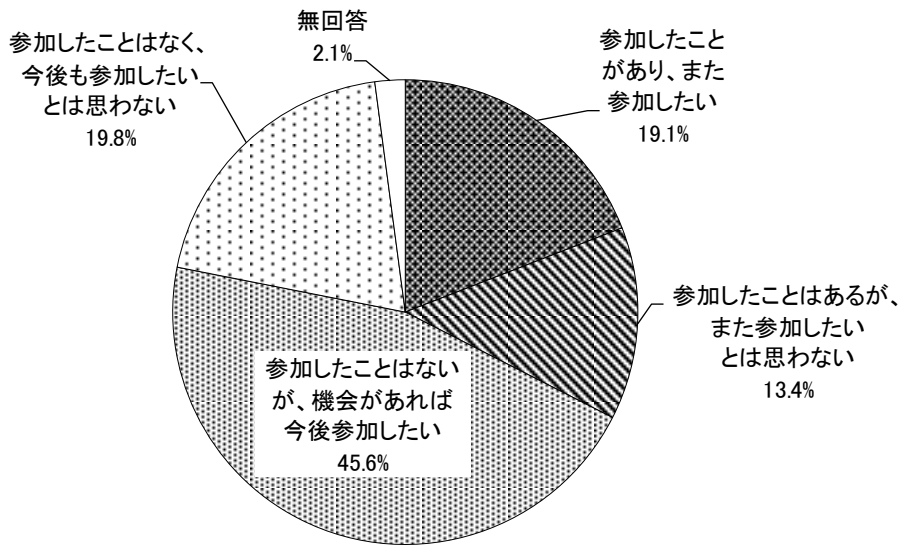
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 防災訓練の参加状況

問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

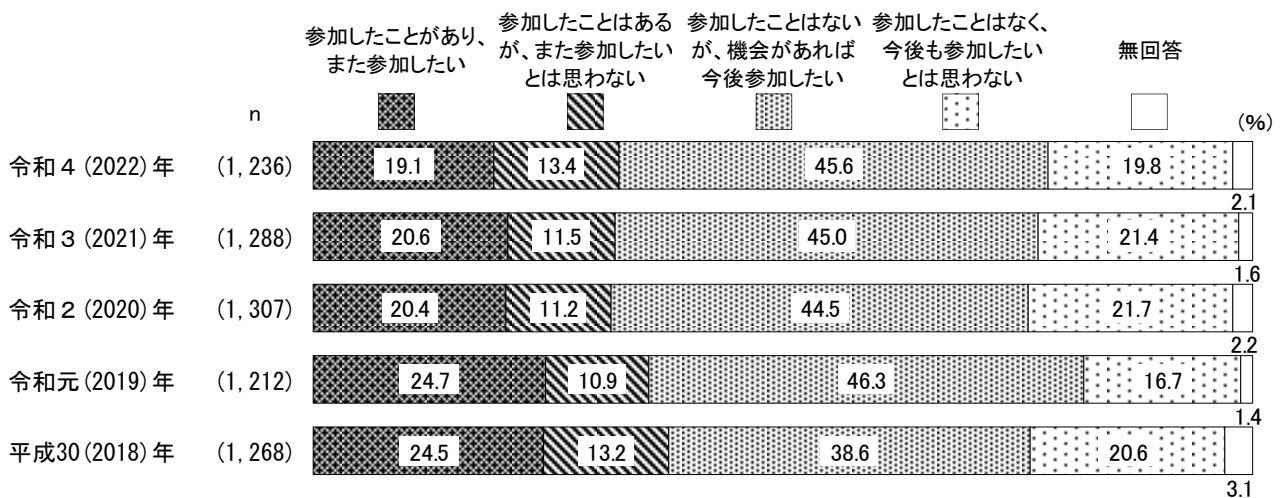
[n=1,236]

1	参加したことがあります、また参加したい	19.1%
2	参加したことはあるが、また参加したいとは思わない	13.4
3	参加したことはないが、機会があれば今後参加したい	45.6
4	参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	19.8
	(無回答)	2.1



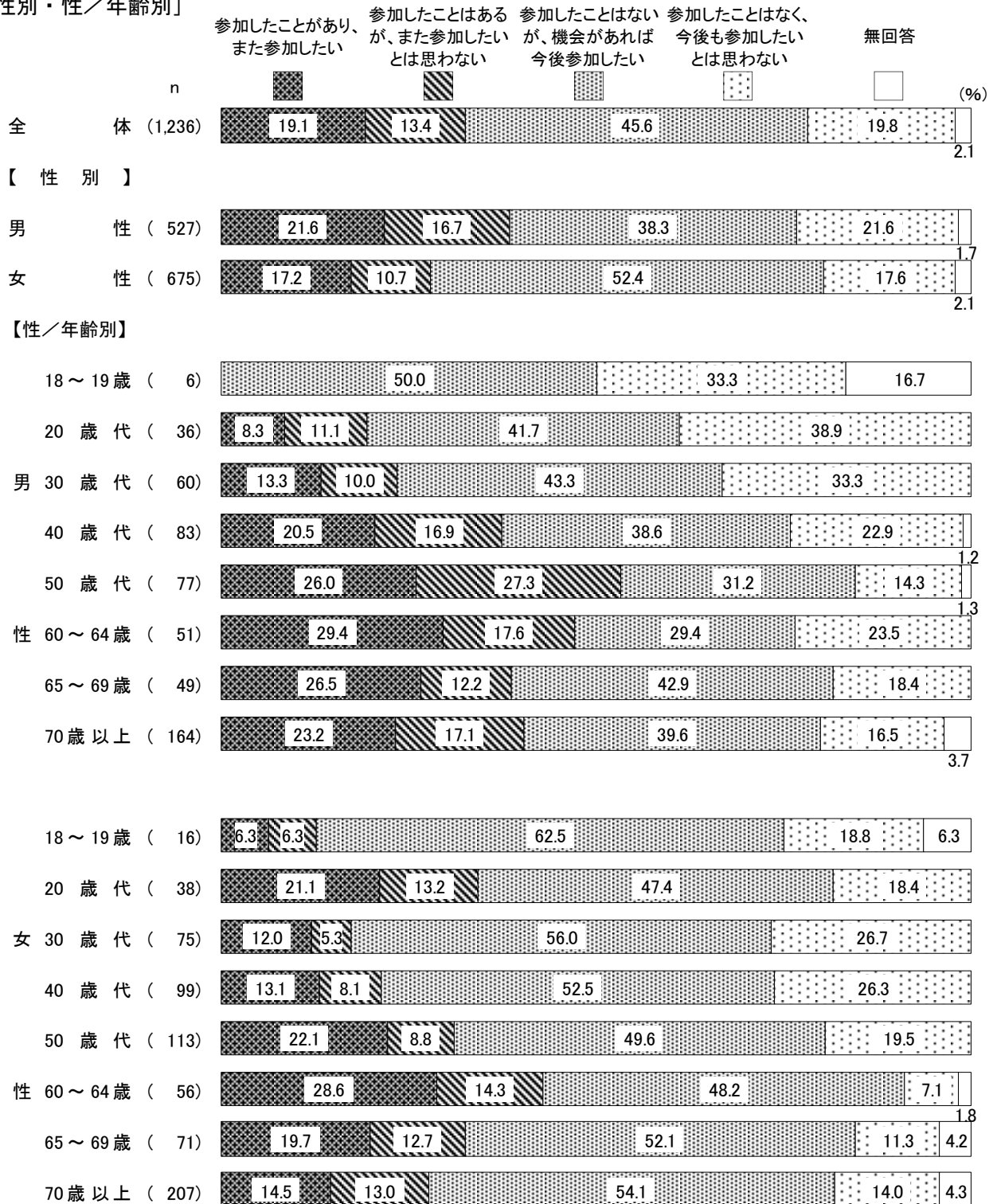
(n=1,236)

全体でみると、「参加したことがあります、また参加したい」(19.1%)が2割弱、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」(13.4%)が1割台半ば近く、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(45.6%)が4割台半ば、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(19.8%)が2割弱となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

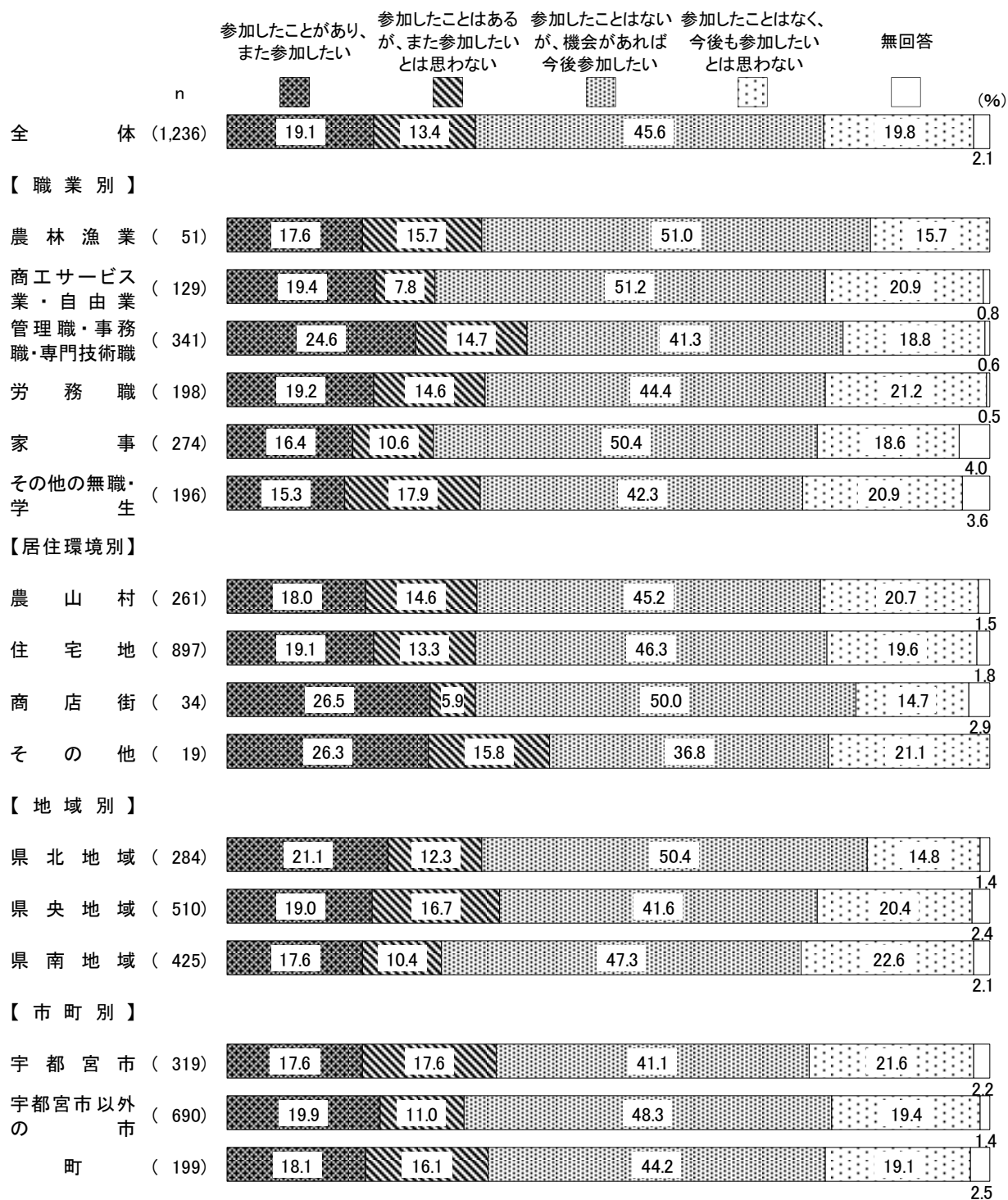
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(52.4%)が〈男性〉(38.3%)より14.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性60～64歳〉が29.4%と高くなっている。「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性50歳代〉が27.3%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が56.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が24.6%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈商工サービス業・自由業〉が51.2%、〈農林漁業〉が51.0%、〈家事〉が50.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈商店街〉が26.5%と高くなっている。

地域別でみると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈県北地域〉が50.4%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

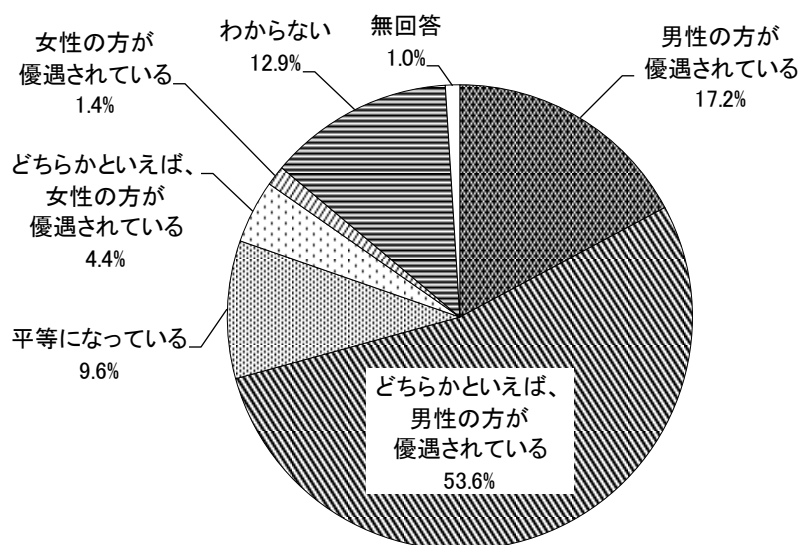
## 7 男女平等意識について

### (1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問21 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

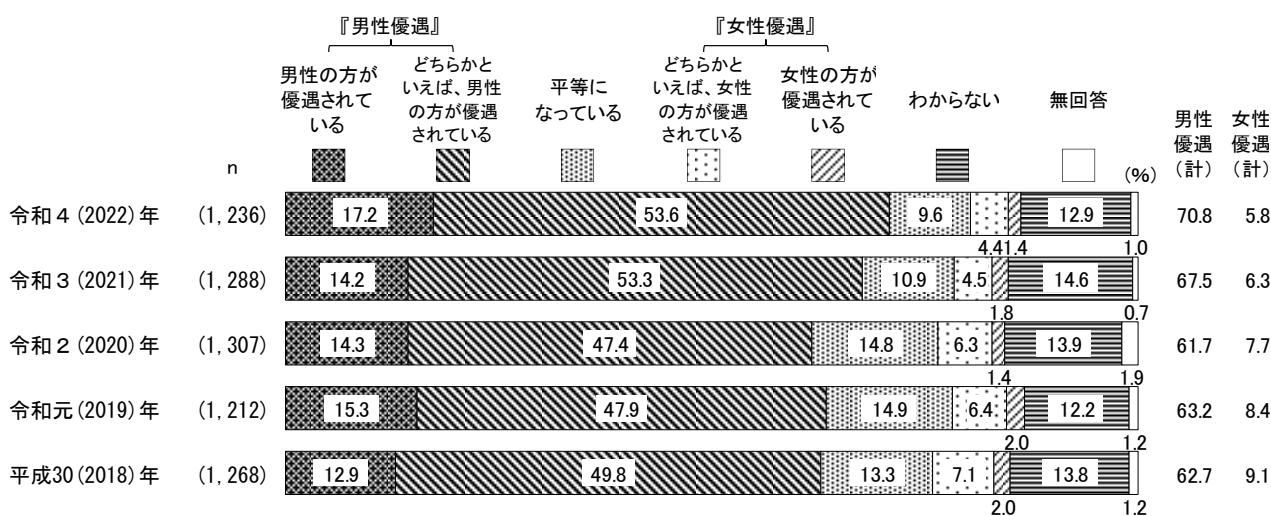
[n=1,236]

1	男性の方が優遇されている	17.2%	5	女性の方が優遇されている	1.4%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	53.6	6	わからない	12.9
3	平等になっている	9.6		(無回答)	1.0
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	4.4			



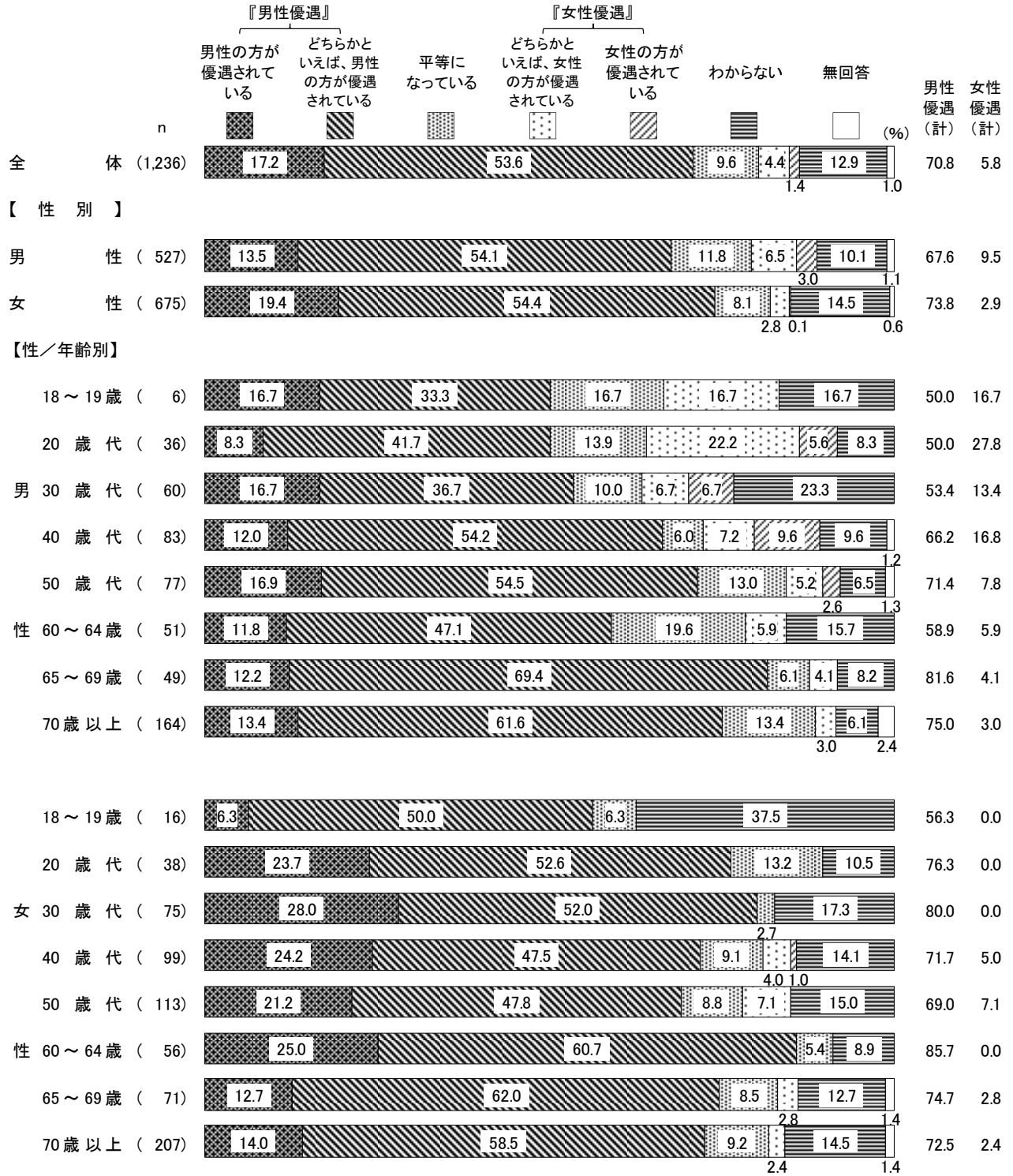
(n=1,236)

全体でみると、「男性の方が優遇されている」(17.2%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(53.6%)の2つを合わせた『男性優遇』(70.8%)が約7割となっている。また、「平等になっている」(9.6%)が1割弱となっている。



過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前々回(令和2(2020)年)より増加が続き、前々回(令和2(2020)年)より9.1ポイント増加している。

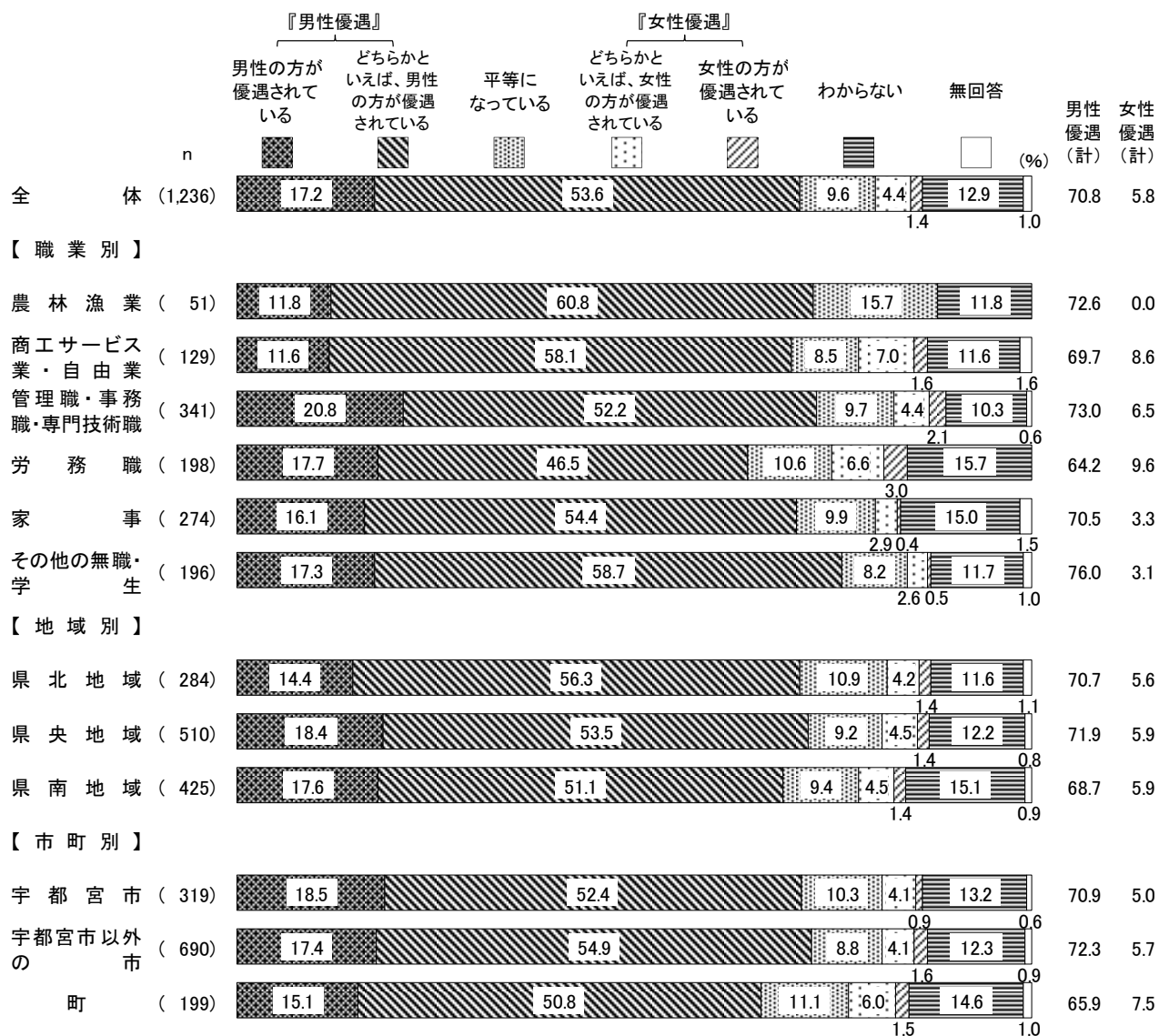
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉(73.8%)が〈男性〉(67.6%)より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が85.7%、〈男性65～69歳〉が81.6%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が27.8%、〈男性40歳代〉が16.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



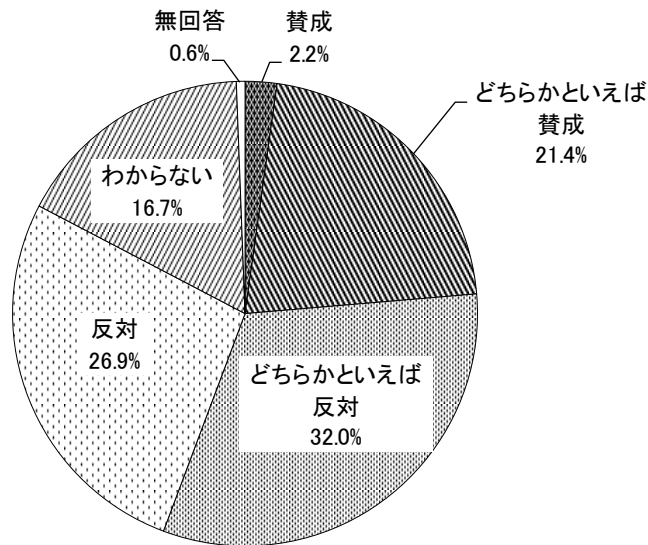
職業別で見ると、『男性優遇』では〈その他の無職・学生〉が76.0%と高くなっている。  
地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 固定的な性別役割分担意識

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように  
 思いますか。次の中から1つ選んでください。

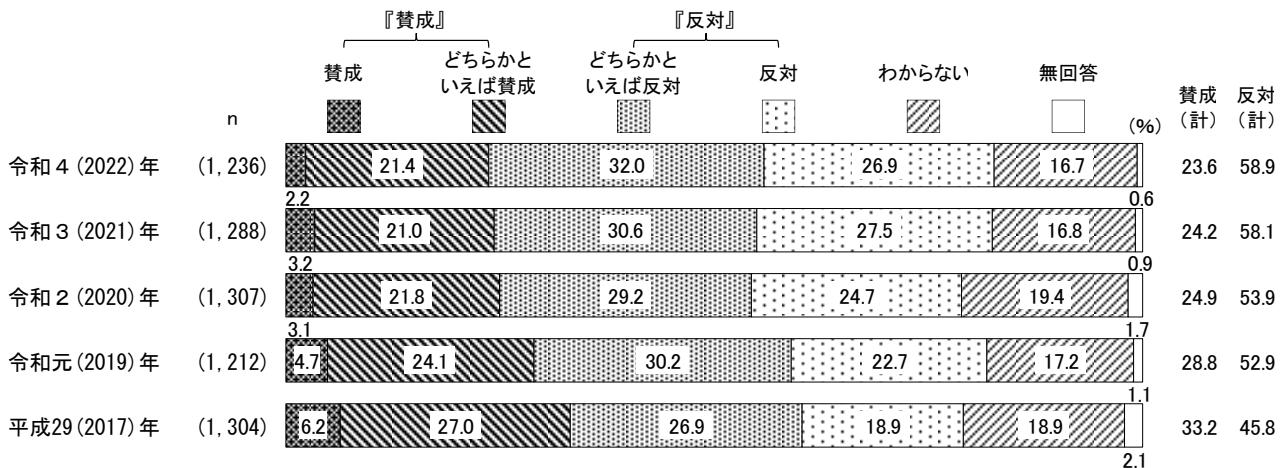
[n=1,236]

1	賛成	2.2%	4	反対	26.9%
2	どちらかといえば賛成	21.4	5	わからない	16.7
3	どちらかといえば反対	32.0	(無回答)		0.6



(n=1,236)

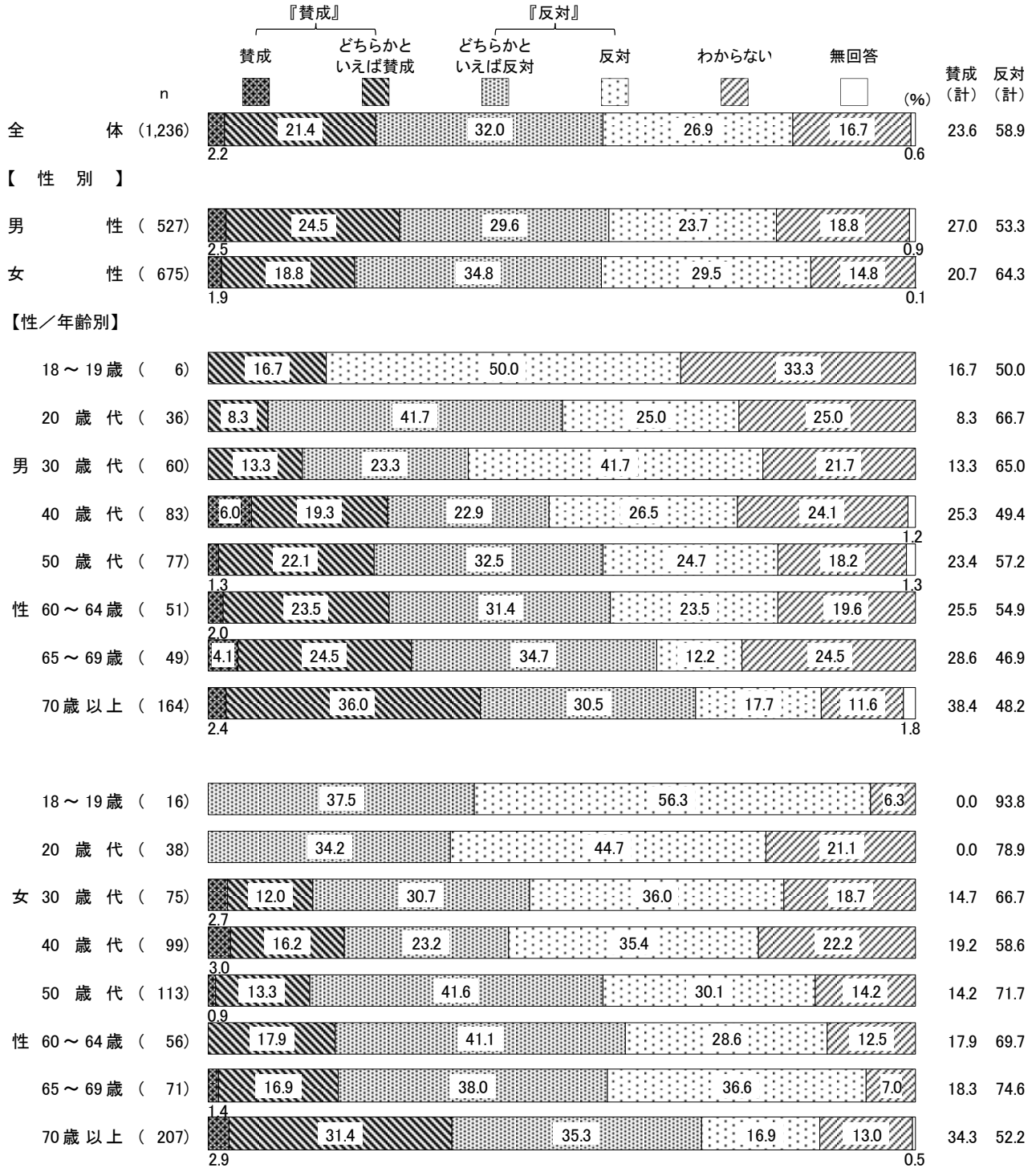
全体でみると、「賛成」(2.2%)と「どちらかといえば賛成」(21.4%)の2つを合わせた『賛成』(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(32.0%)と「反対」(26.9%)の2つを合わせた『反対』(58.9%)が6割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。



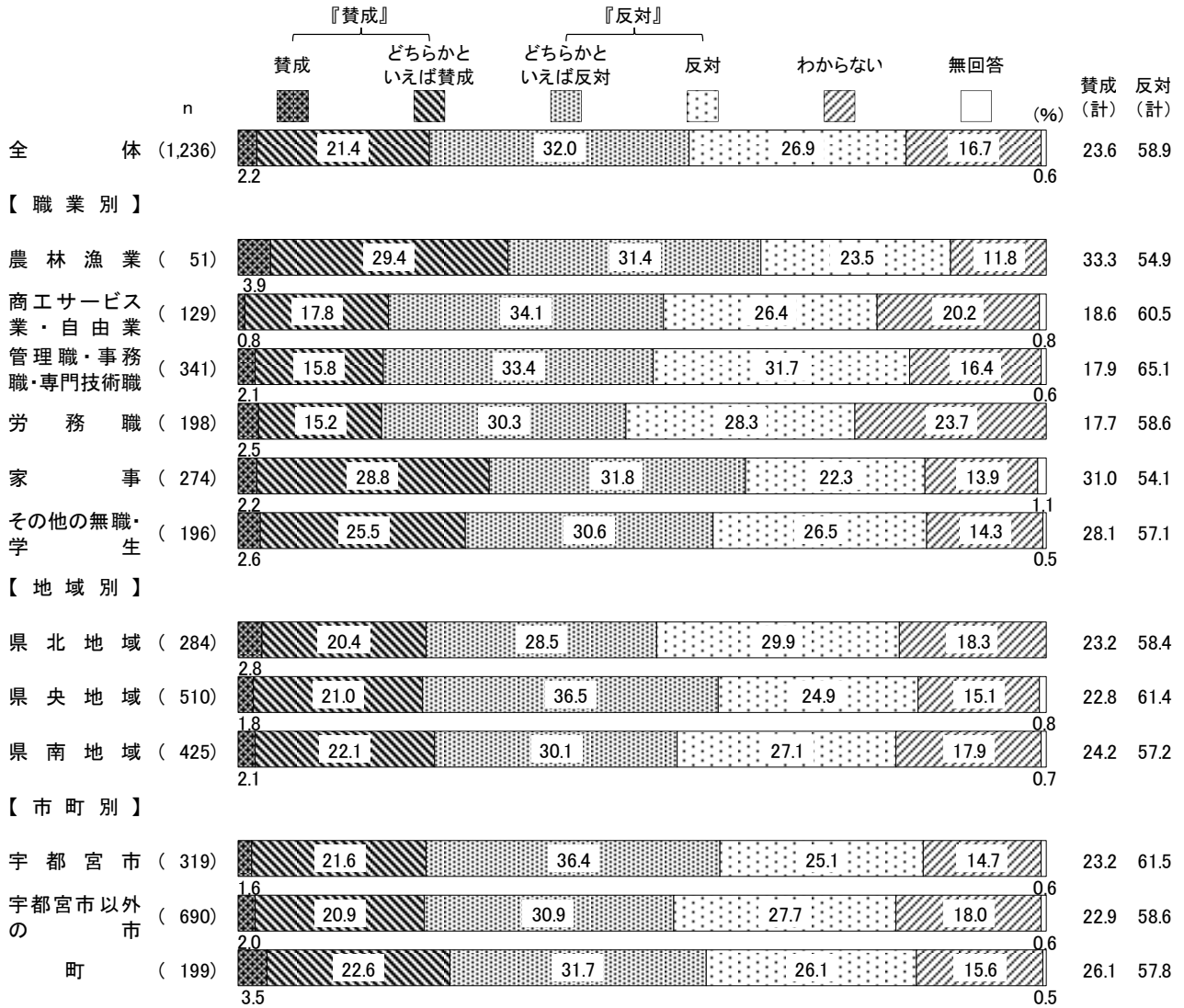
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『反対』では〈女性〉(64.3%)が〈男性〉(53.3%)より11.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が38.4%、〈女性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性20歳代〉が78.9%、〈女性65～69歳〉が74.6%、〈女性50歳代〉が71.7%と高くなっている。

【職業別・地域別・市町別】



職業別でみると、『賛成』では〈農林漁業〉が33.3%、〈家事〉が31.0%と高くなっている。一方、『反対』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が65.1%と高くなっている。

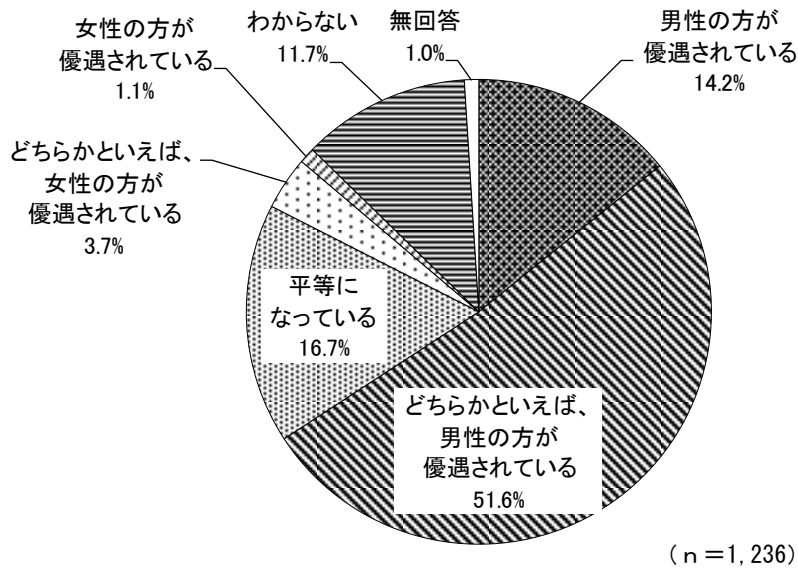
地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 働く場での男女の地位の平等感

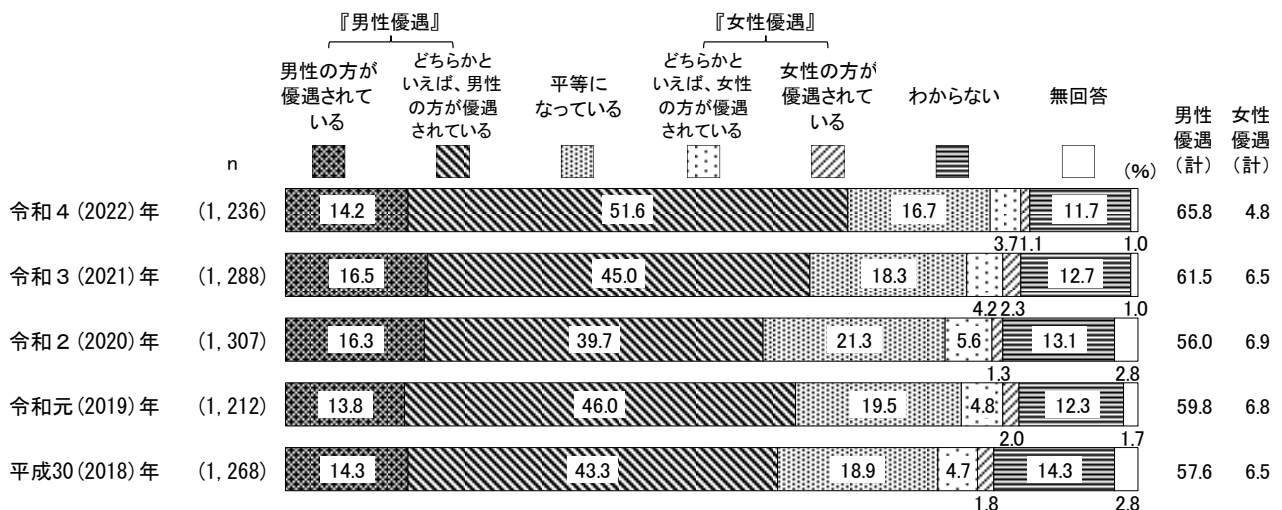
問23 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

[n=1,236]

1	男性の方が優遇されている	14.2%	5	女性の方が優遇されている	1.1%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	51.6	6	わからない	11.7
3	平等になっている	16.7		(無回答)	1.0
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	3.7			

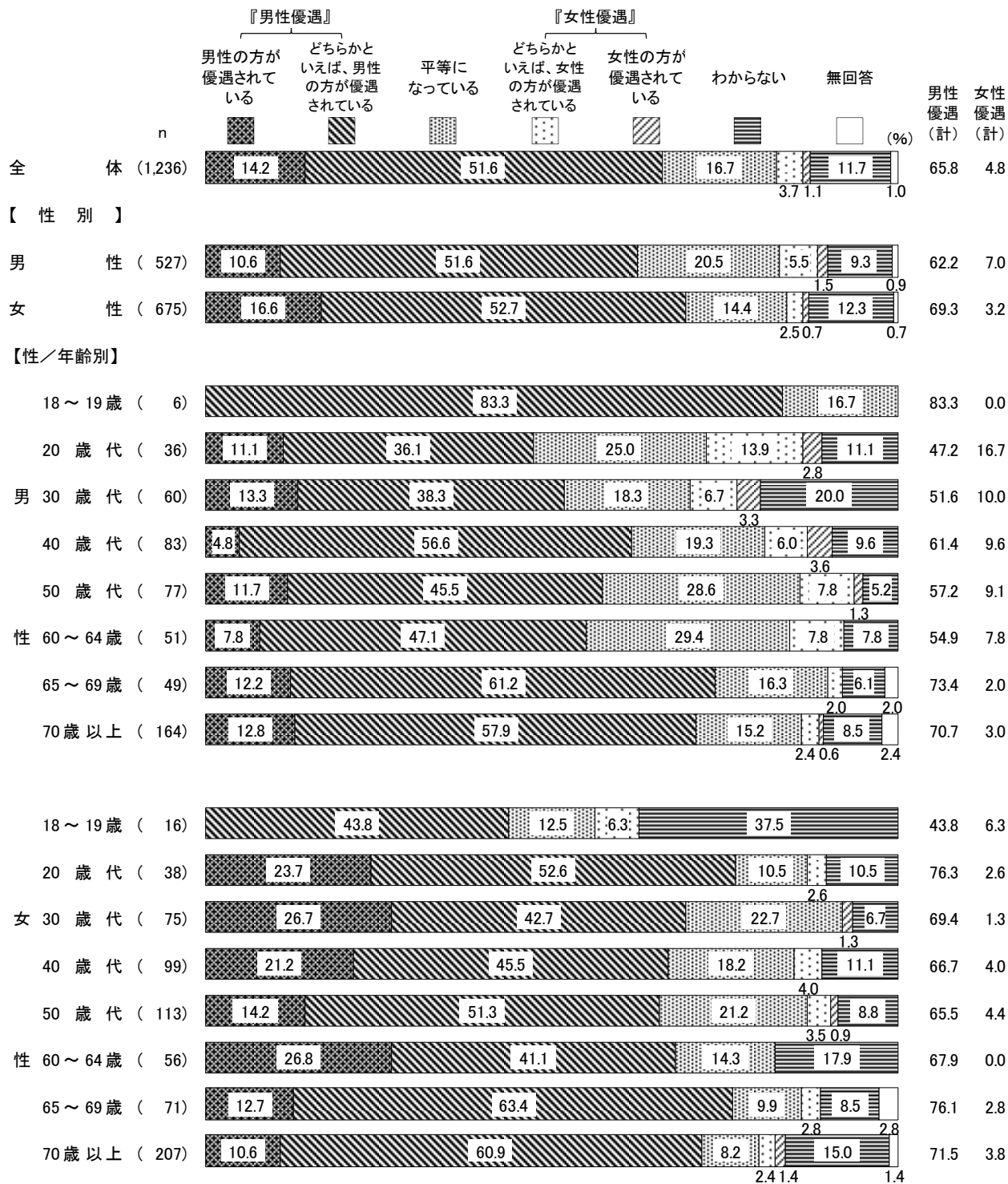


全体でみると、「男性の方が優遇されている」(14.2%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(51.6%)の2つを合わせた『男性優遇』(65.8%)が6割台半ばとなっている。「平等になっている」(16.7%)は1割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前々回(令和2(2020)年)より増加が続き、前々回(令和2(2020)年)より9.8ポイント増加している。

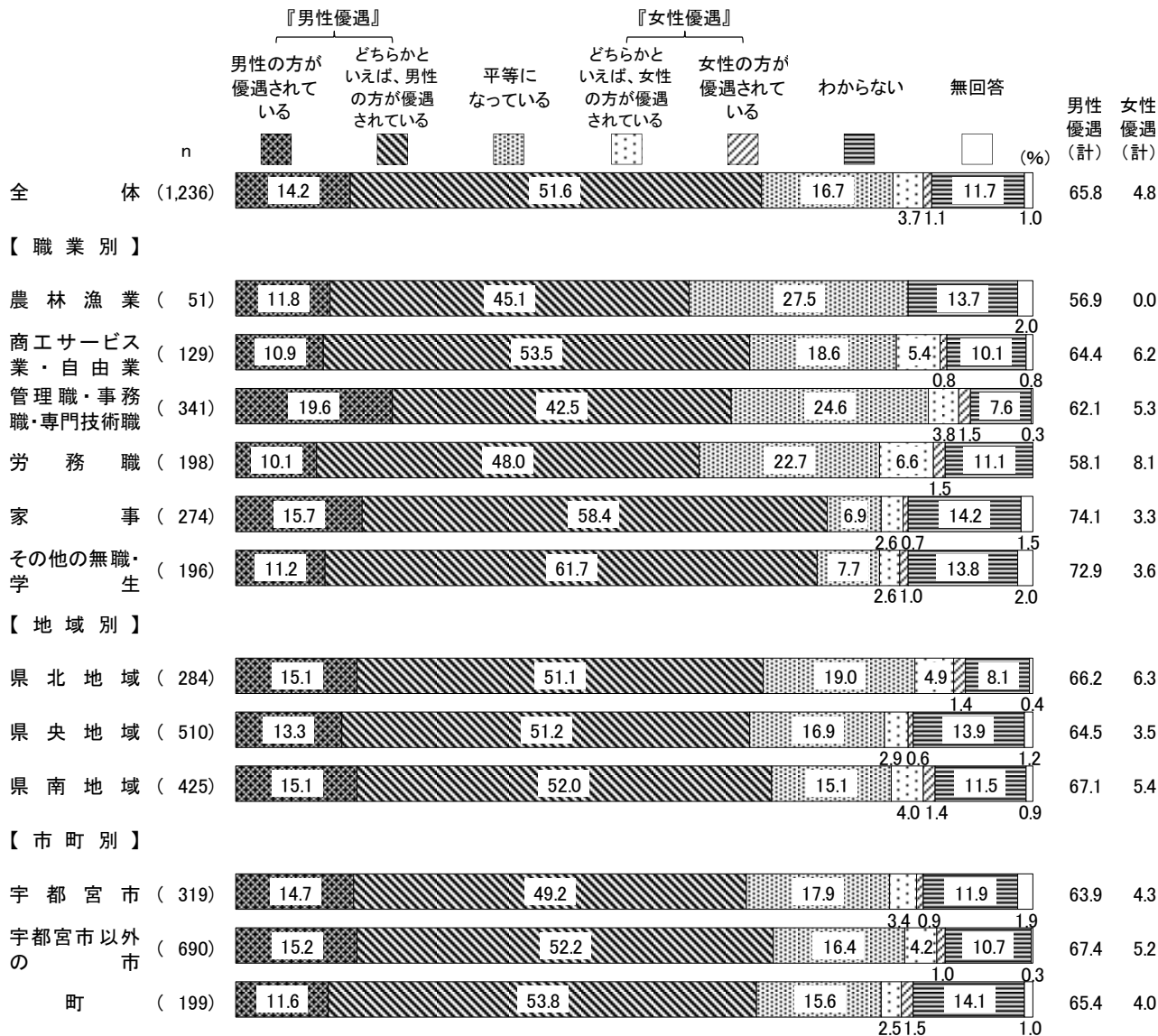
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(69.3%)が〈男性〉(62.2%)より7.1ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(7.0%)が〈女性〉(3.2%)より3.8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性20歳代〉が76.3%、〈女性65～69歳〉が76.1%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が16.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『男性優遇』では〈家事〉が74.1%と高くなっている。

地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

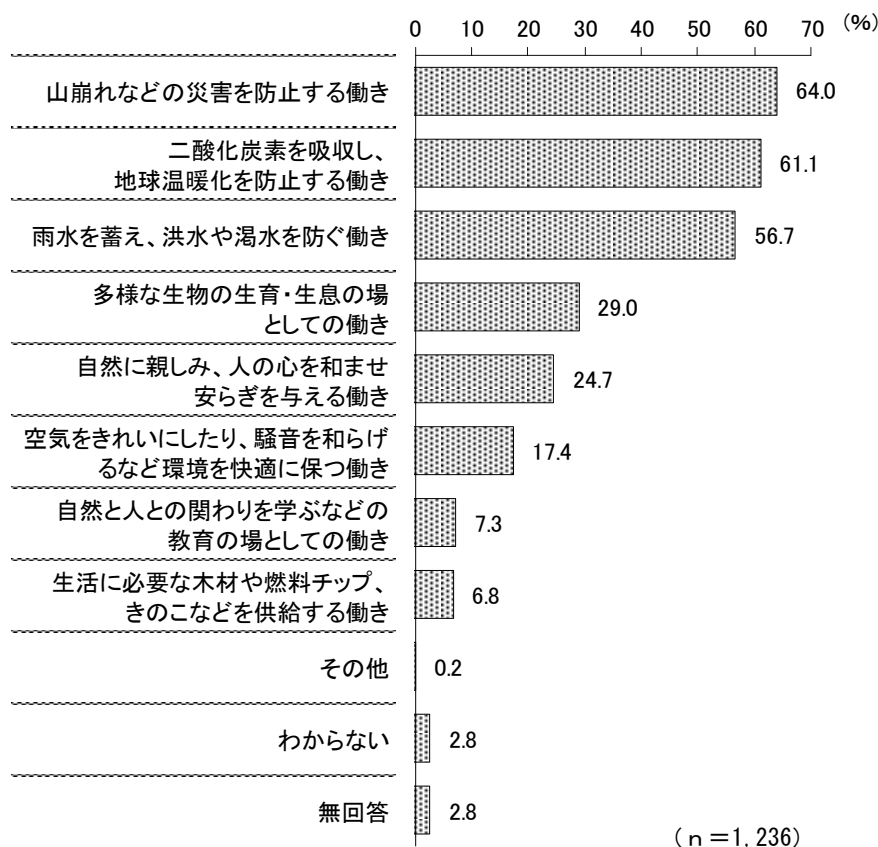
## 8 とちぎの元気な森づくり県民税について

### (1) 重要と考える森林の働き

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

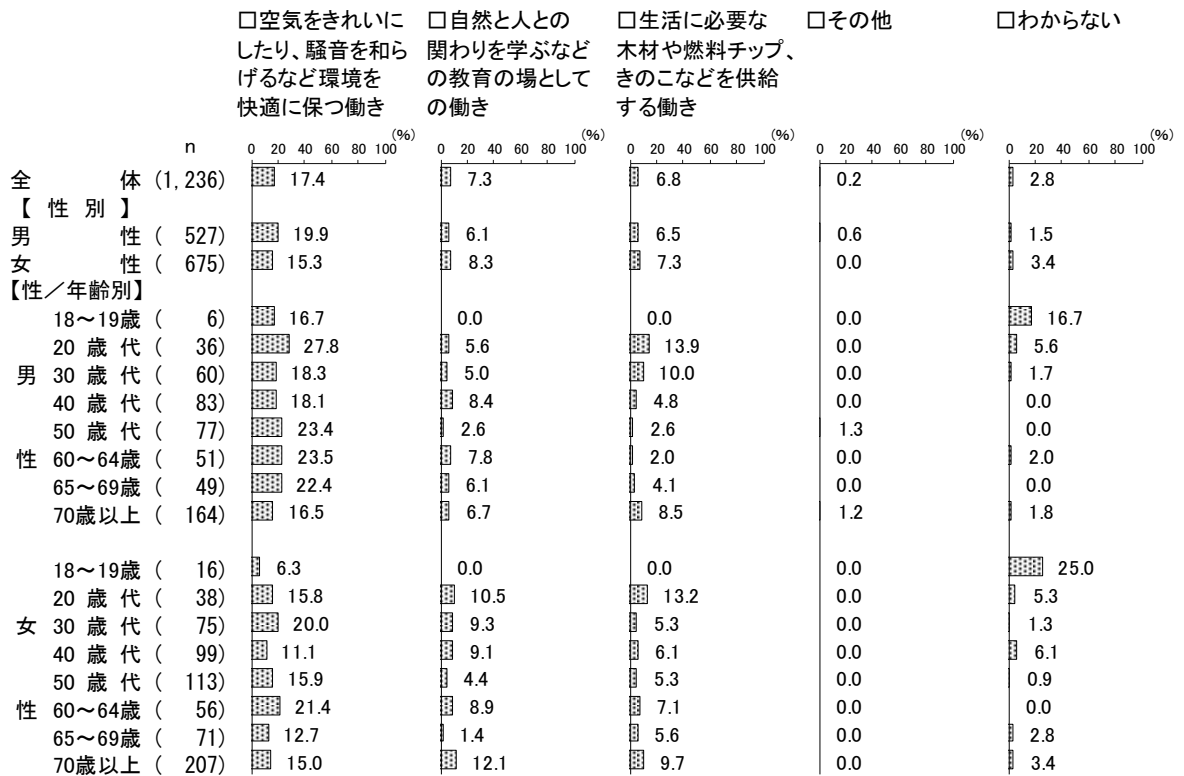
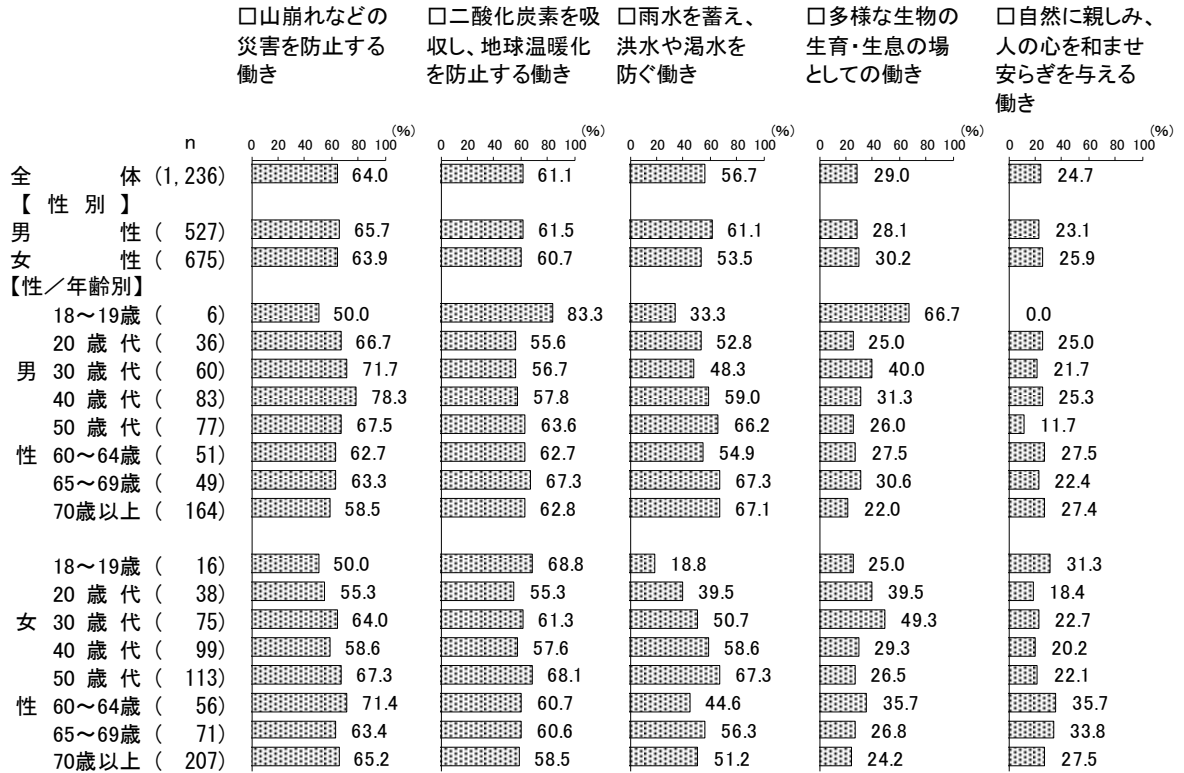
[n=1,236]

1	山崩れなどの災害を防止する働き	64.0%
2	雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き	56.7
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	61.1
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	17.4
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.8
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	29.0
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	24.7
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.3
9	その他	0.2
10	わからない	2.8
	(無回答)	2.8



全体で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(64.0%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(61.1%)、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」(56.7%)、「多様な生物の生育・生息の場としての働き」(29.0%)、「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」(24.7%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

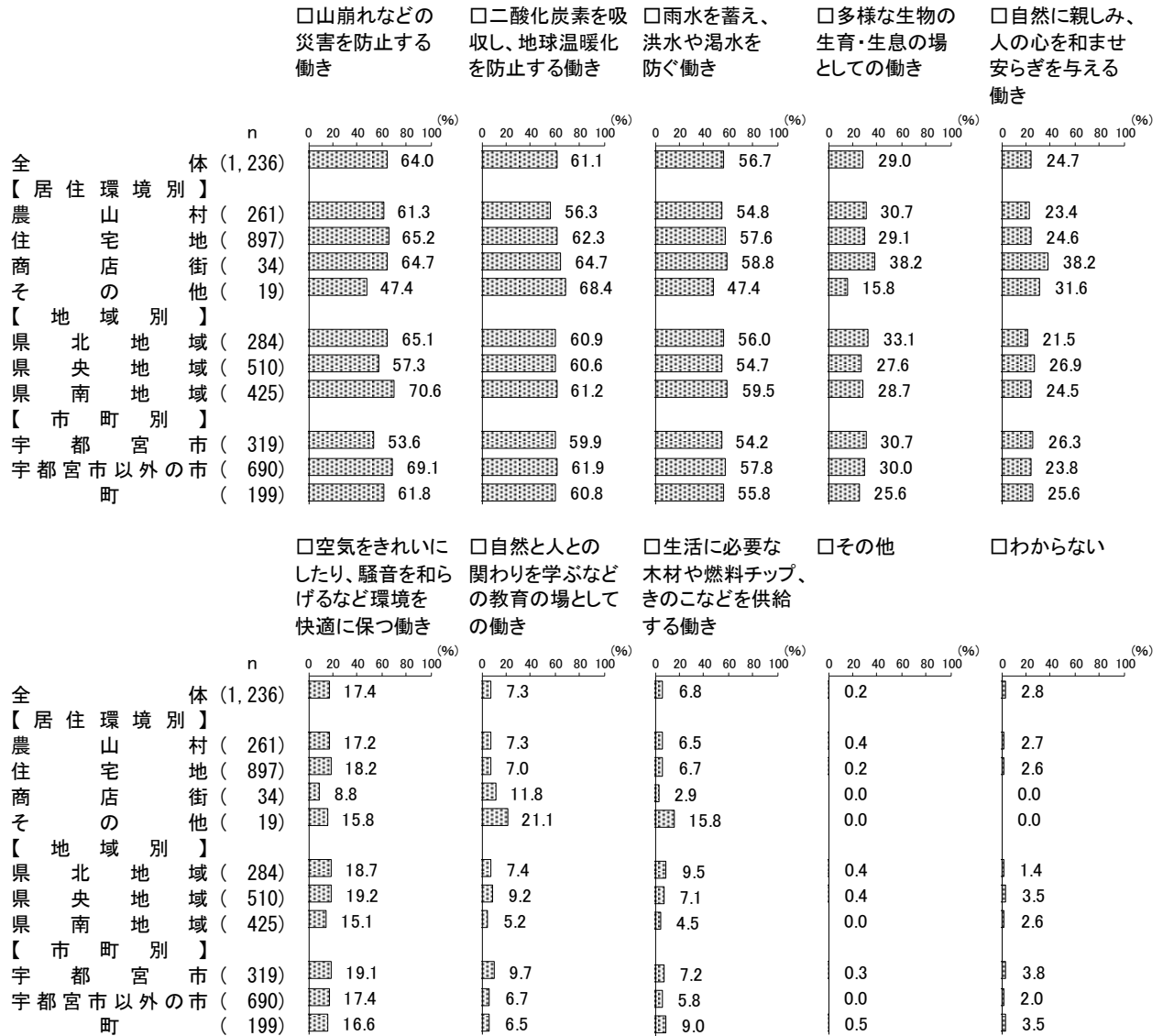


性別で見ると、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性〉(61.1%)が〈女性〉(53.5%)より7.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈男性40歳代〉が78.3%と高くなっている。「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉が67.3%、〈女性50歳代〉が67.3%、

〈男性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が49.3%、〈男性30歳代〉が40.0%、〈女性20歳代〉が39.5%と高くなっている。「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈女性60～64歳〉が35.7%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。

【居住環境別・地域別・市町別】



居住環境別でみると、「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈商店街〉が38.2%と高くなっている。

地域別でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈県南地域〉が70.6%と高くなっている。

市町別でみると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈宇都宮市以外の市〉が69.1%と高くなっている。



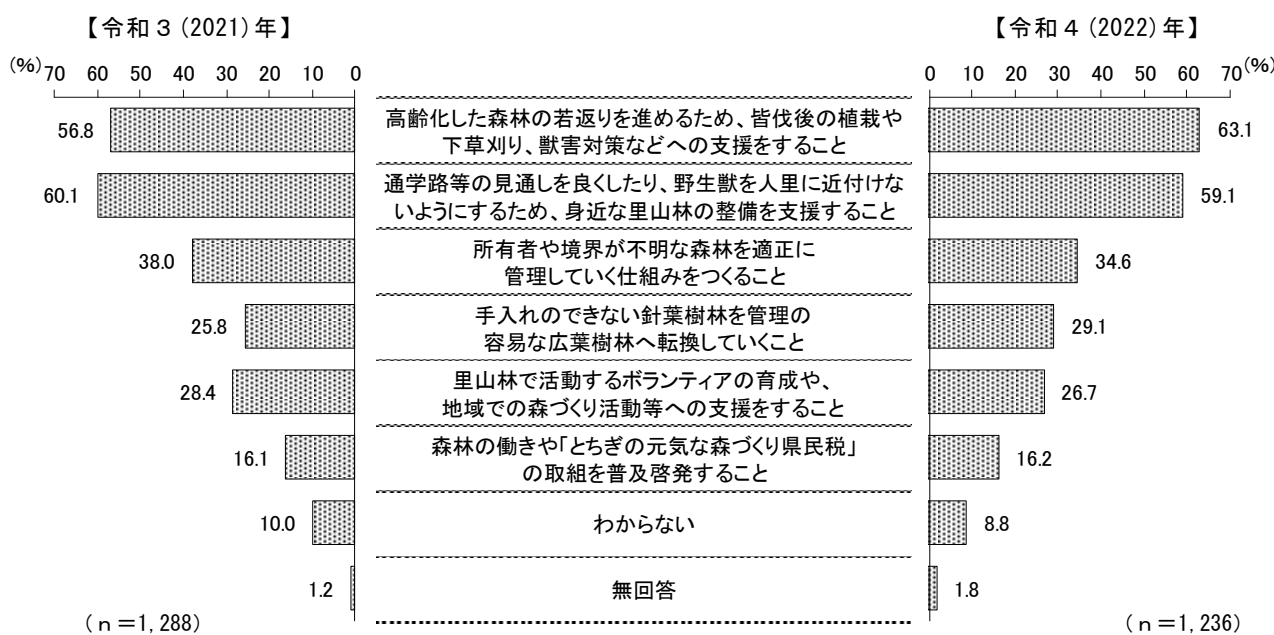
## (2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,236]

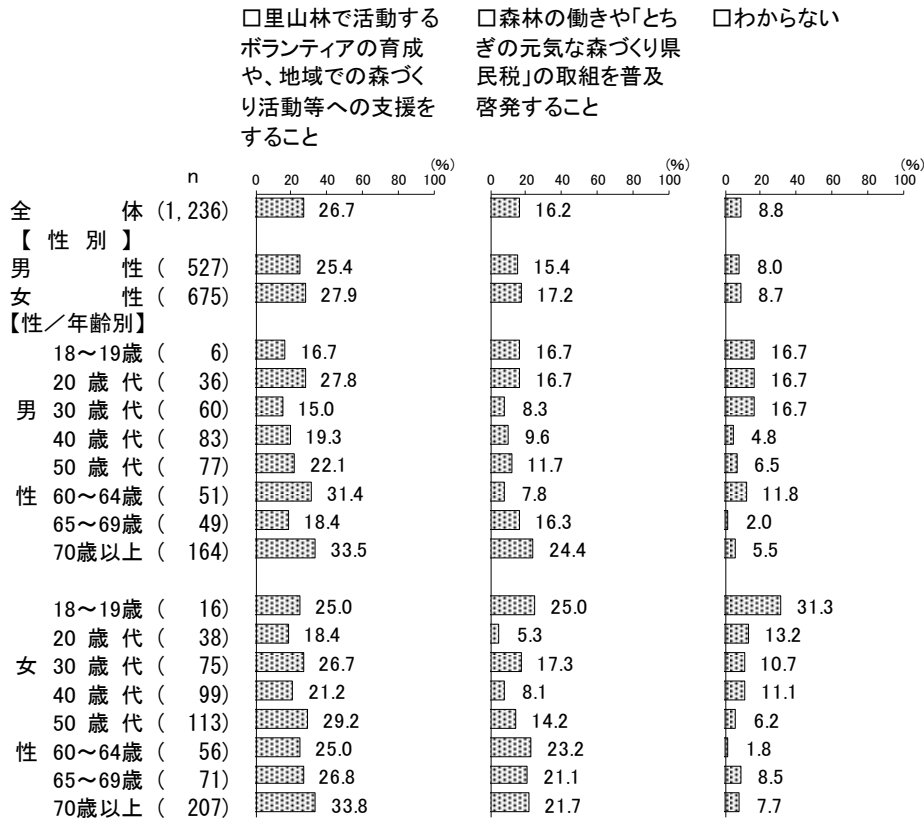
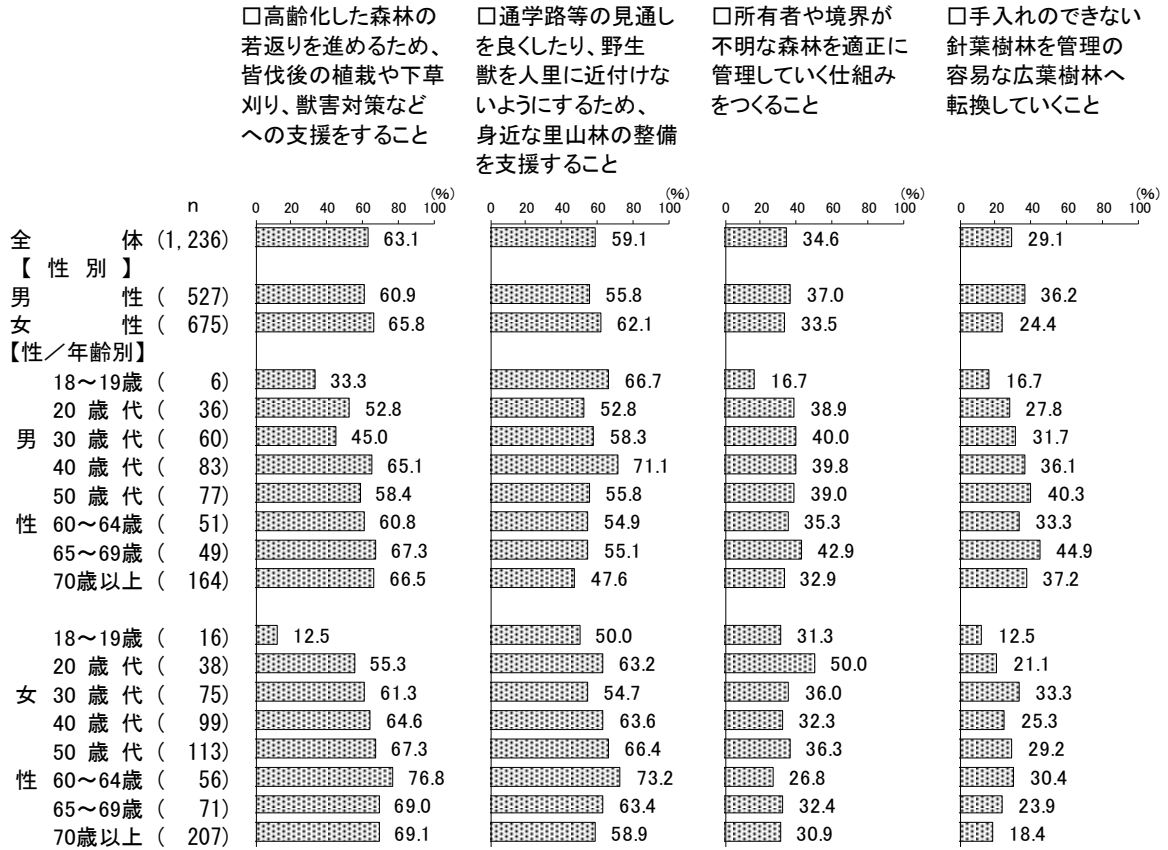
- |   |   |       |
|---|---|-------|
| 1 | 高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること       | 63.1% |
| 2 | 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと                    | 29.1  |
| 3 | 通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること | 59.1  |
| 4 | 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること             | 26.7  |
| 5 | 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること                     | 34.6  |
| 6 | 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること                  | 16.2  |
| 7 | わからない   | 8.8   |
|   | (無回答)   | 1.8   |



全体でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(63.1%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(59.1%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(34.6%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(29.1%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」(26.7%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」が6.3ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

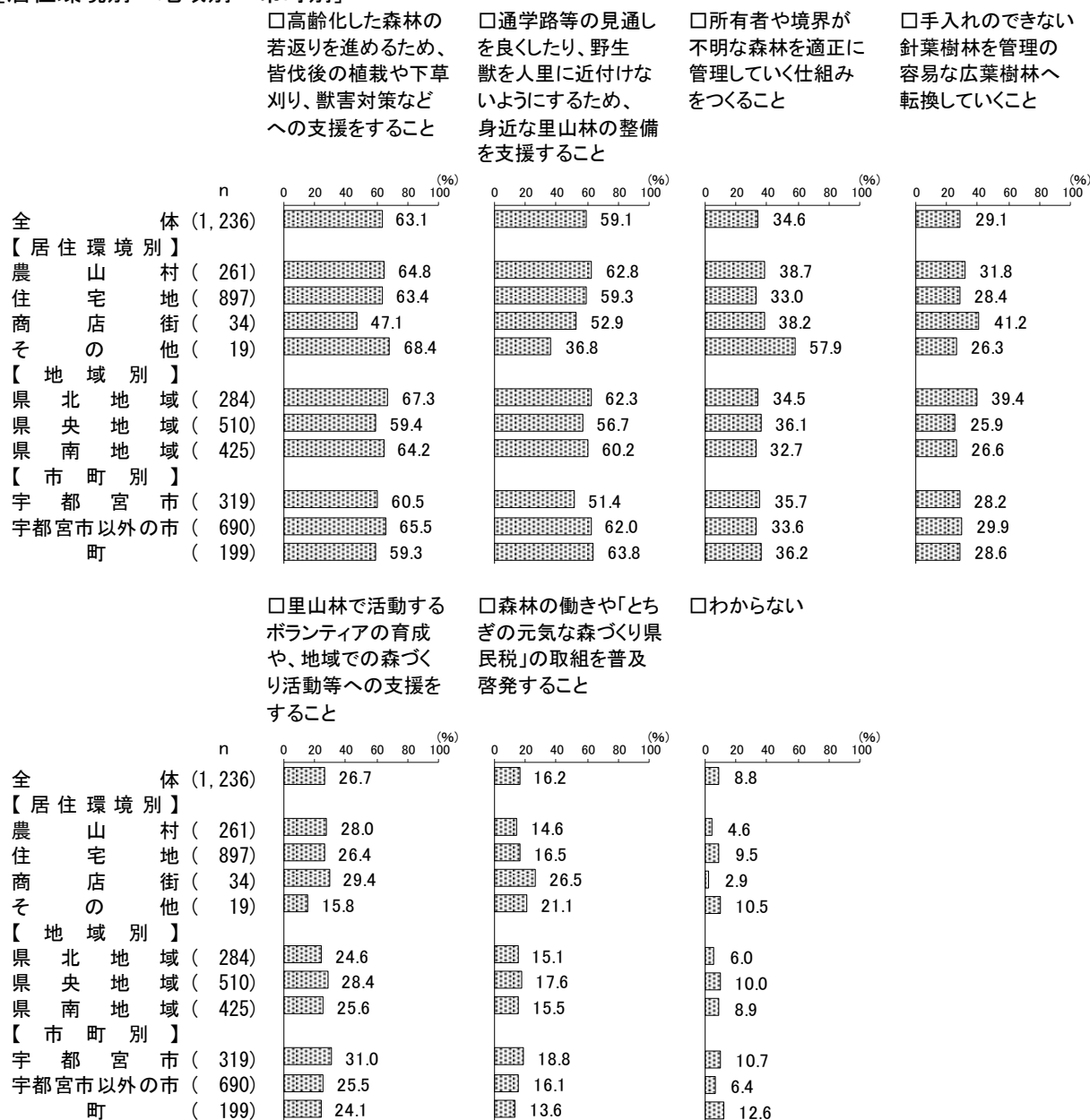


性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(36.2%)が〈女性〉(24.4%)より11.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齡化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策

などへの支援をすること」では〈女性60～64歳〉が76.8%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60～64歳〉が73.2%、〈男性40歳代〉が71.1%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈女性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性65～69歳〉が44.9%、〈男性50歳代〉が40.3%と高くなっている。

【居住環境別・地域別・市町別】



居住環境別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈商店街〉が41.2%と高くなっている。

地域別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈県北地域〉が39.4%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## 9 食品ロスの削減について

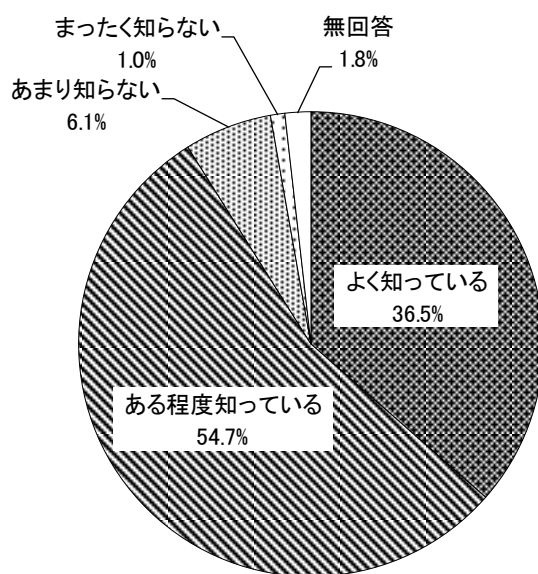
### (1) 食品ロスの問題の認知度

問26 あなたは、「食品ロス」(※)の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※ 食品ロスとは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものをいいます。

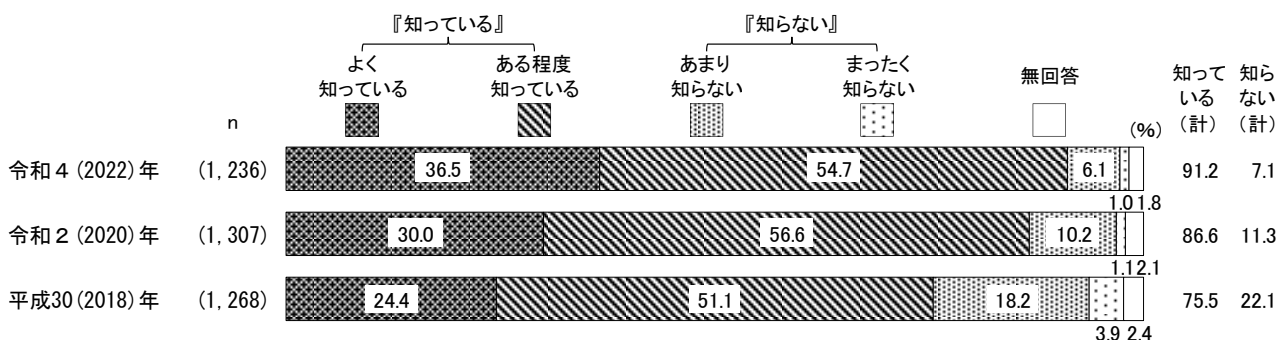
[n=1,236]

1 よく知っている	36.5%	3 あまり知らない	6.1%
2 ある程度知っている	54.7	4 まったく知らない	1.0
		(無回答)	1.8



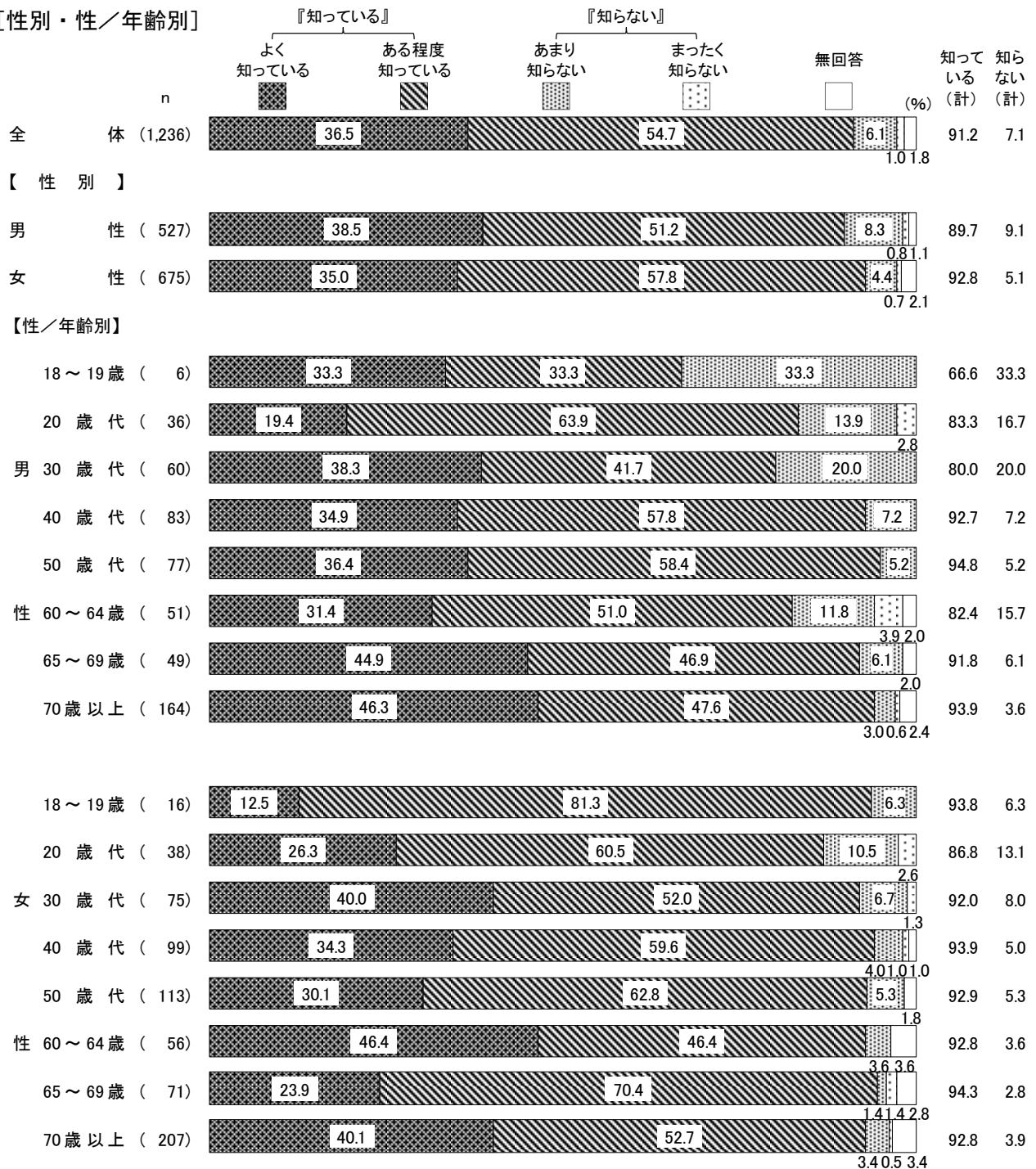
(n=1,236)

全体で見ると、「よく知っている」(36.5%)と「ある程度知っている」(54.7%)の2つを合わせた『知っている』(91.2%)が9割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、『知っている』が前回(令和2(2020)年)より4.6ポイント増加している。

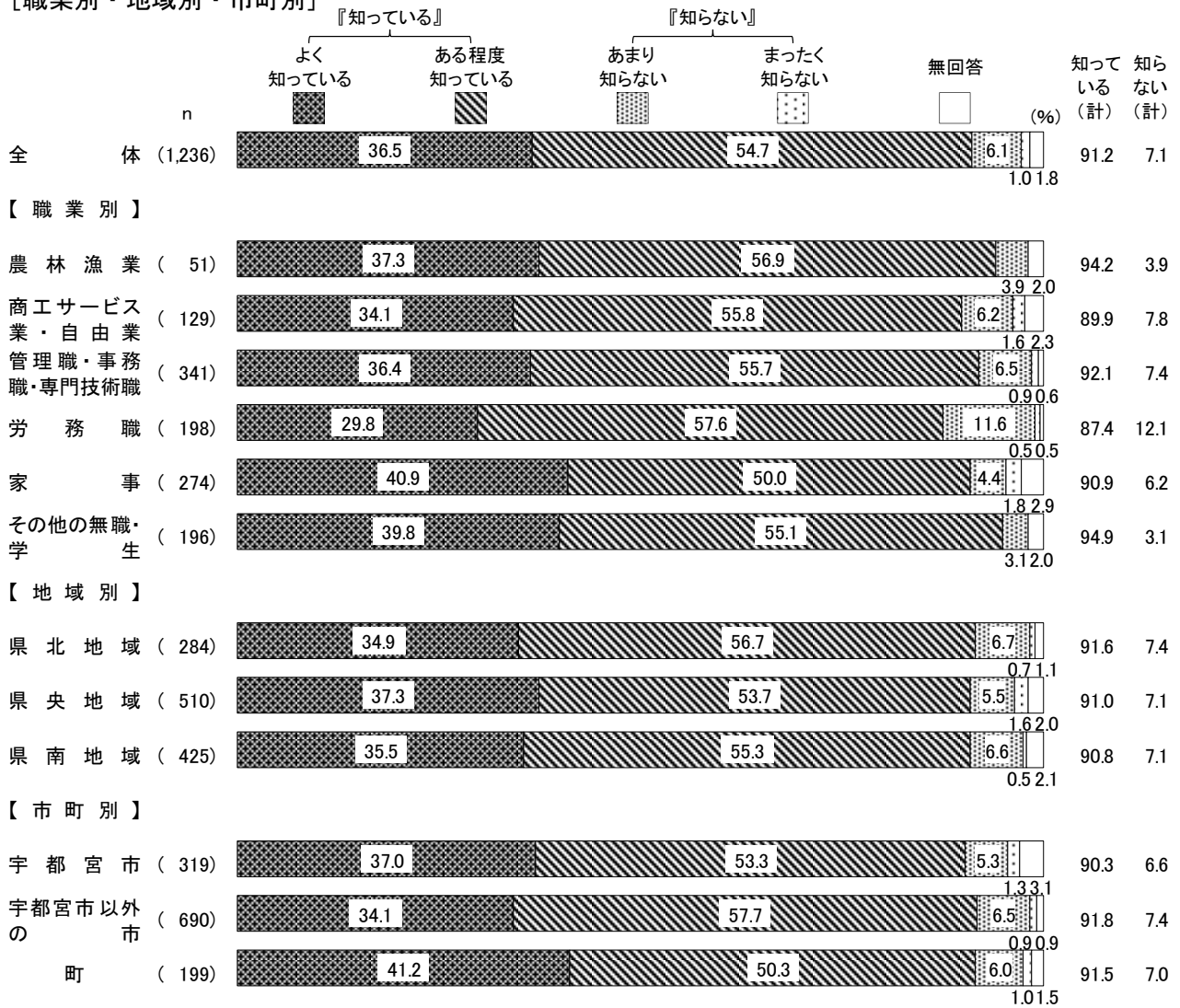
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『知っている』では〈女性〉(92.8%)が〈男性〉(89.7%)より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「よく知っている」では〈女性60～64歳代〉が46.4%、〈男性70歳以上〉が46.3%と高くなっている。一方、『知らない』では〈男性30歳代〉が20.0%、〈男性20歳代〉が16.7%、〈男性60～64歳代〉が15.7%と高くなっている。

【職業別・地域別・市町別】



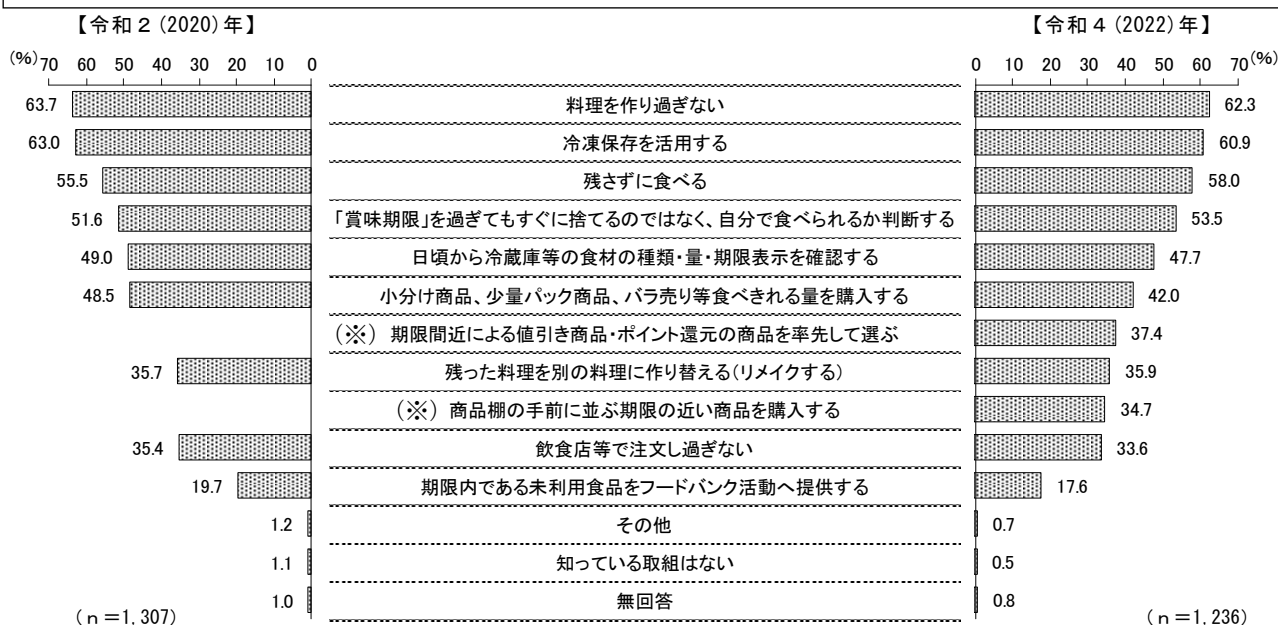
職業別で見ると、『知らない』では〈労務職〉が12.1%と高くなっている。  
 地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 食品ロスが発生させないための取組で知っていること

問27 あなたが知っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	料理を作り過ぎない	62.3%
2	残さずに食べる	58.0
3	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	35.9
4	冷凍保存を活用する	60.9
5	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	47.7
6	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	53.5
7	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する	42.0
8	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	34.7
9	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	37.4
10	飲食店等で注文し過ぎない	33.6
11	期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する	17.6
12	その他	0.7
13	知っている取組はない	0.5
	(無回答)	0.8



(※)「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」、「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」は、今回調査で追加した選択肢である。

全体で見ると、「料理を作り過ぎない」(62.3%)が6割強で最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」(60.9%)、「残さずに食べる」(58.0%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(53.5%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

【性別・性／年齢別】  
(上位10項目)

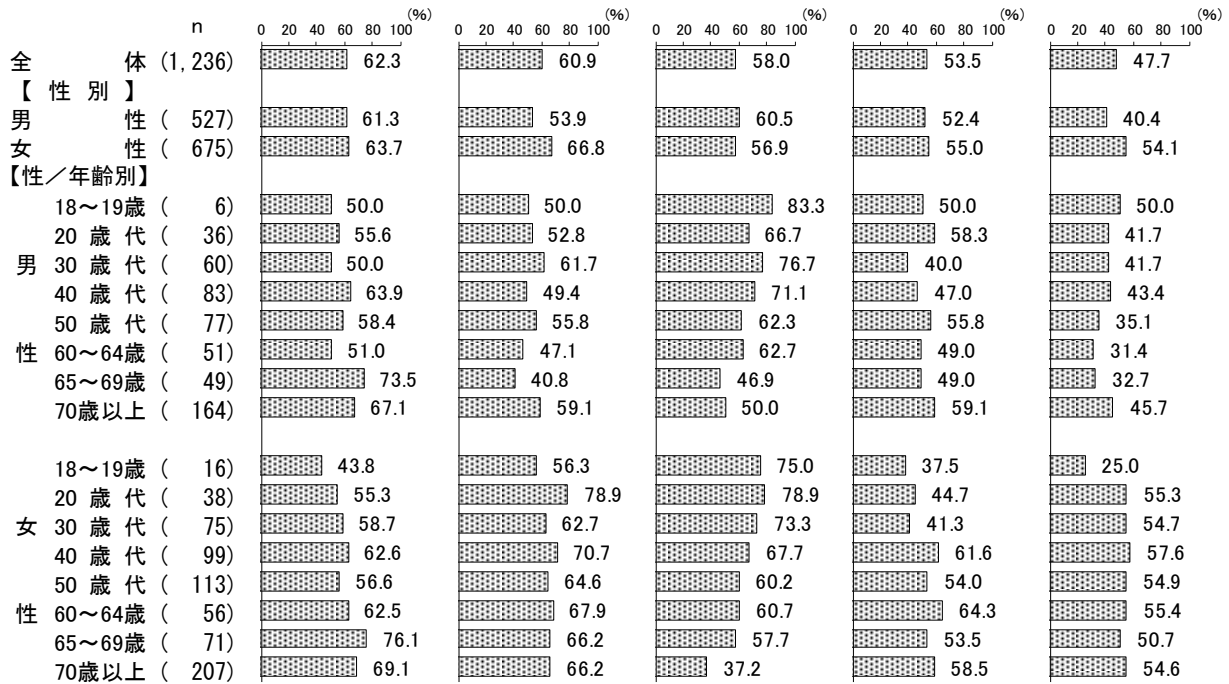
□料理を作り過ぎない

□冷凍保存を活用する

□残さずに食べる

□「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する

□日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する



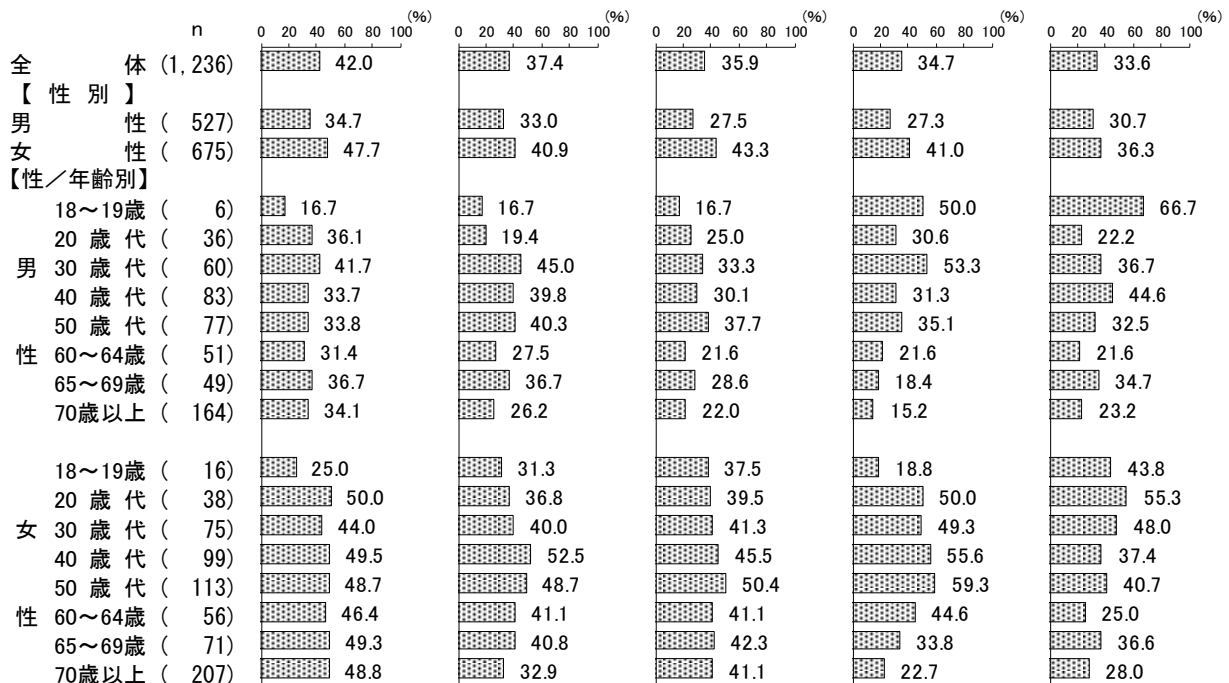
□小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する

□期間間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ

□残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)

□商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する

□飲食店等で注文し過ぎない



性別で見ると、「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)」では〈女性〉(43.3%)が〈男性〉(27.5%)より15.8ポイント高くなっている。

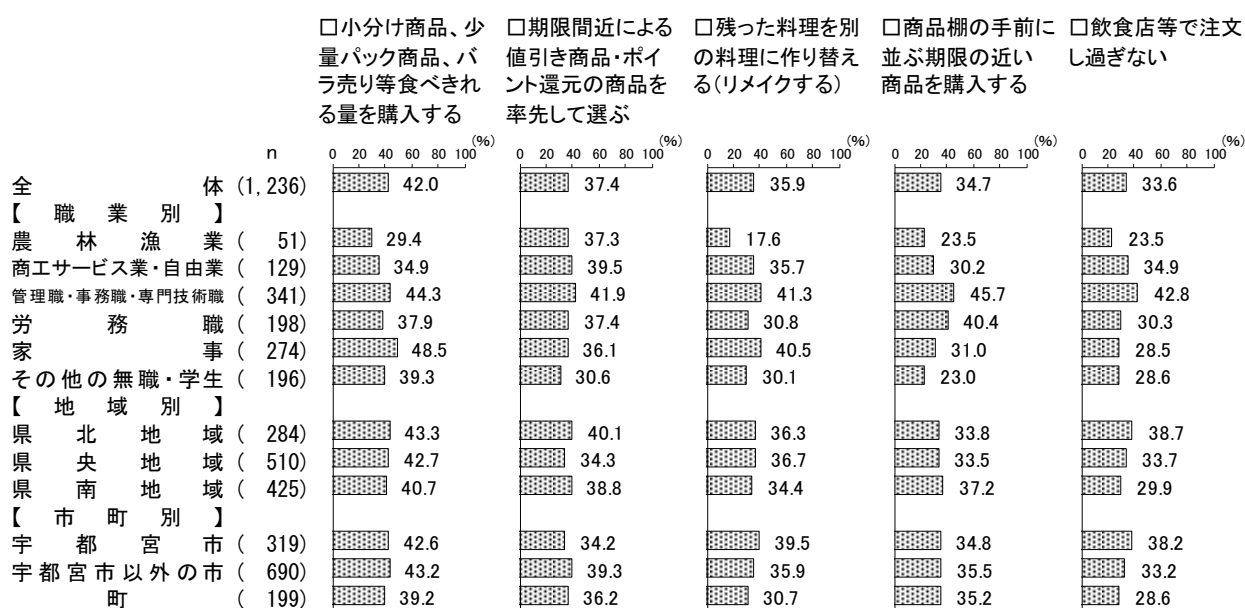
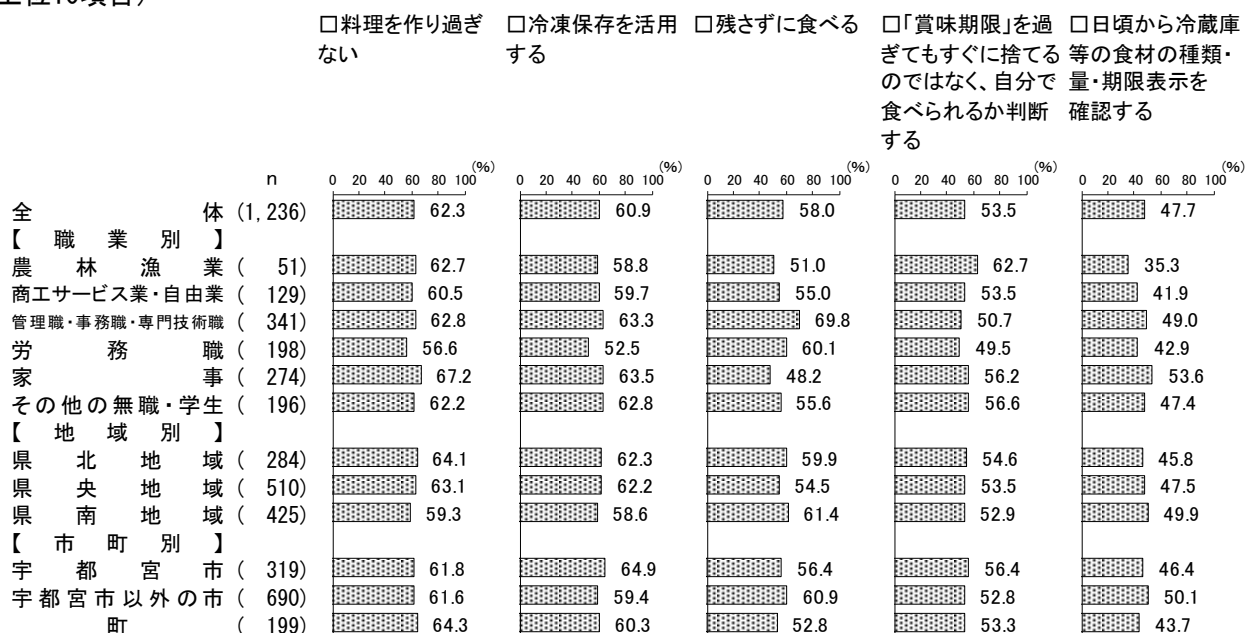
性／年齢別で見ると、「料理を作り過ぎない」では〈女性65～69歳〉が76.1%、〈男性65～69歳〉が73.5%と高くなっている。「冷凍保存を活用する」では〈女性20歳代〉が78.9%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈女性20歳代〉が78.9%、〈男性30歳代〉が76.7%、〈女性30歳代〉が73.3%と高くなって



いる。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性60～64歳〉が64.3%、〈女性40歳代〉が61.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「残さずに食べる」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が69.8%と高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈農林漁業〉が35.3%と低くなっている。「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が45.7%と高くなっている。「飲食店等で注文し過ぎない」では、〈管理職・事務職・専門技術職〉が42.8%と高くなっている。

地域別でみると、「飲食店等で注文し過ぎない」では、〈北地域〉が38.7%と高くなっている。

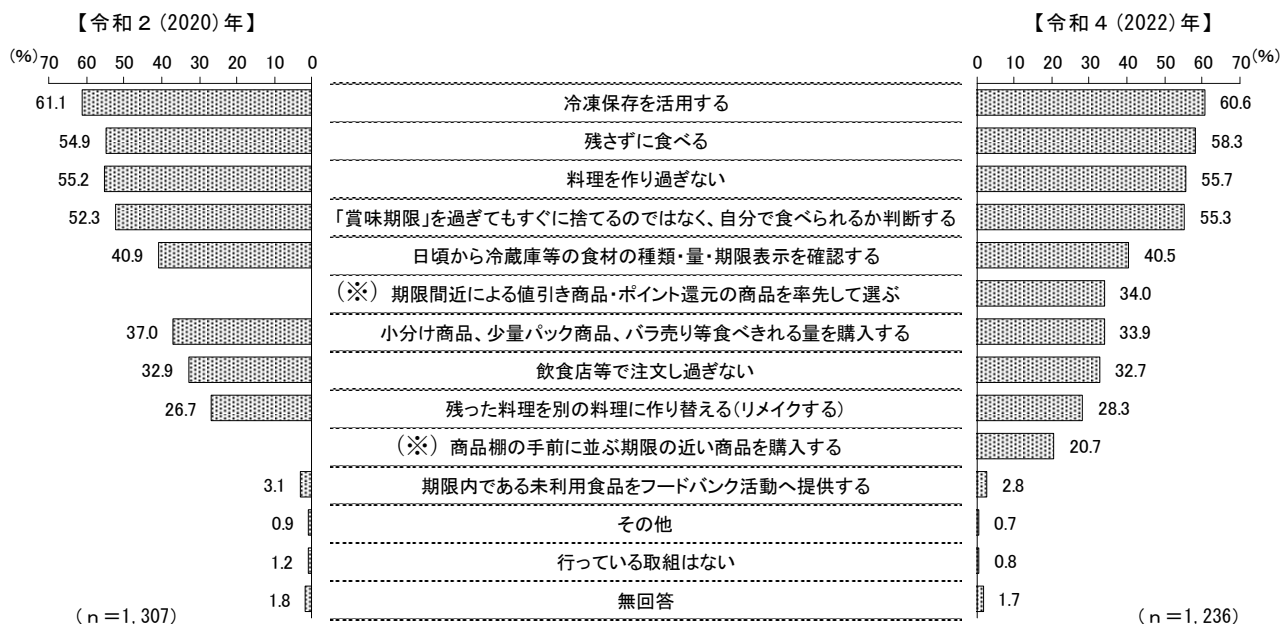
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 食品ロスが発生させないために現在取り組んでいること

問28 あなたが現在行っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	料理を作り過ぎない	55.7%
2	残さずに食べる	58.3
3	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	28.3
4	冷凍保存を活用する	60.6
5	日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	40.5
6	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	55.3
7	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する	33.9
8	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	20.7
9	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	34.0
10	飲食店等で注文し過ぎない	32.7
11	期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する	2.8
12	その他	0.7
13	知っている取組はない	0.8
	(無回答)	1.7



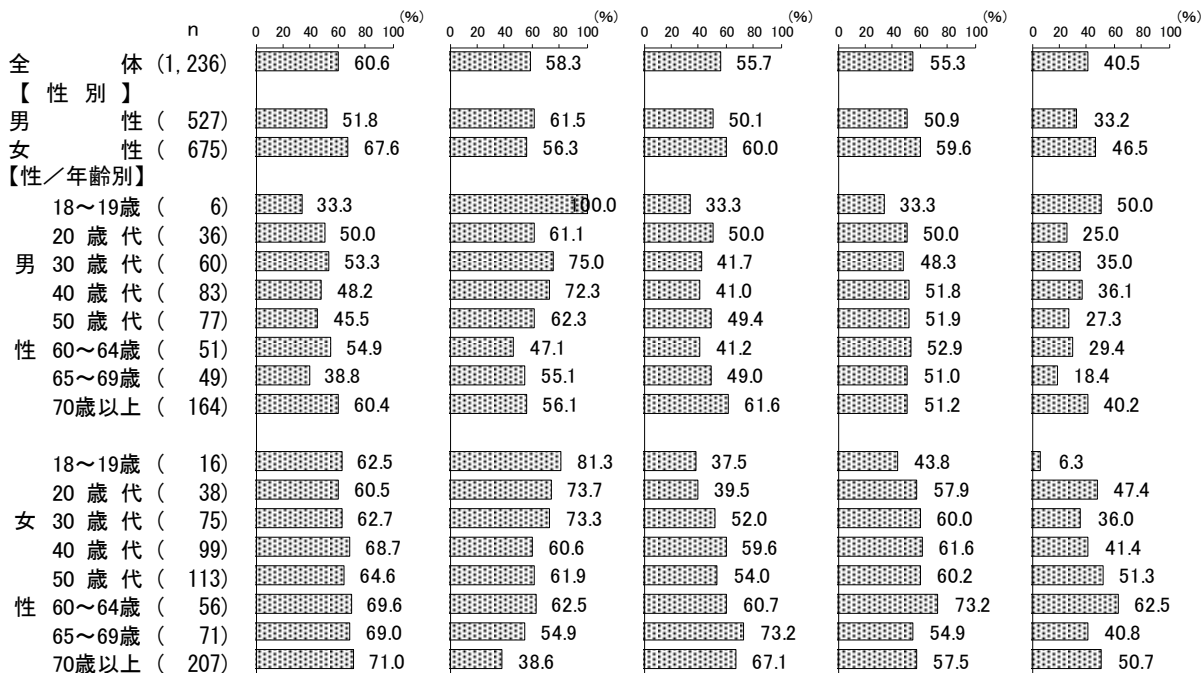
(※) 「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」、「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」は、今回調査で追加した選択肢である。

全体で見ると、「冷凍保存を活用する」(60.6%)が約6割で最も高く、次いで「残さずに食べる」(58.3%)、「料理を作り過ぎない」(55.7%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(55.3%)の順となっている。

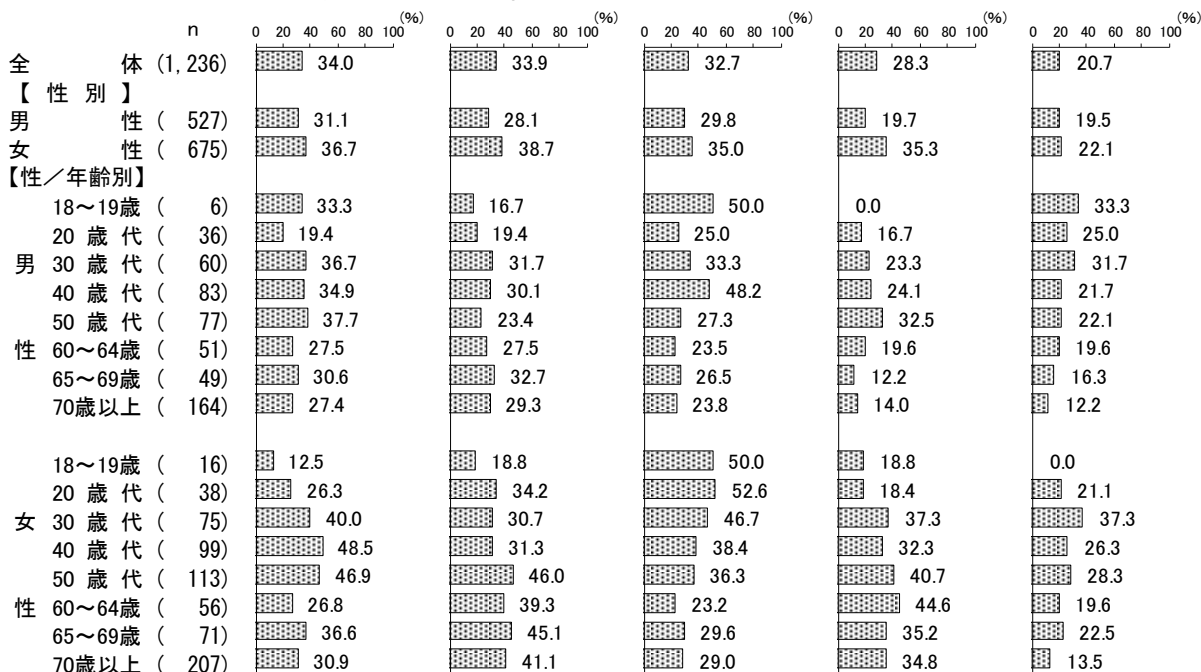
前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

□冷凍保存を活用する □残さずに食べる □料理を作り過ぎない □「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てる □日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を食べられるか判断確認する



□期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ □小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれぬ量を購入する □飲食店等で注文し過ぎない □残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする) □商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する



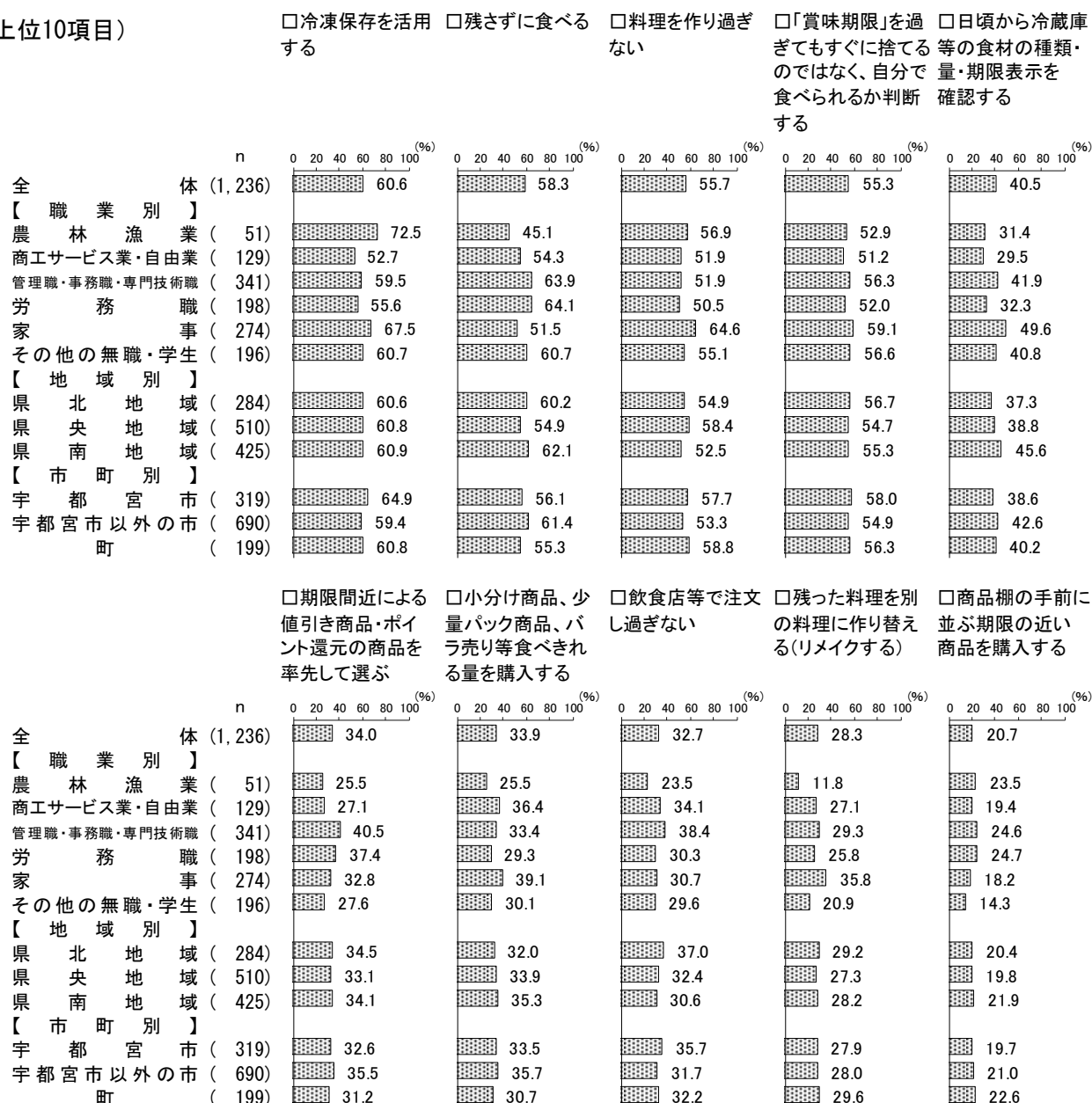
性別で見ると、「冷凍保存を活用する」では〈女性〉(67.6%)が〈男性〉(51.8%)より15.8ポイント高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)」では〈女性〉(35.3%)が〈男性〉(19.7%)より15.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「冷凍保存を活用する」では〈女性70歳以上〉が71.0%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈男性30歳代〉が75.0%、〈女性20歳代〉が73.7%、〈女性30歳代〉が73.3%と高く

なっている。「料理を作り過ぎない」では〈女性65～69歳〉が73.2%、〈女性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性60～64歳〉が73.2%と高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性60～64歳〉が62.5%と高くなっている。「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ」では〈女性40歳代〉が48.5%、〈女性50歳代〉が46.9%と高くなっている。「飲食店等で注文し過ぎない」では、〈女性20歳代〉が52.6%、〈男性40歳代〉が48.2%、〈女性30歳代〉が46.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別で見ると、「冷凍保存を活用する」では〈農林漁業〉が72.5%と高くなっている。「料理を作り過ぎない」では〈家事〉が64.6%と高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈家事〉が49.6%と高くなっている

地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

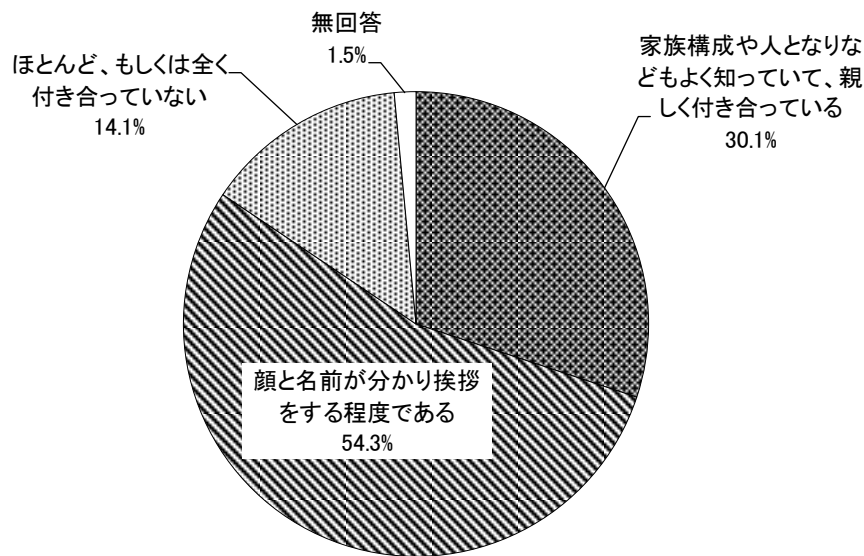
## 10 地域のつながりについて

### (1) 現在のご近所との関係

問29 あなたは現在、ご近所（隣近所など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。

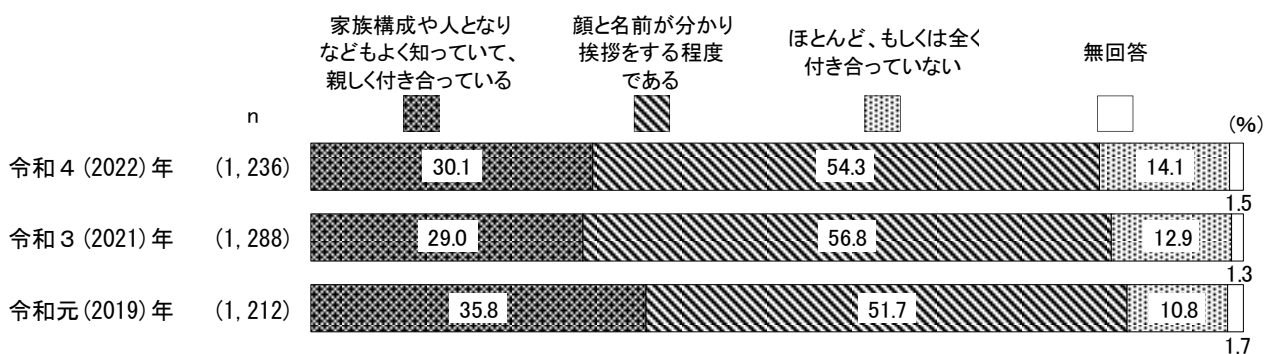
[n=1,236]

1	家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている	30.1%
2	顔と名前が分かり挨拶をする程度である	54.3
3	ほとんど、もしくは全く付き合っていない	14.1
	(無回答)	1.5



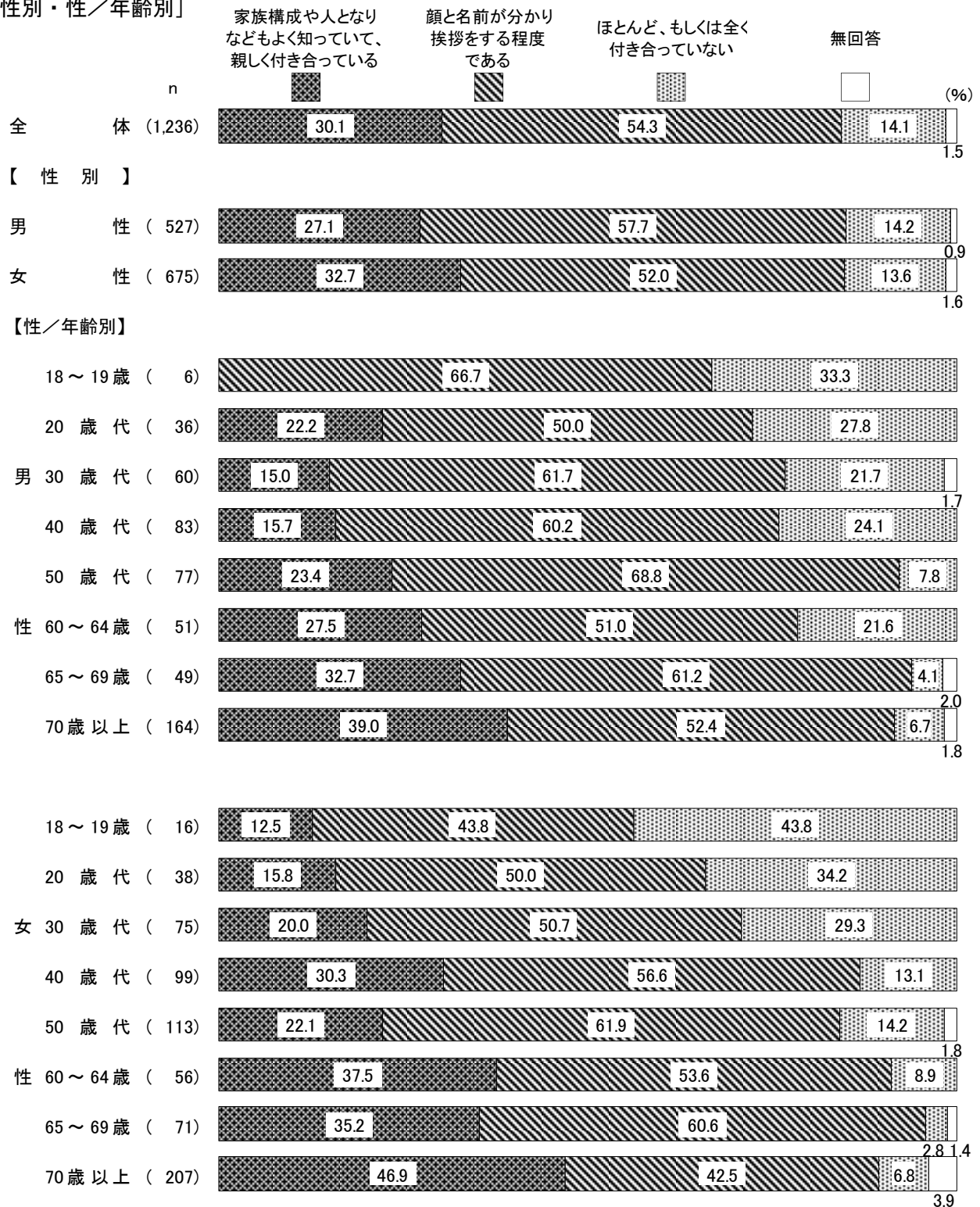
(n=1,236)

全体でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」（30.1%）が約3割、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」（54.3%）が5割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回（令和3（2021）年）と大きな傾向の違いはみられない。

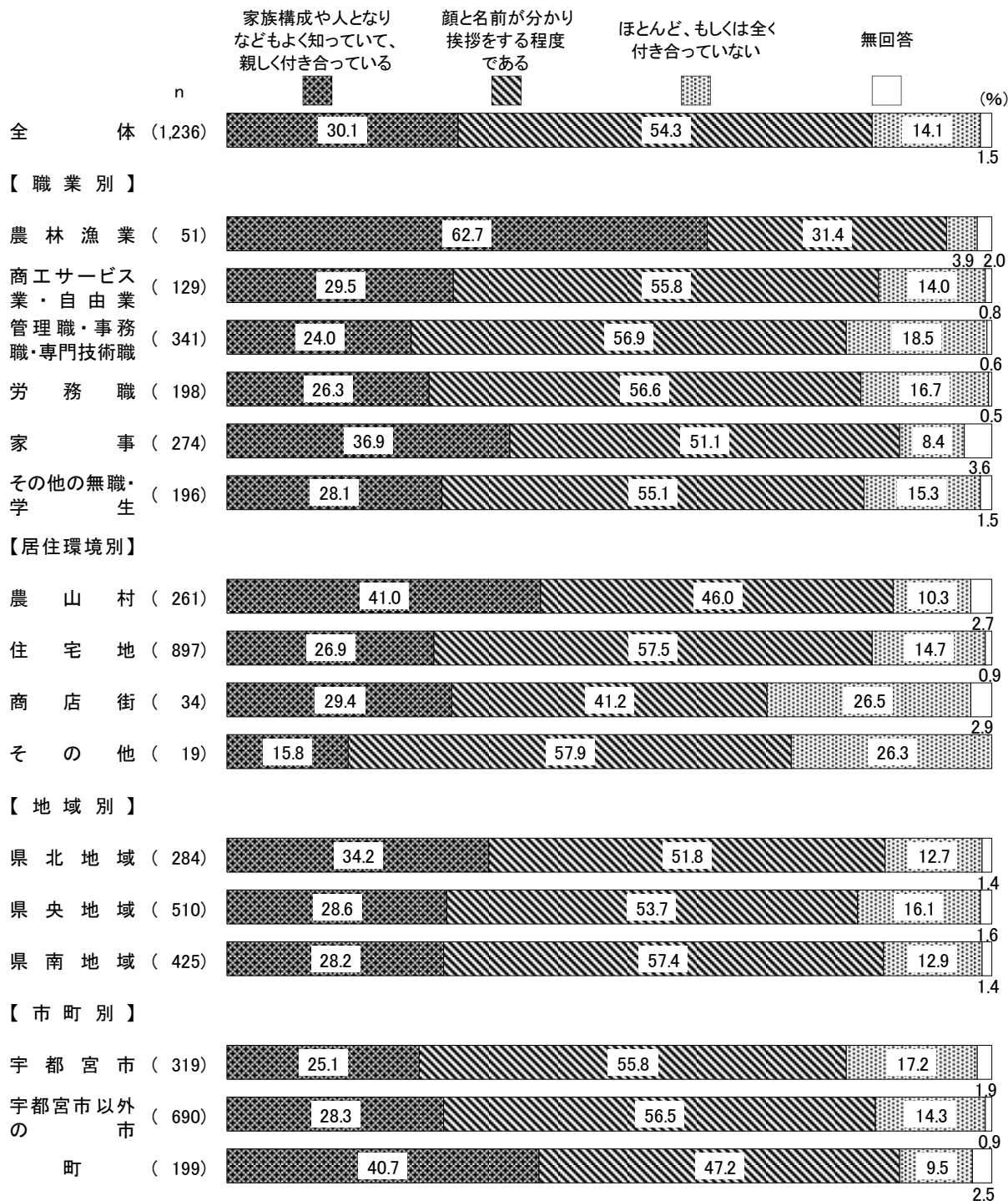
【性別・性／年齢別】



性別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉(32.7%)が〈男性〉(27.1%)より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が46.9%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性50歳代〉が68.8%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈女性20歳代〉が34.2%、〈女性30歳代〉が29.3%、〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農林漁業〉が62.7%、〈家事〉が36.9%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が18.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農山村〉が41.0%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈商店街〉が26.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

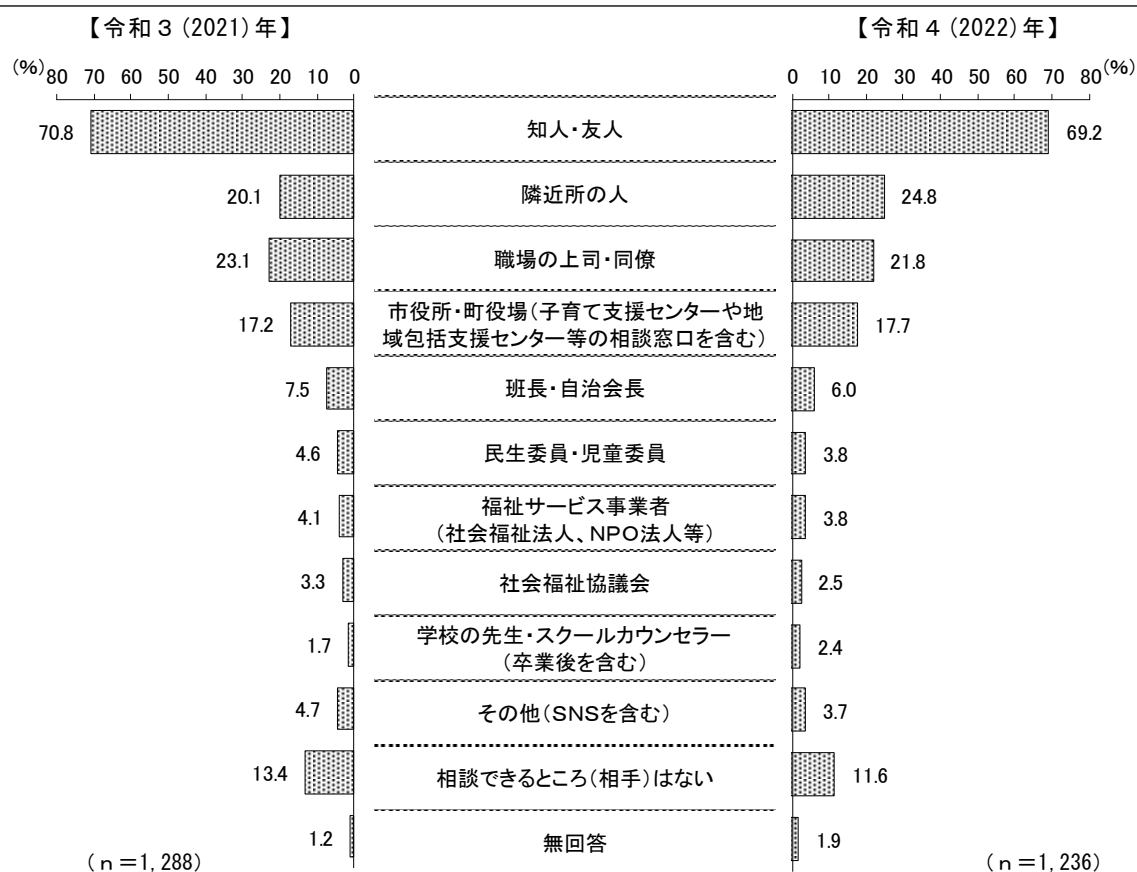
市町別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈町〉が40.7%と高くなっている。

## (2) 日常生活で困ったときに相談できるところ

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 236]

1	知人・友人	69.2%
2	隣近所の人	24.8
3	民生委員・児童委員	3.8
4	班長・自治会長	6.0
5	社会福祉協議会	2.5
6	市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	17.7
7	福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO法人等）	3.8
8	学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）	2.4
9	職場の上司・同僚	21.8
10	その他（SNSを含む）	3.7
11	相談できるところ（相手）はない	11.6
	（無回答）	1.9

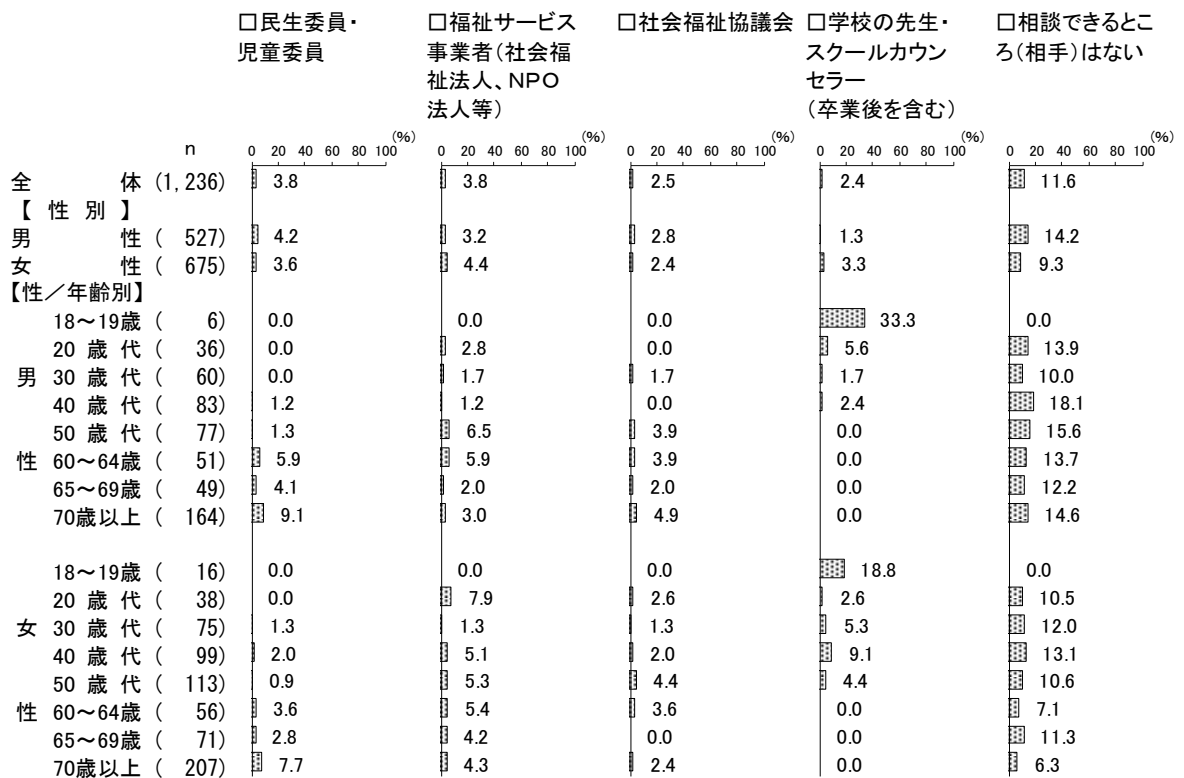
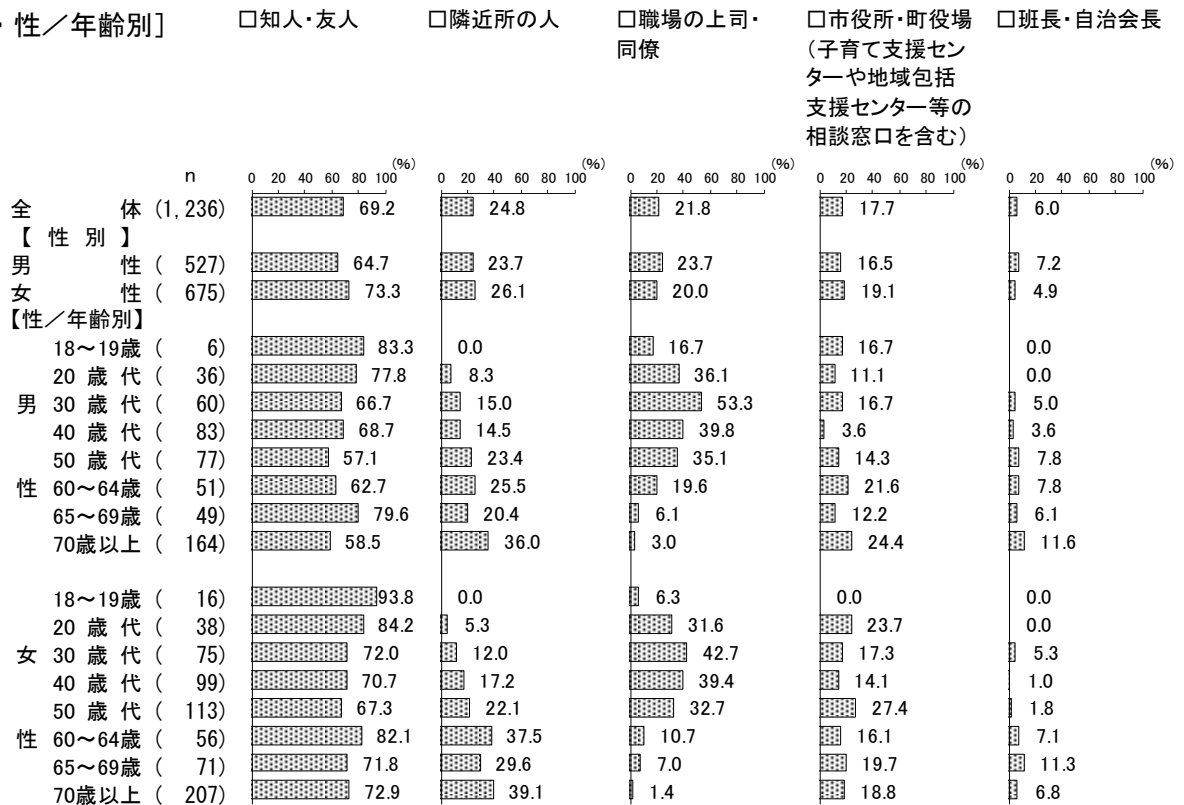


全体でみると、「知人・友人」(69.2%)が7割弱で最も高くなっている。以下「隣近所の人」(24.8%)、「職場の上司・同僚」(21.8%)、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」(17.7%)の順となっている。

前回（令和3(2021)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。



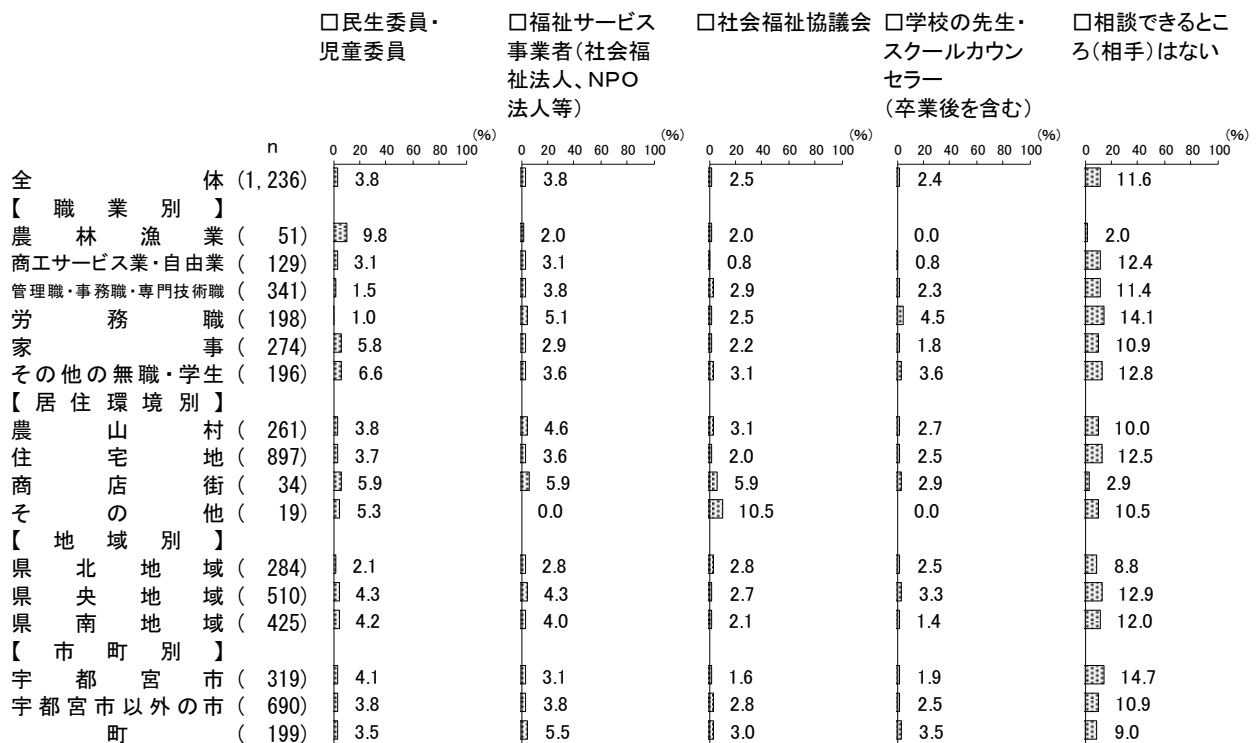
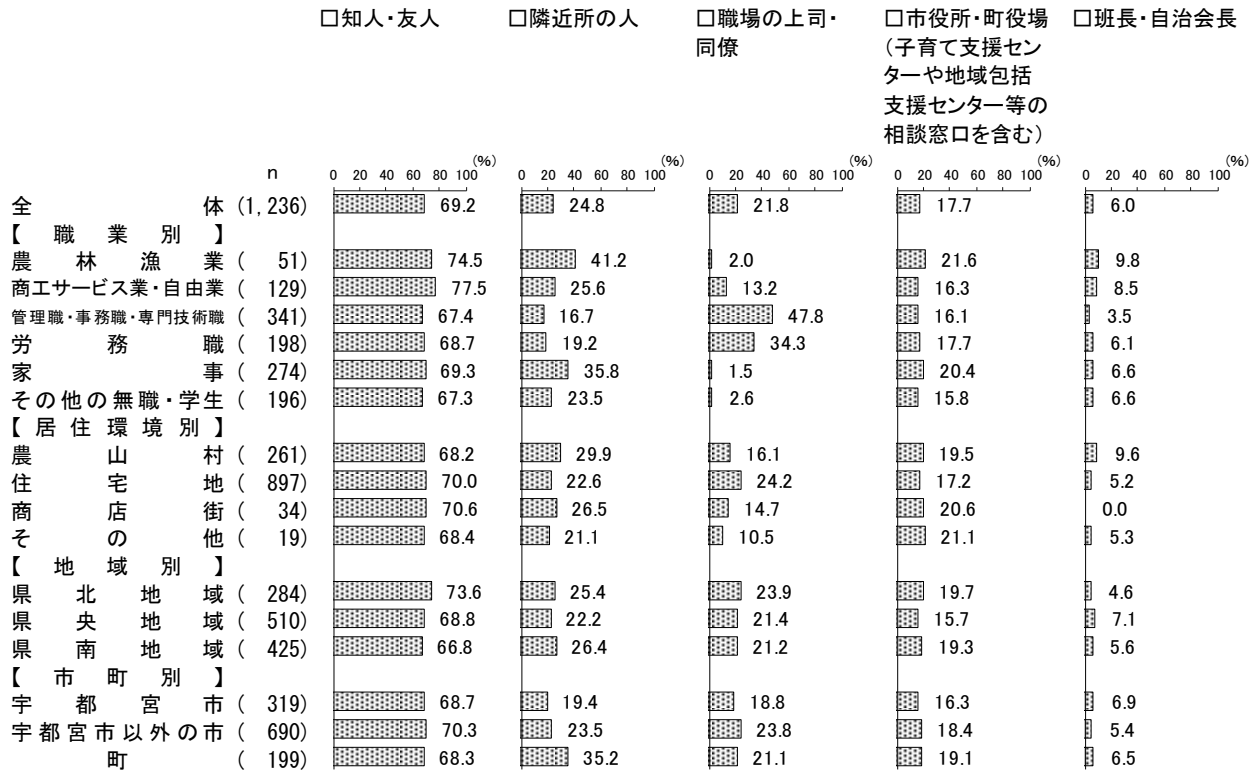
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「知人・友人」では〈女性〉(73.3%)が〈男性〉(64.7%)より8.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知人・友人」では〈女性20歳代〉が84.2%、〈女性60～64歳〉が82.1%、〈男性65～69歳〉が79.6%と高くなっている。「隣近所の人」では〈女性70歳以上〉が39.1%、〈女性60～64歳〉が37.5%、〈男性70歳以上〉が36.0%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が53.3%、〈女性30歳代〉が42.7%、〈男性40歳代〉が39.8%、〈女性40歳代〉が39.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「隣近所の人」では〈農林漁業〉が41.2%、〈家事〉が35.8%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が47.8%、〈労務職〉が34.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「隣近所の人」では〈農山村〉が29.9%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「隣近所の人」では〈町〉が35.2%と高くなっており、一方、〈宇都宮市〉が19.4%と低くなっている。

## 11 ヤングケアラーについて

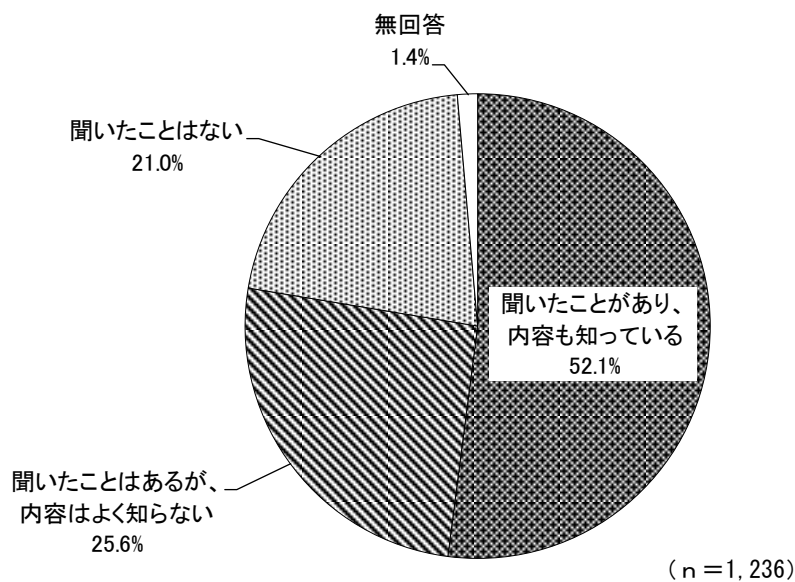
### (1) ヤングケアラーという言葉の認知度

問31 あなたは、「ヤングケアラー」(※)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※ 「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをいいます。

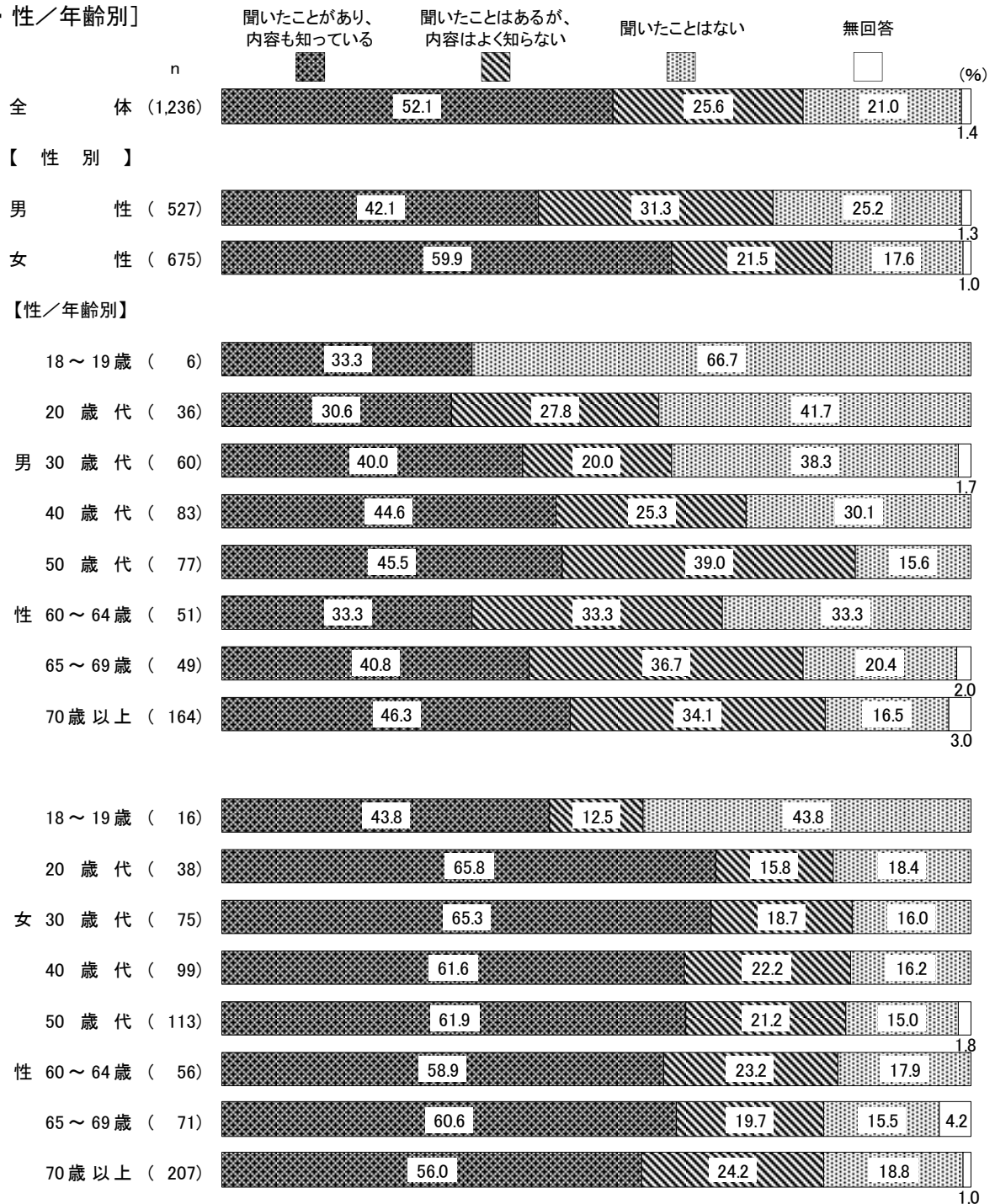
[n=1,236]

1	聞いたことがあります、内容も知っている	52.1%
2	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	25.6
3	聞いたことはない	21.0
	(無回答)	1.4



全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」(52.1%)が5割強となっている。一方、「聞いたことはない」(21.0%)が2割強となっている。

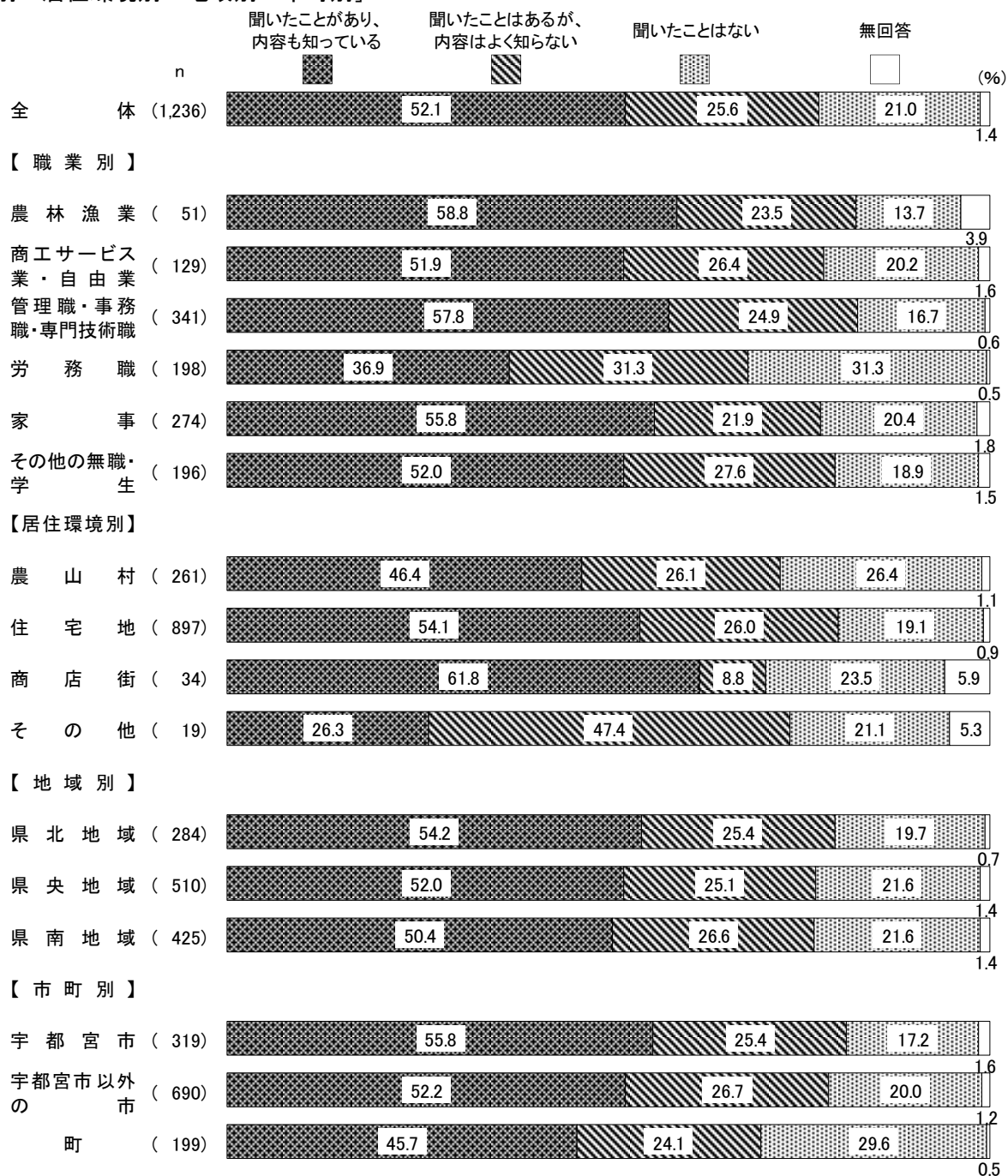
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(42.1%)より17.8ポイント高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性〉(31.3%)が〈女性〉(21.5%)より9.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性20歳代〉が65.8%、〈女性30歳代〉が65.3%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性50歳代〉が39.0%、〈男性65～69歳〉が36.7%と高くなっている。「聞いたことはない」では〈男性20歳代〉が41.7%、〈男性30歳代〉が38.3%、〈男性60～64歳〉が33.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「聞いたことはない」では〈労務職〉が31.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈商店街〉が61.8%と高くなっている。「聞いたことはない」では〈農山村〉が26.4%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

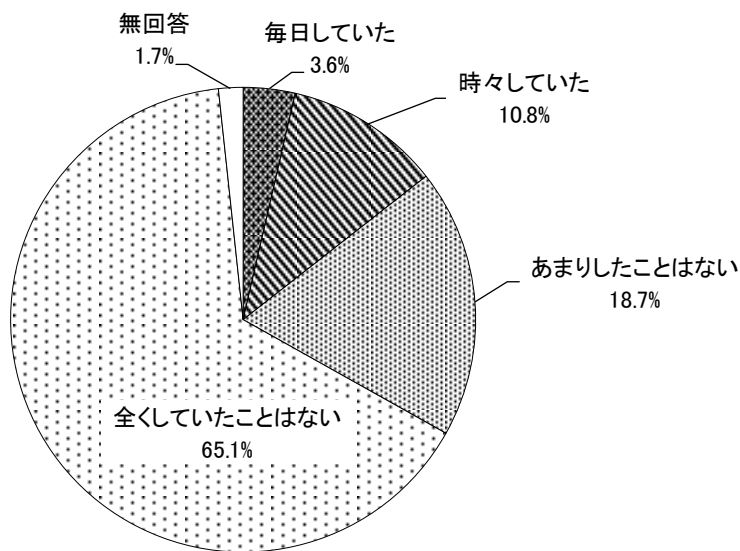
市町別でみると、「聞いたことはない」では〈町〉が29.6%と高くなっている。

## (2) ヤングケアラーの実態（介護や世話）

問32 あなたは、18歳に至るまでの間に、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などをしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

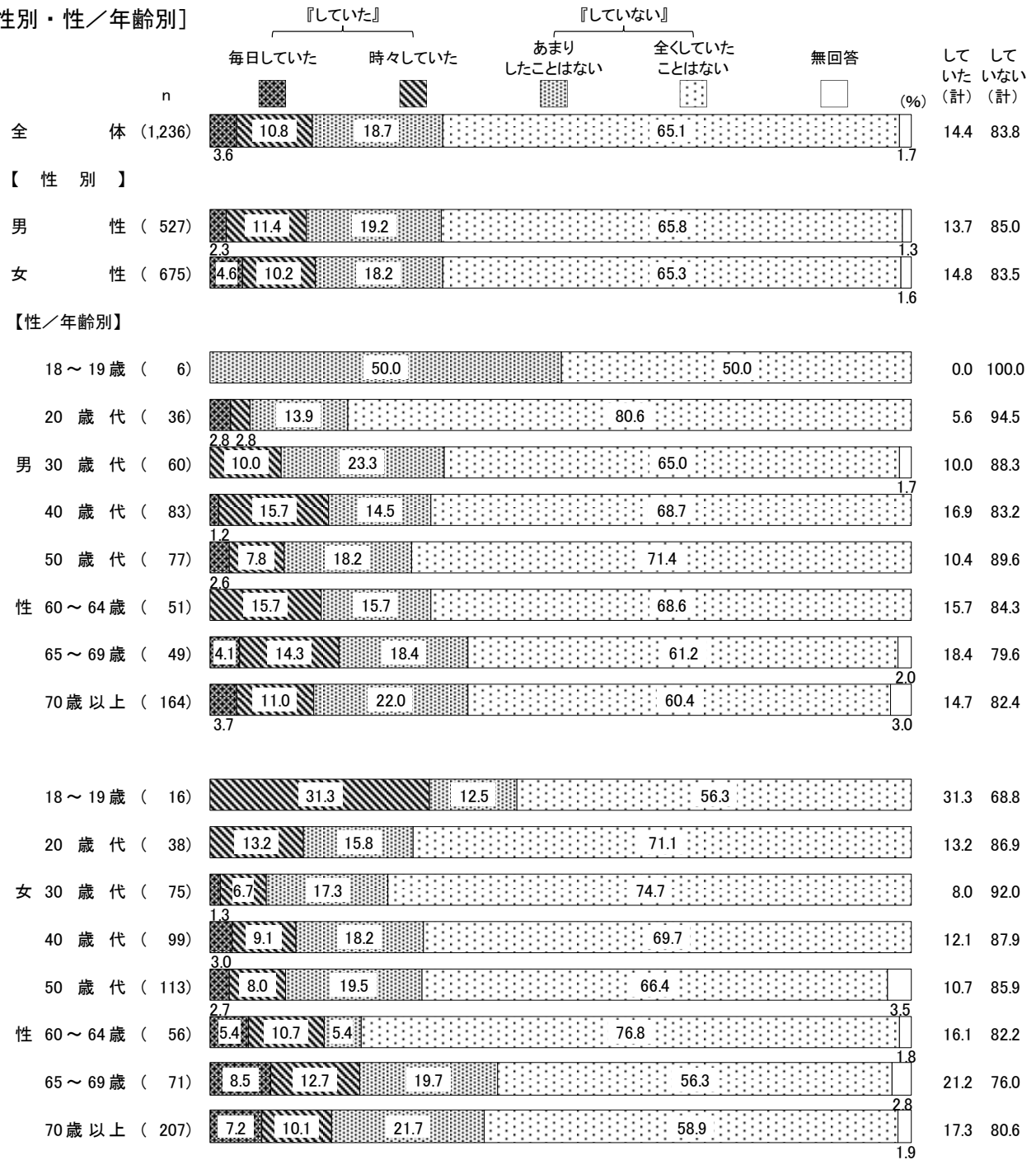
1	毎日していた	3.6%	3	あまりしたことはない	18.7%
2	時々していた	10.8	4	全くしていたことはない	65.1
				(無回答)	1.7



(n=1,236)

全体でみると、「毎日していた」(3.6%)と「時々していた」(10.8%)の2つを合わせた『していた』(14.4%)が1割台半ば近くとなっている。一方、「あまりしたことはない」(18.7%)と「全くしていたことはない」(65.1%)の2つを合わせた『していない』(83.8%)が8割台半ば近くとなっている。

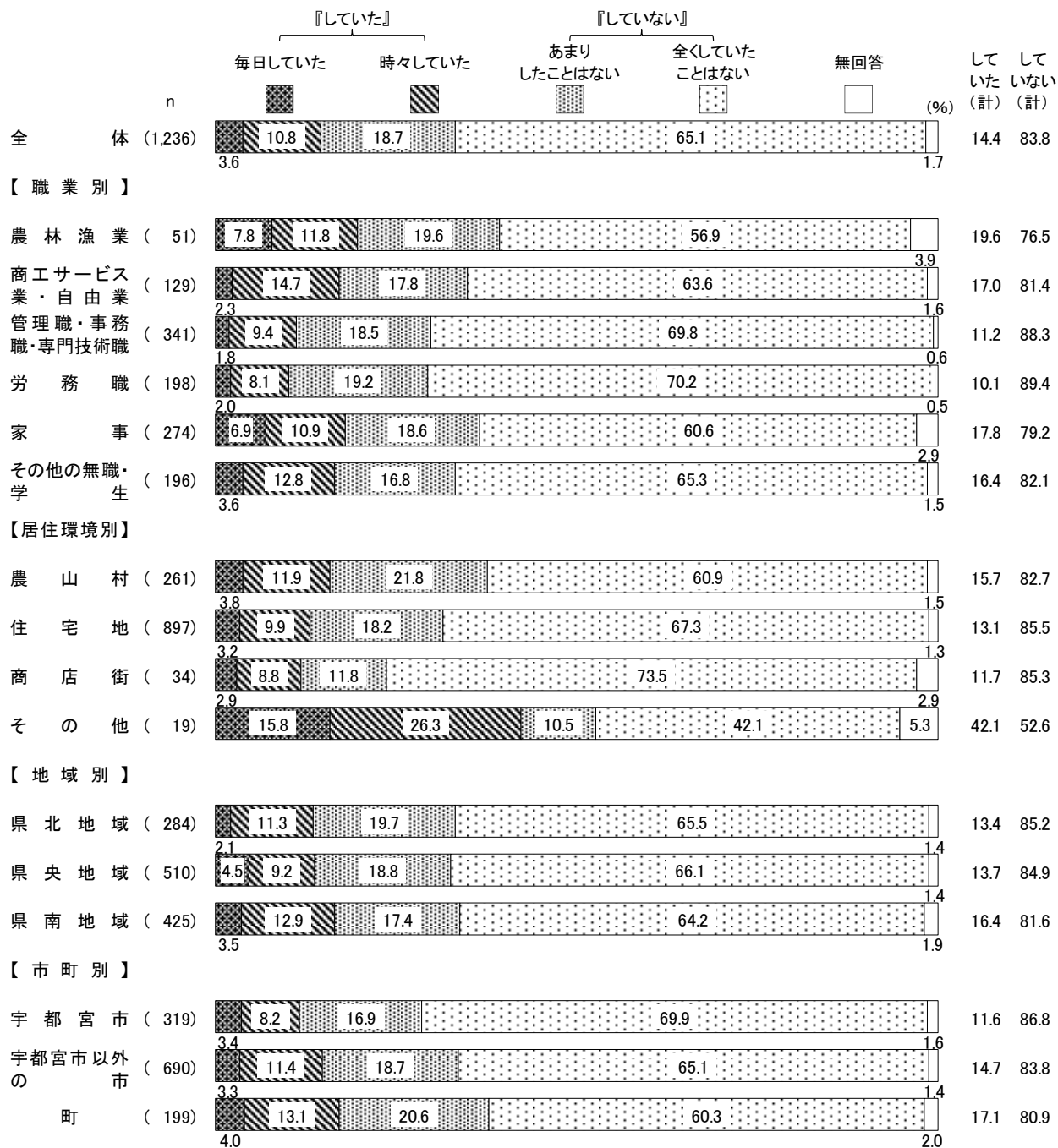
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『していた』では〈女性65～69歳〉が21.2%と高くなっている。『していない』では〈男性20歳代〉が94.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

居住環境別でみると、「全くしてないことにはない」では〈商店街〉が73.5%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

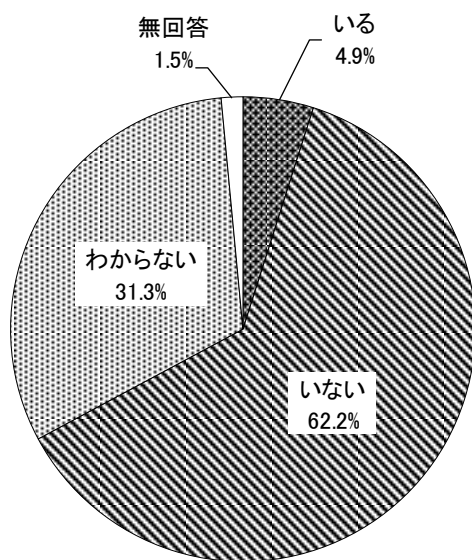


### (3) ヤングケアラーの実態（身近にいるか）

問33 あなたの周りに、18歳未満の子どもで、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などを行っている方はいますか。次の中から1つ選んでください。

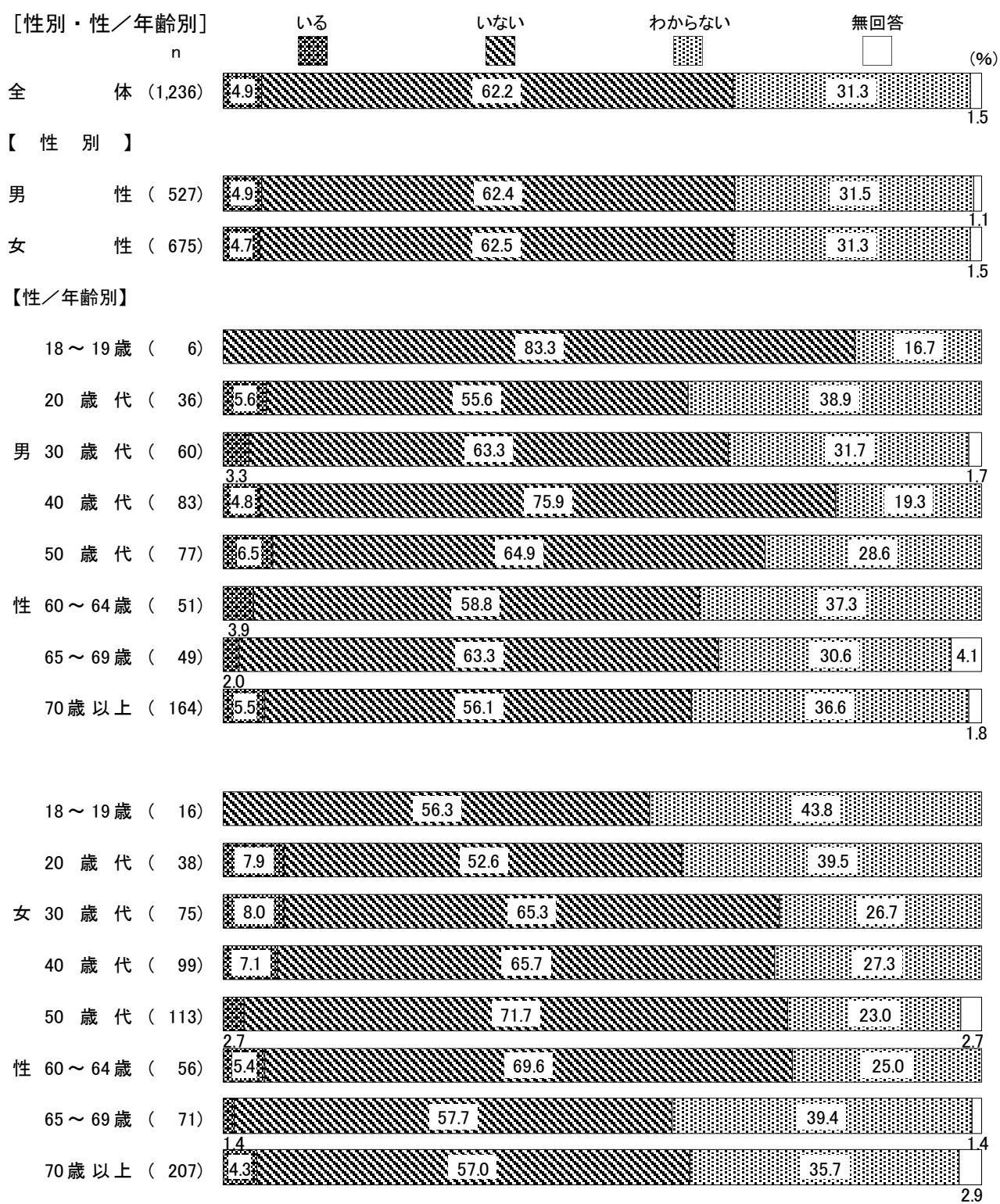
[n=1,236]

1	いる	4.9%	3	わからない	31.3%
2	いない	62.2		(無回答)	1.5



(n=1,236)

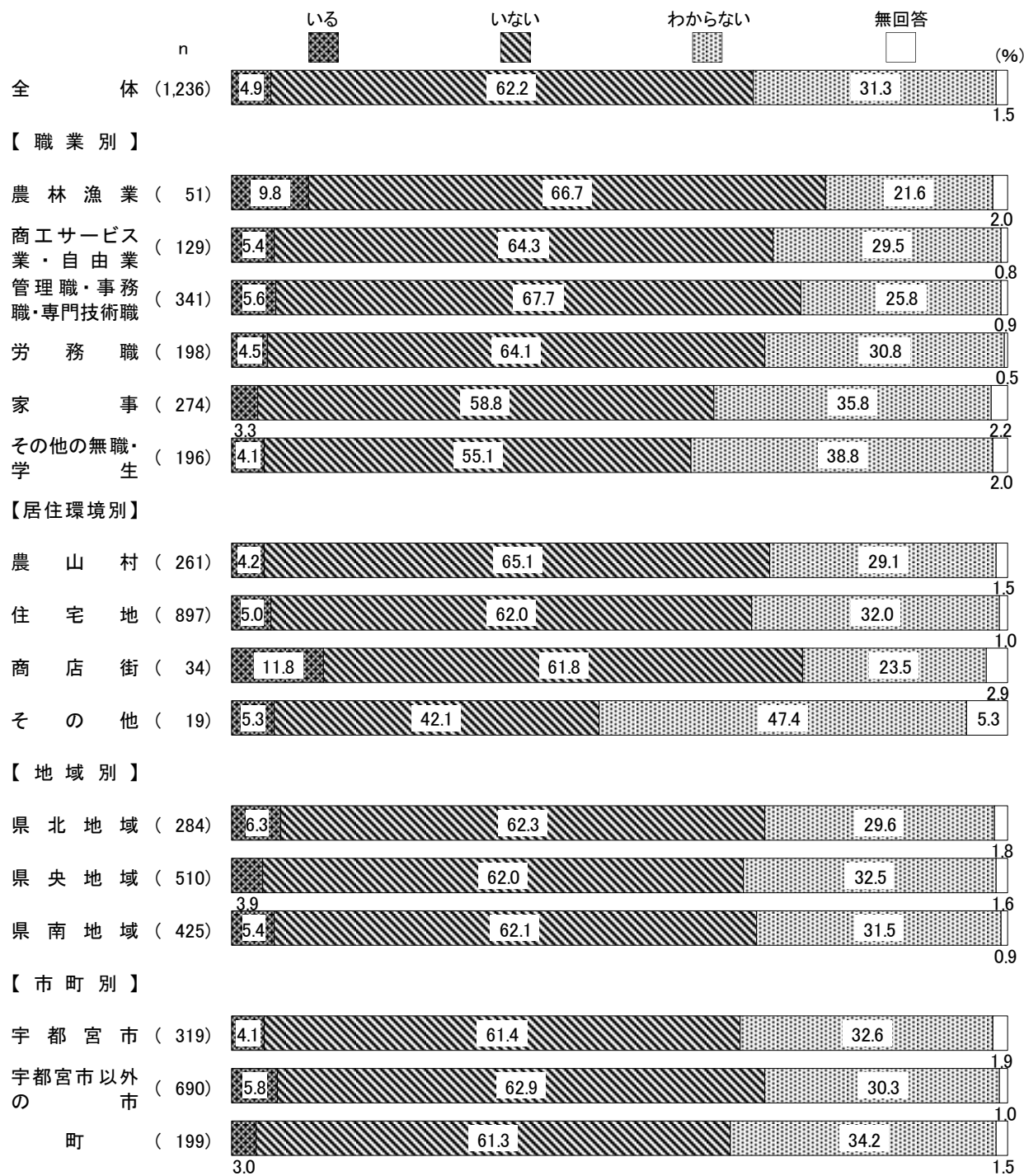
全体で見ると、「いない」(62.2%)が6割強となっている。また、「わからない」(31.3%)が3割強となっている。



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「いない」では〈男性40歳代〉が75.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「いる」では〈農林漁業〉が9.8%と高くなっている。「いない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が67.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、「いる」では〈商店街〉が11.8%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

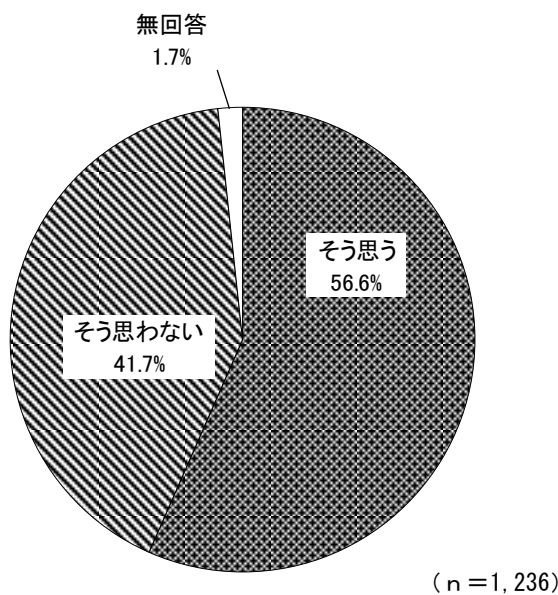
## 12 在宅医療について

### (1) 在宅療養への考え

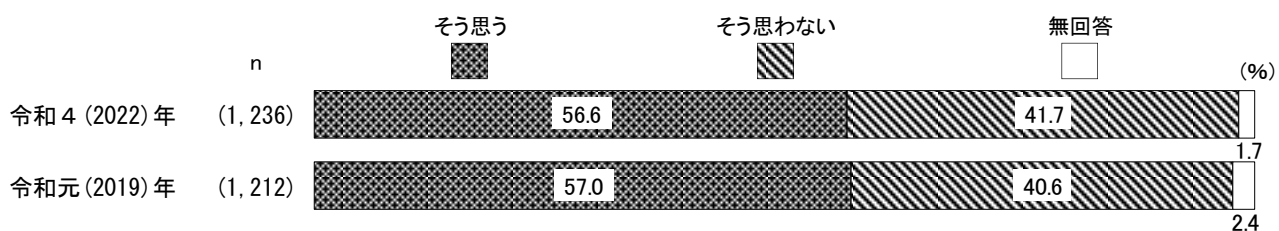
問34 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

1 そう思う 56.6% 2 そう思わない 41.7%  
(無回答) 1.7

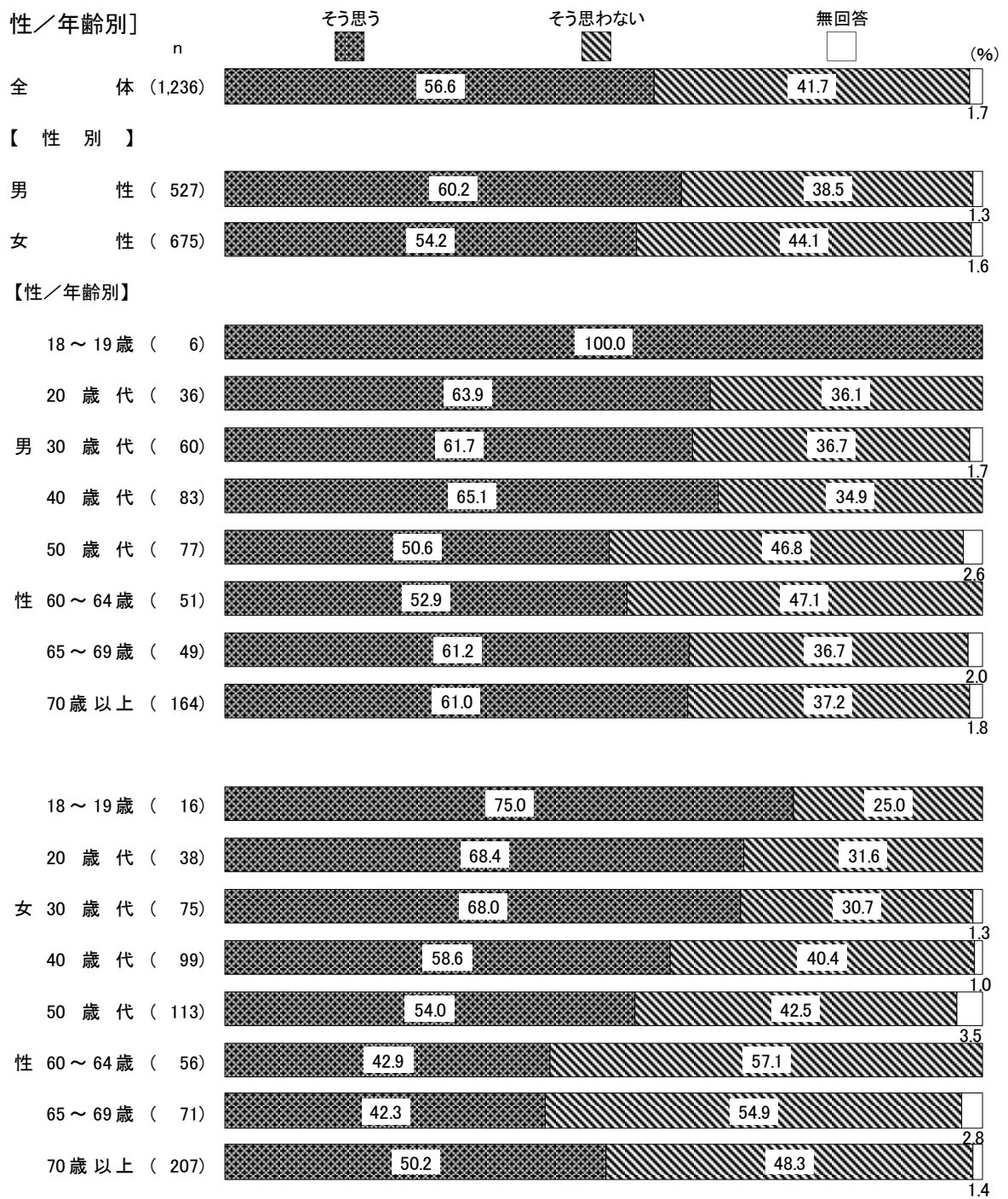


全体でみると、「そう思う」(56.6%)が5割台半ばを超え、「そう思わない」(41.7%)が4割強となっている。



前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

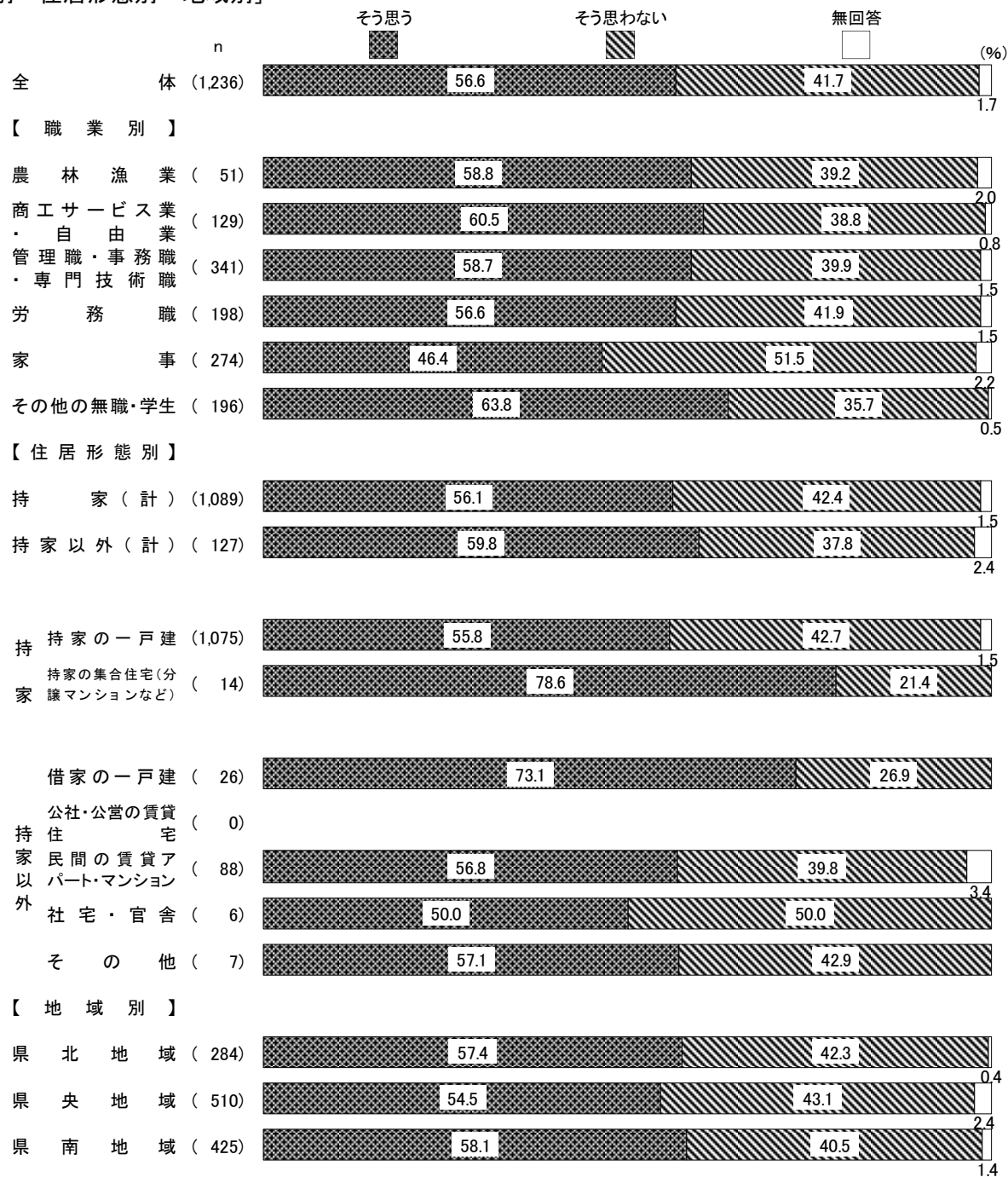
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「そう思う」では〈男性〉(60.2%)が〈女性〉(54.2%)より6.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「そう思う」では〈女性20歳代〉が68.4%、〈女性30歳代〉が68.0%と高くなっている。一方、「そう思わない」では〈女性60～64歳〉が57.1%、〈女性65～69歳〉が54.9%と高くなっている。

[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、「そう思う」では〈家事〉が46.4%と低くなっている。

住居形態別でみると、「そう思う」では〈持家の集合住宅〉が78.6%、〈借家の一戸建〉が73.1%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

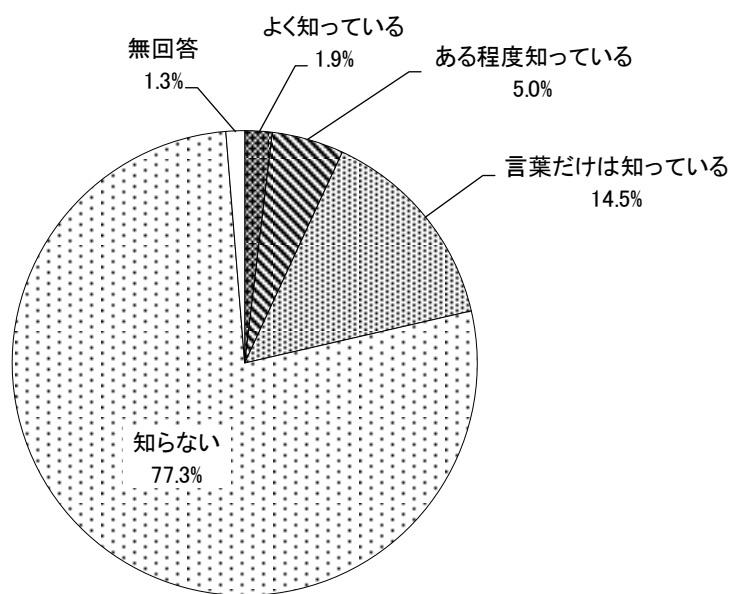
## (2) 人生会議（ACP）の認知度

問35 あなたは、「人生会議（ACP）」を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

※「人生会議（ACP）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

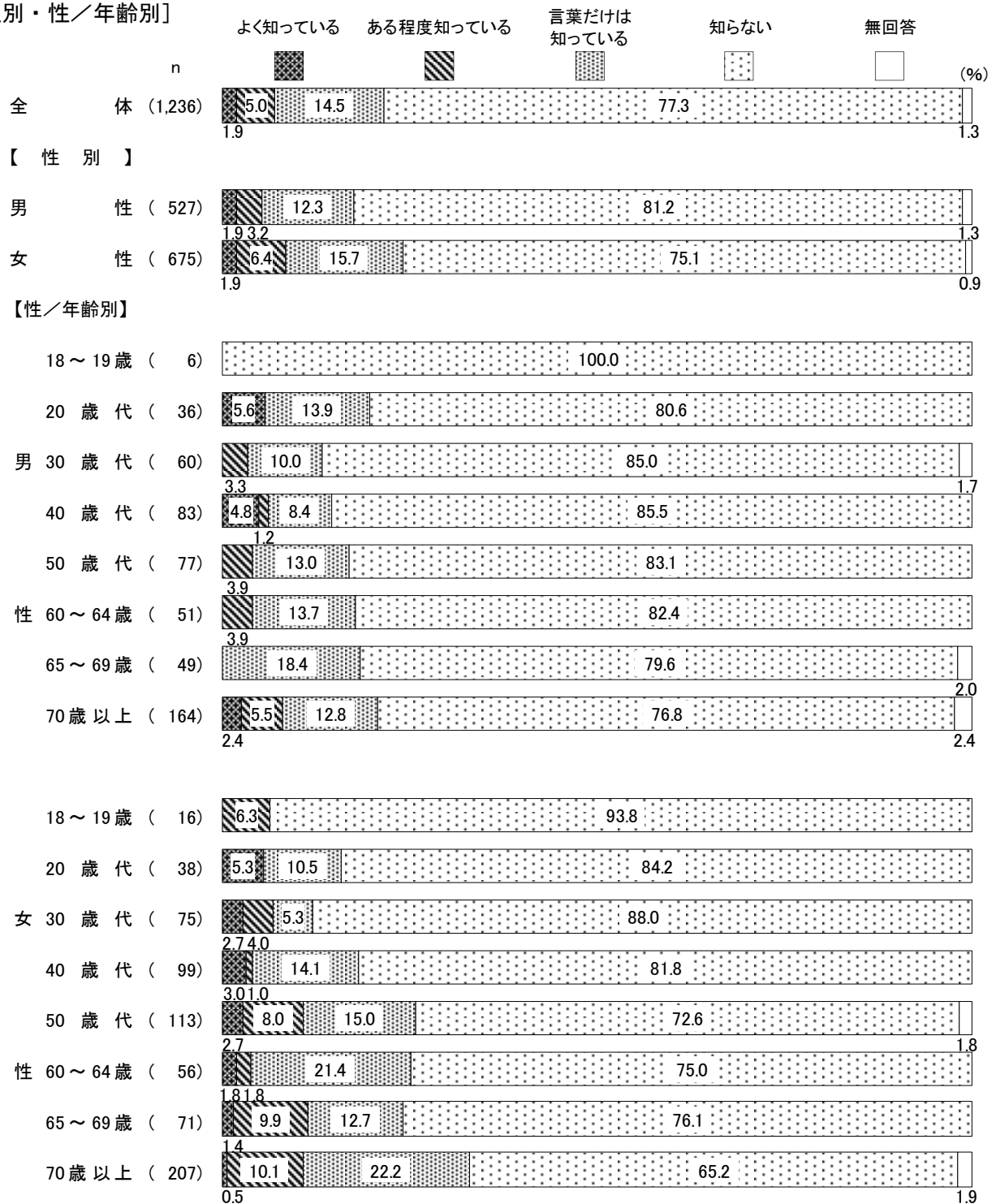
1 よく知っている	1.9%	3 言葉だけは知っている	14.5%
2 ある程度知っている	5.0	4 知らない	77.3
		(無回答)	1.3



(n=1,236)

全体でみると、「知らない」（77.3%）が7割台半ばを超え、「言葉だけは知っている」（14.5%）が1割台半ば近くとなっている。

[性別・性／年齢別]

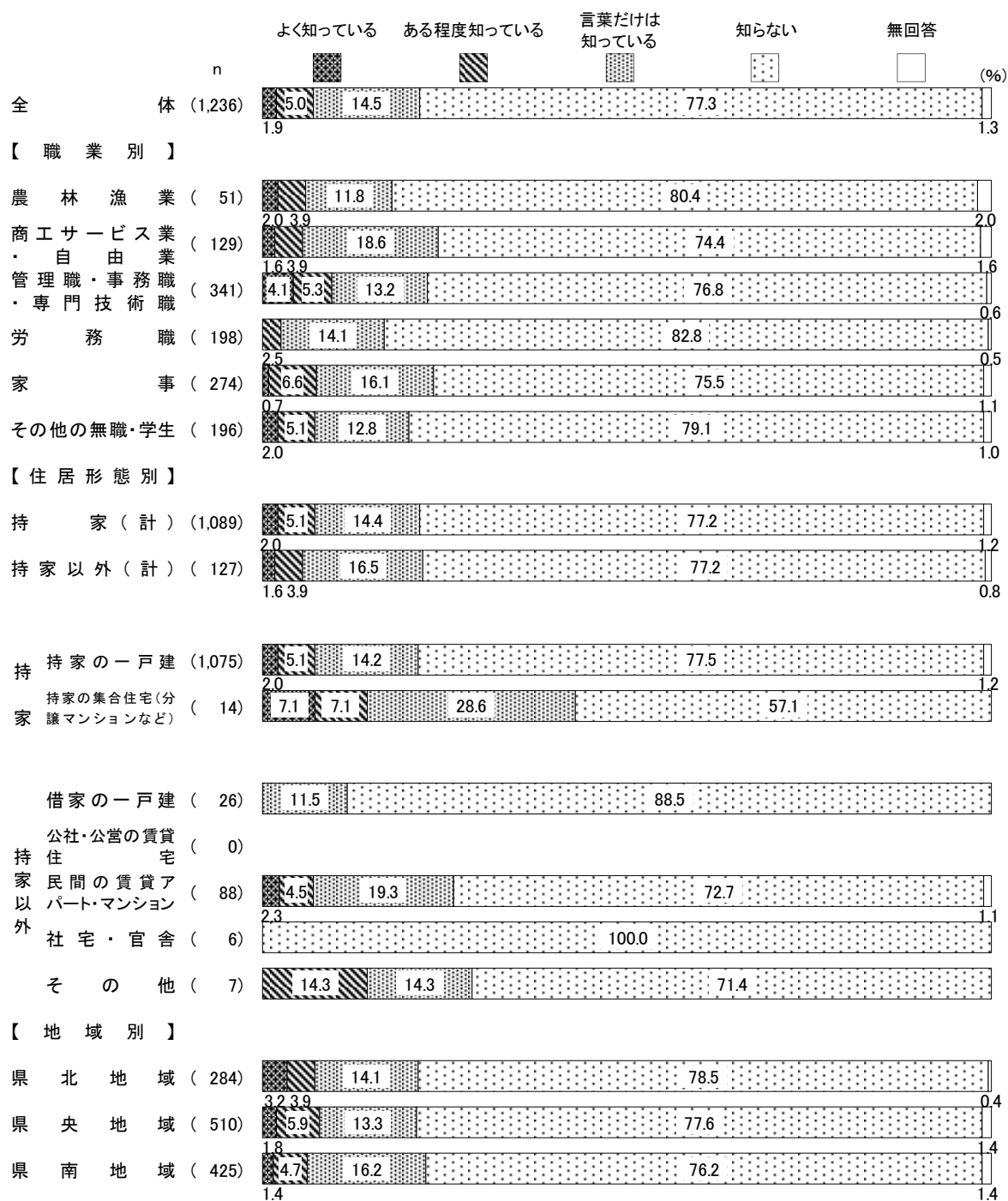


性別でみると、「知らない」では〈男性〉(81.2%)が〈女性〉(75.1%)より6.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知らない」では〈女性30歳代〉が88.0%と高くなっている。



[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別でみると、「知らない」では〈借家の一戸建〉が88.5%と高くなっている。「言葉だけは知っている」では〈持家の集合住宅〉が28.6%と高くなっている。

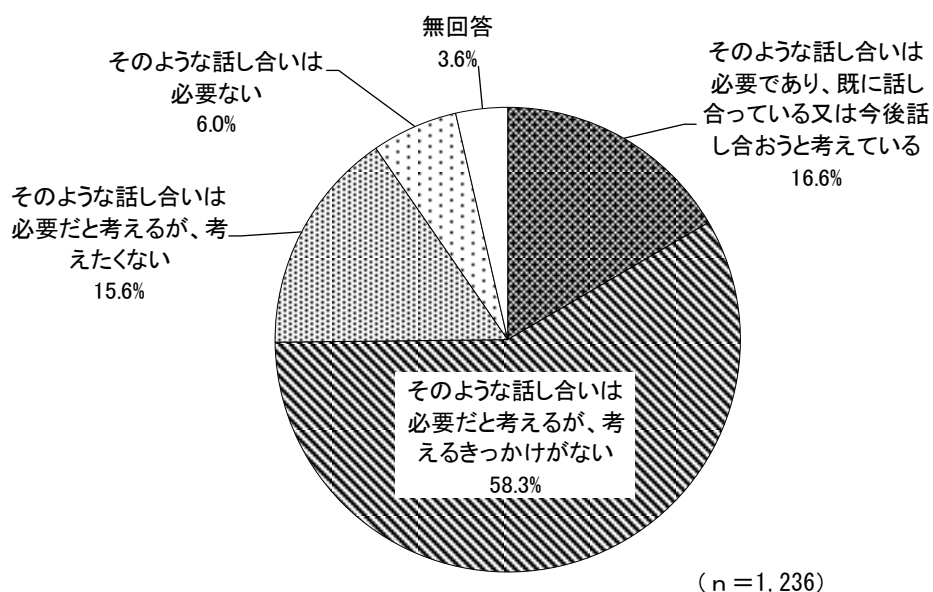
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 人生会議（ACP）への考え

問36 あなたは、「人生会議（ACP）」について、どのようにお考えですか。次の中から1つ選んでください。

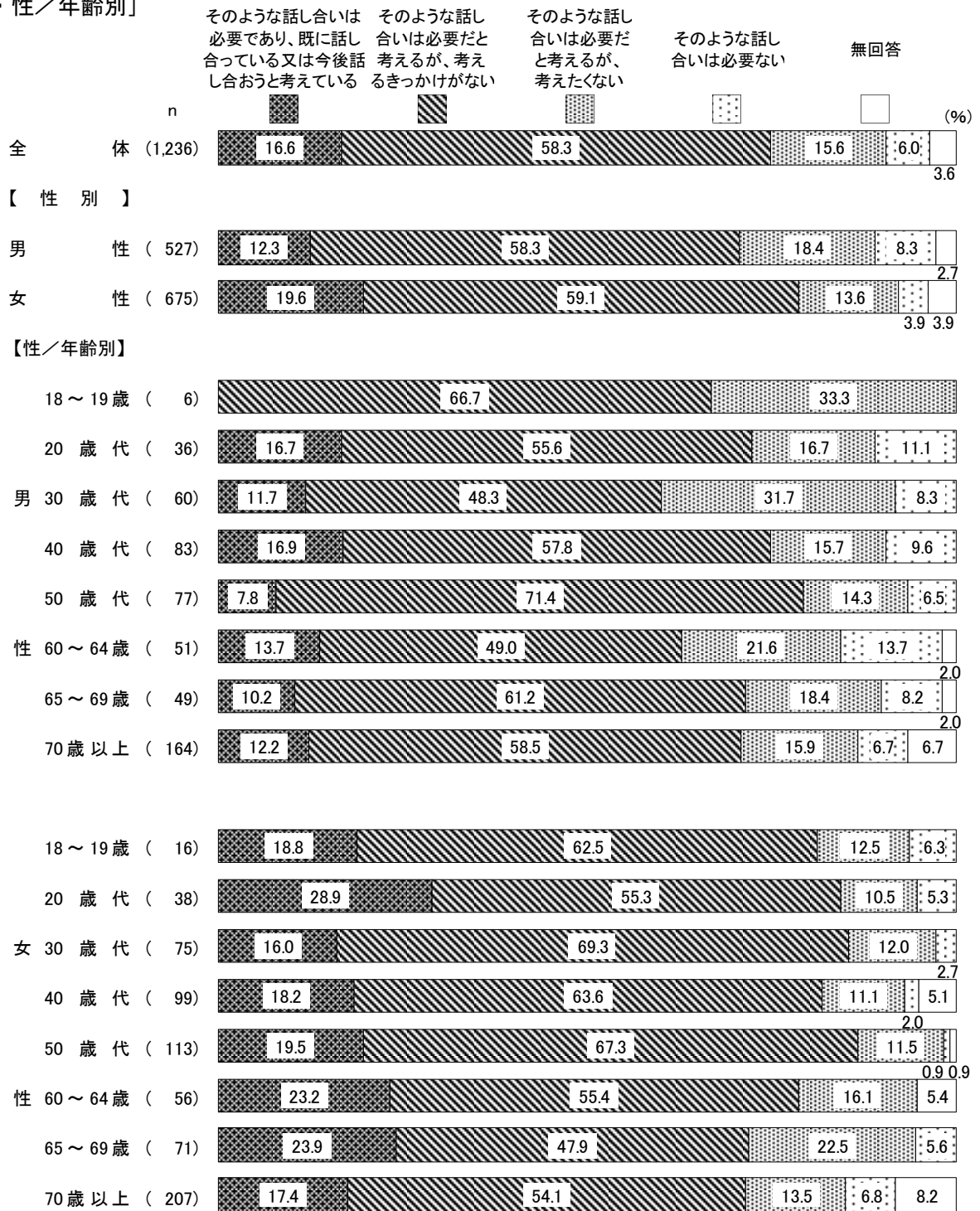
[n=1,236]

1	そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている	16.6%
2	そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない	58.3
3	そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない	15.6
4	そのような話し合いは必要ない	6.0
	(無回答)	3.6



全体で見ると、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」（58.3%）が6割近くで最も高くなっている。以下「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」（16.6%）、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」（15.6%）の順となっている。

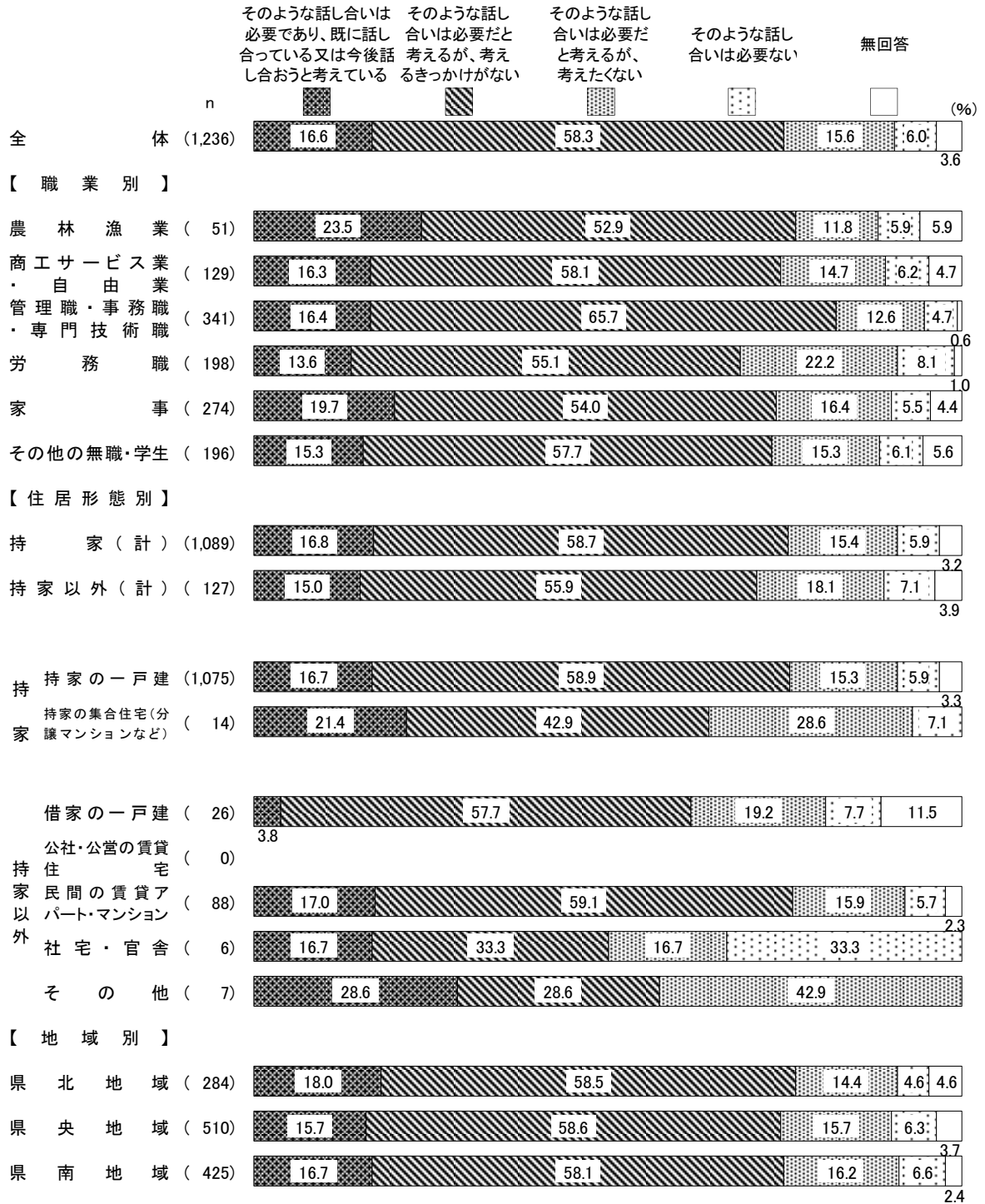
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性〉(19.6%)が〈男性〉(12.3%)より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性20歳代〉が28.9%と高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」では〈男性50歳代〉が71.4%、〈女性30歳代〉が69.3%と高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」では〈男性30歳代〉が31.7%と高くなっている。

[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別でみると、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」では〈持家の集合住宅〉が28.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

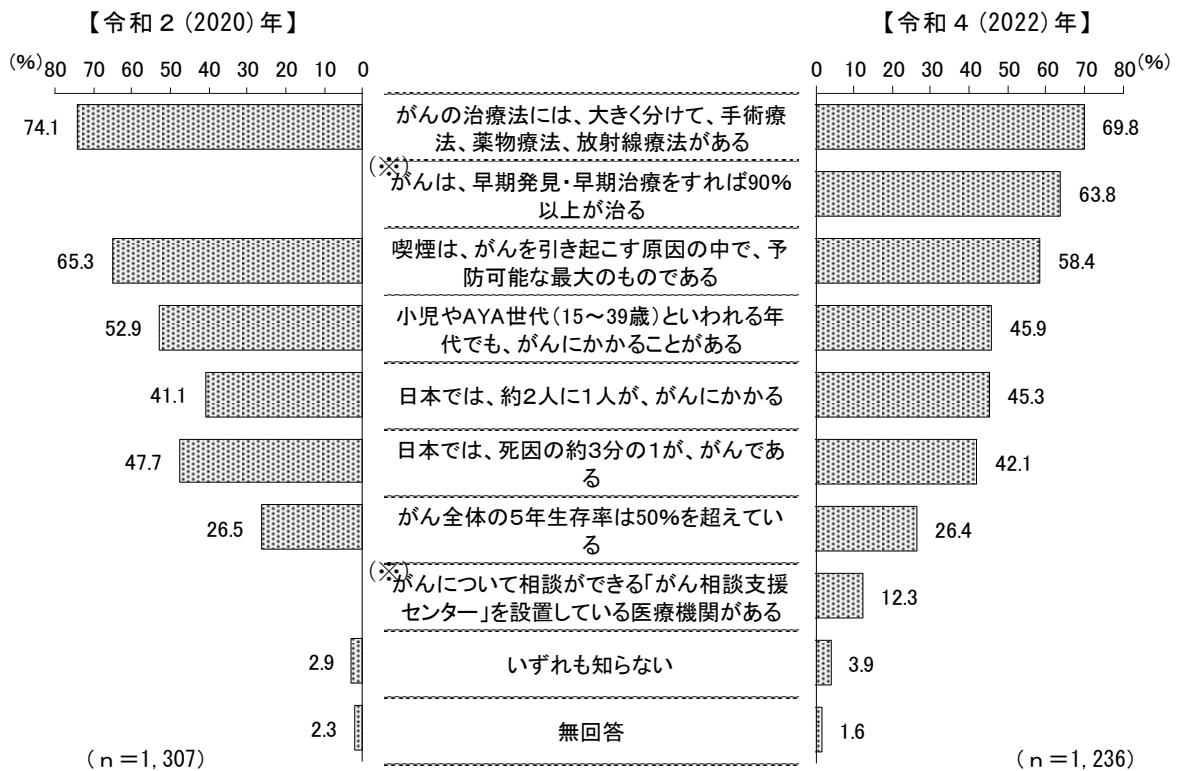
## 13 とちぎのがん対策について

### (1) がんについての認知度

問37 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 236]

1	日本では、約2人に1人が、がんにかかる	45.3%
2	日本では、死因の約3分の1が、がんである	42.1
3	小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある	45.9
4	がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある	69.8
5	がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る	63.8
6	がん全体の5年生存率は50%を超えている	26.4
7	喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである	58.4
8	がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある	12.3
9	いずれも知らない (無回答)	3.9 1.6



(※) 「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」、「がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある」は、今回調査で追加した選択肢である。

全体でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」(69.8%)が7割弱で最も高く、次いで「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」(63.8%)、「喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである」(58.4%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]

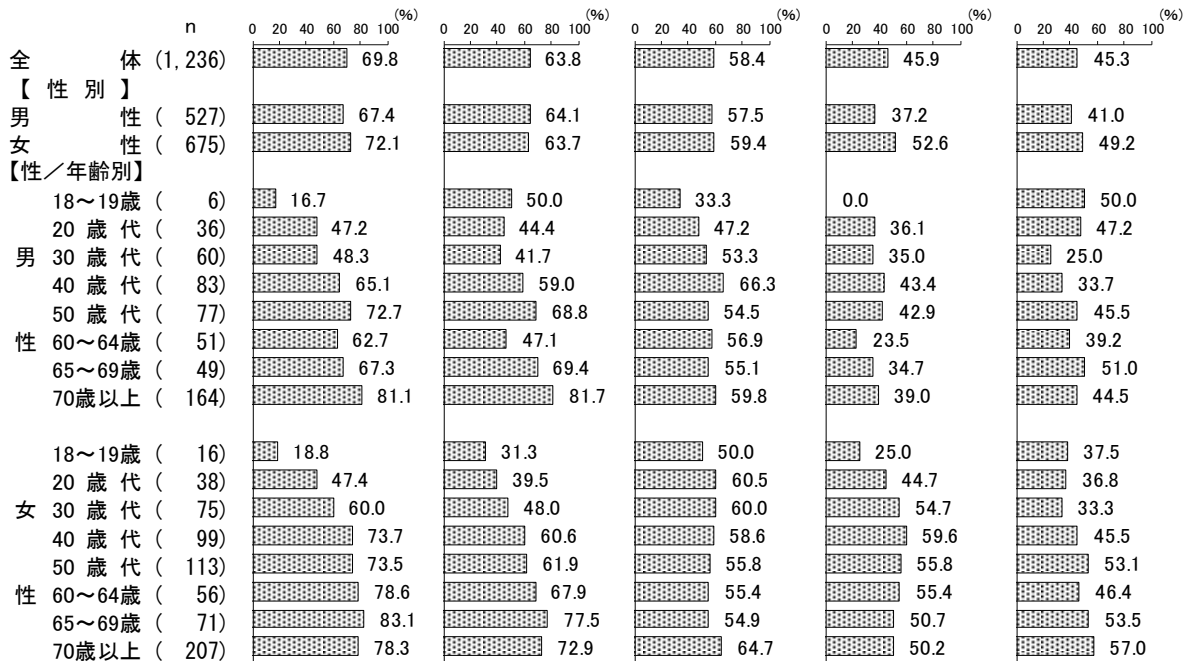
□がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある

□がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る

□喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである

□小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある

□日本では、約2人に1人が、がんにかかる

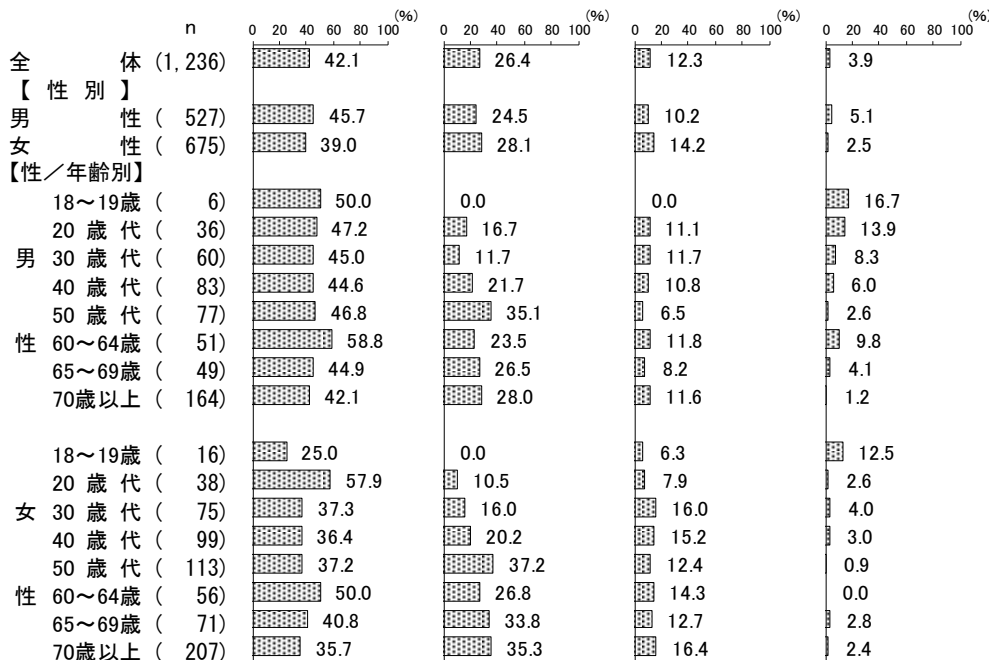


□日本では、死因の約3分の1が、がんである

□がん全体の5年生存率は50%を超えている

□がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある

□いずれも知らない

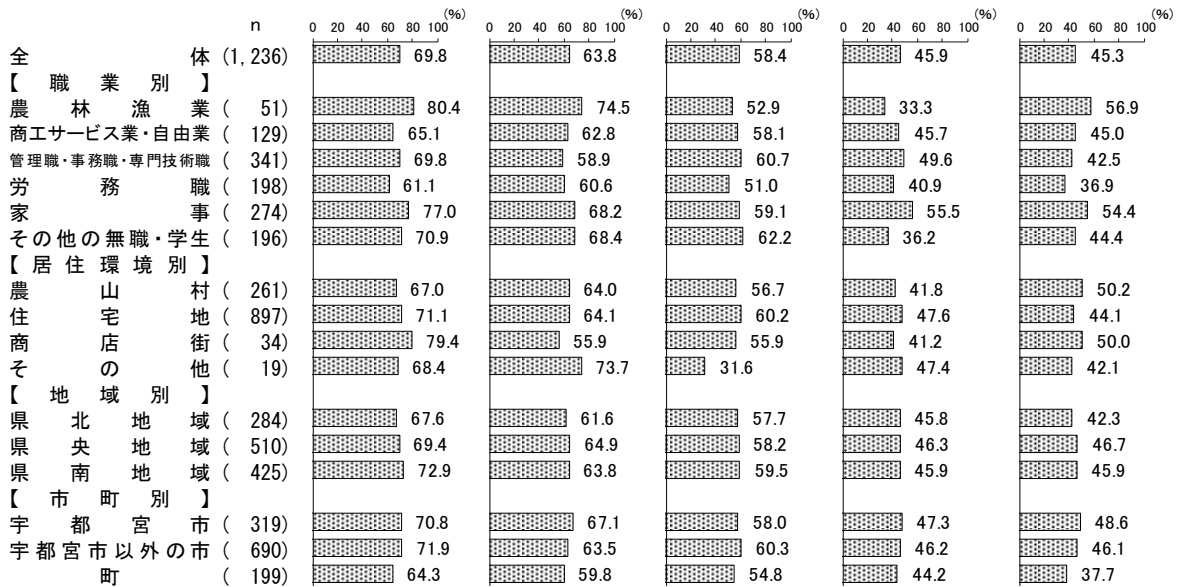


性別でみると、「小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性〉（52.6%）が〈男性〉（37.2%）より15.4ポイント高くなっている。「日本では、約2人に1人が、がんにかかる」では〈女性〉（49.2%）が〈男性〉（41.0%）より8.2ポイント高くなっている。「日本では、死因の約3分の1が、がんである」では〈男性〉（45.7%）が〈女性〉（39.0%）より6.7ポイント高くなっている。

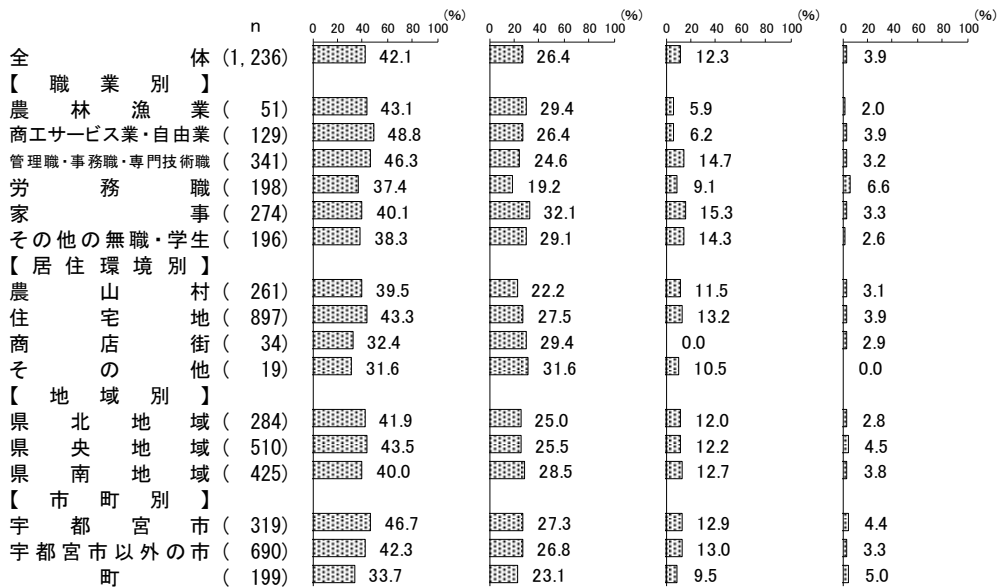
性／年齢別でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈女性65～69歳〉が83.1%、〈男性70歳以上〉が81.1%と高くなっている。「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」では〈男性70歳以上〉が81.7%、〈女性65～69歳〉が77.5%と高くなっている。「小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性40歳代〉が59.6%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、がんにかかる」では〈女性70歳以上〉が57.0%と高くなっている。「日本では、死因の約3分の1が、がんである」では〈男性60～64歳〉が58.8%、〈女性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「がん全体の5年生存率は50%を超えている」では〈女性50歳代〉が37.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]

□がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある  
 □がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る  
 □喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである  
 □小児やAYA世代(15~39歳)といわれる年代でも、がんにかかることがある  
 □日本では、約2人に1人が、がんにかかる



□日本では、死因の約3分の1が、がんである  
 □がん全体の5年生存率は50%を超えている  
 □がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある  
 □いずれも知らない



職業別でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈農林漁業〉が80.4%と高くなっている。「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」では〈農林漁業〉が74.5%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、がんにかかる」では〈農林漁業〉が56.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈商店街〉が79.4%と高くなっている。一方、「日本では、死因の約3分の1が、がんである」では〈商店街〉が32.4%と低くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

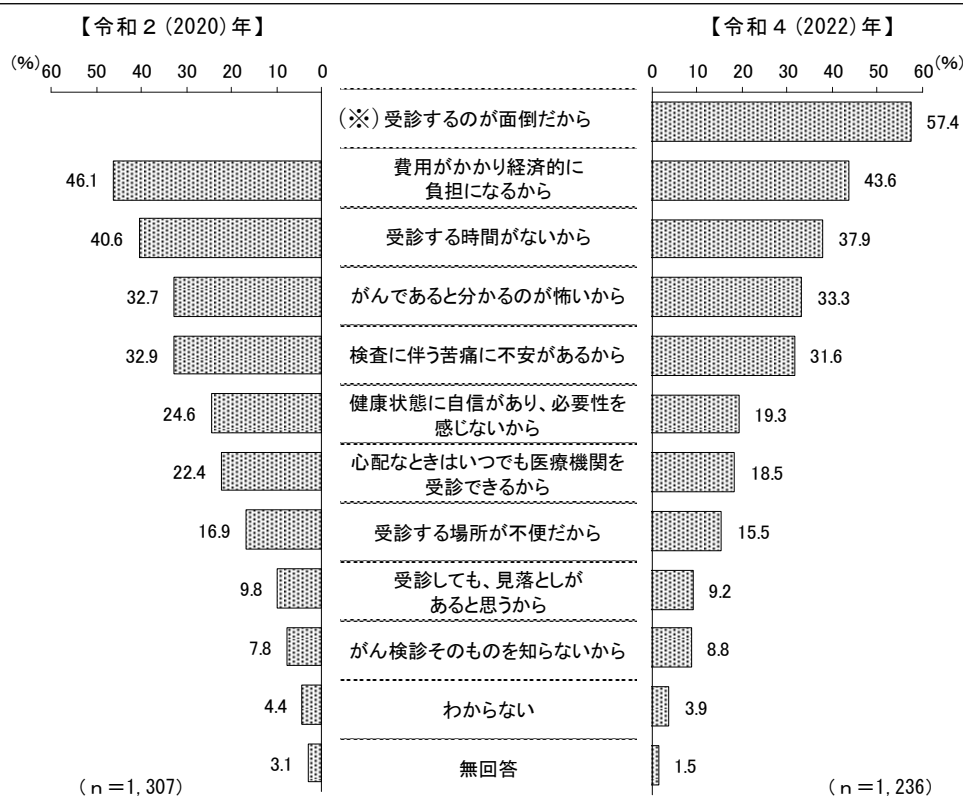


## (2) がん検診を受診しない理由

問38 がん検診の受診率は40～50%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	がん検診そのものを知らないから	8.8%
2	受診するのが面倒だから	57.4
3	受診する時間がないから	37.9
4	受診する場所が不便だから	15.5
5	費用がかかり経済的に負担になるから	43.6
6	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	19.3
7	検査に伴う苦痛に不安があるから	31.6
8	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	18.5
9	がんであると分かるのが怖いから	33.3
10	受診しても、見落としがあると思うから	9.2
11	わからない	3.9
	(無回答)	1.5

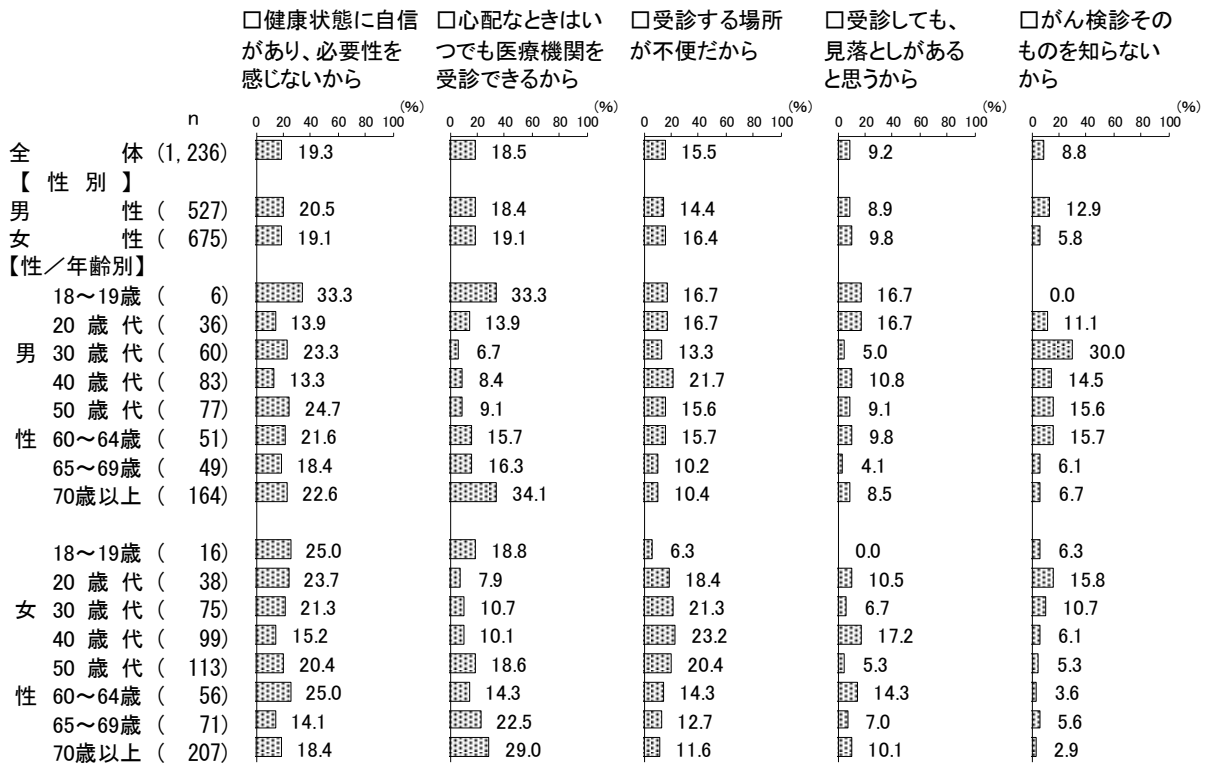
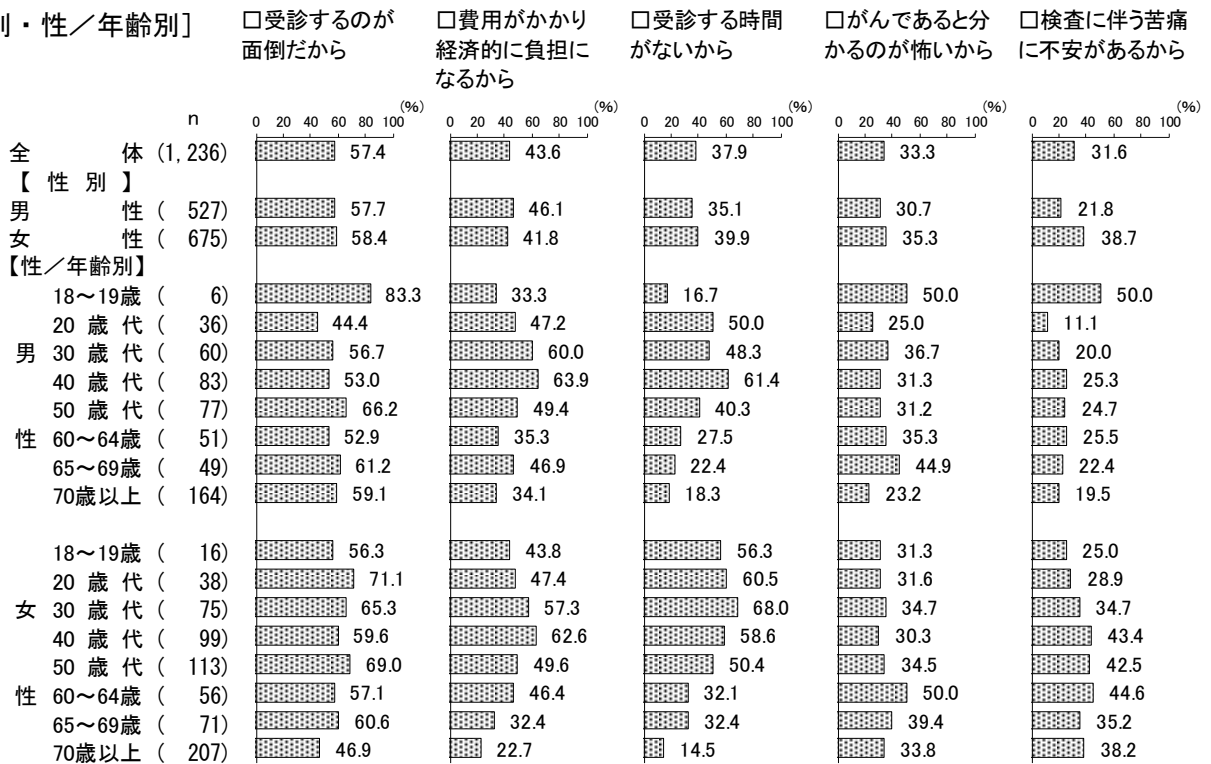


(※)「受診するのが面倒だから」は、今回調査で追加した選択肢である。

全体で見ると、「受診するのが面倒だから」(57.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「費用がかかり経済的に負担になるから」(43.6%)、「受診する時間がないから」(37.9%)の順となっている。

前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]

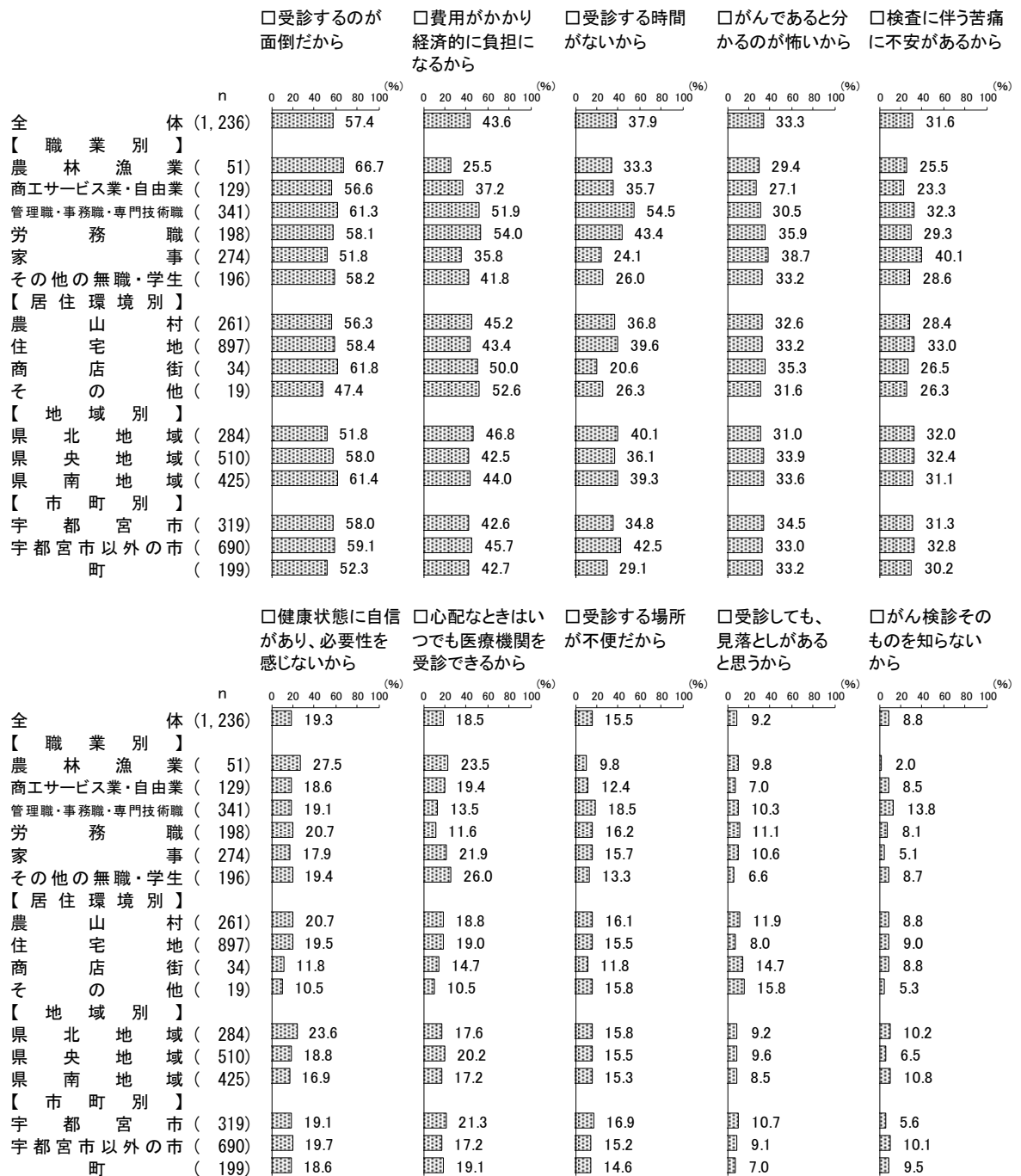


性別でみると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(38.7%)が〈男性〉(21.8%)より16.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「受診するのが面倒だから」では〈女性20歳代〉が71.1%、〈女性50歳代〉が69.0%と高くなっている。「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈男性40歳代〉が63.9%、〈女性40歳代〉が62.6%、〈男性30歳代〉が60.0%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性30歳代〉が68.0%、〈男性40歳代〉が61.4%、〈女性20歳代〉が60.5%、〈女性40歳代〉が58.6%と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性60～64歳〉が50.0%、〈男性65～69歳〉

が44.9%と高くなっている。「がん検診そのものを知らないから」では〈男性30歳代〉が30.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈労務職〉が54.0%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈商店街〉が50.0%と高くなっている。

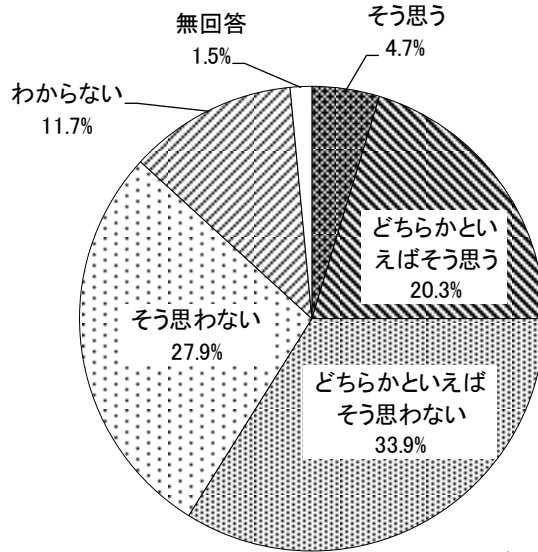
地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) がん治療と仕事の両立

問39 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

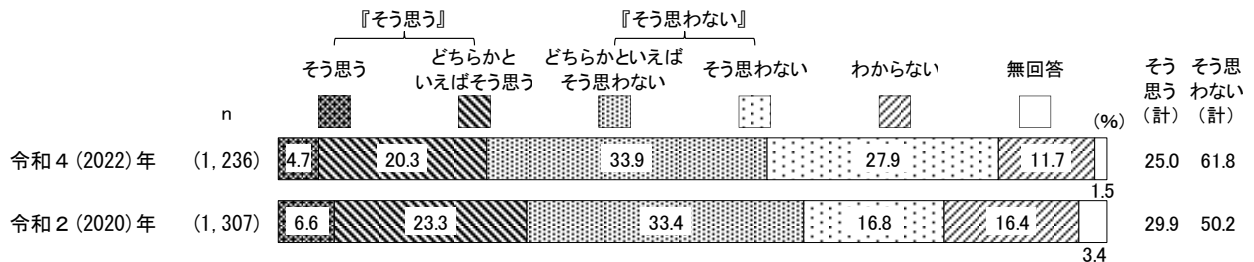
[n=1,236]

1	そう思う	4.7%	4	そう思わない	27.9%
2	どちらかといえばそう思う	20.3	5	わからない	11.7
3	どちらかといえばそう思わない	33.9	(無回答)		1.5



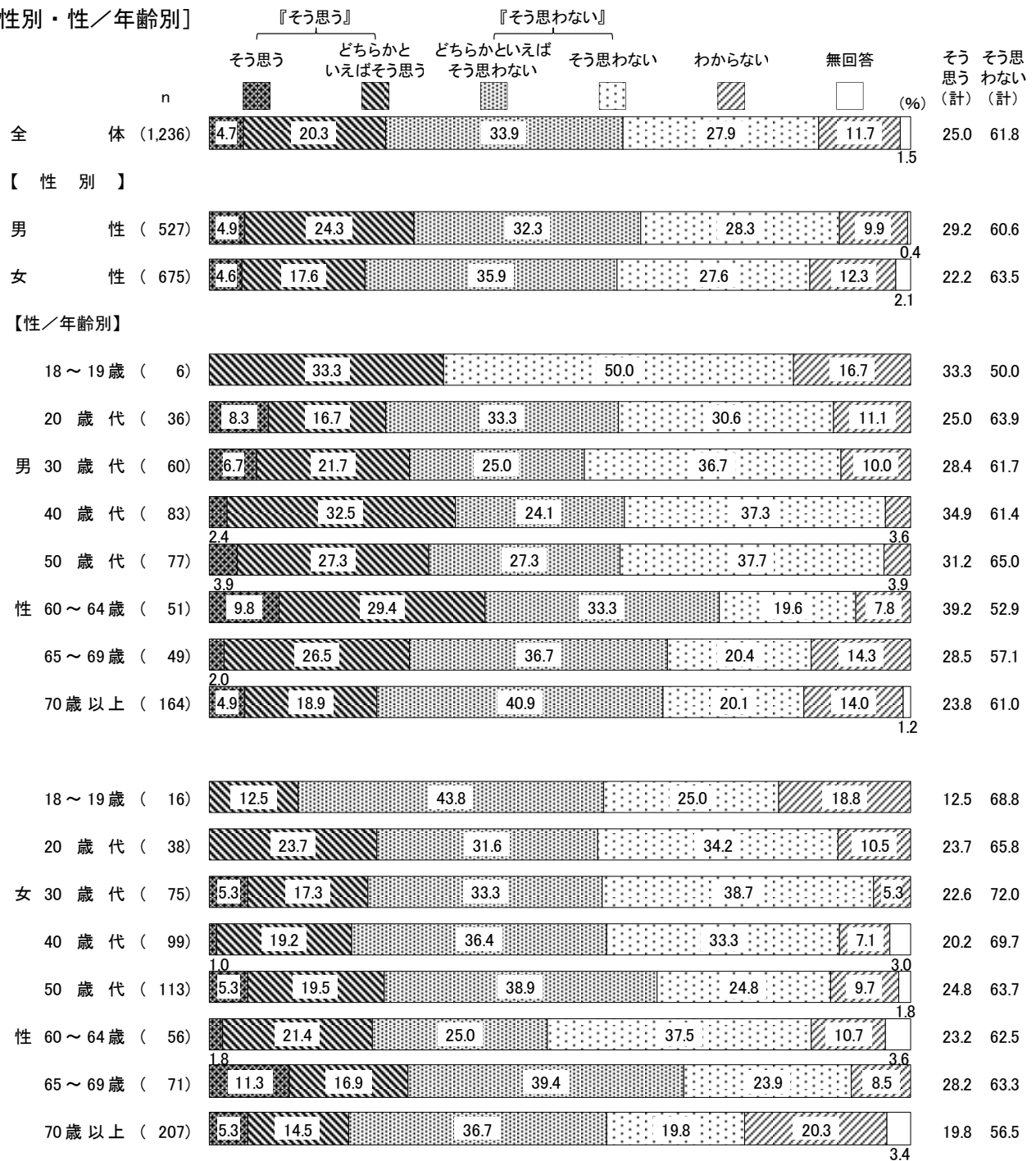
(n=1,236)

全体でみると、「そう思う」(4.7%)と「どちらかといえばそう思う」(20.3%)の2つを合わせた『そう思う』(25.0%)が2割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(33.9%)と「そう思わない」(27.9%)の2つを合わせた『そう思わない』(61.8%)が6割強となっている。



前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、『そう思わない』が11.6ポイント増加している。

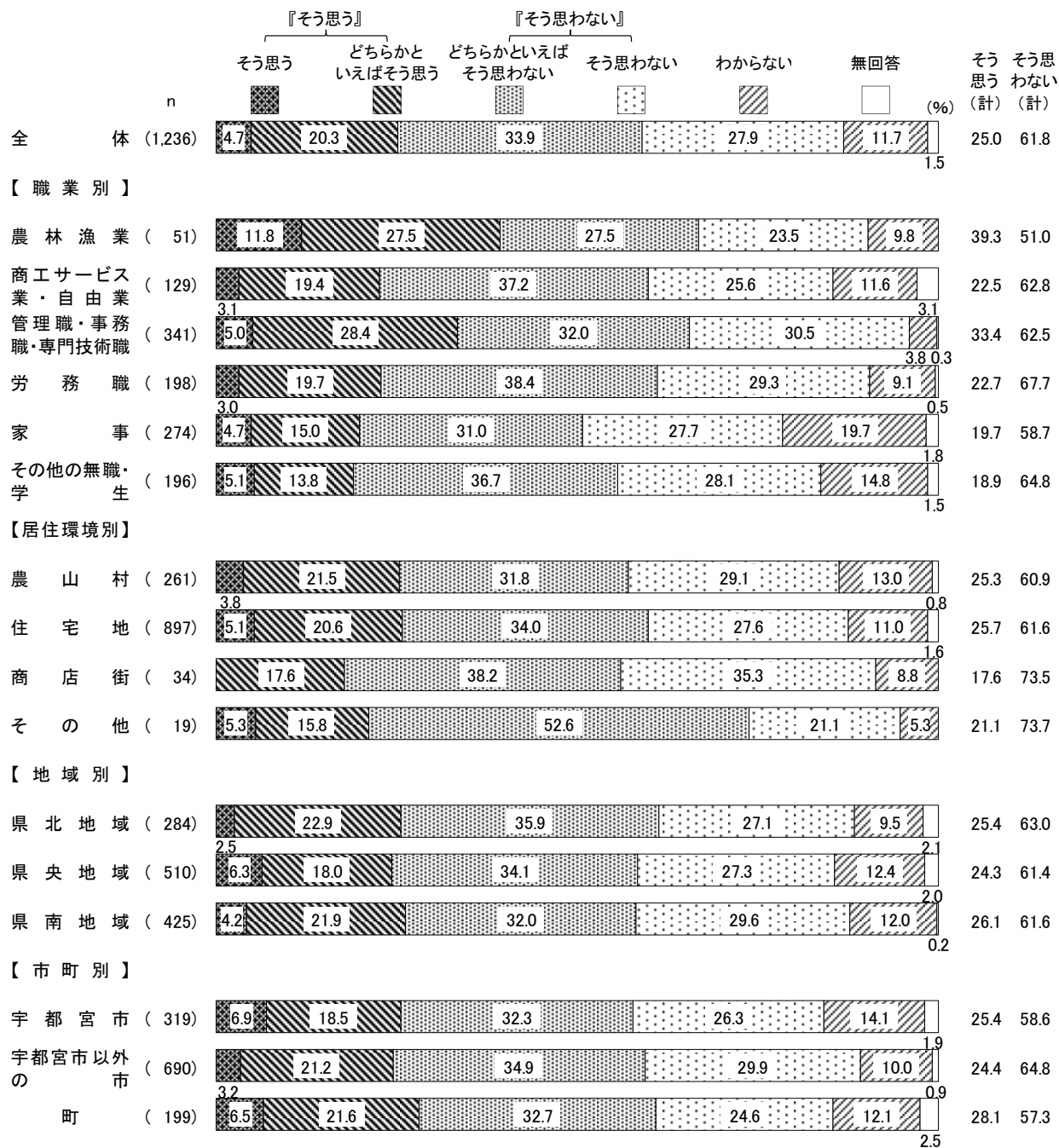
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『そう思う』では〈男性〉(29.2%)が〈女性〉(22.2%)より7.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う』では〈男性60～64歳〉が39.2%と高くなっている。『そう思わない』では〈女性30歳代〉が72.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『そう思う』では〈農林漁業〉が39.3%と高くなっている。

居住環境別でみると、『そう思わない』では〈商店街〉が73.5%と高くなっている

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

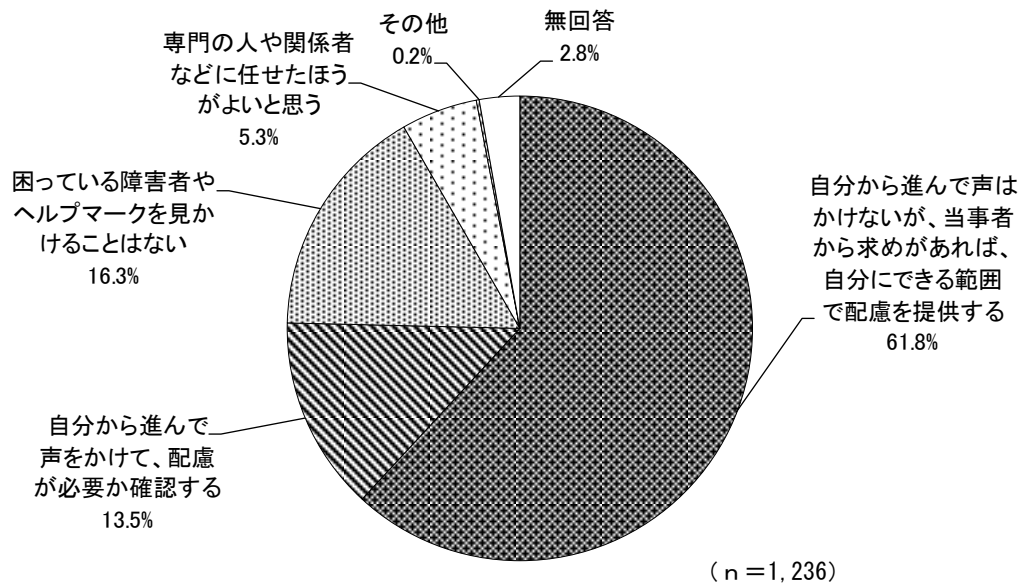
## 14 障害者差別の解消について

### (1) ヘルプマークの認知度

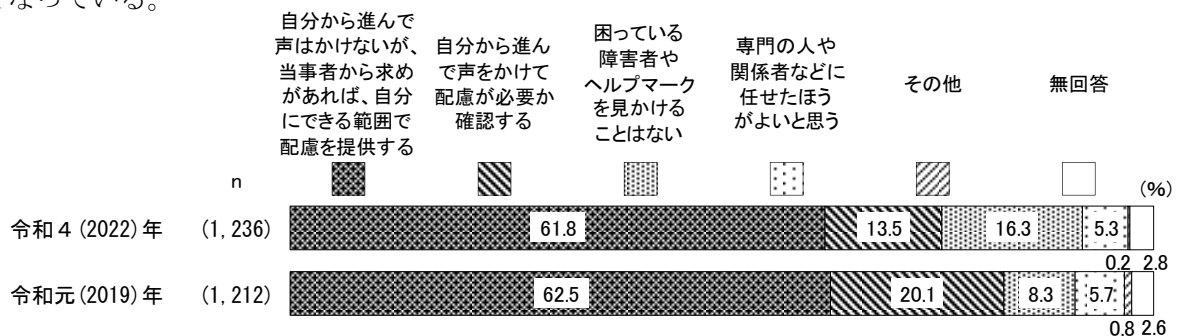
問40 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

1 自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する	61.8%
2 自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する	13.5
3 困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない	16.3
4 専門の人や関係者などに任せたいと思う	5.3
5 その他	0.2
(無回答)	2.8

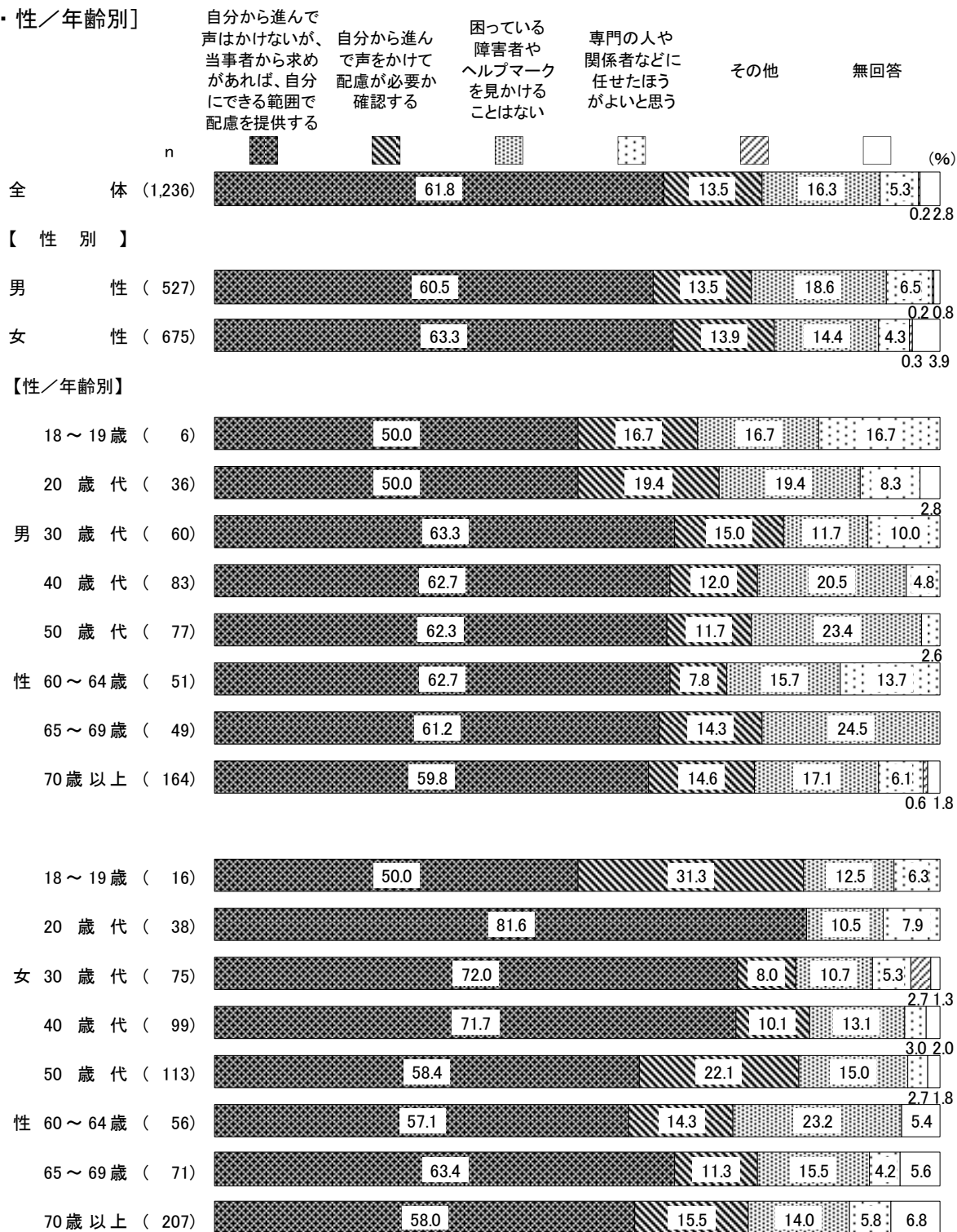


全体で見ると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」(61.8%)が6割強、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」(16.3%)が1割台半ばを超え、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。



前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」が8.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

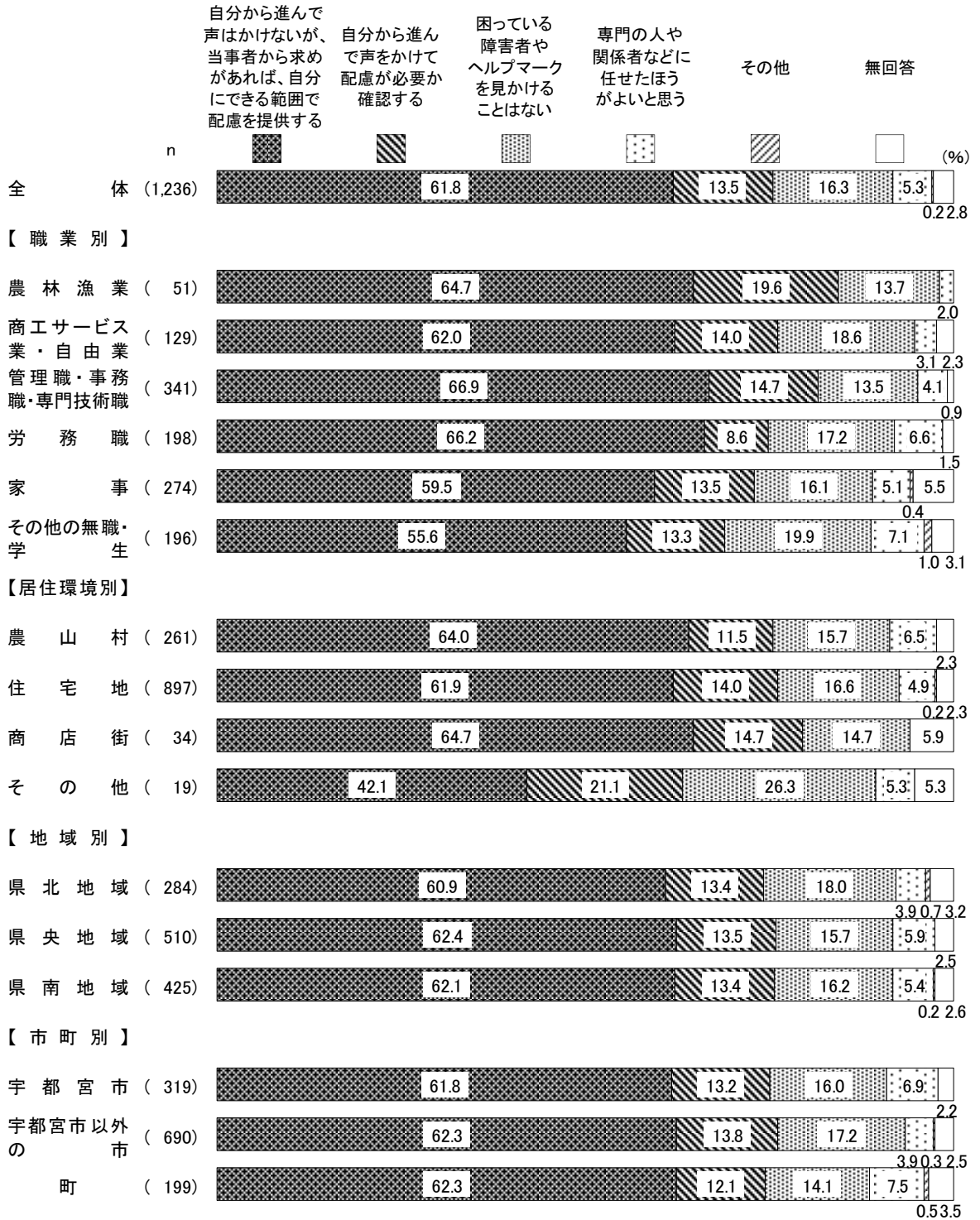


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分のできる範囲で配慮を提供する」では〈女性20歳代〉が81.6%、〈女性30歳代〉が72.0%、〈女性40歳代〉が71.7%と高くなっており、一方、〈男性20歳代〉が50.0%と低くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



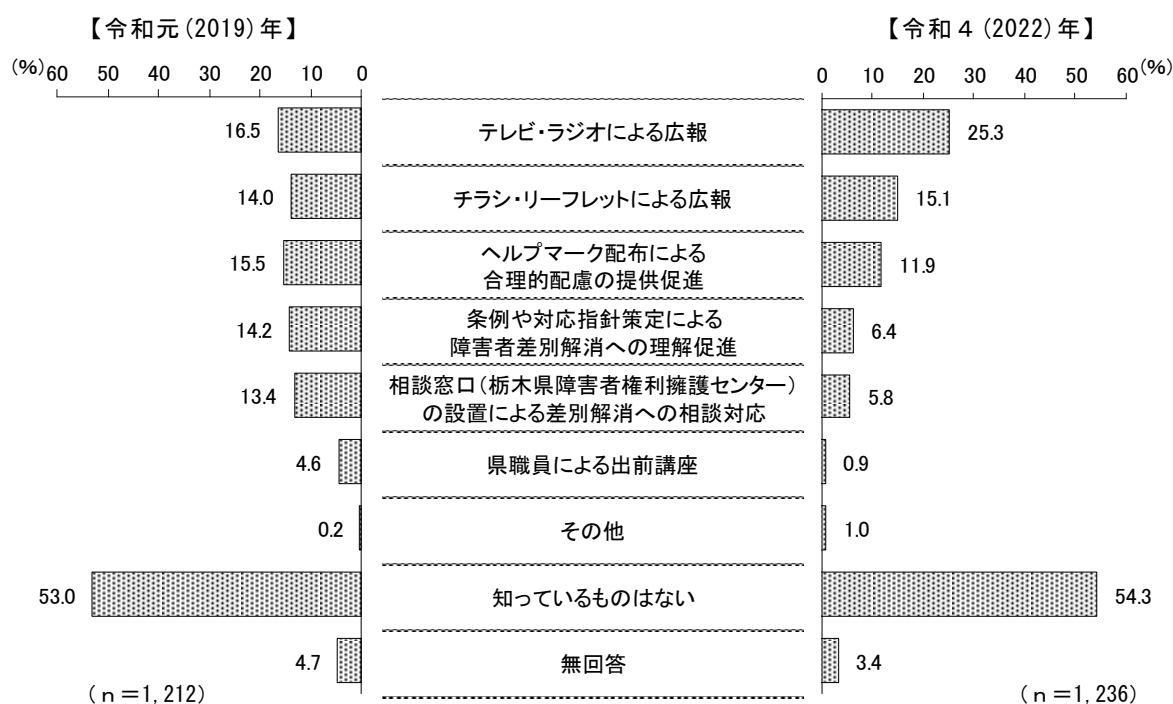
職業別・居住環境別・地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 県の取組に関する認知度

問41 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

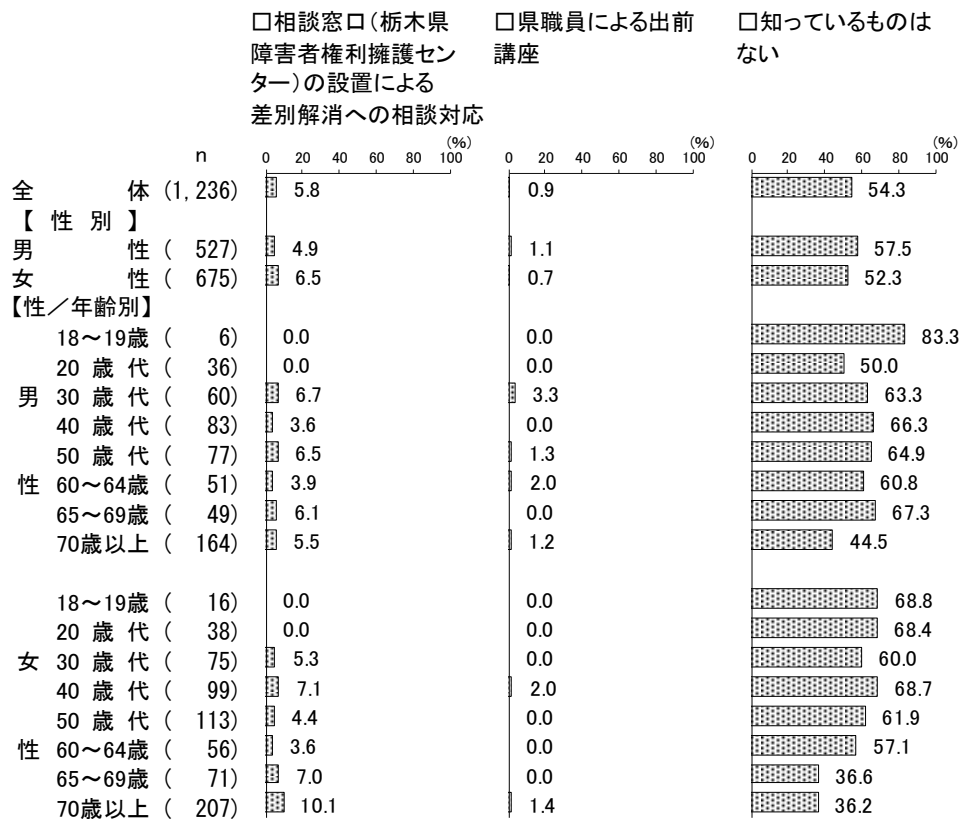
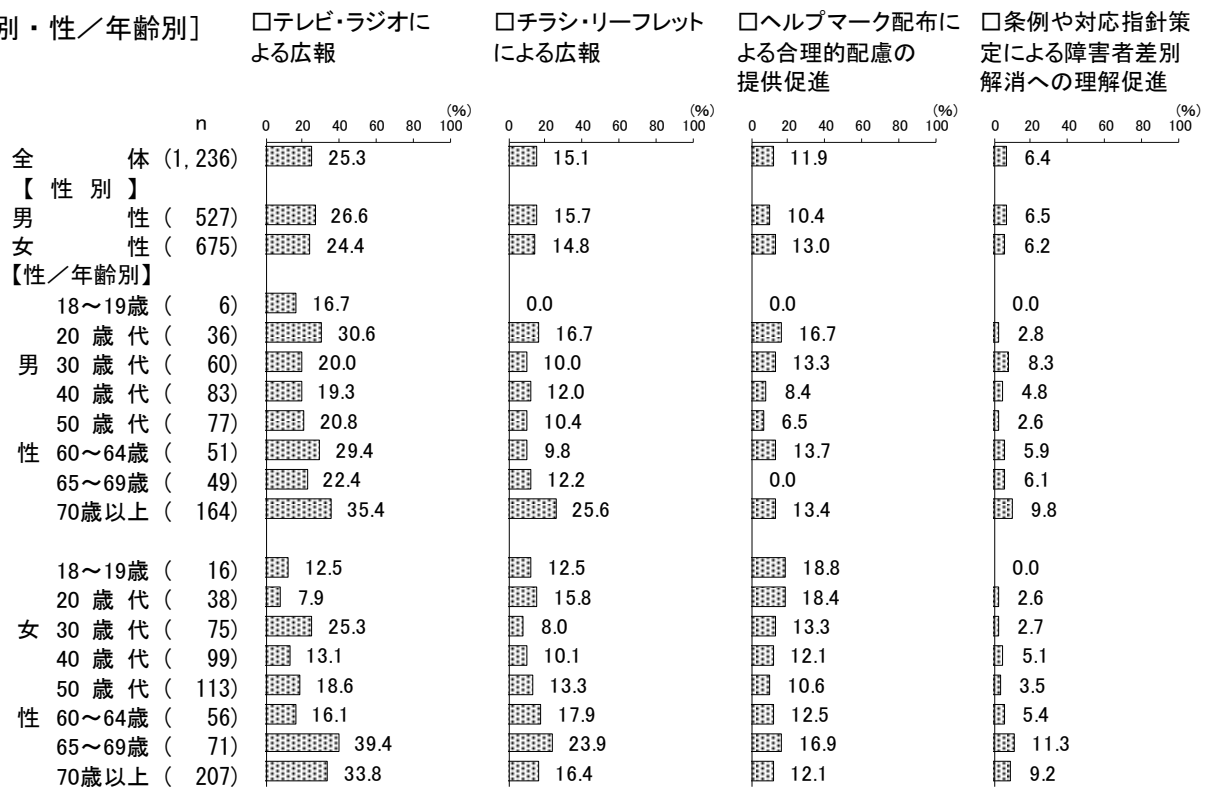
1	テレビ・ラジオによる広報	25.3%
2	ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進	11.9
3	条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進	6.4
4	チラシ・リーフレットによる広報	15.1
5	相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応	5.8
6	県職員による出前講座	0.9
7	その他	1.0
8	知っているものはない	54.3
	(無回答)	3.4



全体で見ると、「知っているものはない」（54.3%）が5割半ば近くで最も高くなっている。一方、「テレビ・ラジオによる広報」（25.3%）が2割台半ば、「チラシ・リーフレットによる広報」（15.1%）が1割台半ば、「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」（11.9%）が1割強となっている。

前回（令和元(2019)年）の調査結果と比較すると、「テレビ・ラジオによる広報」が8.8ポイント増加している。

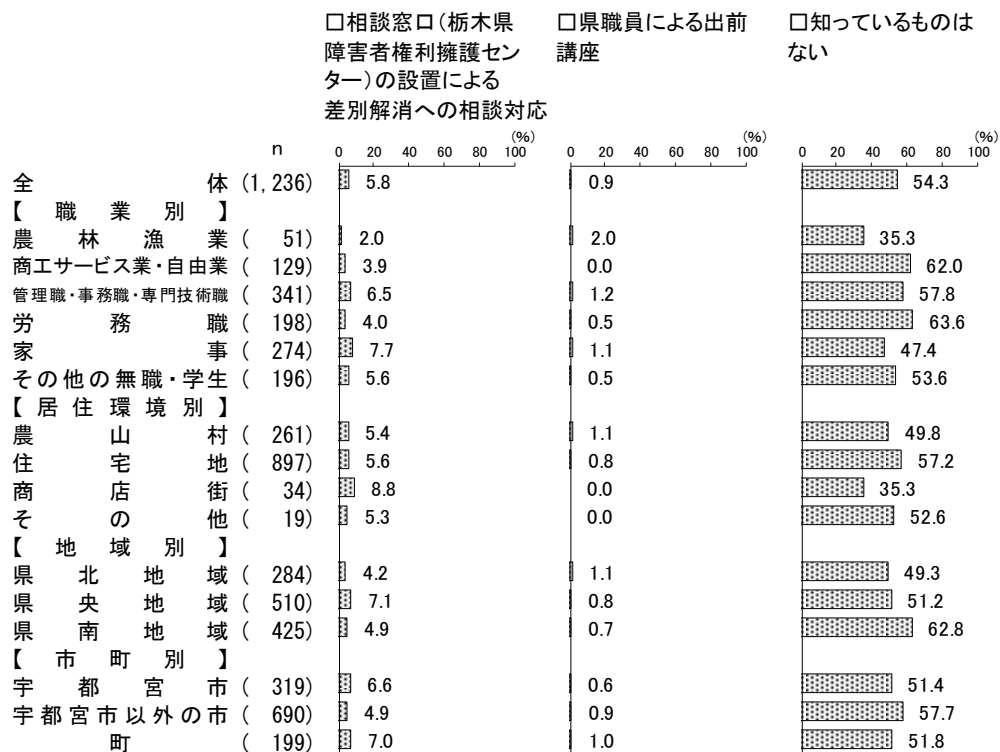
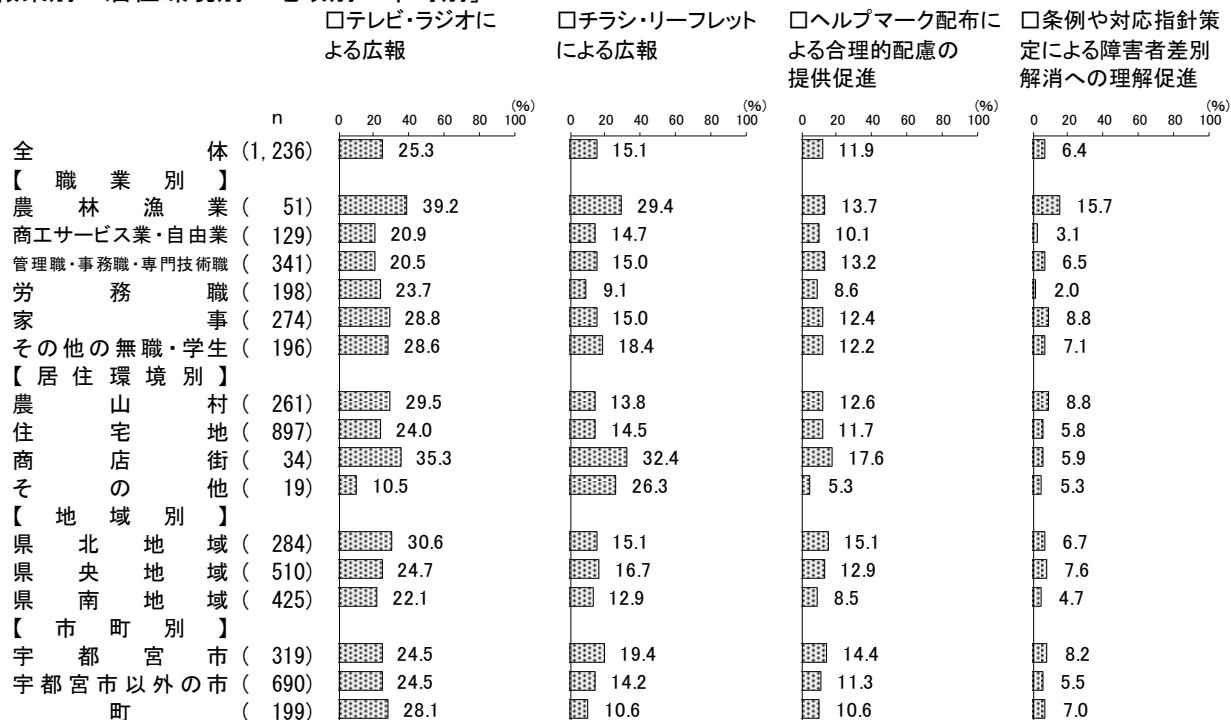
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「知っているものはない」では〈男性〉(57.5%)が〈女性〉(52.3%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知っているものはない」では〈女性40歳代〉が68.7%、〈女性20歳代〉が68.4%、〈男性65～69歳〉が67.3%、〈男性40歳代〉が66.3%、〈男性50歳代〉が64.9%と高くなっている。「テレビ・ラジオによる広報」では〈女性65～69歳〉が39.4%、〈男性70歳以上〉が35.4%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈男性70歳以上〉が25.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈農林漁業〉が39.2%と高くなっている。また、「チラシ・リーフレットによる広報」では〈農林漁業〉が29.4%と高くなっている。

居住環境別で見ると、「テレビ・ラジオによる広報」では〈商店街〉が35.3%と高くなっている。また、「チラシ・リーフレットによる広報」では〈商店街〉が32.4%と高くなっている。

地域別で見ると、「知っているものはない」では〈県南地域〉が62.8%と高くなっている。「テレビ・ラジオによる広報」では〈県北地域〉が30.6%と高くなっている。

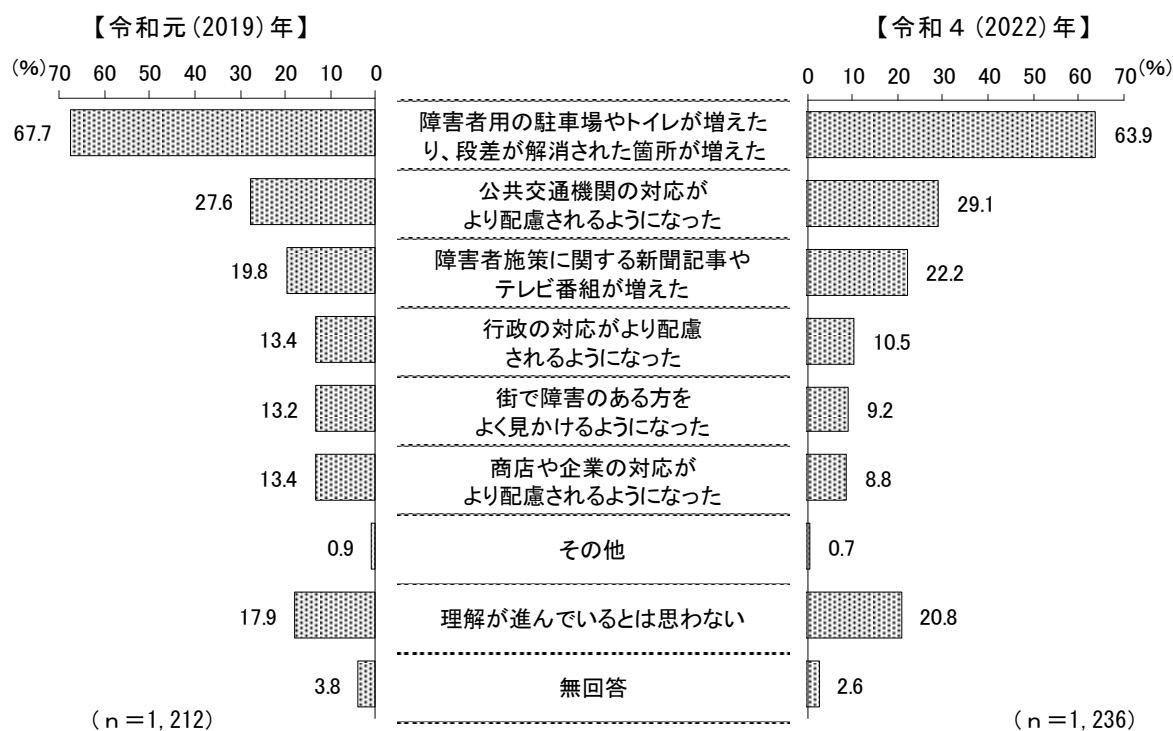
市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 障害者差別解消の理解

問42 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点はありませんか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

1	障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた	63.9%
2	公共交通機関の対応がより配慮されるようになった	29.1
3	障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた	22.2
4	行政の対応がより配慮されるようになった	10.5
5	商店や企業の対応がより配慮されるようになった	8.8
6	街で障害のある方をよく見かけるようになった	9.2
7	その他	0.7
8	理解が進んでいるとは思わない	20.8
	(無回答)	2.6



全体で見ると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」(63.9%)が6割台半ば近くで最も高くなっている。以下、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」(29.1%)、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」(22.2%)、「理解が進んでいるとは思わない」(20.8%)の順となっている。

前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

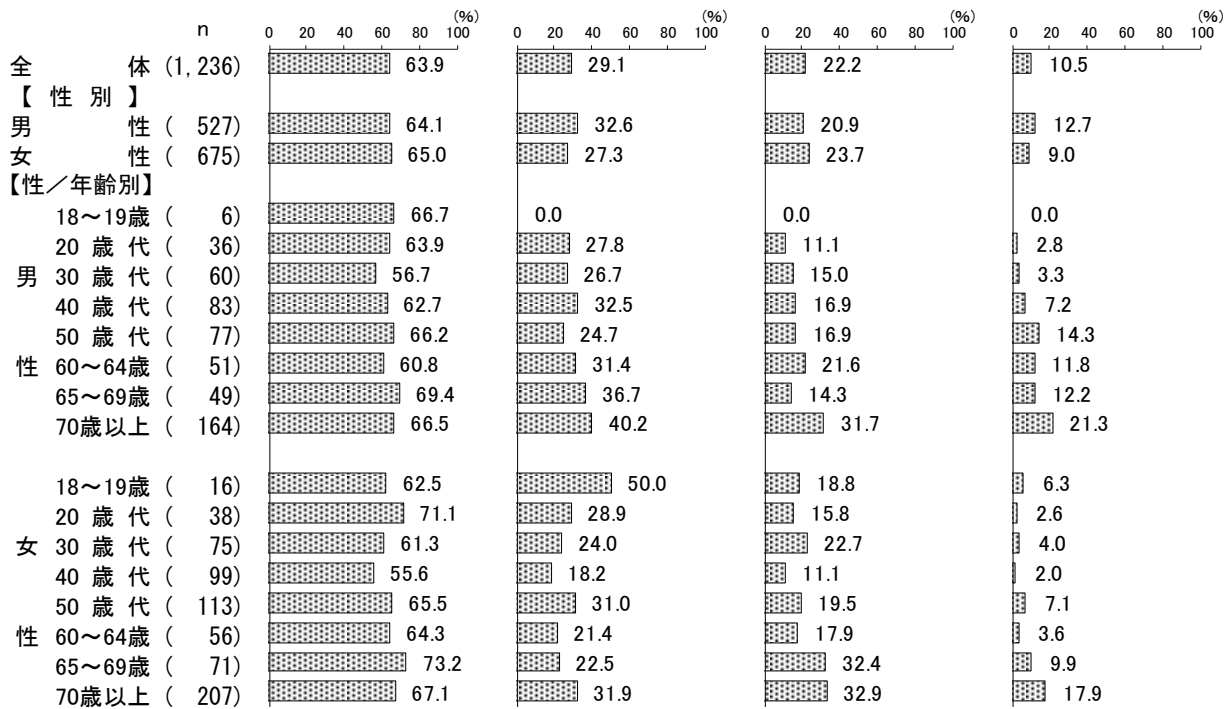
[性別・性／年齢別]

□障害者用の駐車場  
やトイレが増えたり、  
段差が解消された  
箇所が増えた

□公共交通機関の対  
応がより配慮される  
ようになった

□障害者施策に関する  
新聞記事やテレビ番組  
が増えた

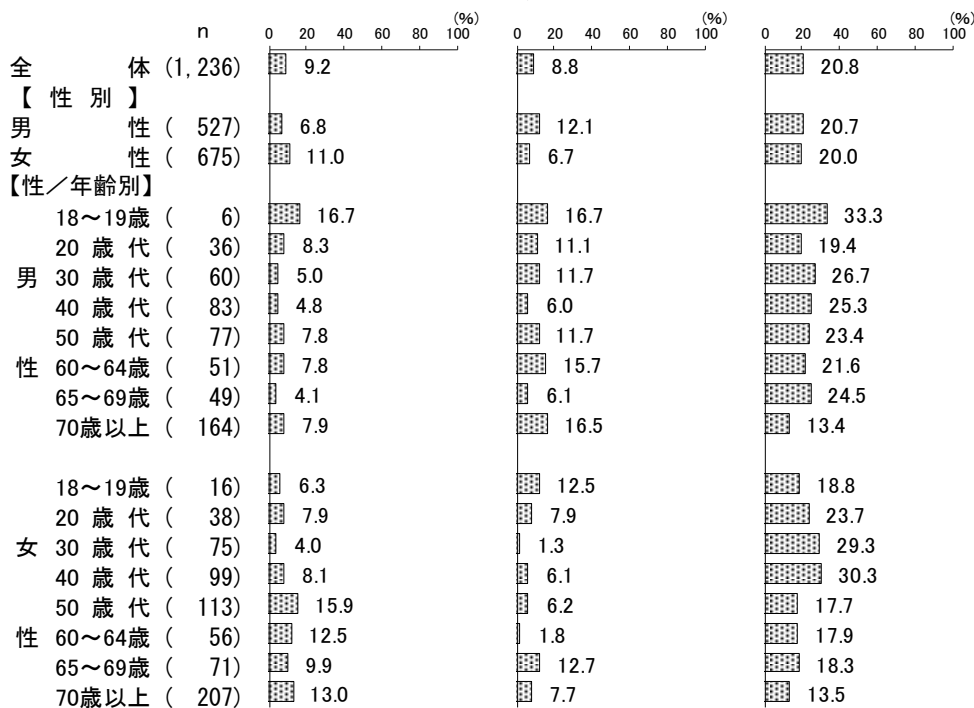
□行政の対応がより  
配慮されるようにな  
った



□街で障害のある方  
をよく見かけるよう  
になった

□商店や企業の対応  
がより配慮される  
ようになった

□理解が進んでいる  
とは思わない

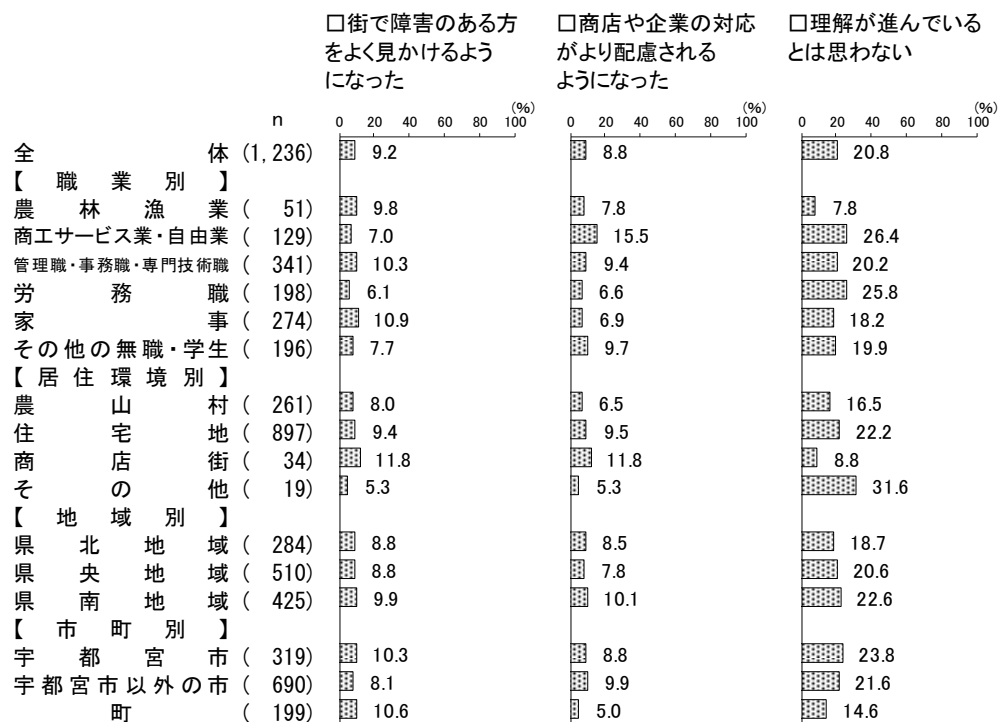
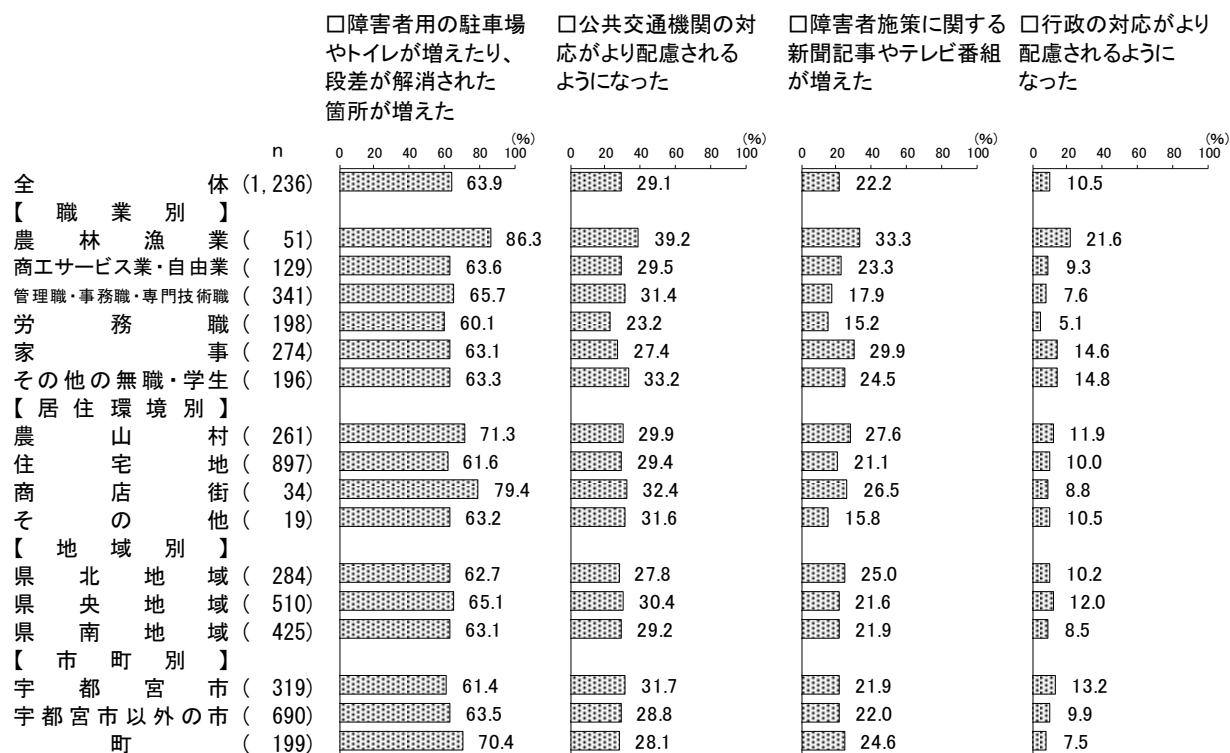


性別で見ると、「商店や企業の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(12.1%)が〈女性〉(6.7%)より5.4ポイント高くなっている。「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(32.6%)が〈女性〉(27.3%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が40.2%と高くなっており、一方、〈女性40歳代〉が18.2%と低くなっている。「障害者施策に関する

新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈女性70歳以上〉が32.9%、〈女性65～69歳〉が32.4%と高くなっており、一方、〈男性20歳代〉及び〈女性40歳代〉がそれぞれ11.1%と低くなっている。「行政の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が21.3%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別・市町別】



職業別で見ると、〈農林漁業〉が「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」は86.3%、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」は39.2%、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」は33.3%、「行政の対応がより配慮されるようになった」は21.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈商店街〉が79.4%、〈農山村〉が71.3%と高くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈農山村〉が27.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」では〈町〉が70.4%と高くなっている。



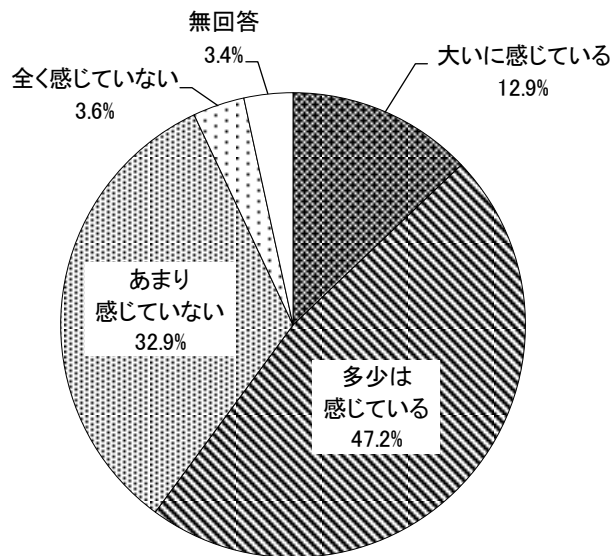
## 15 食の安全・安心について

### (1) 食品の安全性に対する不安

問43 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

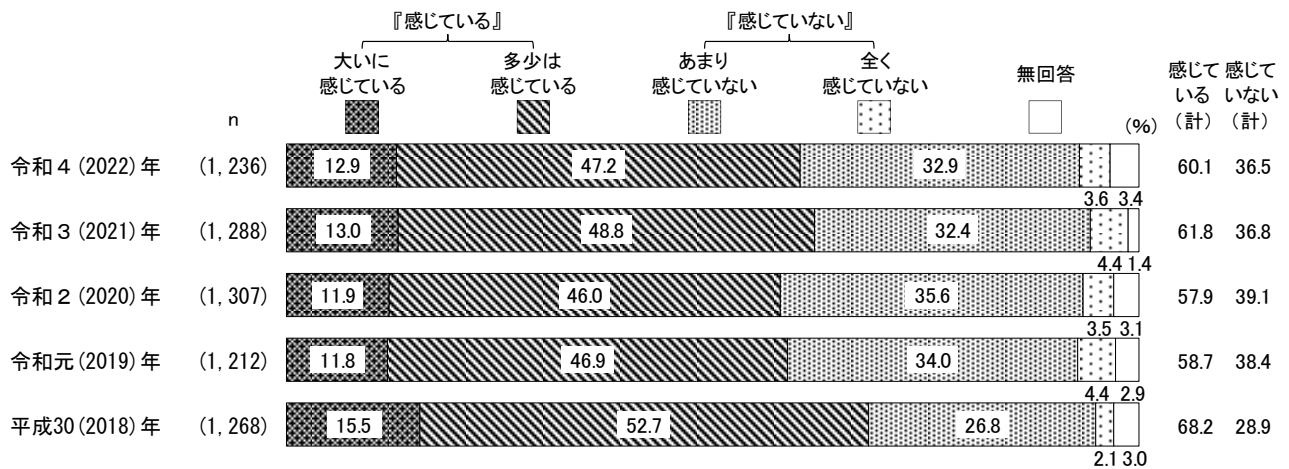
[n=1,236]

1 大いに感じている	12.9%	3 あまり感じていない	32.9%
2 多少は感じている	47.2%	4 全く感じていない	3.6%
		(無回答)	3.4%



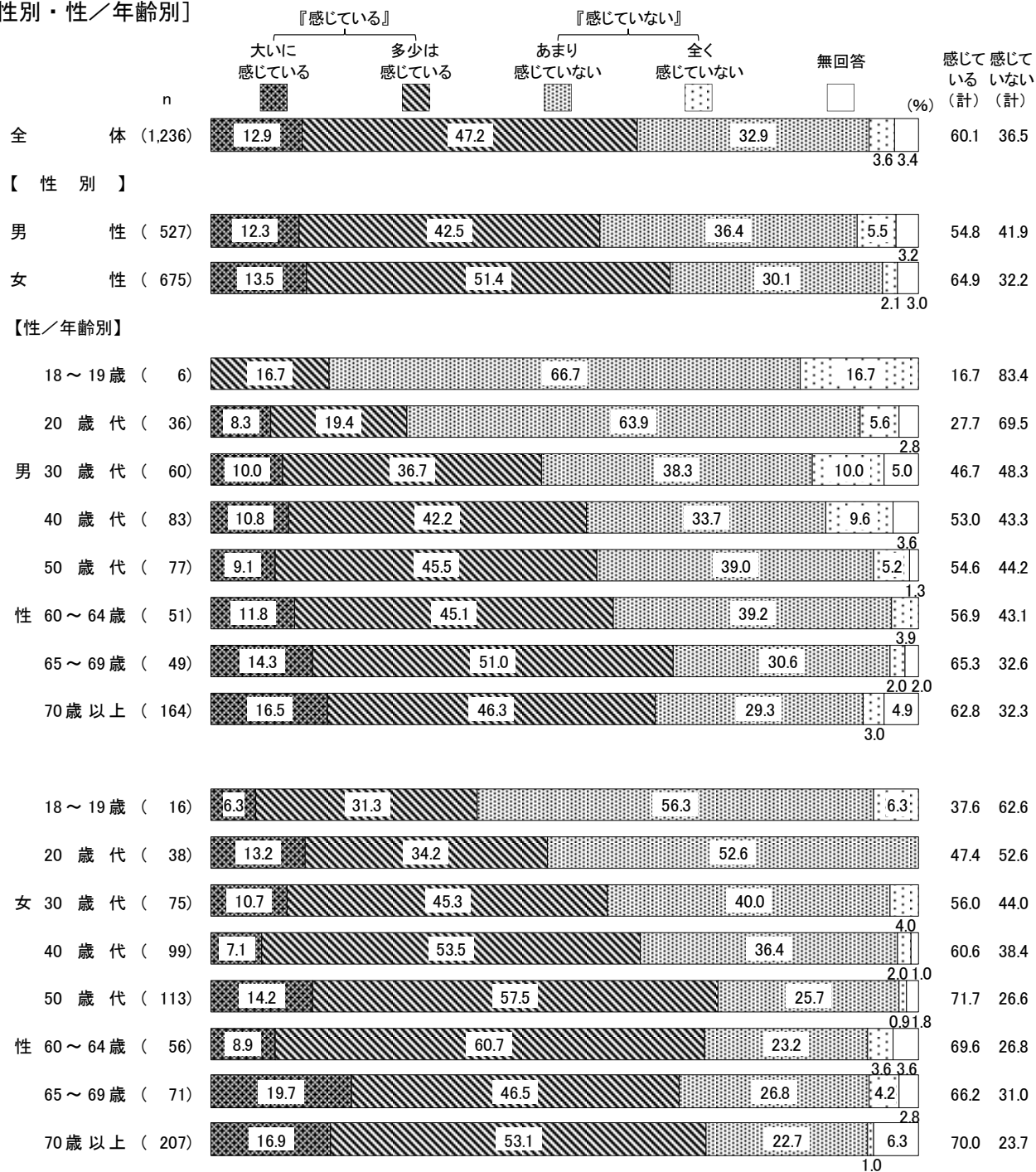
(n=1,236)

全体でみると、「大いに感じている」(12.9%)と「多少は感じている」(47.2%)の2つを合わせた『感じている』(60.1%)は約6割と高くなっている。一方、「あまり感じていない」(32.9%)と「全く感じていない」(3.6%)の2つを合わせた『感じていない』(36.5%)は3割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

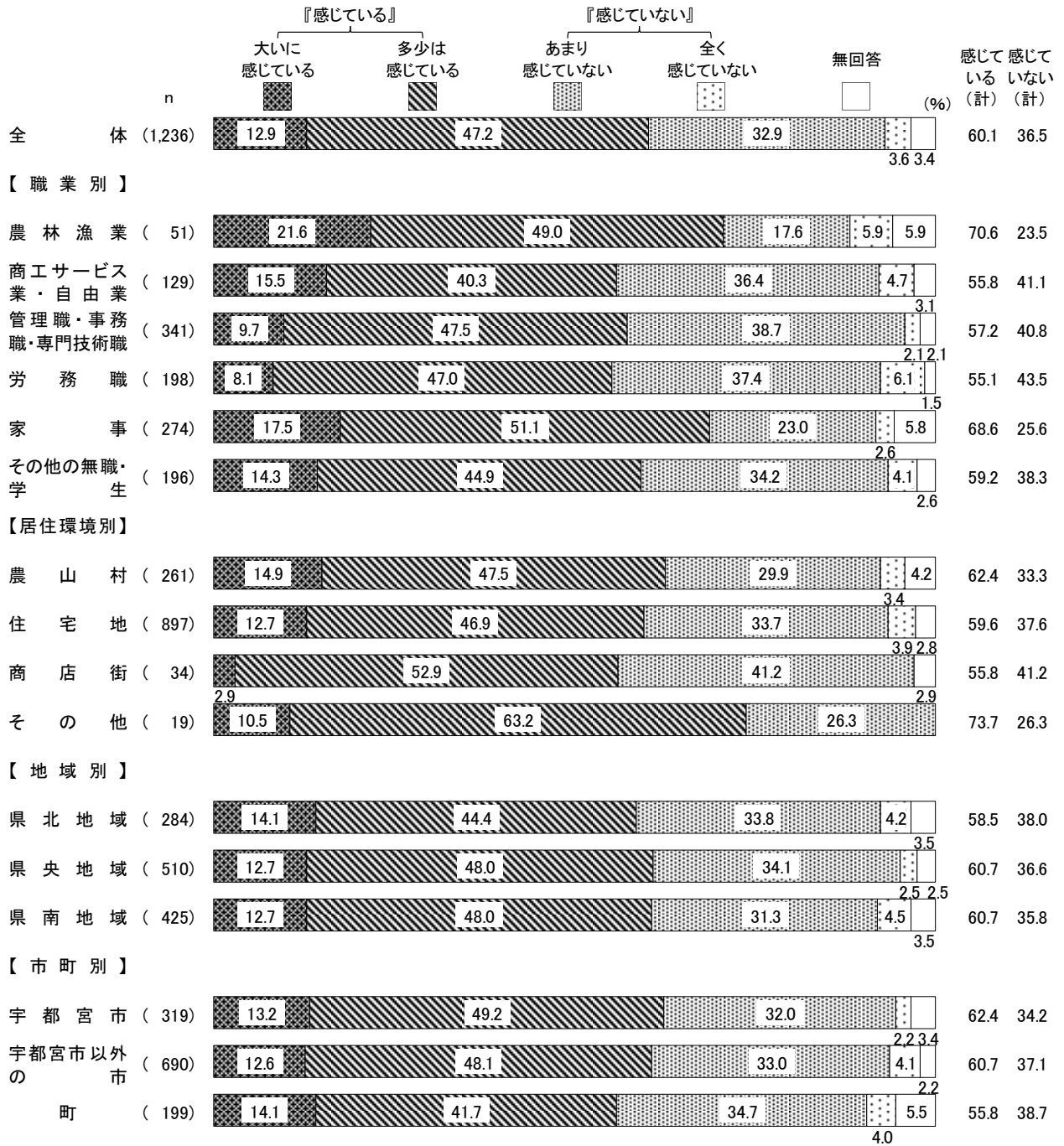
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(64.9%)が〈男性〉(54.8%)より10.1ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(41.9%)が〈女性〉(32.2%)より9.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じている』では〈女性50歳代〉が71.7%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が69.5%、〈女性20歳代〉が52.6%、〈男性30歳代〉が48.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈農林漁業〉が70.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』・『感じていない』では大きな傾向の違いはみられない。「多少は感じている」では〈商店街〉が52.9%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

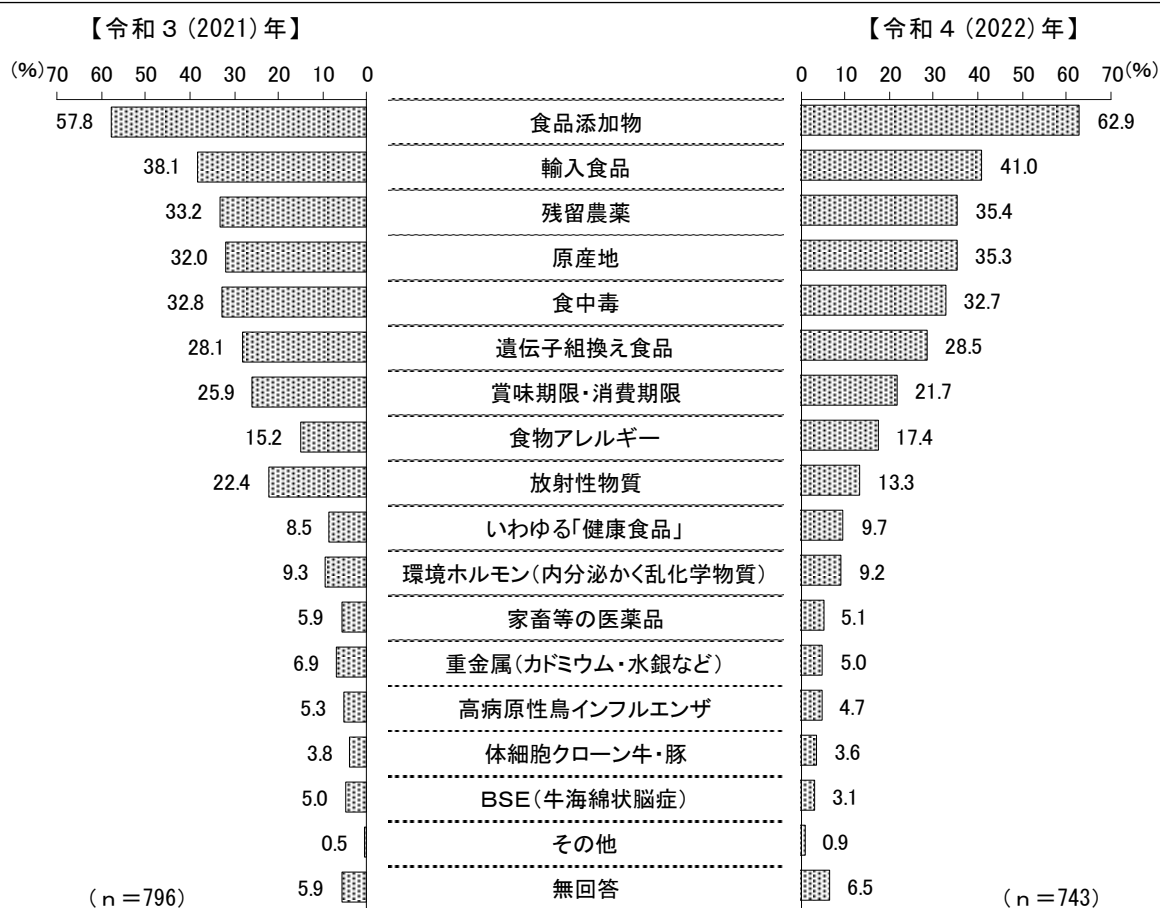
## (2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問43で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問44 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

[n = 743]

1	食中毒	32.7%	10	遺伝子組換え食品	28.5%
2	食品添加物	62.9	11	輸入食品	41.0
3	いわゆる「健康食品」	9.7	12	BSE(牛海綿状脳症)	3.1
4	放射性物質	13.3	13	高病原性鳥インフルエンザ	4.7
5	重金属(カドミウム・水銀など)	5.0	14	体細胞クローン牛・豚	3.6
6	残留農薬	35.4	15	家畜等の医薬品	5.1
7	食物アレルギー	17.4	16	環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	9.2
8	賞味期限・消費期限	21.7	17	その他	0.9
9	原産地	35.3		(無回答)	6.5

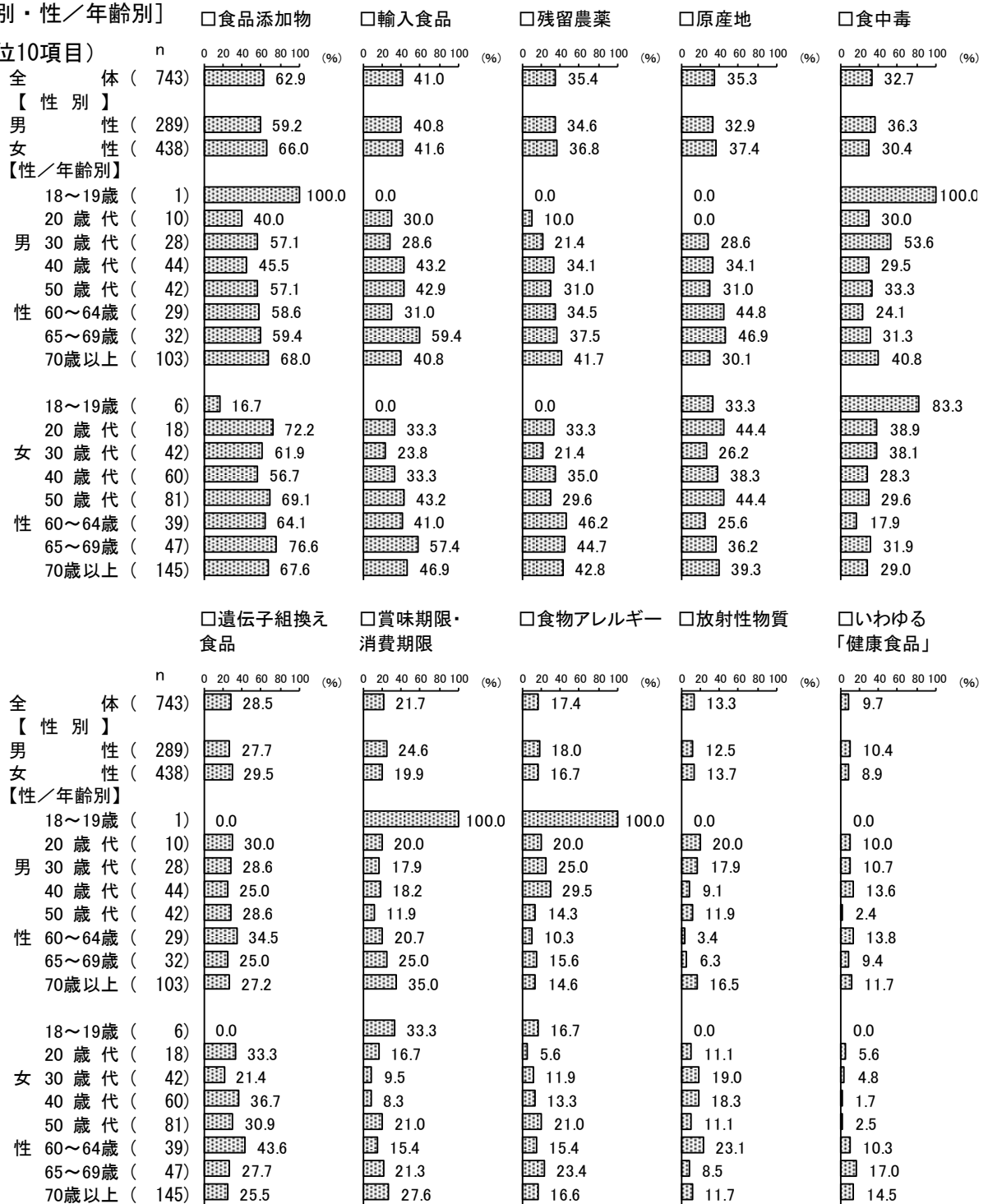


全体でみると、「食品添加物」(62.9%)が6割強で最も高く、次いで「輸入食品」(41.0%)、「残留農薬」(35.4%)、「原産地」(35.3%)、「食中毒」(32.7%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「食品添加物」が5.1ポイント増加している。一方、「放射性物質」が9.1ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

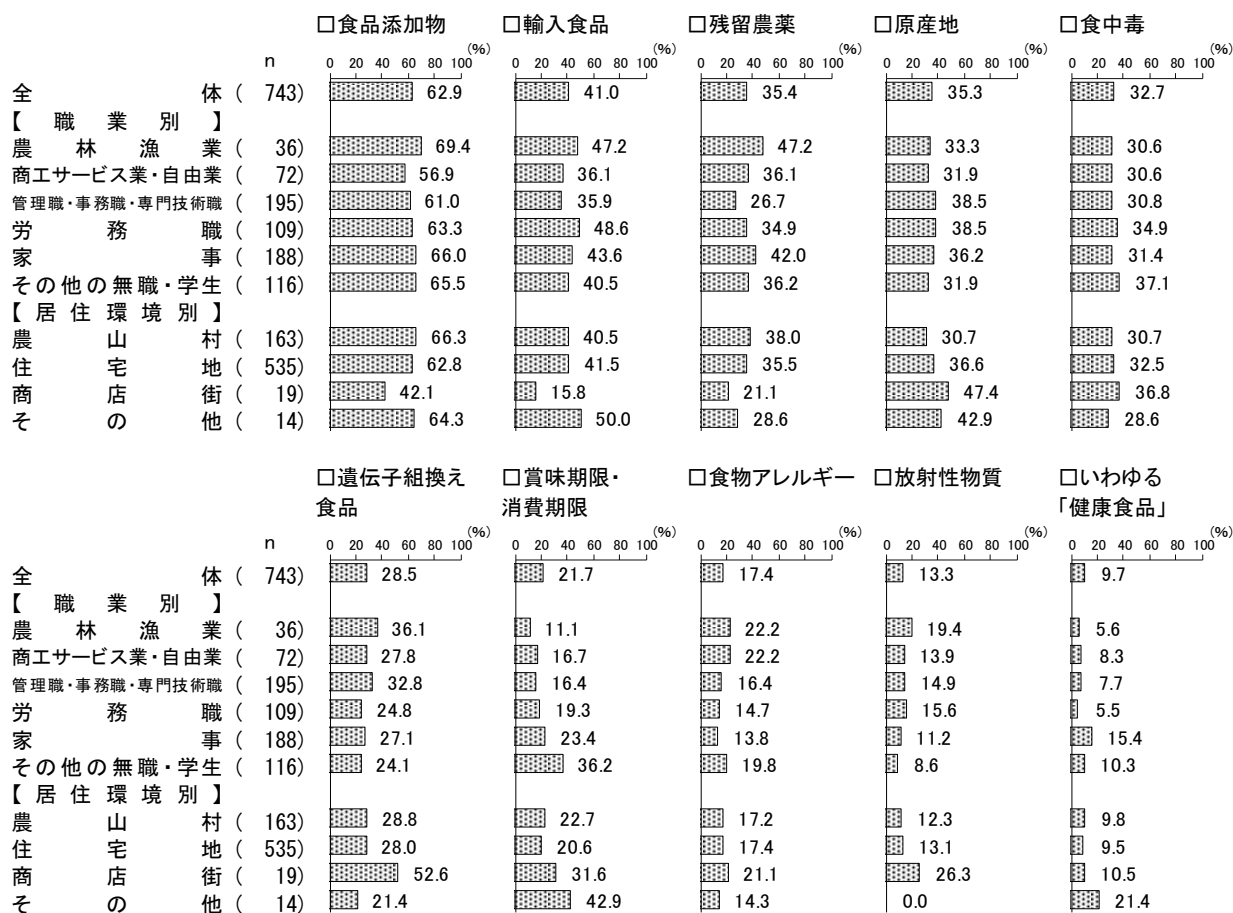


性別でみると、「食品添加物」では〈女性〉(66.0%)が〈男性〉(59.2%)より6.8ポイント高くなっている。「食中毒」では〈男性〉(36.3%)が〈女性〉(30.4%)より5.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食品添加物」では〈女性65～69歳〉が76.6%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性65～69歳〉が59.4%、〈女性65～69歳〉が57.4%と高くなっている。「残留農薬」では〈女性60～64歳〉が46.2%と高くなっている。「原産地」では〈男性65～69歳〉が46.9%と高くなっている。「食中毒」では〈男性30歳代〉が53.6%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈女性60～64歳〉が43.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性70歳以上〉が35.0%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈男性40歳代〉が29.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]

(上位10項目)



職業別でみると、「残留農薬」では〈農林漁業〉が47.2%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が36.2%と高くなっている。

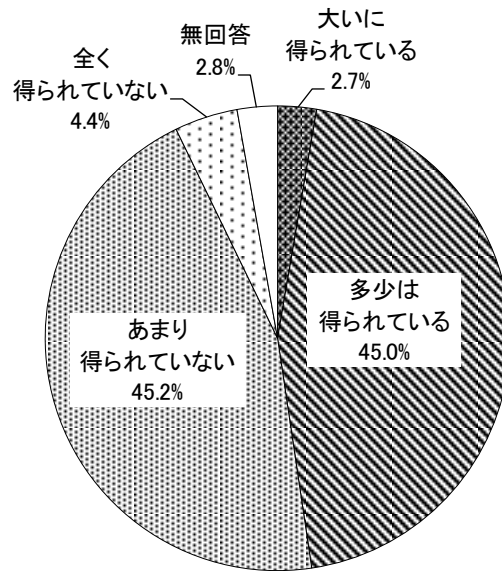
居住環境別でみると、「原産地」では〈商店街〉が47.4%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈商店街〉が52.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈商店街〉が31.6%と高くなっている。「放射性物質」では〈商店街〉が26.3%と高くなっている。

### (3) 食の安全に関する情報を得られているか

問45 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。

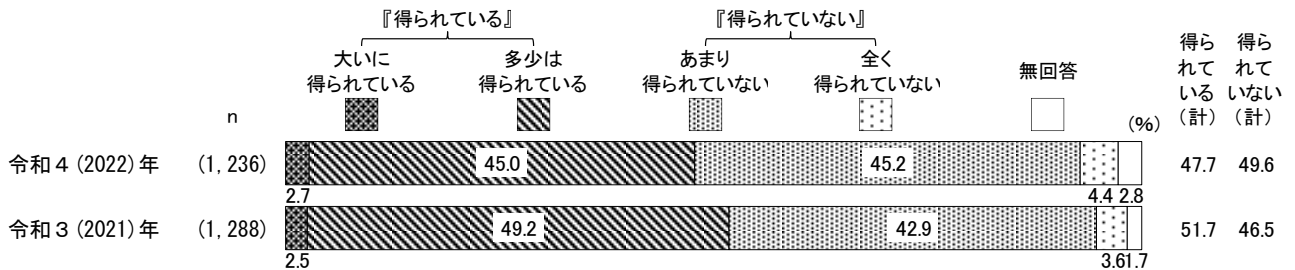
[n=1,236]

1	大いに得られている	2.7%	3	あまり得られていない	45.2%
2	多少は得られている	45.0	4	全く得られていない	4.4
				(無回答)	2.8



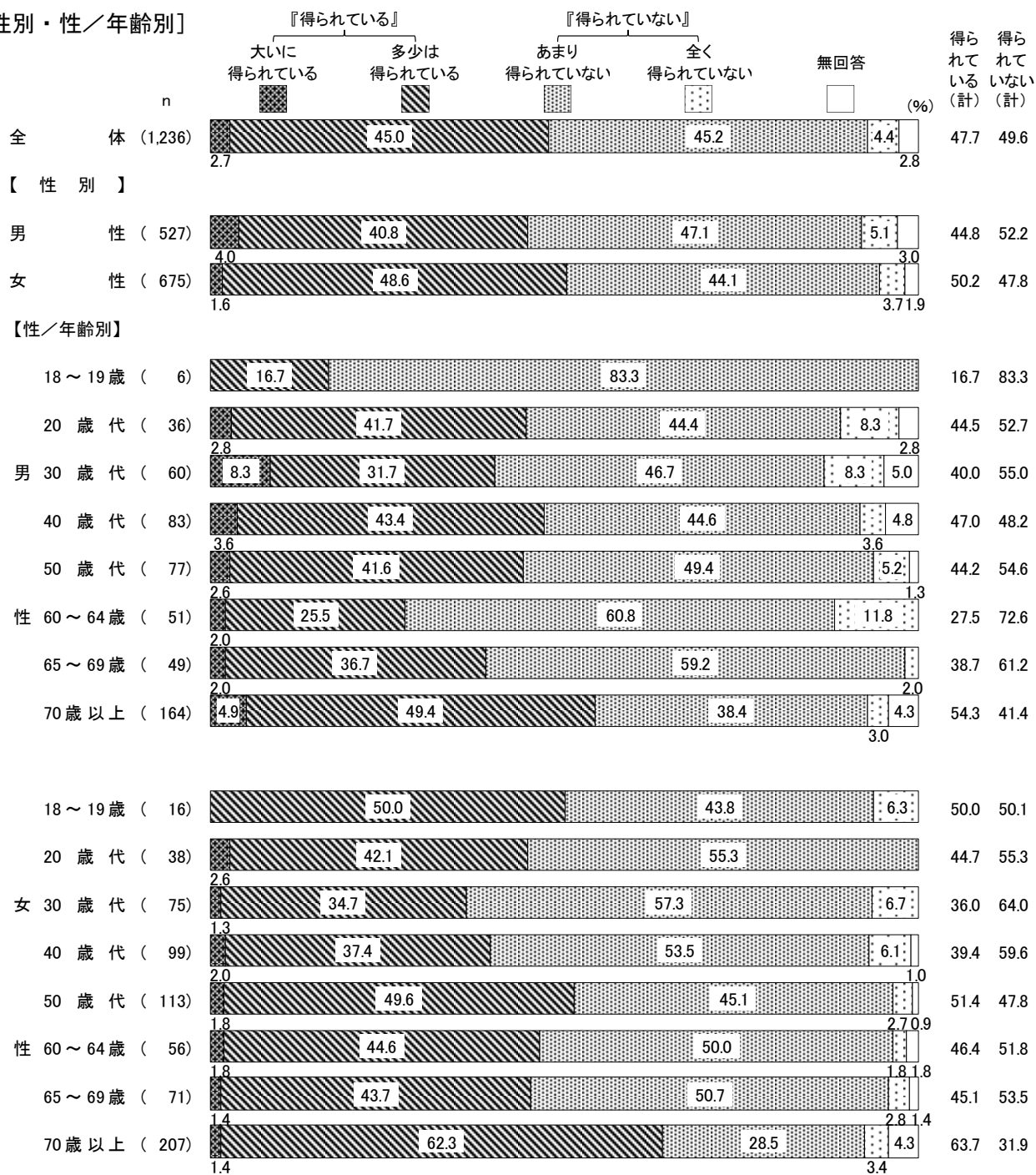
(n=1,236)

全体でみると、「大いに得られている」(2.7%)と「多少は得られている」(45.0%)の2つを合わせた『得られている』(47.7%)は4割台半ばを超えている。一方、「あまり得られていない」(45.2%)、「全く得られていない」(4.4%)の2つを合わせた『得られていない』(49.6%)は5割弱となっている。



前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]

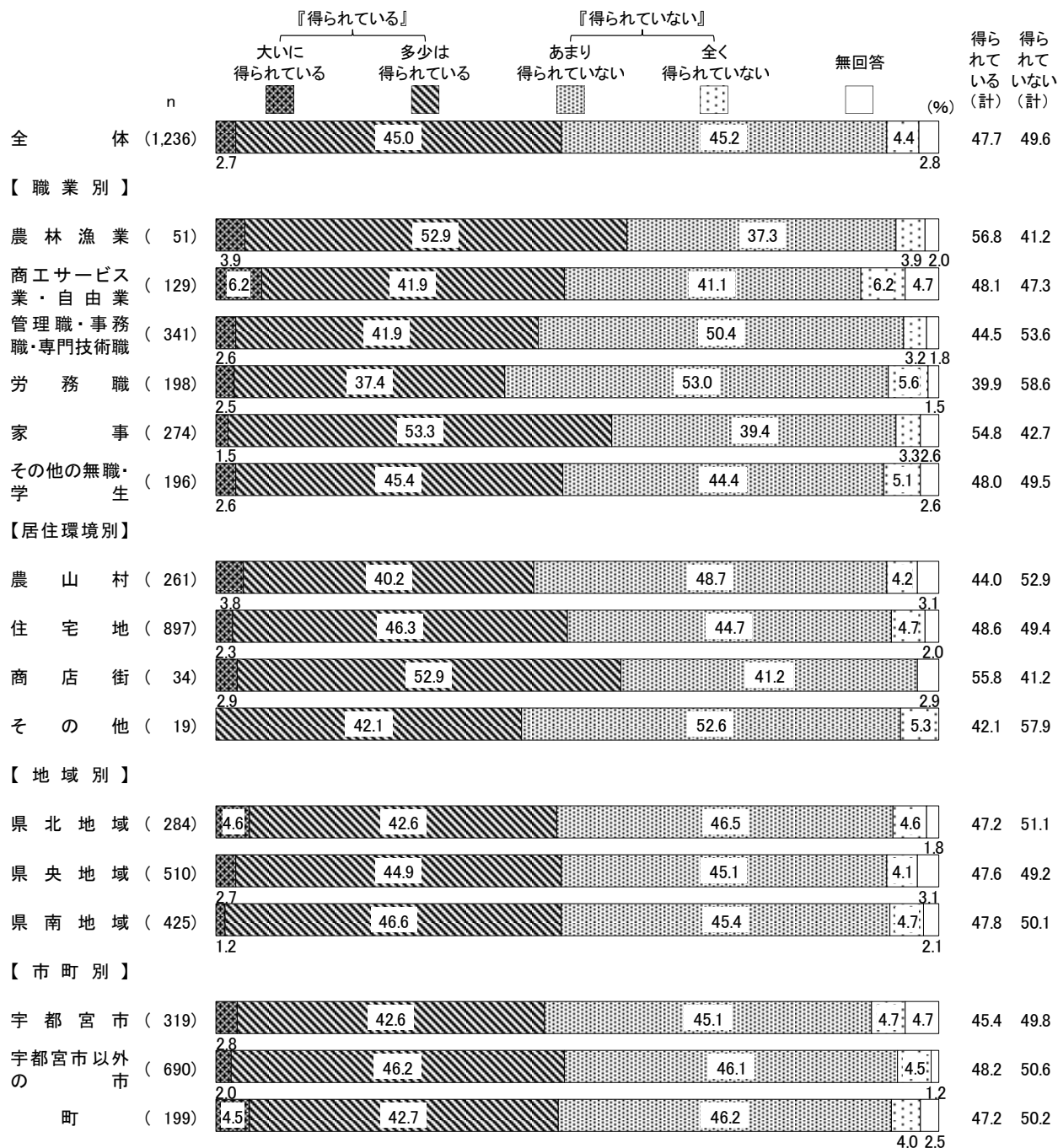


性別で見ると、『得られている』では〈女性〉(50.2%)が〈男性〉(44.8%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が63.7%と高くなっている。『得られていない』では〈男性60～64歳〉が72.6%、〈女性30歳代〉が64.0%、〈男性65～69歳〉が61.2%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『得られている』では〈農林漁業〉が56.8%、〈家事〉が54.8%と高くなっている。

『得られていない』では〈労務職〉が58.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、『得られている』では〈商店街〉が55.8%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

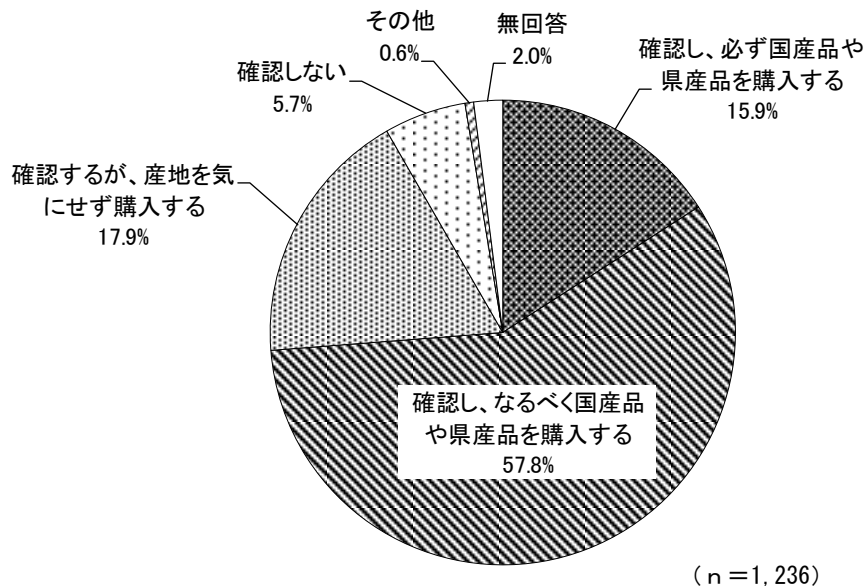
## 16 食に関する意識と実践について

### (1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか

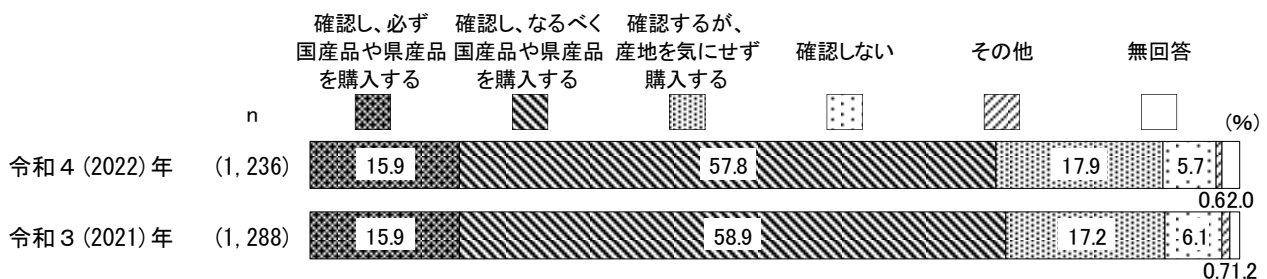
問46 あなたがお米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を確認し選んで購入しますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

1 確認し、必ず国産品や県産品を購入する	15.9%
2 確認し、なるべく国産品や県産品を購入する	57.8
3 確認するが、産地を気にせず購入する	17.9
4 確認しない	5.7
5 その他	0.6
(無回答)	2.0

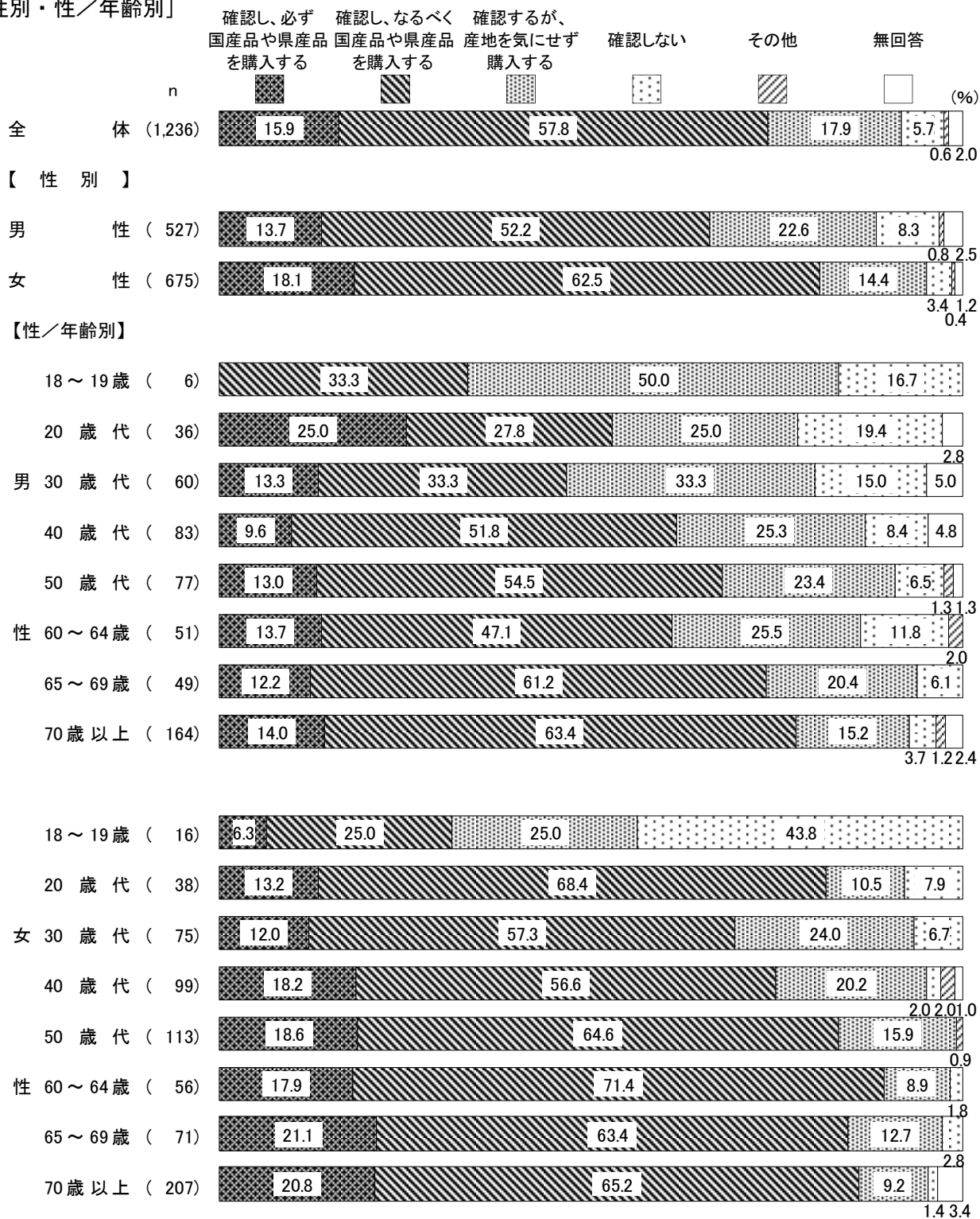


全体でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」(57.8%)が5割台半ばを超え、「確認するが、産地を気にせず購入する」(17.9%)が1割台半ばを超え、「確認し、必ず国産品や県産品を購入する」(15.9%)が1割台半ばとなっている。



前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

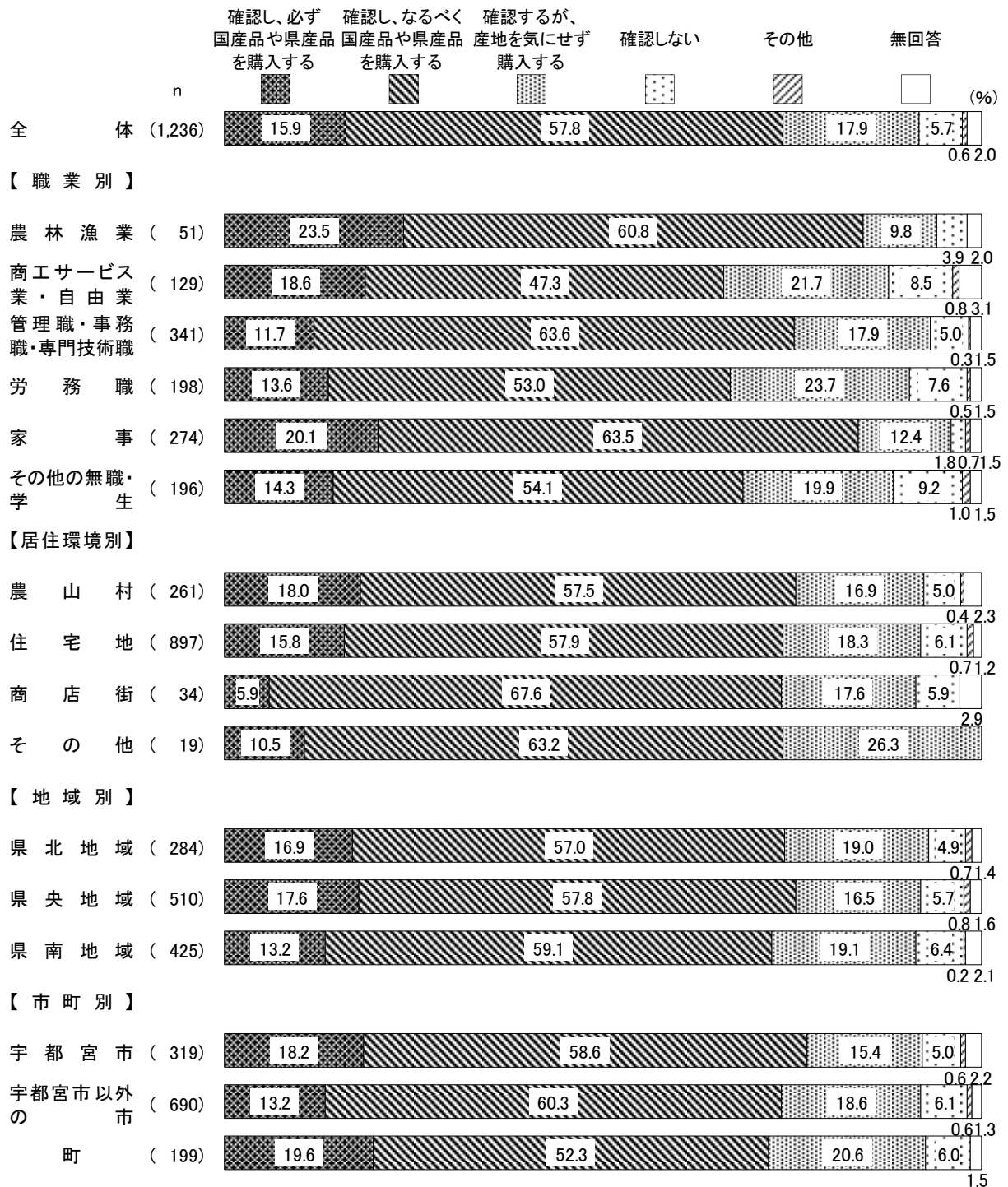
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(52.2%)より10.3ポイント高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性〉(22.6%)が〈女性〉(14.4%)より8.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈女性60～64歳〉が71.4%、〈女性20歳代〉が68.4%と高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性30歳代〉が33.3%と高くなっている。「確認しない」では〈男性20歳代〉が19.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈商工サービス業・自由業〉が47.3%と低くなっている。

居住環境別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈商店街〉が67.6%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

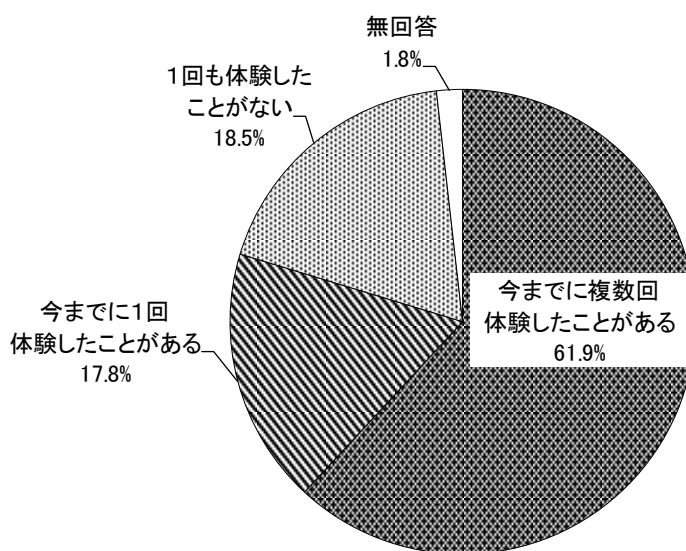
市町別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈町〉が52.3%と低くなっている。

## (2) 農業体験をした経験

問47 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

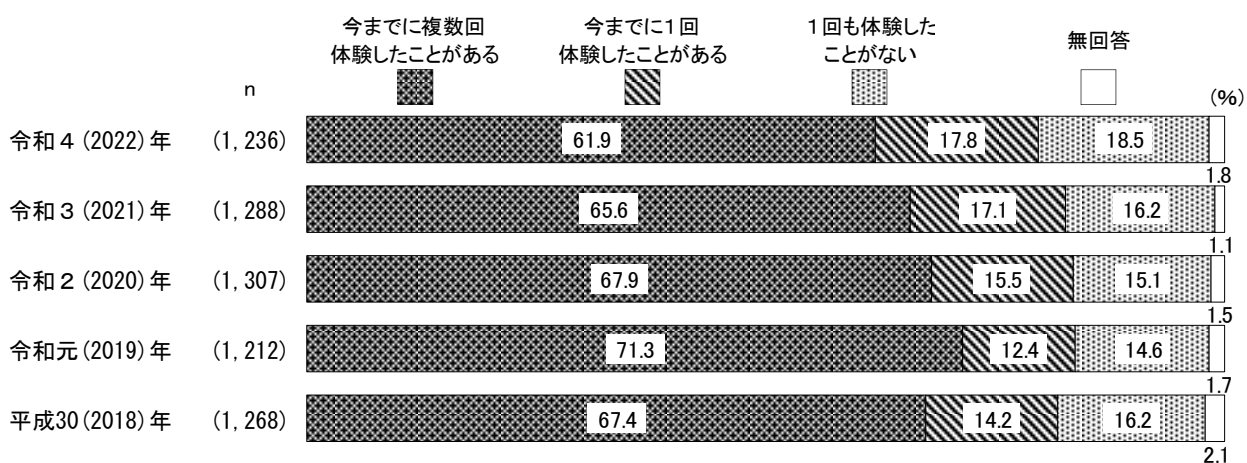
[n=1,236]

1	今までに複数回体験したことがある	61.9%
2	今までに1回体験したことがある	17.8
3	1回も体験したことがない	18.5
	(無回答)	1.8



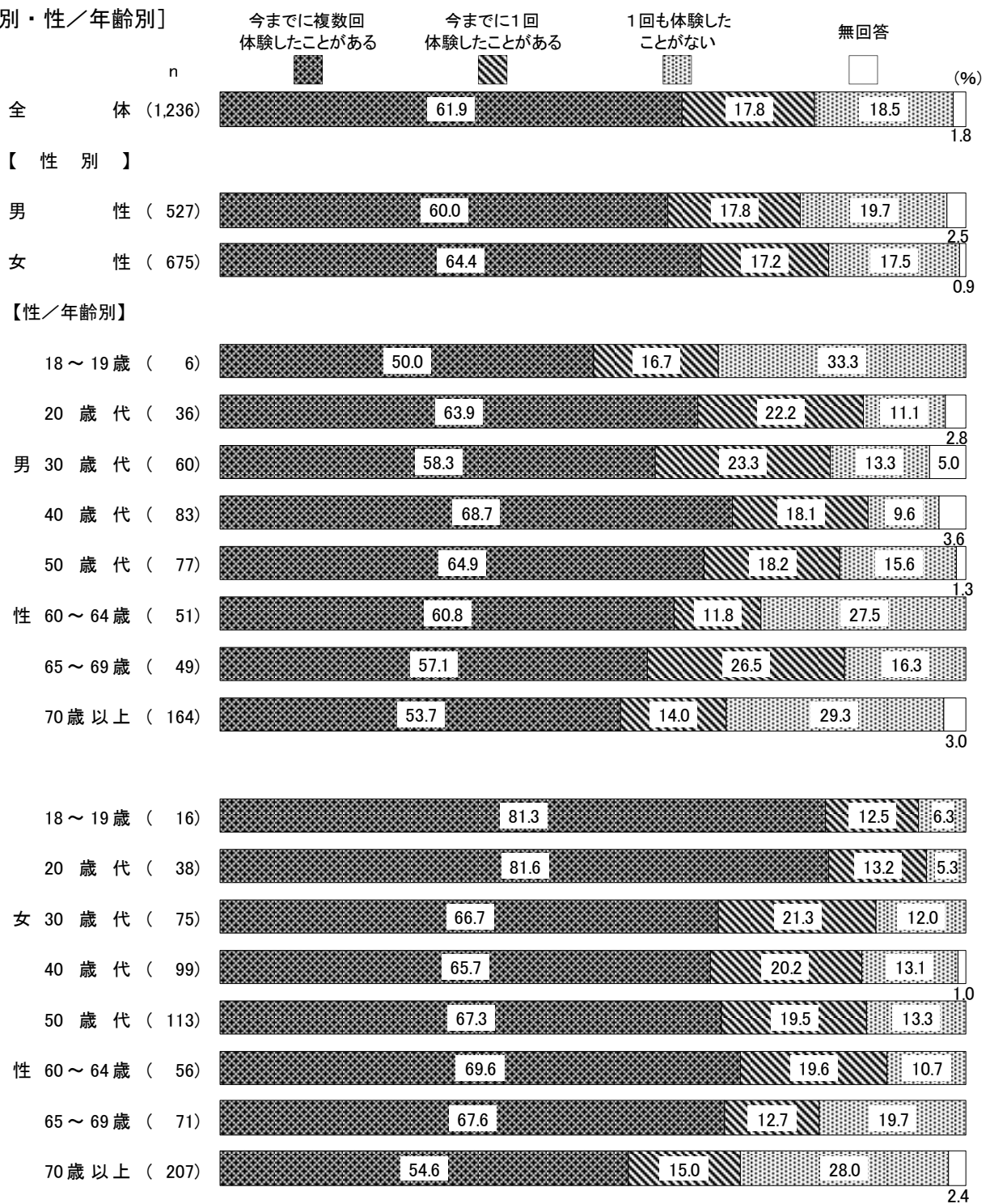
(n=1,236)

全体でみると、「今までに複数回体験したことがある」(61.9%)が6割強、「今までに1回体験したことがある」(17.8%)が1割台半ばを超え、「1回も体験したことがない」(18.5%)が2割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

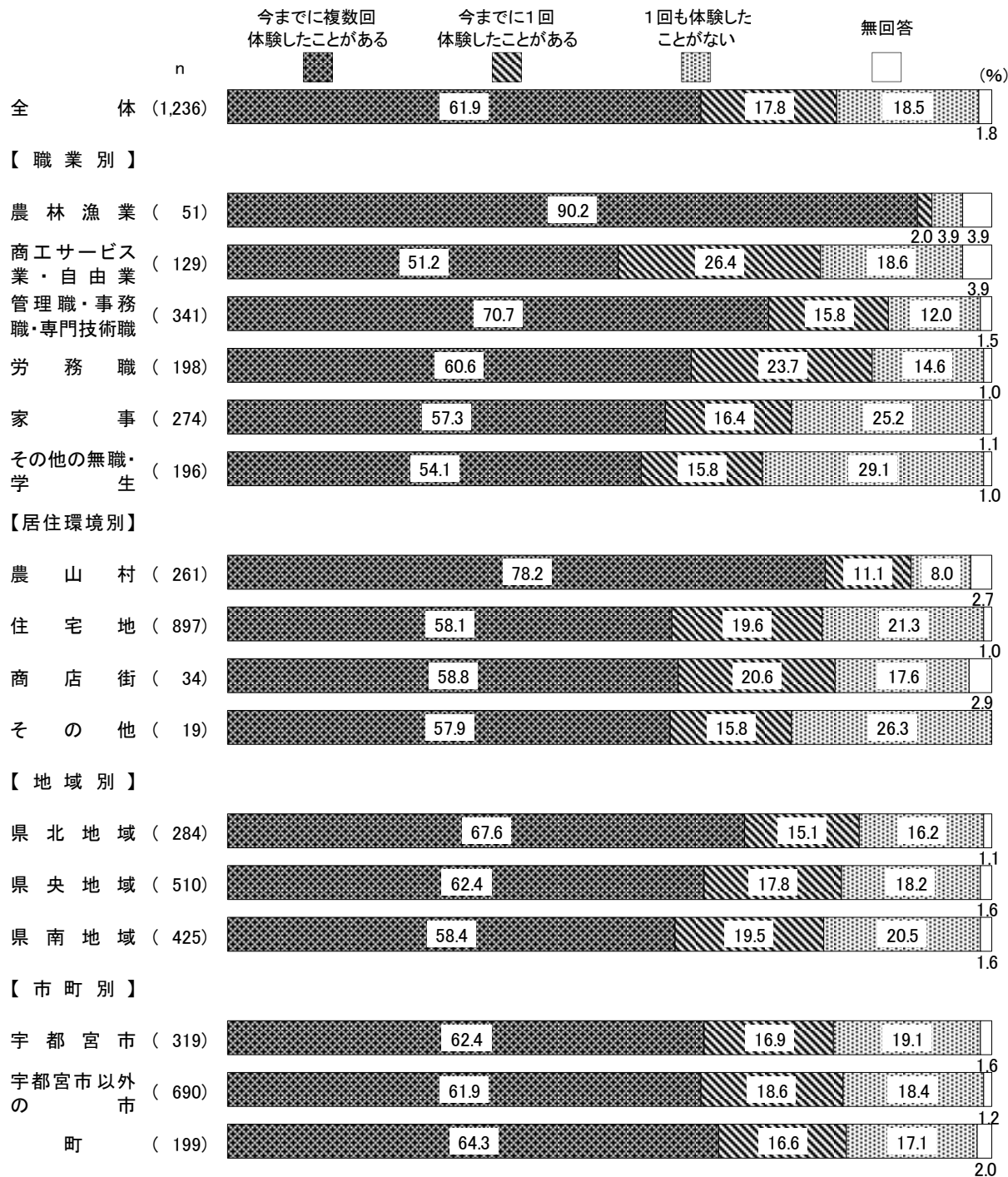
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性70歳以上〉が29.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農林漁業〉が90.2%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈その他の無職・学生〉が29.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農山村〉が78.2%と高くなっている。

地域別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈県北地域〉が67.6%と高くなっている。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

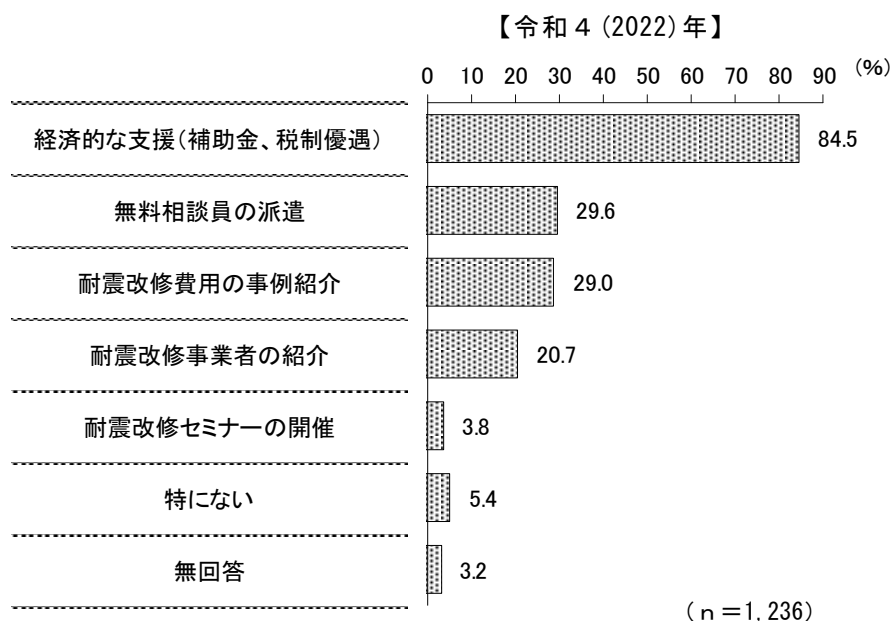
## 17 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について

### (1) 住宅の耐震改修の必要性

問48 あなた又は家族が所有するお住まいの耐震性に問題があるとわかった場合、耐震改修に踏み切るために行政してほしいことは何ですか。次の中から2つ選んでください。

[n=1,236]

1	経済的な支援（補助金、税制優遇）	84.5%	4	耐震改修費用の事例紹介	29.0%
2	耐震改修セミナーの開催	3.8	5	耐震改修事業者の紹介	20.7
3	無料相談員の派遣	29.6	6	特にない	5.4
				(無回答)	3.2

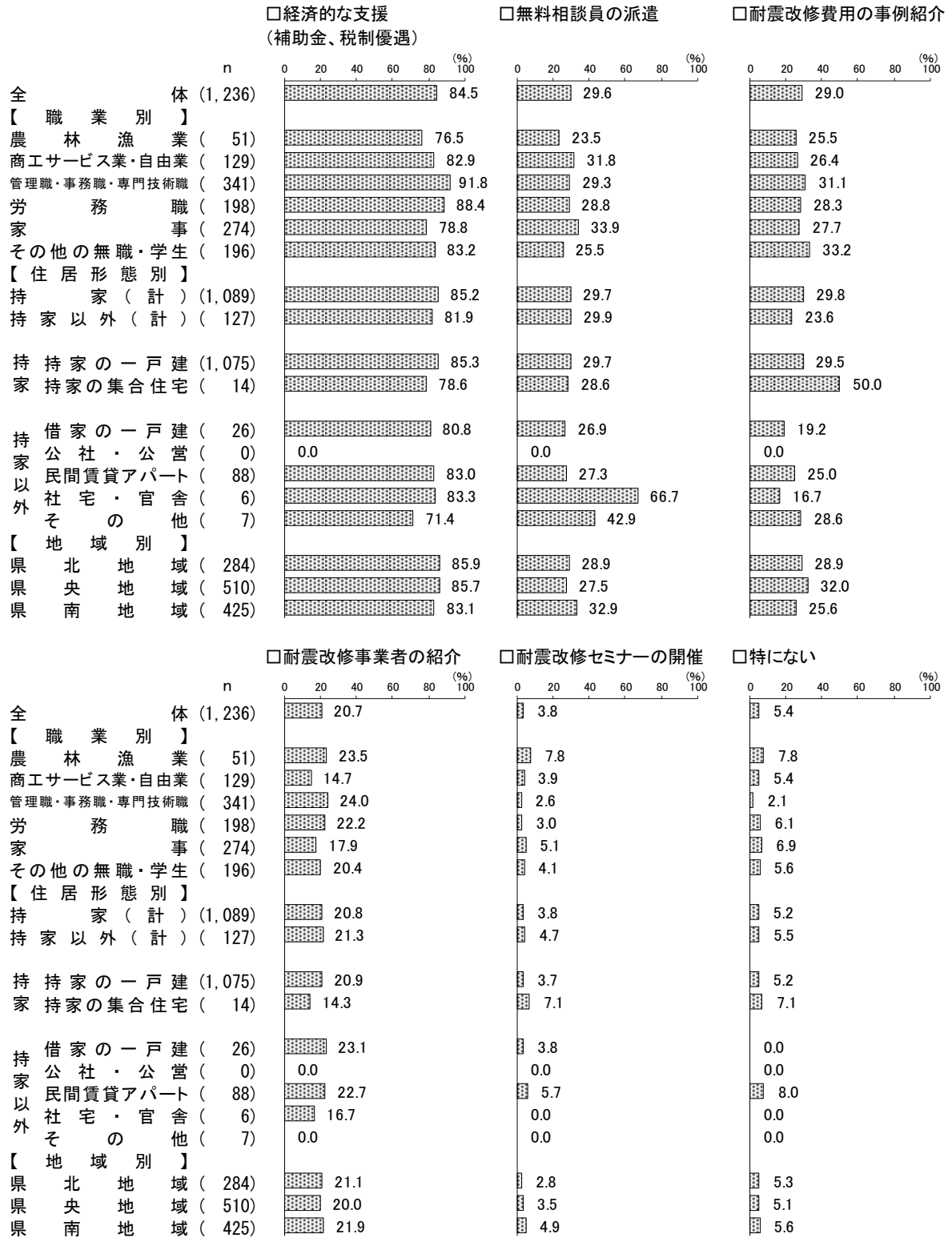


全体で見ると、「経済的な支援（補助金、税制優遇）」（84.5%）が8割台半ば近くで最も高くなっている。以下「無料相談員の派遣」（29.6%）、「耐震改修費用の事例紹介」（29.0%）、「耐震改修事業者の紹介」（20.7%）の順となっている。





[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

住居形態別でみると、「耐震改修費用の事例紹介」では（持家の集合住宅）が50.0%と高くなっている。

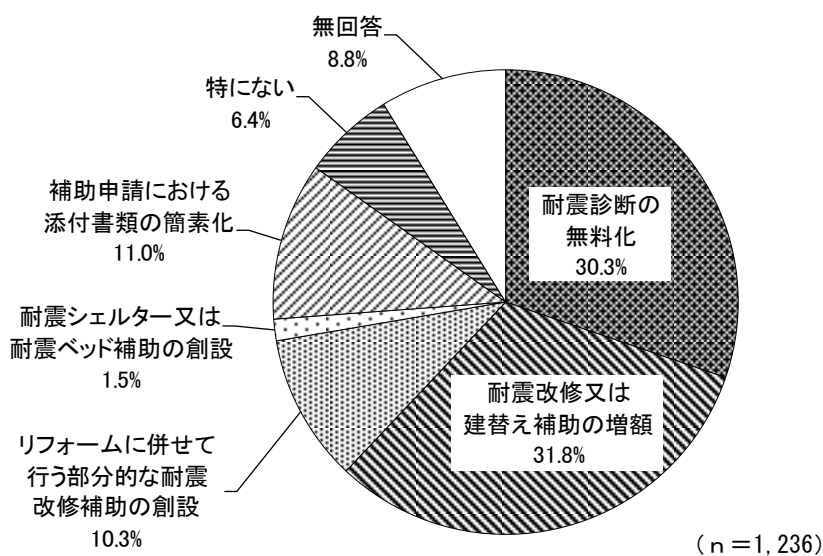
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 住宅の安全確保

問49 行政は、住まいの耐震性を確保するために補助金などの経済的な支援に取り組んでいますが、更に充実を図るため取り組んでほしい補助制度は何ですか。次の中から1つ選んでください。

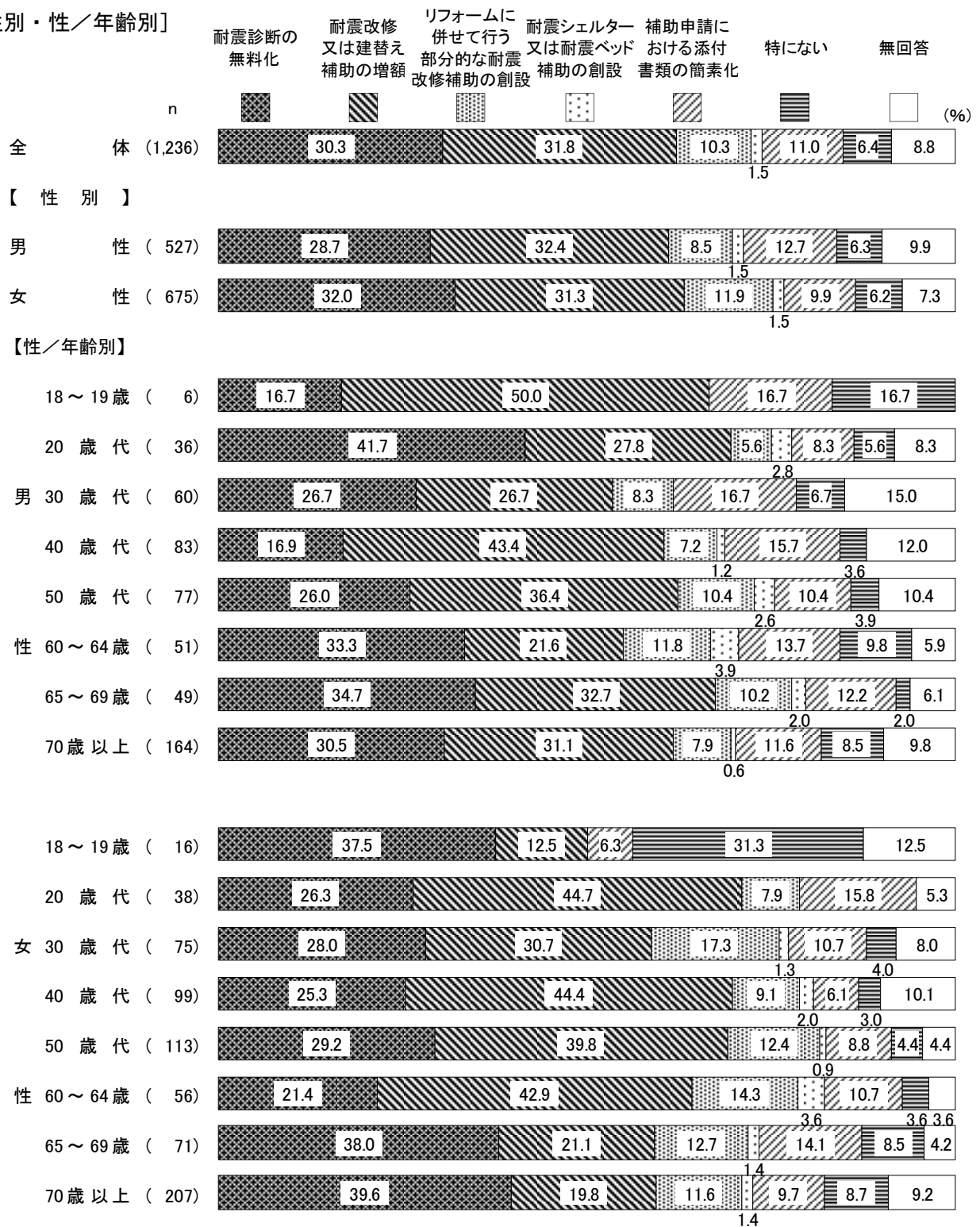
[n=1,236]

1	耐震診断の無料化	30.3%
2	耐震改修又は建替え補助の増額	31.8
3	リフォームに併せて行う部分的な耐震改修補助の創設	10.3
4	耐震シェルター又は耐震ベッド補助の創設	1.5
5	補助申請における添付書類の簡素化	11.0
6	特にない	6.4
	(無回答)	8.8



全体で見ると、「耐震改修又は建替え補助の増額」(31.8%)が3割強、「耐震診断の無料化」(30.3%)が約3割となっている。

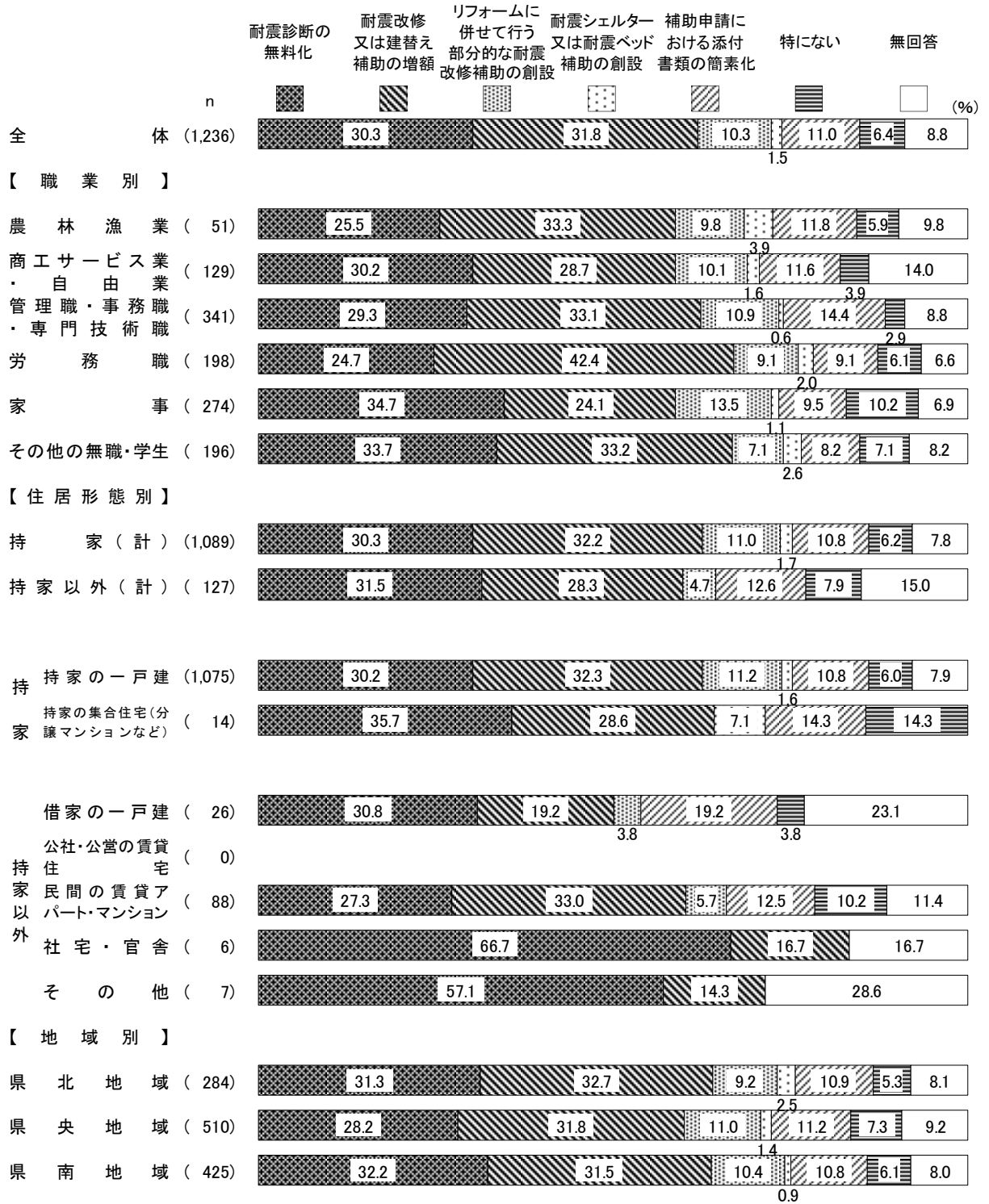
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「耐震改修又は建替え補助の増額」では〈女性20歳代〉が44.7%、〈女性40歳代〉が44.4%、〈男性40歳代〉が43.4%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「耐震診断の無料化」では〈男性20歳代〉が41.7%と高くなっている。

[職業別・住居形態別・地域別]



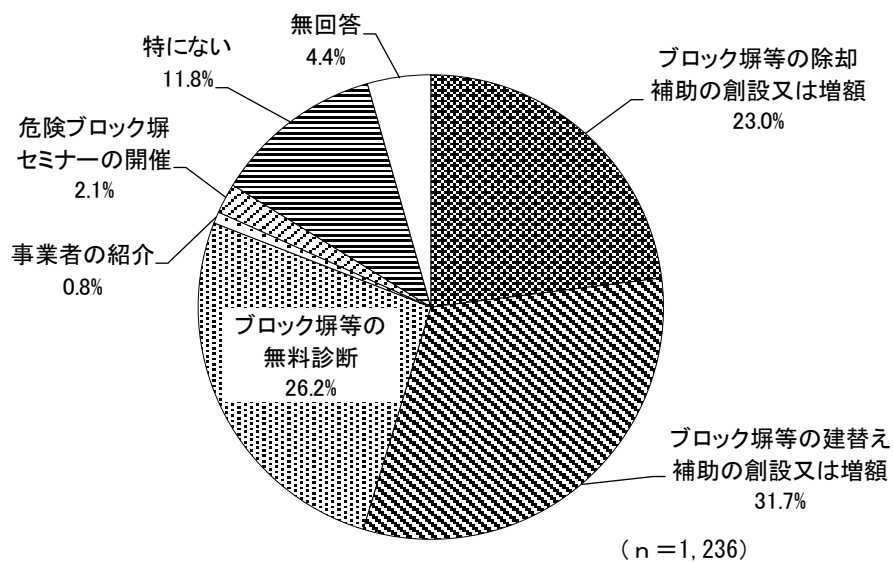
職業別でみると、「耐震改修又は建替え補助の増額」では〈労務職〉が42.4%と高くなっている。  
 住居形態別でみると、「耐震診断の無料化」では〈持家の集合住宅〉が35.7%と高くなっている。「補助申請における添付書類の簡素化」では〈借家の一戸建〉が19.2%と高くなっている。  
 地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) ブロック塀の安全確保

問50 あなたが「危険なブロック塀及び石塀」を安全化するために行政に対して力を入れてほしい支援は何ですか。次の中から1つ選んでください。

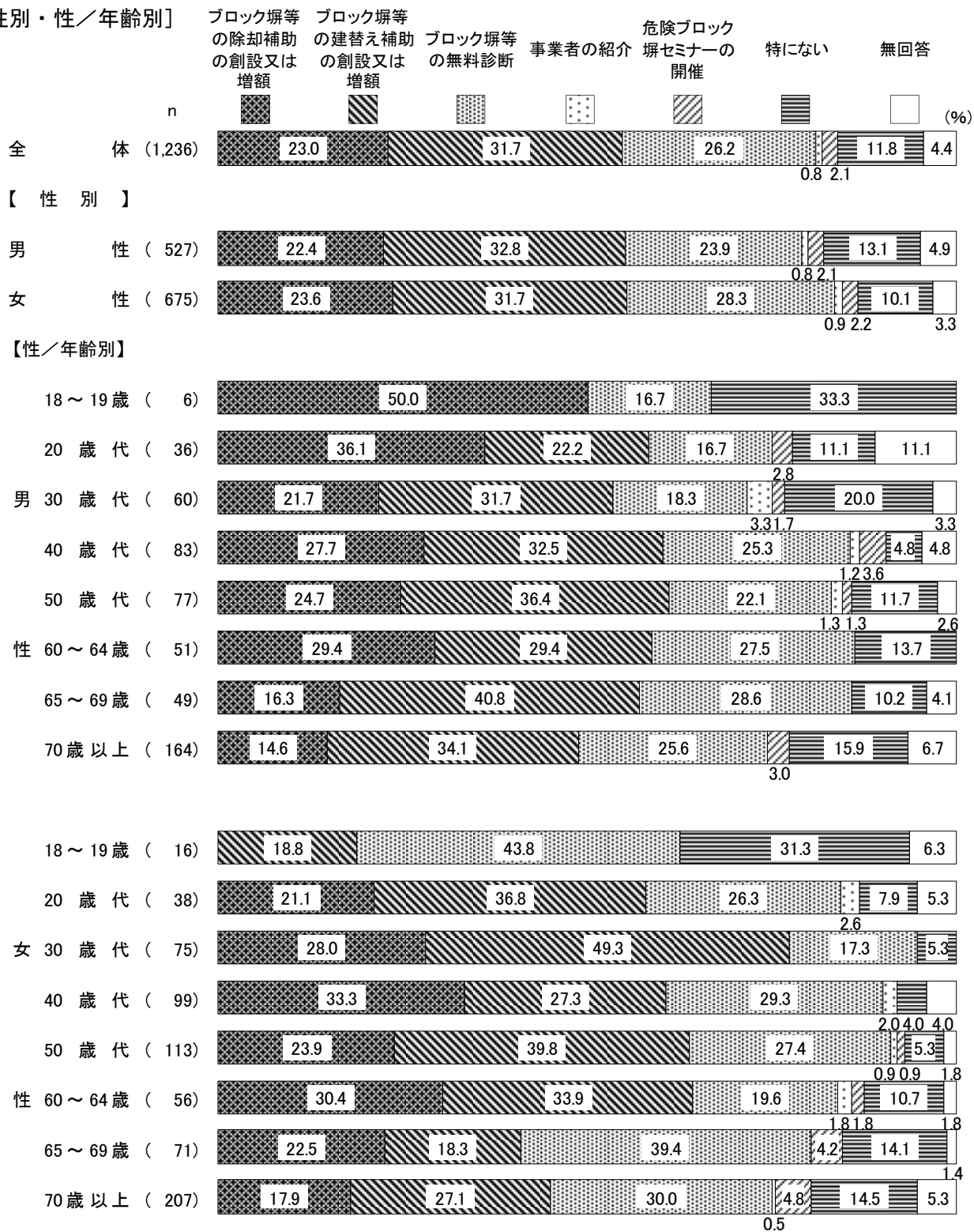
[n=1,236]

1	ブロック塀等の除却補助の創設又は増額	23.0%
2	ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額	31.7
3	ブロック塀等の無料診断	26.2
4	事業者の紹介	0.8
5	危険ブロック塀セミナーの開催	2.1
6	特にない	11.8
	(無回答)	4.4



全体で見ると、「ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額」(31.7%)が3割強、「ブロック塀等の無料診断」(26.2%)が2割台半ばを超え、「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」(23.0%)が2割台半ば近くとなっている。

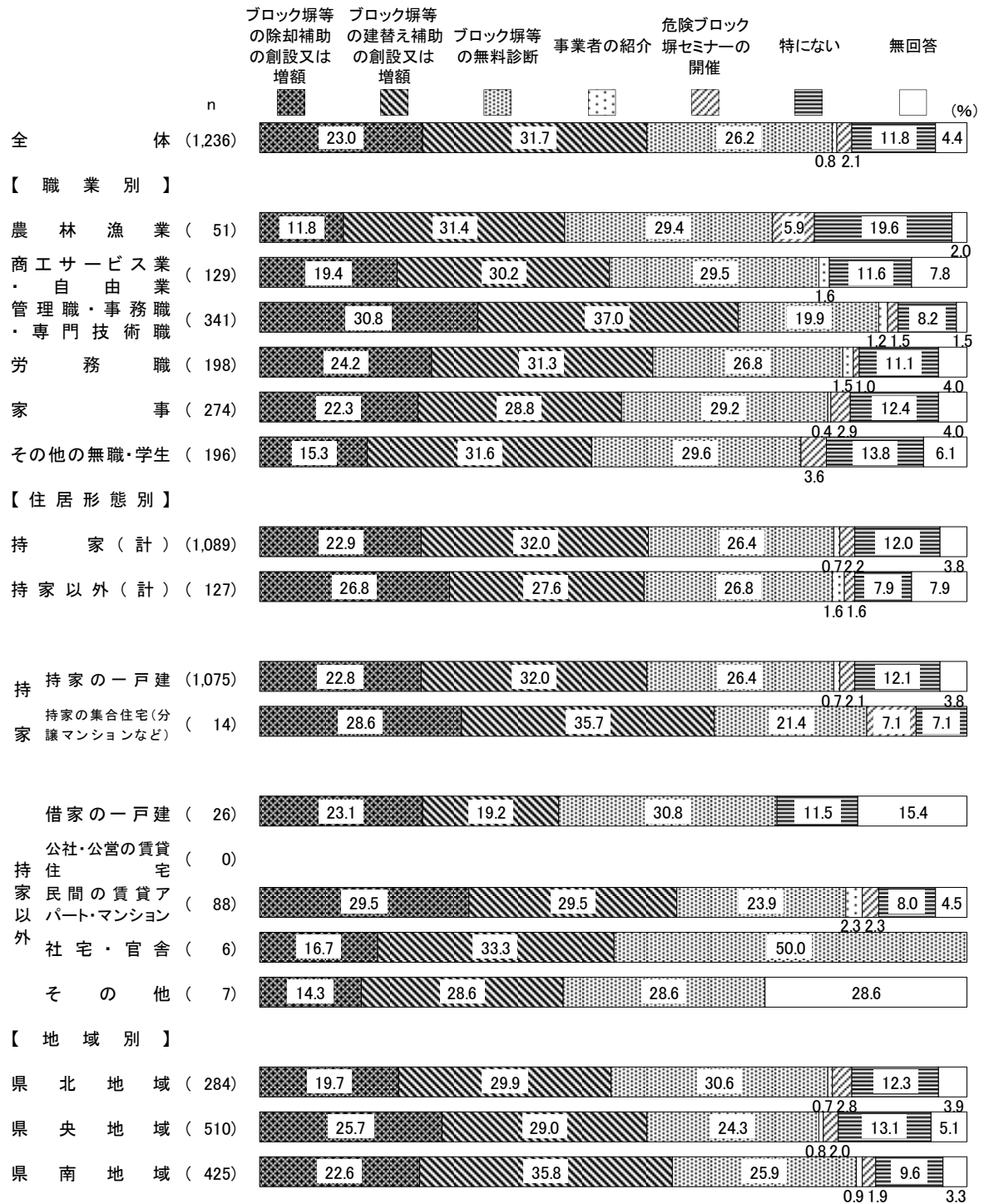
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額」では〈女性30歳代〉が49.3%と高くなっている。「ブロック塀等の無料診断」では〈女性65～69歳〉が39.4%と高くなっている。「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」では〈男性20歳代〉が36.1%、〈女性40歳代〉が33.3%と高くなっている。

[職業別・住居形態別・地域別]



職業別でみると、「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」では〈農林漁業〉が11.8%と低くなっている。

住居形態別でみると、「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」では〈民間の賃貸アパート・マンション〉が29.5%、〈持家の集合住宅〉が28.6%と高くなっている。「ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額」では〈借家の一戸建〉が19.2%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。



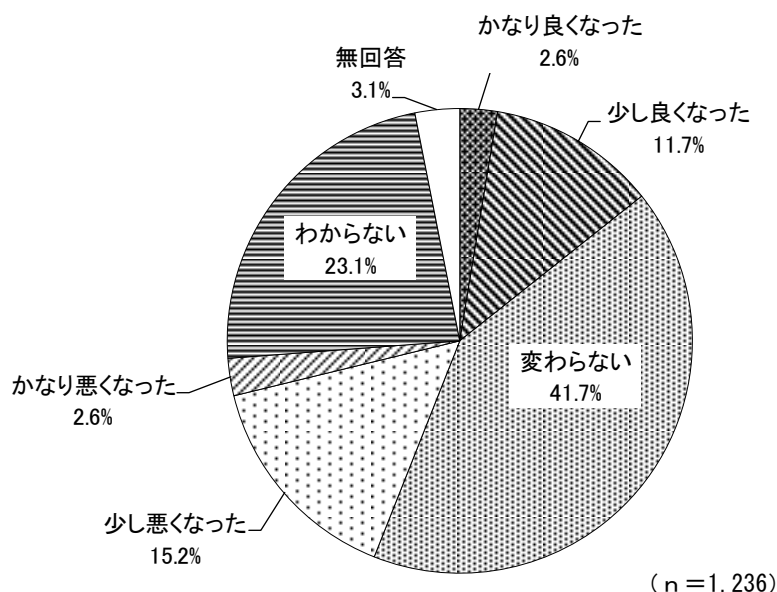
## 18 犯罪と治安対策について

### (1) 県内の治安状況の変化

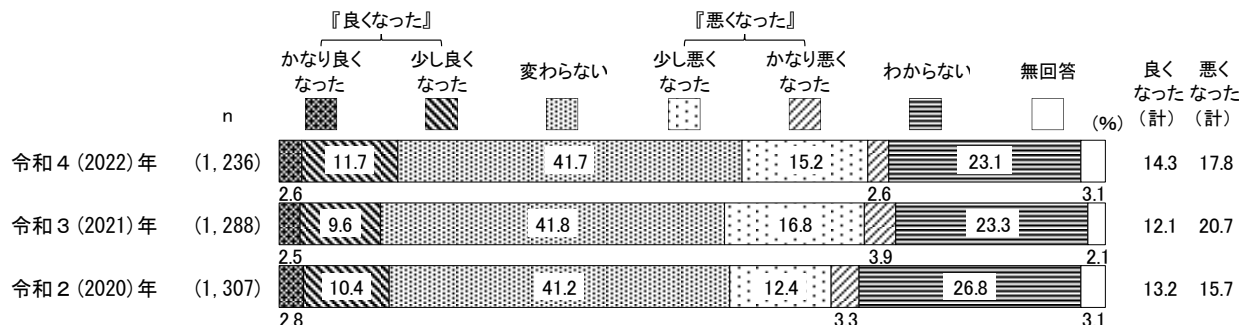
問51 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

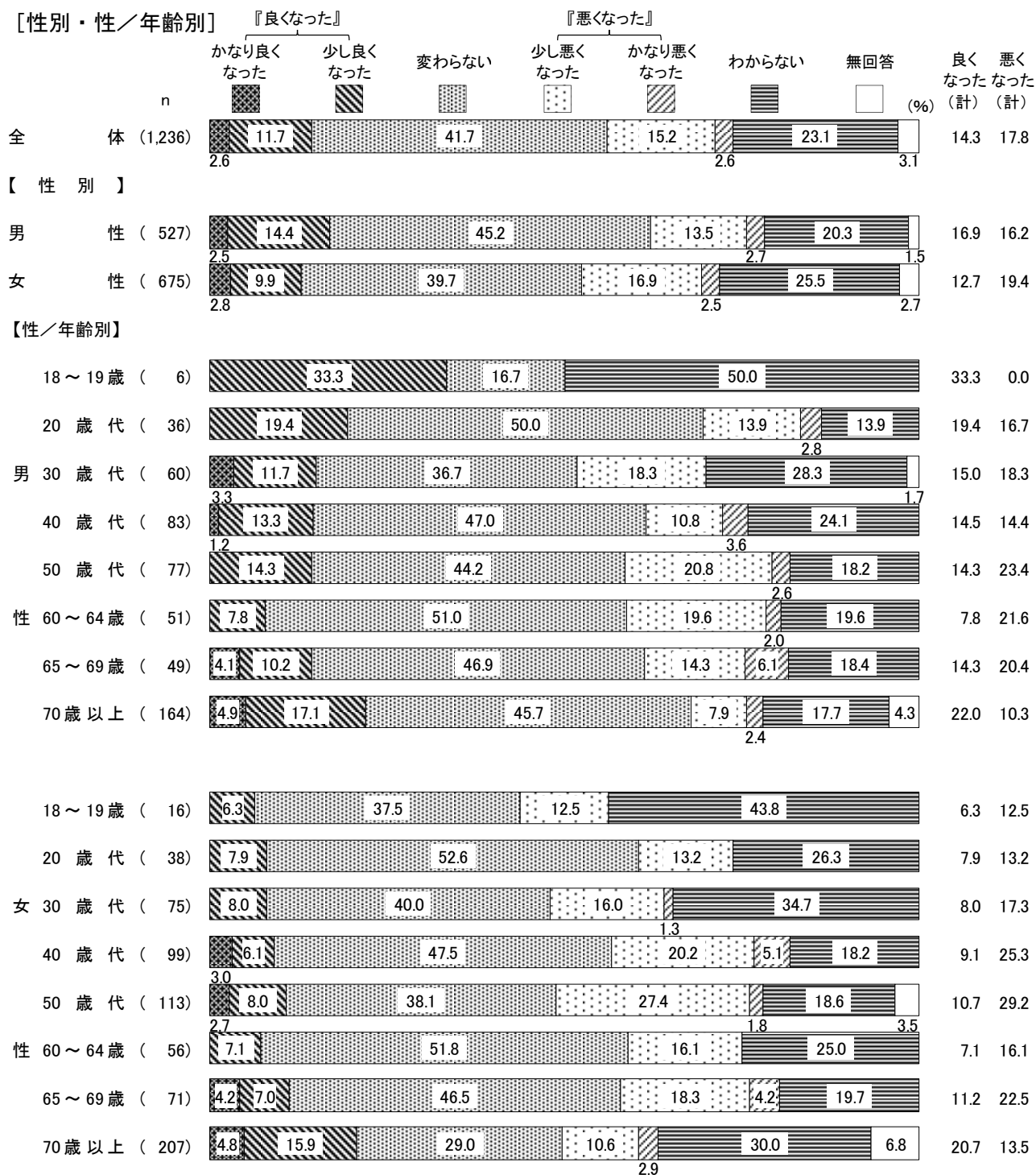
1	かなり良くなった	2.6%	4	少し悪くなった	15.2%
2	少し良くなった	11.7%	5	かなり悪くなった	2.6%
3	変わらない	41.7%	6	わからない	23.1%
				(無回答)	3.1%



全体でみると、「かなり良くなった」(2.6%)と「少し良くなった」(11.7%)の2つを合わせた『良くなった』(14.3%)は1割台半ば近くとなっている。一方、「少し悪くなった」(15.2%)と「かなり悪くなった」(2.6%)の2つを合わせた『悪くなった』(17.8%)は1割台半ばを超えている。また、「変わらない」(41.7%)は4割強となっている。



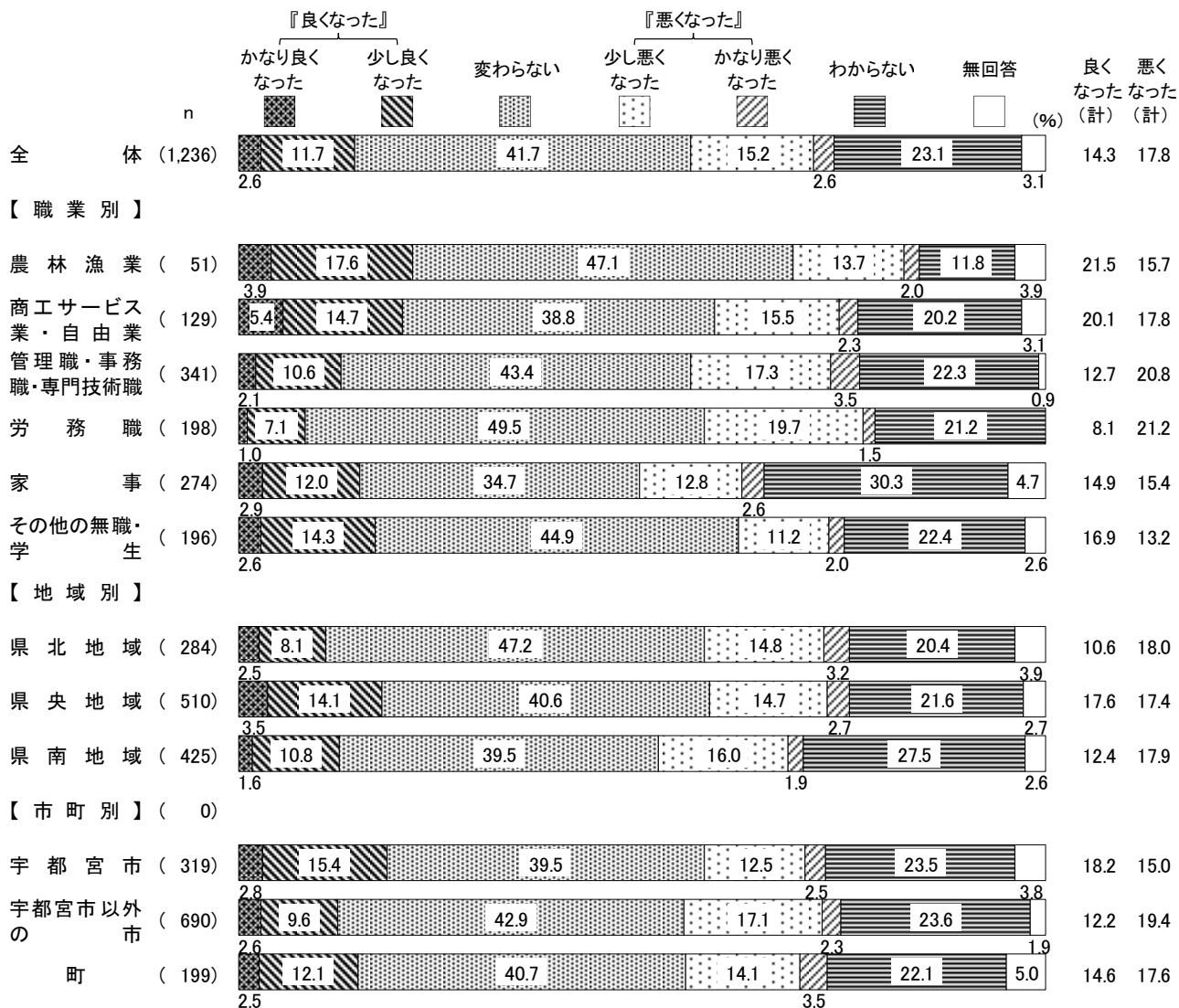
過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(令和3(2021)年)より2.9ポイント減少している。



性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(16.9%)が〈女性〉(12.7%)より4.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性70歳以上〉が22.0%、〈女性70歳以上〉が20.7%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性50歳代〉が29.2%と高くなっている。

〔職業別・地域別・市町別〕



職業別でみると、『良くなった』では〈農林漁業〉が21.5%で最も高くなっている。

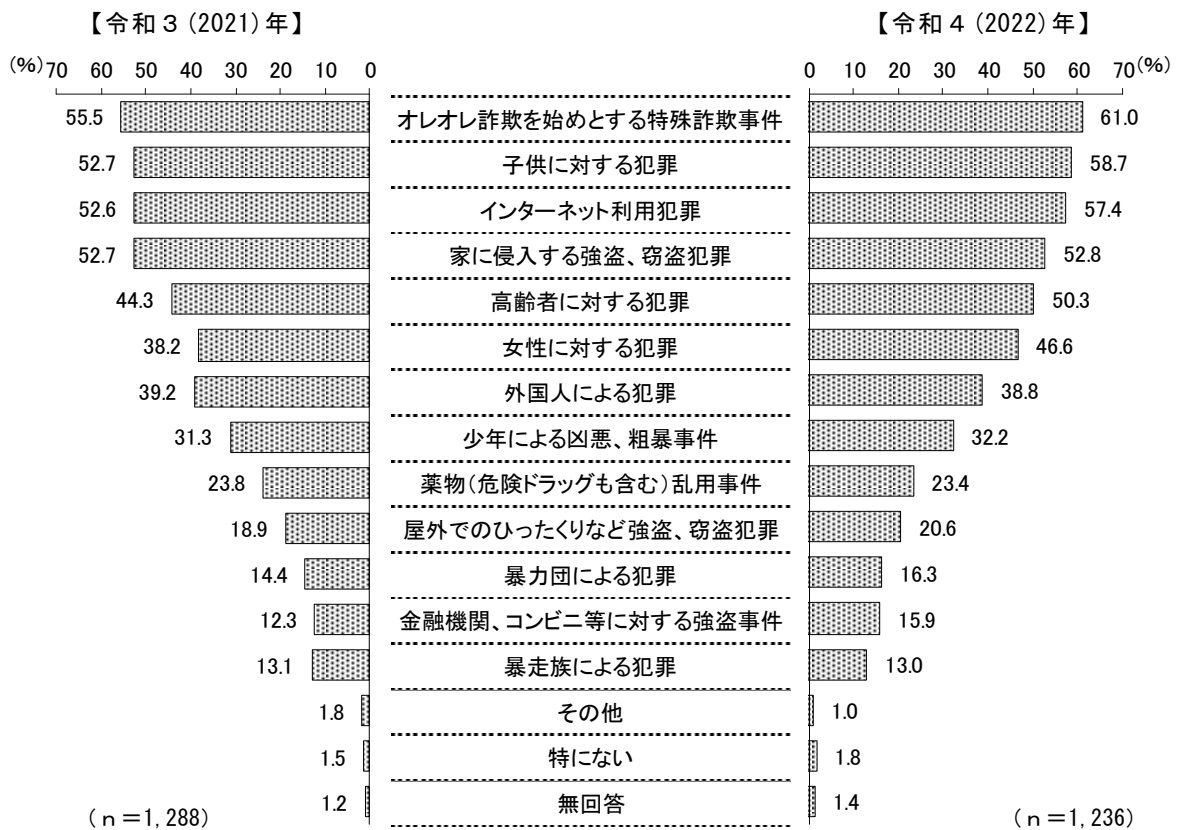
地域別でみると、『良くなった』では〈県央地域〉が17.6%で最も高く、市町別でみると、〈宇都宮市〉が18.2%で最も高くなっている。

## (2) 不安を感じる犯罪

問52 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,236]

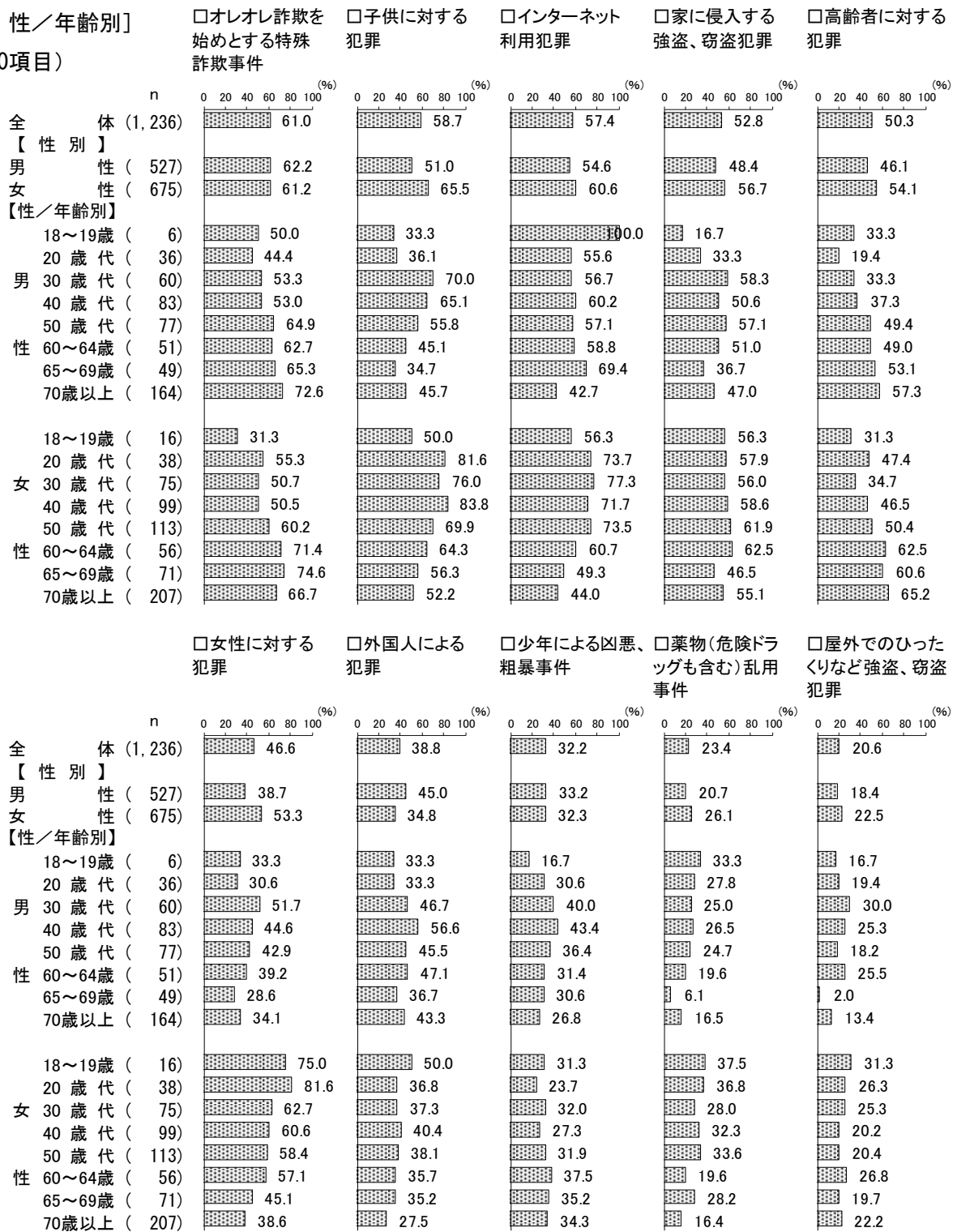
1	子供に対する犯罪	58.7%	8	暴力団による犯罪	16.3%
2	女性に対する犯罪	46.6	9	暴走族による犯罪	13.0
3	高齢者に対する犯罪	50.3	10	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	52.8
4	オレオレ詐欺を始めとする 特殊詐欺事件	61.0	11	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	20.6
5	金融機関、コンビニ等に対する 強盗事件	15.9	12	薬物(危険ドラッグも含む)乱用事件	23.4
6	少年による凶悪、粗暴事件	32.2	13	インターネット利用犯罪	57.4
7	外国人による犯罪	38.8	14	その他	1.0
			15	特にない	1.8
				(無回答)	1.4



全体で見ると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(61.0%)が6割強で最も高く、次いで「子供に対する犯罪」(58.7%)、「インターネット利用犯罪」(57.4%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(52.8%)、「高齢者に対する犯罪」(50.3%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「女性に対する犯罪」が8.4ポイント、「子供に対する犯罪」が6.0ポイント、「高齢者に対する犯罪」が6.0ポイント、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が5.5ポイント、それぞれ増加している。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)

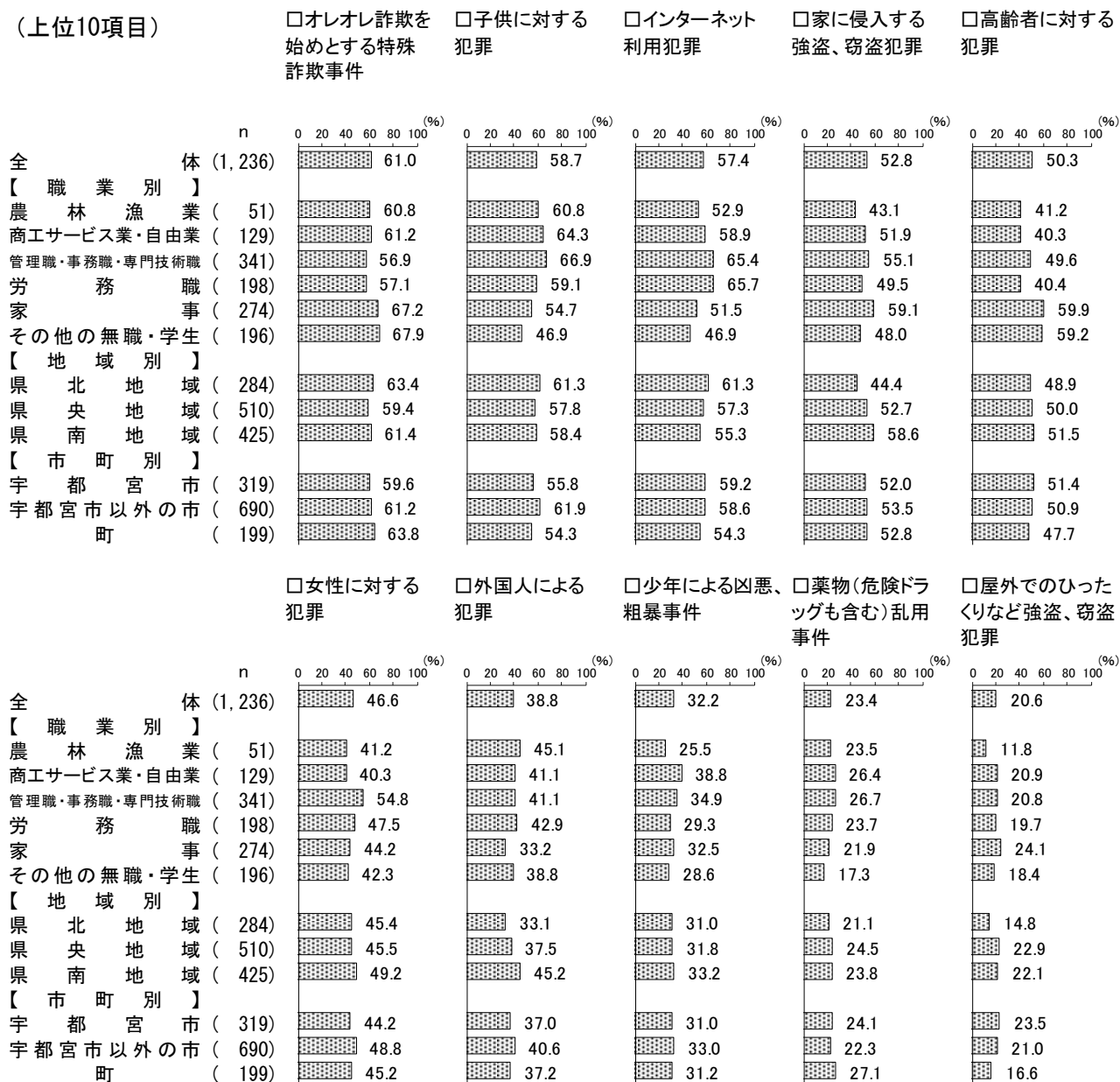


性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(53.3%)が〈男性〉(38.7%)より14.6ポイント高くなっている。また、「子供に対する犯罪」では〈女性〉(65.5%)が〈男性〉(51.0%)より14.5ポイント高くなっている。一方、「外国人による犯罪」では〈男性〉(45.0%)が〈女性〉(34.8%)より10.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「子供に対する犯罪」では〈女性40歳代〉が83.8%、〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性30歳代〉が77.3%、〈女性20歳代〉が73.7%、〈女性50歳代〉が73.5%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では、〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈男性40歳代〉が56.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「子供に対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が66.9%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈労務職〉が65.7%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が65.4%と高くなっている。「高齢者に対する犯罪」では〈家事〉が59.9%、〈その他の無職・学生〉が59.2%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.8%と高くなっている。

地域別でみると、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」では〈県南地域〉が58.6%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈県南地域〉が45.2%と高くなっている。

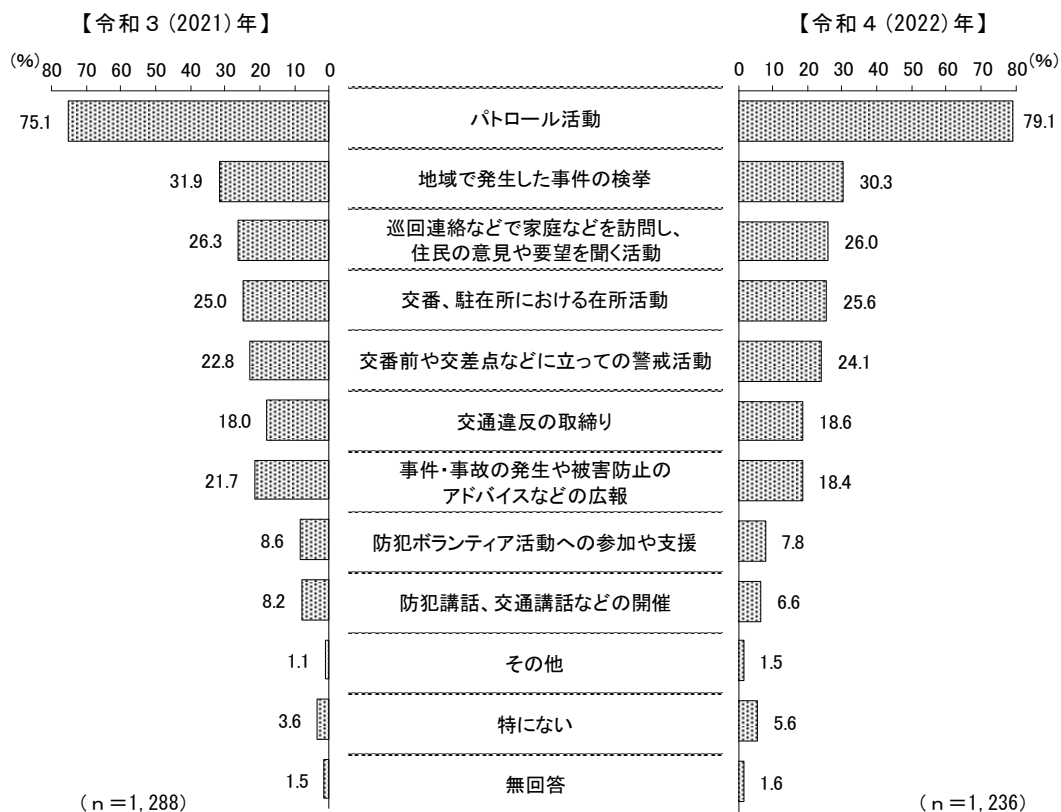
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 警察官に力を入れてほしい活動

問53 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつかでも選んでください。

[n=1,236]

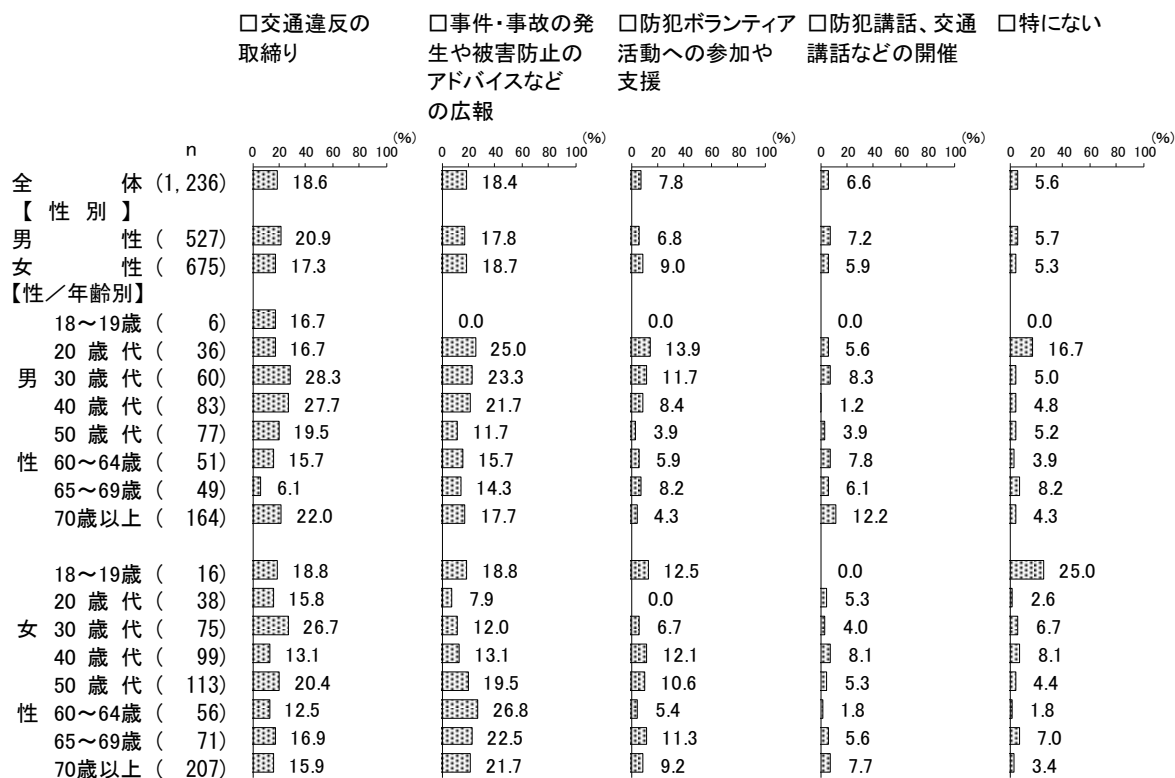
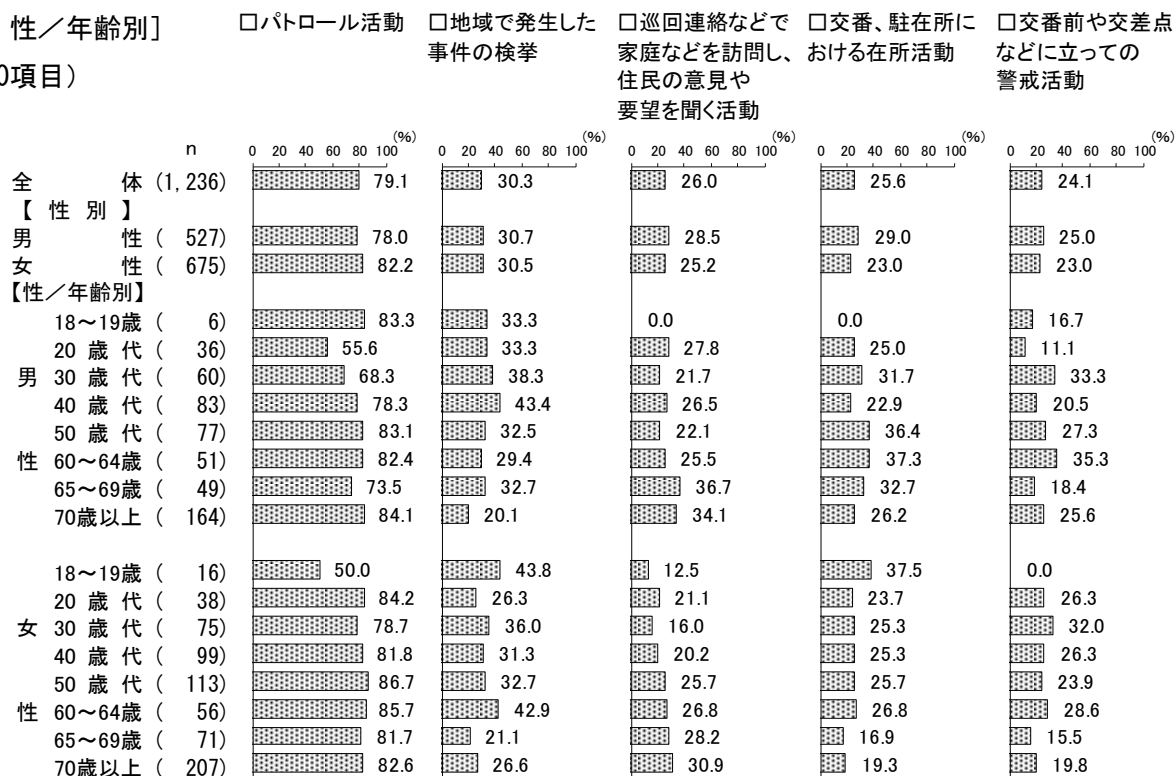
1	パトロール活動	79.1%
2	交番、駐在所における在所活動	25.6
3	巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	26.0
4	交番前や交差点などに立っての警戒活動	24.1
5	事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報	18.4
6	地域で発生した事件の検挙	30.3
7	交通違反の取締り	18.6
8	防犯講話、交通講話などの開催	6.6
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	7.8
10	その他	1.5
11	特にない	5.6
	(無回答)	1.6



全体でみると、「パトロール活動」(79.1%)が8割弱で最も高くなっている。以下「地域で発生した事件の検挙」(30.3%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.0%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.6%)、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(24.1%)の順となっている。

前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「パトロール活動」が4.0ポイント増加している。一方、「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」が3.3ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]  
(上位10項目)



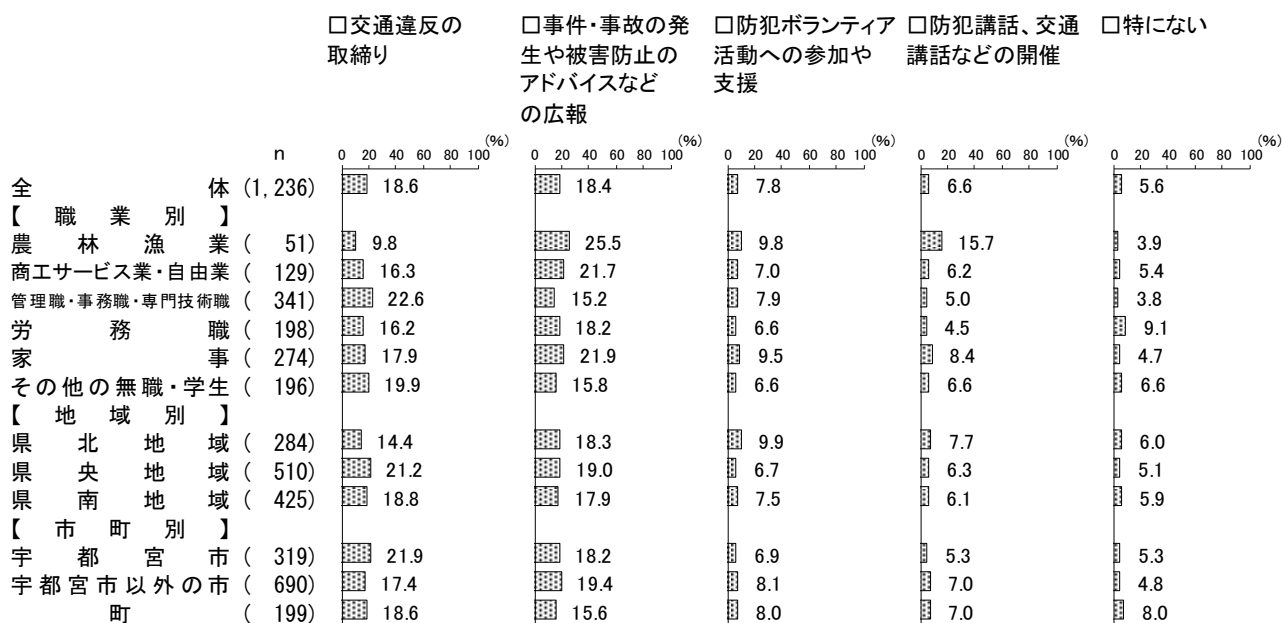
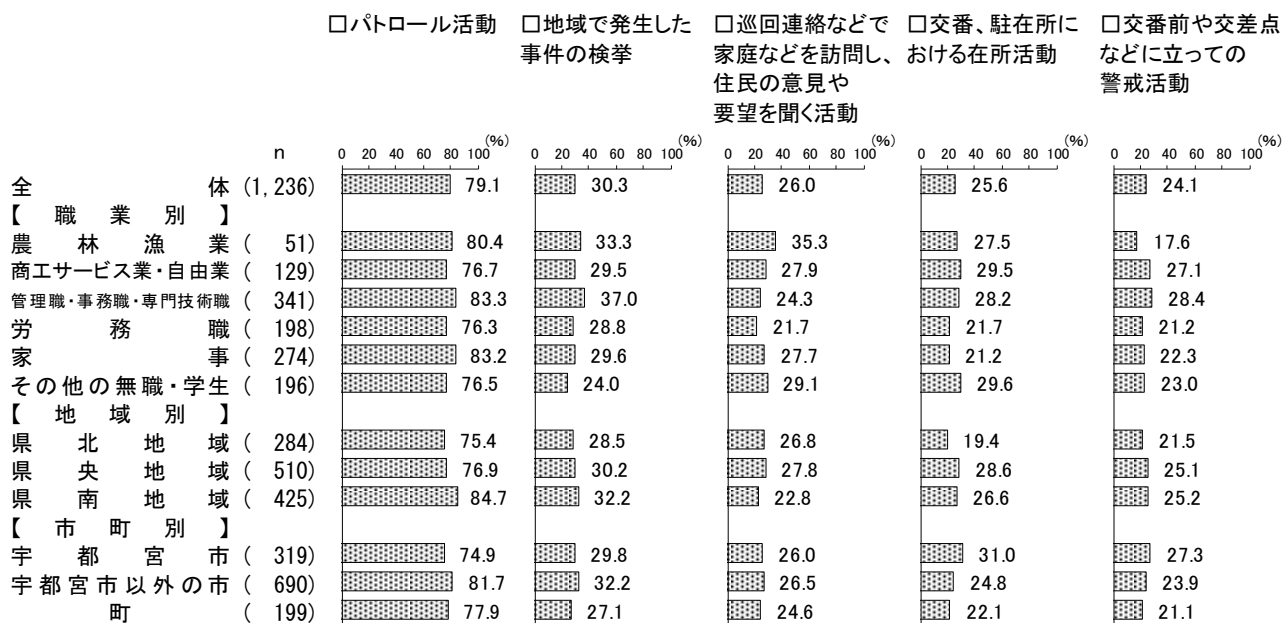
性別で見ると、「交番、駐在所における在所活動」では〈男性〉(29.0%)が〈女性〉(23.0%)より6.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性40歳代〉が43.4%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性60～64歳〉が37.3%、〈男性50歳代〉が36.4%と高くなっている。



[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈農林漁業〉が35.3%と高くなっている。また、「防犯講話、交通講話などの開催」では〈農林漁業〉が15.7%と高くなっている。

地域別でみると、「パトロール活動」では〈県南地域〉が84.7%と高くなっている。

市町別でみると、「交番、駐在所における在所活動」では〈宇都宮市〉が31.0%と高くなっている。



## V 調查票







### [文化・芸術活動について]

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

- |   |                                       |   |
|---|---------------------------------------|---|
| 1 | 文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動           |   |
| 2 | 映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動           |   |
| 3 | 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動             |   |
| 4 | 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動              |   |
| 5 | 茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動   |   |
| 6 | 年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動 |   |
| 7 | 文化遺産の保護・活用に関する活動                      |   |
| 8 | その他（                                  | ） |
| 9 | 何も行っていない                              |   |

### [スポーツ活動について]

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。  
次の中から1つ選んでください。

※ 運動やスポーツには、ウォーキング（散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど）、階段昇降（2アップ3ダウンなど）、ジョギング、水泳、体操（ラジオ体操、エアロビクスなど）、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ（フライングディスク、スポーツチャンバラなど）、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含みます。

- |   |                  |   |                  |
|---|------------------|---|------------------|
| 1 | 週に3日以上（年151日以上）  | 4 | 3か月に1～2日（年4～11日） |
| 2 | 週に1～2日（年51～150日） | 5 | 年に1～3日           |
| 3 | 月に1～3日（年12～50日）  | 6 | 運動やスポーツを行わなかった   |

### [住んでいる地域について]

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

- |   |           |
|---|-----------|
| 1 | そう思う      |
| 2 | ややそう思う    |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない    |
| 5 | どちらともいえない |

### 〔社会貢献活動について〕

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したいと思えますか。次の中から1つ選んでください。

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

- 1 参加した。また今後も参加したい
- 2 参加したが、今後参加するかどうかわからない
- 3 参加したが、今後参加するつもりはない
- 4 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい
- 5 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない
- 6 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない
- 7 今まで参加したことはないが、今後参加したい
- 8 今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない
- 9 今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

### 〔県政に関する情報の入手方法の把握について〕

問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 広報紙「とちぎ県民だより」
- 2 テレビ
- 3 ラジオ
- 4 県ホームページ
- 5 SNS（LINE、Twitter、Facebook等）
- 6 新聞
- 7 ニュースサイト（下野新聞 SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）
- 8 ポスターやチラシ
- 9 その他（）
- 10 県の情報は知らない

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 県事業の内容や進捗状況     | 6 県の観光・レジャー情報                 |
| 2 申請や届出などの事務手続の情報 | 7 防災・災害情報                     |
| 3 各種調査結果や統計資料     | 8 その他（ <input type="text"/> ） |
| 4 県の行事や催しなどのお知らせ  | 9 特になし                        |
| 5 県の歴史や文化、伝統工芸    |                               |



**【栃木県への愛着と誇りについて】**

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 とても愛着がある | 4 あまり愛着がない  |
| 2 やや愛着がある  | 5 まったく愛着がない |
| 3 どちらでもない  |             |

(問13で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください)

→ 問14 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 地元の祭りや行事に参加したから          |
| 2 家庭や学校で地域の良さを教えられたから      |
| 3 郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから     |
| 4 他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから  |
| 5 住み慣れているから                |
| 6 人と人とのつながりを感じるから          |
| 7 環境や食事が自分に合っているから         |
| 8 テレビ番組や新聞で栃木県が取り上げられたから   |
| 9 県外の友人・知人から栃木県のことをほめられたから |
| 10 県内の観光地を訪れたから            |
| 11 県の特産品を食べたり飲んだりしたから      |
| 12 栃木県出身の人が活躍した場面を見たから     |
| 13 その他 ( )                 |
| 14 特に理由がない、理由を考えたことがない     |

問15 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 山・川・湖などの自然     | 12 郷土料理やご当地グルメなどの食 |
| 2 温泉・宿泊施設        | 13 人のやさしさやおもてなし    |
| 3 公園やレジャー施設      | 14 方言・なまり          |
| 4 スポーツ施設         | 15 住みやすさ・生活環境      |
| 5 商店街や商業施設       | 16 都心へのアクセスの良さ     |
| 6 博物館・美術館などの文化施設 | 17 ご当地キャラクター       |
| 7 祭や伝統芸能・イベント    | 18 プロスポーツやスポーツ選手   |
| 8 景観や街並み         | 19 栃木県出身の著名人・有名人   |
| 9 歴史文化遺産         | 20 その他 ( )         |
| 10 伝統工芸品         | 21 特にない            |
| 11 農産物           |                    |

## [SDGs (エスディーズ) について]

問16 あなたは、SDGs (エスディーズ) という言葉を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 知っている
- 2 知らない (今回の調査で初めて知った)

(問16で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください)

→ 問17 SDGs (エスディーズ) について、どのようなことを知っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である
- 2 SDGsを表すロゴ・アイコンがある
- 3 17のゴール(目標)がある
- 4 ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある
- 5 経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している
- 6 ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている
- 7 17のゴール(目標)の内容を知っている

(参考) SDGsのロゴ・アイコン



## [地域防災について]

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 消火器の設置
- 2 火災警報器の設置
- 3 家具の転倒防止対策
- 4 ガラスの飛散防止対策
- 5 飲料水や食料の備蓄
- 6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備
- 7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備
- 8 感震ブレーカー(※)の設置・点検
- 9 避難経路や避難場所、避難所の確認
- 10 県や市などの防災メールへの登録
- 11 自宅付近の危険箇所の把握
- 12 その他( )
- 13 特に何もしていない

※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

問19 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

- 1 高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味
- 2 自宅近くの避難所と安全な避難経路
- 3 自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか
- 4 自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか
- 5 災害用伝言ダイヤルの番号や使い方
- 6 特にない

問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。  
また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。

- 1 参加したことがあります、また参加したい
- 2 参加したことはあるが、また参加したいとは思わない
- 3 参加したことはないが、機会があれば今後参加したい
- 4 参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない

#### [男女平等意識について]

問21 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いませんか。  
次の中から1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いませんか。  
次の中から1つ選んでください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問23 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。  
次の中から1つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

### 【とちぎの元気な森づくり県民税について】

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。  
次の中から3つまで選んでください。

- 1 山崩れなどの災害を防止する働き
- 2 雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き
- 3 二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
- 4 空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き
- 5 生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き
- 6 多様な生物の生育・生息の場としての働き
- 7 自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き
- 8 自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き
- 9 その他（ ）
- 10 わからない

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること
- 2 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
- 3 通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
- 4 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
- 5 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
- 6 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
- 7 わからない



## 〔食品ロスの削減について〕

問26 あなたは、「食品ロス」(※)の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※ 食品ロスとは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものをいいます。

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 よく知っている   | 3 あまり知らない  |
| 2 ある程度知っている | 4 まったく知らない |

問27 あなたが知っている、食品ロスを発生させない(食品を無駄にしない)ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |  |
|--|
| 1 料理を作り過ぎない                            |
| 2 残さずに食べる                              |
| 3 残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)             |
| 4 冷凍保存を活用する                            |
| 5 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する           |
| 6 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する |
| 7 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する       |
| 8 商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する                |
| 9 期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ        |
| 10 飲食店等で注文し過ぎない                        |
| 11 期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する           |
| 12 その他 ( )                             |
| 13 知っている取組はない                          |

問28 あなたが現在行っている、食品ロスを発生させない(食品を無駄にしない)ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |  |
|--|
| 1 料理を作り過ぎない                            |
| 2 残さずに食べる                              |
| 3 残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)             |
| 4 冷凍保存を活用する                            |
| 5 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する           |
| 6 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する |
| 7 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等食べきれる量を購入する       |
| 8 商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する                |
| 9 期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ        |
| 10 飲食店等で注文し過ぎない                        |
| 11 期限内である未利用食品をフードバンク活動へ提供する           |
| 12 その他 ( )                             |
| 13 行っている取組はない                          |

**【地域のつながりについて】**

問29 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている
- 2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である
- 3 ほとんど、もしくは全く付き合っていない

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 知人・友人
- 2 隣近所の人
- 3 民生委員・児童委員
- 4 班長・自治会長
- 5 社会福祉協議会
- 6 市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）
- 7 福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO法人等）
- 8 学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）
- 9 職場の上司・同僚
- 10 その他（SNSを含む）
- 11 相談できるところ（相手）はない

### 【ヤングケアラーについて】

問31 あなたは、「ヤングケアラー」(※)という言葉を知ったことがありますか。

次の中から1つ選んでください。

※ 「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをいいます。

- |                       |
|-----------------------|
| 1 聞いたことがあります、内容も知っている |
| 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない |
| 3 聞いたことはない            |

問32 あなたは、18歳に至るまでの間に、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などをしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- |          |              |
|----------|--------------|
| 1 毎日していた | 3 あまりしたことはない |
| 2 時々していた | 4 全くしていません   |

問33 あなたの周りに、18歳未満の子どもで、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などを行っている方はいますか。次の中から1つ選んでください。

- |         |
|---------|
| 1 いる    |
| 2 いない   |
| 3 わからない |

### 【在宅医療について】

問34 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- |          |
|----------|
| 1 そう思う   |
| 2 そう思わない |

問35 あなたは、「人生会議(ACP)」(※)を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※「人生会議(ACP)」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 よく知っている   | 3 言葉だけは知っている |
| 2 ある程度知っている | 4 知らない       |

問36 あなたは、「人生会議（ACP）」について、どのようにお考えですか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている
- 2 そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない
- 3 そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない
- 4 そのような話し合いは必要ない

### 【とちぎのがん対策について】

問37 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

- 1 日本では、約2人に1人が、がんにかかる
- 2 日本では、死因の約3分の1が、がんである
- 3 小児やAYA世代（15～39歳）といわれる年代でも、がんにかかることがある
- 4 がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある
- 5 がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る
- 6 がん全体の5年生存率は50%を超えている
- 7 喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである
- 8 がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある
- 9 いずれも知らない

問38 がん検診の受診率は40～50%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 がん検診そのものを知らないから       | 7 検査に伴う苦痛に不安があるから        |
| 2 受診するのが面倒だから           | 8 心配なときはいつでも医療機関を受診できるから |
| 3 受診する時間がないから           | 9 がんであると分かるのが怖いから        |
| 4 受診する場所が不便だから          | 10 受診しても、見落としがあると思うから    |
| 5 費用がかかり経済的に負担になるから     | 11 わからないから               |
| 6 健康状態に自信があり、必要性を感じないから |                          |

問39 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う         | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 そう思わない         |
|                | 5 わからない          |



## 【障害者差別の解消について】

問40 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

- 1 自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する
- 2 自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する
- 3 困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない
- 4 専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う
- 5 その他 ( )

問41 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

- 1 テレビ・ラジオによる広報
- 2 ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進
- 3 条例や対応指針策定による障害者差別解消への理解促進
- 4 チラシ・リーフレットによる広報
- 5 相談窓口（栃木県障害者権利擁護センター）の設置による差別解消への相談対応
- 6 県職員による出前講座
- 7 その他 ( )
- 8 知っているものはない

問42 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点がありますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた
- 2 公共交通機関の対応がより配慮されるようになった
- 3 障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた
- 4 行政の対応がより配慮されるようになった
- 5 商店や企業の対応がより配慮されるようになった
- 6 街で障害のある方をよく見かけるようになった
- 7 その他 ( )
- 8 理解が進んでいるとは思わない

## [食の安全・安心について]

問43 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 大いに感じている | 3 あまり感じていない |
| 2 多少は感じている | 4 全く感じていない  |

(問43で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください)

→問44 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1 食中毒             | 10 遺伝子組換え食品           |
| 2 食品添加物           | 11 輸入食品               |
| 3 いわゆる「健康食品」      | 12 BSE(牛海綿状脳症)        |
| 4 放射性物質           | 13 高病原性鳥インフルエンザ       |
| 5 重金属(カドミウム・水銀など) | 14 体細胞クローン牛・豚         |
| 6 残留農薬            | 15 家畜等の医薬品            |
| 7 食物アレルギー         | 16 環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質) |
| 8 賞味期限・消費期限       | 17 その他( )             |
| 9 原産地             |                       |

問45 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 大いに得られている | 3 あまり得られていない |
| 2 多少は得られている | 4 全く得られていない  |

## [食に関する意識と実践について]

問46 あなたがお米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を確認し、選んで購入しますか。次の中から1つ選んでください。

- |                        |          |
|------------------------|----------|
| 1 確認し、必ず国産品や県産品を購入する   | 4 確認しない  |
| 2 確認し、なるべく国産品や県産品を購入する | 5 その他( ) |
| 3 確認するが、産地を気にせず購入する    |          |

問47 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- |                    |
|--------------------|
| 1 今までに複数回体験したことがある |
| 2 今までに1回体験したことがある  |
| 3 1回も体験したことがない     |

## 【住宅の耐震化及び塀の安全対策等について】

問48 あなた又は家族が所有するお住まいの耐震性に問題があるとわかった場合、耐震改修に踏み切るために行政にしてほしいことは何ですか。次の中から2つ選んでください。

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 経済的な支援（補助金、税制優遇） | 5 耐震改修事業者の紹介 |
| 2 耐震改修セミナーの開催      | 6 特にない       |
| 3 無料相談員の派遣         |              |
| 4 耐震改修費用の事例紹介      |              |

問49 行政は、住まいの耐震性を確保するために補助金などの経済的な支援に取り組んでいますが、更に充実を図るため取り組んでほしい補助制度は何ですか。次の中から1つ選んでください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 耐震診断の無料化                 |
| 2 耐震改修又は建替え補助の増額           |
| 3 リフォームに併せて行う部分的な耐震改修補助の創設 |
| 4 耐震シェルター又は耐震ベッド補助の創設      |
| 5 補助申請における添付書類の簡素化         |
| 6 特にない                     |

問50 あなたが「危険なブロック塀及び石塀」を安全化するために行政に対して力を入れてほしい支援は何ですか。次の中から1つ選んでください。

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1 ブロック塀等の除却補助の創設又は増額  | 4 事業者の紹介         |
| 2 ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額 | 5 危険ブロック塀セミナーの開催 |
| 3 ブロック塀等の無料診断         | 6 特にない           |

**【犯罪と治安対策について】**

問51 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 かなり良くなった | 4 少し悪くなった  |
| 2 少し良くなった  | 5 かなり悪くなった |
| 3 変わらない    | 6 わからない    |

問52 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                       |
|-----------------------|
| 1 子供に対する犯罪            |
| 2 女性に対する犯罪            |
| 3 高齢者に対する犯罪           |
| 4 オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件  |
| 5 金融機関、コンビニ等に対する強盗事件  |
| 6 少年による凶悪、粗暴事件        |
| 7 外国人による犯罪            |
| 8 暴力団による犯罪            |
| 9 暴走族による犯罪            |
| 10 家に侵入する強盗、窃盗犯罪      |
| 11 屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪 |
| 12 薬物(危険ドラッグも含む)乱用事件  |
| 13 インターネット利用犯罪        |
| 14 その他 ( )            |
| 15 特にない               |

問53 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1 パトロール活動                       |
| 2 交番、駐在所における在所活動                |
| 3 巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動 |
| 4 交番前や交差点などに立っての警戒活動            |
| 5 事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報      |
| 6 地域で発生した事件の検挙                  |
| 7 交通違反の取締り                      |
| 8 防犯講話、交通講話などの開催                |
| 9 防犯ボランティア活動への参加や支援             |
| 10 その他 ( )                      |
| 11 特にない                         |

**[あなたご自身やご家族について]**

最後に、お答えいただいたことを統計的に分析するため、あなたご自身やご家族についてお答えください。

F 1 あなたの性別は。

1 男性
2 女性
3 回答しない

F 2 あなたの年齢は、次の中のどれに当てはまりますか。

1 18歳～19歳	3 30歳～39歳	5 50歳～59歳	7 65歳～69歳
2 20歳～29歳	4 40歳～49歳	6 60歳～64歳	8 70歳以上

F 3 あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

(自営・家族従業)		(勤めている)		(無 職)	
1 農林漁業	2 商工サービス業・自由業	3 管理職・事務職・専門技術職	4 労務職	5 家事	6 その他の無職・学生

F 4 あなたの家計を主に支えているのはあなたですか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

(F 4で選択肢「2」を選んだ方のみお答えください)

→ F 5 あなたの家計を主に支えている方のご職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

(自営・家族従業)		(勤めている)		(無 職)
1 農林漁業	2 商工サービス業・自由業	3 管理職・事務職・専門技術職	4 労務職	5 その他の無職

F 6 あなたのご家族には、65歳以上の方がいらっしゃいますか。あなた自身も含めてお答えください。

1 いる	2 いない
------	-------

F 7 あなたは、栃木県でお生まれになりましたか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 8 あなたは、栃木県に通算して何年お住まいですか。

1 1年未満	4 5年～9年
2 1年～2年	5 10年～19年
3 3年～4年	6 20年以上

F 9 現在、あなたのご住居は、次の中のどれに当たりますか。

1 持家の一戸建	5 民間の賃貸アパート・マンション
2 持家の集合住宅（分譲マンションなど）	6 社宅・官舎
3 借家の一戸建	7 その他
4 公社・公営の賃貸住宅	( )

F 10 あなたがお住まいの周囲の環境は、次の中のどれに当たりますか。

1 農山村	3 商店街
2 住宅地	4 その他 ( )

F 11 あなたがお住まいの地域は、次の中のどれに当たりますか。

1 県北地域（日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町）
2 県央地域（宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町）
3 県南地域（足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町）

F 12 あなたのご住所は、次の中のどれに当たりますか。

1 宇都宮市	2 宇都宮市以外の市	3 町
--------	------------	-----

◎長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。お手数ですが、添付の返信用封筒（切手不要）に入れて、6月30日（木）までにご投函ください。

VERY   
GOOD  
LOCAL

---

とちぎ

栃 木 県 政 世 論 調 査

令和4（2022）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田1-1-20

電話（028）623-2158